

元総社蒼海遺跡群(20)

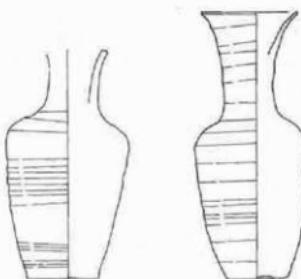
前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群(20)

前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



7区 3号土坑出土の須恵器長颈瓶

2 0 0 9 . 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



7区 調査区遠景（南東から国分尼寺方向を見る）

巻頭図版2



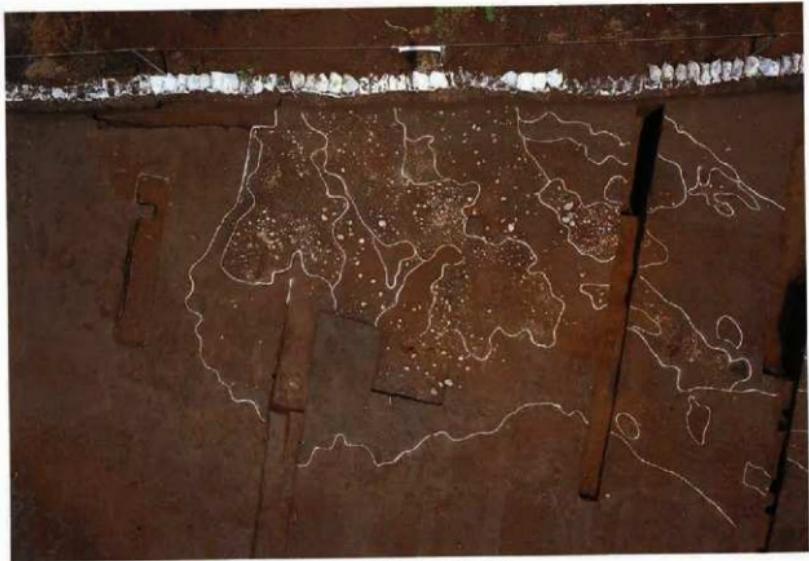
2区 調査区遠景（西から西府推定域を見る）



3区 調査区全景（南から）

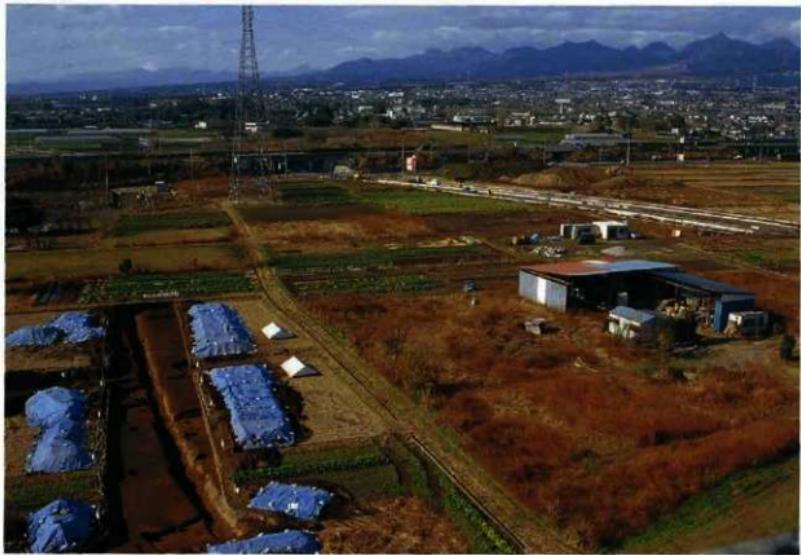


5区 調査区全景（上が北）



7区 瓦敷き面全景（上が北）

卷頭図版4



9区 調査区遠景（東から）



元老社若海遺跡群(20) 7区出土遺物

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所に人々の息吹を感じられる歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野國の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる鷹橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群(20)は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかねませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴式住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、猛暑寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 依田 三次郎

例　　言

- 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蓄海土地地区画整理事業および前橋市元総社公民館新築移転工事に伴う元総社蓄海遺跡群(20)発掘調査報告書である。
- 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
- 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所	群馬県前橋市元総社町1085-4番ほか
発　　掘　　調　　査　　期　　間	平成20年5月7日～平成20年12月25日
整　理・報告書作成期間	平成20年12月25日～平成21年3月19日
発　　掘・整　理　担　当　者	阿久澤真一・清水亮介・神宮聰・小田哲生・池田史人・綿貫綾子
- (発掘調査係員)
- 本書の原稿執筆・編集は阿久澤・清水・神宮・小田・池田・綿貫が行った。
- 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木昭二郎・阿部シゲ子・石原義夫・伊藤修道・岩木操・植木政俊・大木伸二・大澤俊夫・小澤香代
岸フクエ・齊藤亀寿・佐藤佳子・杉浦富雄・須田博治・須藤豊・閑根その子・高澤京子・高橋公代
瀧上政信・角田橙・多田啓子・角田節子・角田昌幸・鈴木原幸枝・渡木秋子・友永茂・中山昭
長澤幸枝・中澤光江・中林美智子・奈良啓子・西山勝久・萩原秀子・橋本ちづる・平林しのぶ・星野和子
細野進太郎・堀込よ江・町田妙子・町田敏彦・真庭武志・峰岸あや子・森下陽介・弥郡啓吾・山口淳子
湯浅たま江・湯浅道子
- 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

- 挿図中に使用した北は、座標北である。
- 挿図に国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮・長野)、1:25,000地形図(前橋)、1:6,000前橋市現形図を使用した。
- 本遺跡の略称は、20A130-20である。
- 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の堅穴住居跡	T…堅穴状遺構	W…溝跡	A…道路状遺構	D…土坑
D B…土壤墓	P…ピット・貯藏穴(住居内Psを貯藏穴とした。)	X…性格不明遺構	O…風倒木跡	
- 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構	全体図…1:200	住居跡・堅穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1:60	竪・炉断面図…1:30	
遺物	土器・鉄製品…1/3・1/4	石器・石製品・土製品…2/3・1/3	鐵器・鉄製品…1/2	瓦…1/6
- 計測値については、()は現存値、〔 〕は復元値を表す。
- セクション注記の記号は、縦まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。

◎…非常に縦まり・粘性あり。	○…縦まり・粘性あり、△…縦まり・粘性ややあり、×	×…縦まり・粘性なし
----------------	---------------------------	------------
- 遺構平面図の-----は推定線を表す。
- スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図	焼　土…	粘　土…	
遺構断面図	構築面…		
遺物実測図	須恵器断面…	灰釉陶器断面…	灰釉陶器表面…
	縄文陶器断面…	内黒…	粘土・たたき…
	いぶし焼成…	煤・炭化物付着…	石：煤・被熟痕…

- 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年)
Hr-FP (榛名ニッカ伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉)
Hr-FA (榛名ニッカ渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭)
As-C (浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半)

目 次

序	i
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査方針と経過	
1 調査方針	7
2 調査経過	7
IV 基本層序	19
V 遺構と遺物	20
VI まとめ	62
1 竪穴住居跡について	62
2 7区国分尼寺南側での調査について	64
3 棚Gについて	69

図 版

- 口絵1 7区 調査区遠景（南から国分尼寺方向を見る）
2 2区 調査区遠景（西から国府指定域を見る）
3 3区 調査区全景（南から）
4 5区 調査区全景（上が北）
5 7区 瓦敷き面全貌（上が北）
6 9区 調査区遠景（東から）
7 元總社蒼海遺跡群(20) 7区出土遺物

- P.L.1 1区全景、H-1号住居跡、W-1・2号溝跡
2 2区H-1～5・10号住居跡
3 2区H-6・9号住居跡、W-4号溝跡、
D-1・2号土坑
4 3区H-2～5号住居跡、D-3号土坑
5 3区H-6号住居跡
6 3区H-6～9号住居跡
7 3区H-10～14号住居跡、W-2・4号溝跡、
I-1号井戸跡
8 5区H-1～4号住居跡
9 5区H-5～7号住居跡、W-2号溝跡、
A-1号道路状遺構、D-3号土坑、
6区H-1号住居跡
10 6区H-2～5号住居跡、D-2号土坑。調査区全景
11 7区H-1～3・6～9号住居跡
12 7区10号住居跡、W-1号溝跡、
T-1号堅式状遺構、D-2・3号土坑、
D-3号土坑出土遺物
13 7区瓦敷き集中部、瓦敷き面中央部
D-6・7・10・13号土坑。瓦敷き面埋め戻し前状況
14 8区調査区全景、9区H-1・2号住居跡
15 9区H-3～6・10号住居跡
16 9区H-7～9・11号住居跡、
W-1号溝跡石檢出状況、DB-1号土坑墓
17 10区西側ビット群、東側FA下水田確認面、
W-1・2号溝跡、D-1・2号土坑
18 11区調査区全景、H-1～4号住居跡
19 繩文土器、1区出土遺物
20 2区出土遺物
21 2区出土遺物
22 2区出土遺物
23 3区出土遺物
24 3区出土遺物
25 3区出土遺物
26 3区出土遺物
27 5区出土遺物
28 5区出土遺物
29 5・6区出土遺物
30 6・7区出土遺物
31 7区出土遺物
32 7・9区出土遺物
33 9区出土遺物
34 9・11区出土遺物

- 35 11区出土遺物、5区土製品、9区鉄製品
36 鉄製品、石製品
37 瓦
38 瓦
39 瓦
40 瓦

挿 図

- Fig.1 元總社蒼海遺跡群位置図
2 周辺遺跡図
3 元總社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
4 元總社蒼海遺跡群(20) 調査区位置図
5 元總社蒼海遺跡群(20) 1・2区全体図
6 元總社蒼海遺跡群(20) 3区全体図
7 元總社蒼海遺跡群(20) 5区全体図
8 元總社蒼海遺跡群(20) 6・8区全体図
9 元總社蒼海遺跡群(20) 7区全体図
10 元總社蒼海遺跡群(20) 9区全体図
11 元總社蒼海遺跡群(20) 10・11区全体図
12 基本層序
13 1区H-1号住居跡、D-1～5号土坑、
I-1号井戸跡
14 1区W-1・2号溝跡
15 2区H-1・2号住居跡
16 2区H-3・4・10号住居跡
17 2区H-5・6号住居跡
18 2区H-7～9・11号住居跡、D-1・2号土坑
19 2区W-1～4号溝跡
20 3区H-1・2号住居跡
21 3区H-3・4号住居跡
22 3区H-4・5号住居跡、D-3～5号土坑
23 3区H-6号住居跡
24 3区H-6号住居跡
25 3区H-7・8号住居跡
26 3区H-9・10・14号住居跡
27 3区H-10・11号住居跡
28 3区H-12・13号住居跡
29 3区H-15号住居跡、D-1・6号土坑、
P-1・2号ビット、I-1号井戸跡
30 3区W-1・2・4・5号溝跡
31 5区H-1・2号住居跡
32 5区H-3・4号住居跡
33 5区H-5・6号住居跡
34 5区H-7号住居跡、D-1～4号土坑、
P-1～3号ビット
35 5区W-1～3号溝跡、A-1号道路跡
36 6区H-1～3号住居跡
37 6区H-4～7号住居跡
38 6区H-1～6号土坑、P-1～3号ビット、
I-1・2号井戸跡、O-1号落ち込み
39 7区H-1・2号住居跡

- 40 7区H-3・5号住居跡、T-1号堅穴状遺構
 41 7区H-6~8号住居跡
 42 7区H-9・10号住居跡
 43 7区H-11号住居跡、W-1・2号溝跡、
 A-1号道路状遺構
 44 7区D-1~3・8号土坑
 45 7区H20-1~3トレンチ断面図
 46 7区H12-2・3、H20-4トレンチ断面図
 47 8区D-1~6号土坑、P-1~3号ピット、
 W-1号溝跡
 48 9区H-1・2号住居跡
 49 9区H-3・4・10号住居跡
 50 9区H-5・6号住居跡、W-4号溝跡
 51 9区H-7~9号住居跡
 52 9区H-11号住居跡、D-B-1号土坑墓
 53 9区D-1号土坑、W-2・3号溝跡
 54 9区W-1号溝跡平面図
 55 9区W-1号溝跡断面図
 56 10区W-1号溝跡、D-1・2号土坑、
 P-1~23号ピット
 57 10区W-2号溝跡、南・東・北壁断面図
 58 11区H-1~3号住居跡、P-1・2号ピット
 59 11区H-4号跡、T-1号堅穴状遺構
 60 11区D-1号土坑、P-3~12号ピット
 61 純文土器・銅鏡
 62 1区H-1号住居跡、W-2号溝跡、
 2区H-1・3・5・7号住居跡出土遺物
 63 2区H-6・9号住居跡、W-4号溝跡出土遺物
 64 2区H-4・9号住居跡、W-4号溝跡、
 グリッド出土遺物
 65 3区H-1~4号住居跡出土遺物
 66 3区H-5号住居跡出土遺物(1)
 67 3区H-5号住居跡出土遺物(2)
 68 3区H-6号住居跡出土遺物
 69 3区H-7・9・10号出土遺物
 70 3区H-10・11・13・14号住居跡出土遺物
 71 3区H-14・15号住居跡、O-1号遺構、
 D-1号土坑、I-1号井戸跡出土遺物
 72 5区H-1・2・4・6・7号住居跡、
 D-3・5号土坑出土遺物
 73 5区H-3号住居跡出土遺物
 74 5区D-3号土坑、グリッド、
 6区H-1・4・5・7・8号住居跡、
 I-1号井戸跡、O-1号落ち込み出土遺物
 75 7区H-2・6・8号住居跡出土遺物
 76 7区H-7・9・10号住居跡、W-1号溝跡出土遺物
 77 7区D-3号土坑、9区H-1~7号住居跡出土遺物
 78 9区H-3・9号住居跡、W-2・3号溝跡出土遺物
 79 9区H-4・11号住居跡、D-1号土坑、
 W-1号溝跡、10区P-18号ピット、
 11区H-3号住居跡出土遺物
 80 11区H-2・4号住居跡、表探出土遺物、縄輪陶器、
 土製品

表

- Tab.1 元経社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
 2 住居跡等一覧表
 3 溝跡・道路跡計測表
 4 土坑・ピット・井戸跡等計測表
 5 織文土器観察表
 6 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表
 7 石器・石製品観察表
 8 鉄器・鉄製品観察表
 9 土製品・銅鏡観察表
 10 瓦観察表

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、9年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成20年4月1日付けで、前橋市長 高木政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 依田三次郎に対し、調査実施について協議を行い、調査団はこれを受諾した。平成20年4月17日、調査依頼者である前橋市長 高木政夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 依田三次郎との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月7日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(20)」(遺跡コード: 20A130-20) の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(20)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

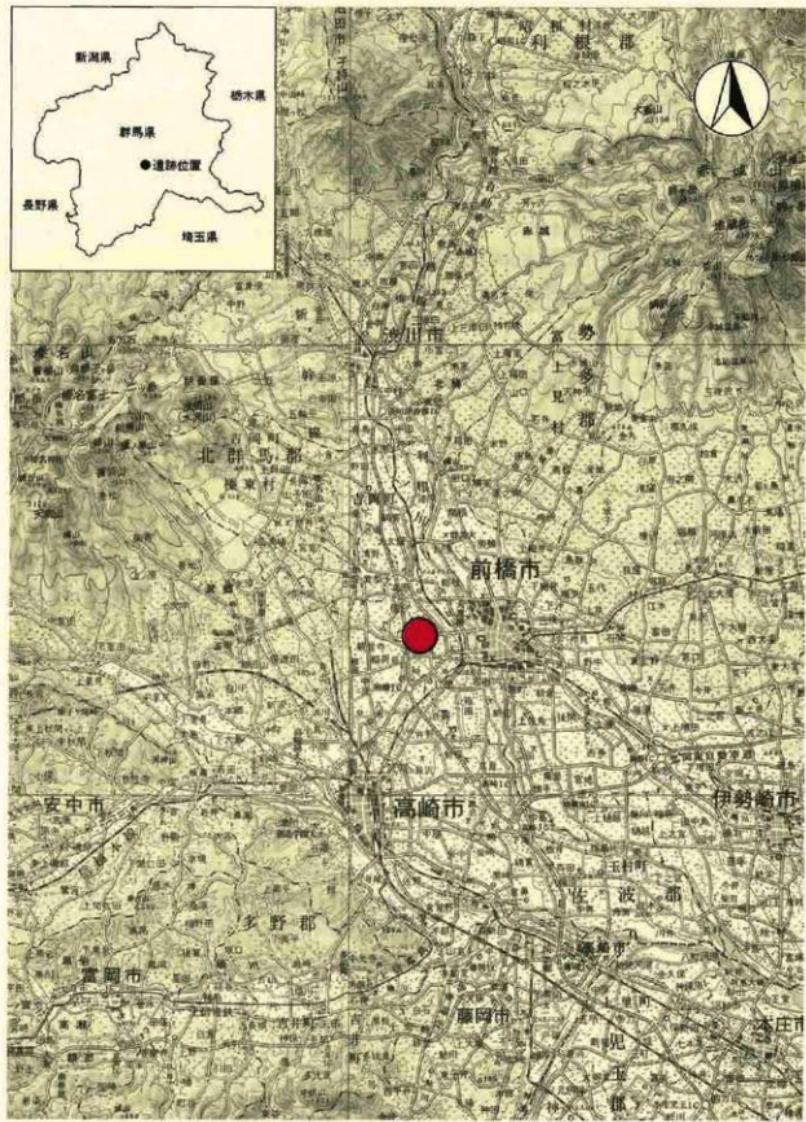
本遺跡の立地する前橋台地は、約24000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m~5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用してきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

绳文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地



1:200,000

0 5 10 15 20 千㍍メートル

Fig. 1 元總社舊海遺跡群位置図

城が筆頭に挙げられ、繩文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の畠作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる總社古墳群が挙げられる。總社古墳群を代表するものは、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である玉山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の總社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鶴尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から5カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的な中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元總社寺田遺跡などがある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉廻遺跡や元總社蒼海遺跡群(7)(9)(10)と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府城の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面鏡、巡方(腰帶具)、縄袖陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、基壇、堀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の基壇、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町(現高崎市)の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道(国府ルート)があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海土地地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

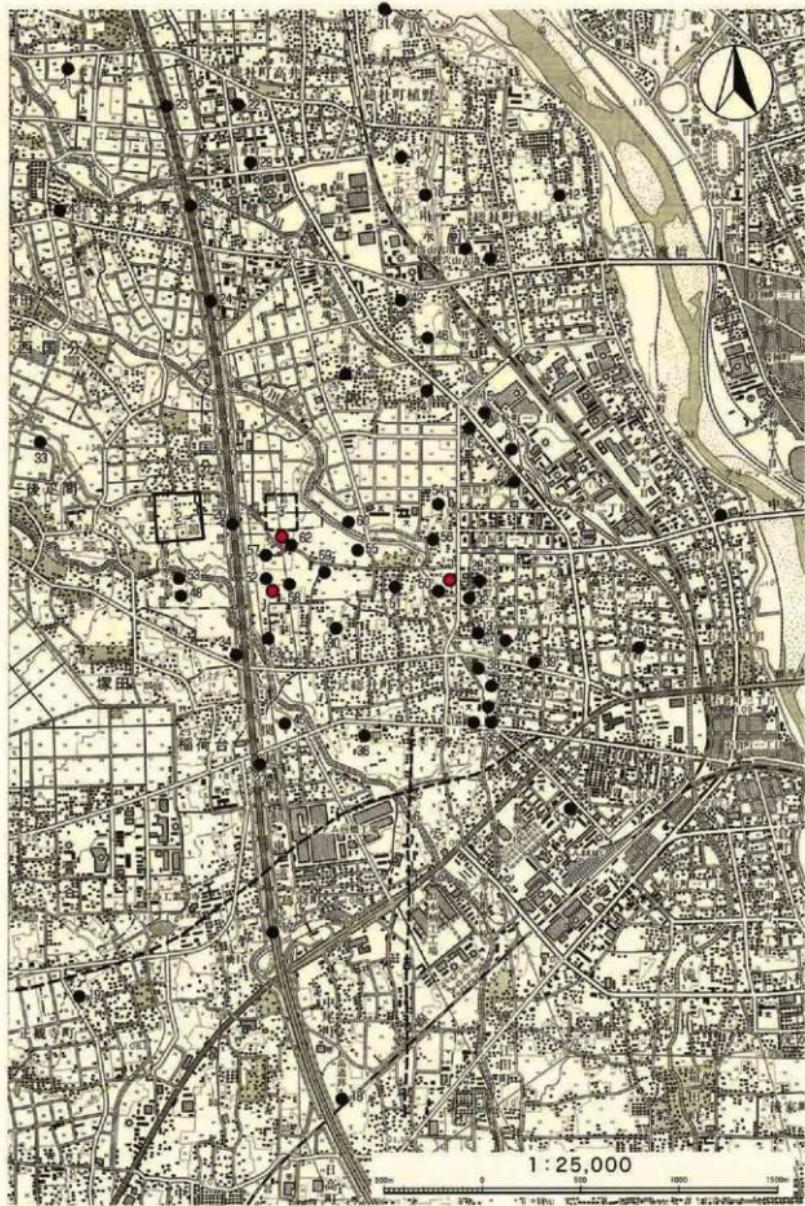


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 元経社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元経社蒼海遺跡群(20)	2008	本遺跡
2	上野国分寺跡(県教委)	1980~88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅基壇
4	山王廬寺跡	(1974)	古墳：塔心磯・根巻石
5	東山道(推定)		
6	日高道(推定)		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳(6C中)
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳(8C初)
9	鶴荷山古墳	1988	古墳：円墳(6C後半)
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳(7C初)
11	鷦杜二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳(6C末~7C初)
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳(5C後半)
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳(7C末)
14	元経社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周塗跡
15	商業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	商業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡(事業団)	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡(事業団)	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具・平安：条里制水田跡
19	正觀寺遺跡Ⅰ~IV(高崎市)	1979~81	弥生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
20	上野国分寺跡・尼寺中間地域(事業団)	1980~83	縄文：住居跡・配石遺構・弥生：住居跡・方形周溝墓・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中後：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群Ⅲ	1980	縄文：ビット・奈良・平安：住居跡・溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡(事業団)	1980~84	縄文：縄外埋甕・弥生：住居跡・古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・櫛列・中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡(事業団)	1990	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
24	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
24	国分境Ⅲ遺跡(群馬町)	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・島跡・中世：土墻墓
25	元経社明神遺跡Ⅰ~Ⅲ	1982~96	古墳：住居跡・水田跡・湖跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形 中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡(群馬町)	1982	縄文：土坑・集石遺構・古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡(事業団)	1978~83	古墳：住居跡・鍛冶場跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡(特殿跡)
28	開泉橋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡(上幅6.5~7m、下幅3.24m、深さ2m)
29	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983, 88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：井戸跡
31	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
31	鷦杜桜ヶ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985, 87	奈良・平安：住居跡
32	開泉橋南遺跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
33	後丸遺跡Ⅰ~Ⅲ(群馬町)	1985~87	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構
34	坂田村東遺跡(群馬町)	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
36	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 88	奈良・平安：住居跡
37	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 95	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：溝跡・石歌遺構
38	大友屋敷Ⅰ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡・平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堀越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堀越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌黎寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡・平安：住居跡・溝跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
43	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	元總社寺田遺跡I～III（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・漁串・墨書き器 中世：溝跡
45	弥勒遺跡・II遺跡	1989.95	古墳：住居跡・平安：住居跡
46	大屋敷遺跡I～VI	1992～2000	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡 中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元總社福業遺跡	1993	縄文：土坑・平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡・平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	總社開泉明神北II遺跡	1999	古墳：崩跡・水田跡・溝跡・中世：溝跡
	總社開泉明神北II遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・平安：住居跡・溝跡
	總社開泉明神北V遺跡	2004	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡
	元總社蒼海遺跡群(7)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元總社蒼海遺跡群(9)・(10)	2006	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
51	元總社宅地遺跡1～23トレチ	2000	古墳：住居跡・平安：住居跡・掘立柱建物跡・殿治場跡・溝跡・道路状遺構 中世：溝跡・近世：住居跡・五輪塔・埴輪
52	元總社小見遺跡	2000	縄文：住居跡・古墳：住居跡
53	元總社西川遺跡（事業団）	2000	奈良・平安：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・溝跡
54	總社甲稻荷塚大道西遺跡	2001	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・近世：溝跡
55	總社甲稻荷塚大道西II遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
56	元總社小見内Ⅲ遺跡	2001	中世：掘立柱建物跡・溝跡
	元總社小見内Ⅴ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：井戸跡
	總社甲稻荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・溝跡
	總社開泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	總社甲稻荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：崩跡・中世：窓跡
57	元總社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡 中世：溝跡・道路状遺構
	元總社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
	元總社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡
	元總社小見VI遺跡	2004	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	元總社小見唯遺跡	2004	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
58	元總社蒼海遺跡群(4)	2005	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	元總社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡 中世：溝跡・道路状遺構
	元總社草作Ⅳ遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
	元總社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡 中世：土壤墓・掘立柱建物跡・溝跡
	元總社小見内Ⅴ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：堅穴状遺構
59	元總社小見内Ⅵ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
	元總社小見内Ⅶ遺跡	2004	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土探掘坑・金片・金粒 中世：溝跡・土壤墓
	元總社蒼海遺跡群(2)・(6)	2005	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・井戸跡・中世：溝跡
	元總社蒼海遺跡群(11)	2006	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
	元總社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・崩跡 中世：近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
60	稻荷塚東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・竈拂茶材探掘痕・井戸跡
61	元總社小見内Ⅷ遺跡	2003	縄文：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・竈拂茶材探掘痕・井戸跡
62	元總社蒼海遺跡群(1)・(5)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・土坑墓
63	元總社蒼海遺跡群(8)	2006	奈良・平安：住居跡・綠釉陶器

* 調査年度の横の（ ）は調査開始年度を表す。

* 調査名の横の（事業団）はJR西日本埋蔵文化財調査事業団を表す。

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託された調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い築造予定の道路用地であるため、幅6mの極めて狭長なトレンチ状の調査区が中心となっている。総調査面積は約4,351m²である。現地での調査では、遺構の付番等における混乱をさけるため、調査区全体を1~11区に区分した。遺構番号は、各区ごとに個別に付番することとし、1区H-1号住居跡、2区H-1号住居跡のように遺構の前に必ず地区名を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）X = +44000・Y = -72200を基点(X 0・Y 0)とする4mピッチのものを使用し、7区においては、西から東へX58、59、60…、北から南へY79、80、81…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX68・Y82の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X = +43,672.000	Y = -71,928.000
緯度	36° 23' 27" .3193	経度 139° 01' 53" .5311
子午線収差角	28° 32' .6	増大率 0.999964

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を行い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡窓は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

現地調査は平成20年5月7日から12月25日まで行った。調査経過は下記一覧表のとおりである。

元総社蒼海遺跡群(20)の調査地は11ヶ所に分かれており、調査着手順で1区、2区…とした。

1区…蒼海公園の西側に位置し、南側が住宅、北側が道路に面しており、最初に安全対策を実施した。5月7日から重機による表土掘削を開始した。5月9日に杭打ち測量を行い、遺構掘り下げ・遺構精査を進めていった。住居跡1軒、溝跡2条、土坑3基、井戸跡1基を検出した。

2区…蒼海公園の南側に位置し、東西に細長い調査区ながら、東から中央部までは粘性が強く乾くと硬い土質で、雨が降るたびに水が溜まり調査に遅れを生じた。5月9日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げ・遺構精査を進めていった。住居跡11軒、溝跡4条、土坑2基を検出した。6月4日に1区と共に全景写真撮影を行い、6月6日に1区を含めて埋め戻しを終了した。

3区…5月7日から重機による表土掘削を開始した。5月9日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げ・精査を進めていった。調査区中央部分で遺構の重複があり、やや手間がかかった。住居跡15軒、溝跡5条、土坑5基、井戸跡1基を検出した。6月13日に全景写真撮影を行い、6月25日には埋め戻しを終了した。

4区…牛池川左岸の低地にあり、まず5月27日に試掘調査を行った。結果、東側は宅地造成のために削平された台地で遺構がないことがわかった。西側の低地部分では Hr-FA 下の水田が確認されたが、調査可能な場所が少ないので、試掘のみで調査終了とした。

5区…6月9日から調査し、6月10日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げ・精査を進めていった。粘性の強い土質のため、雷雨の後は水が溜まり調査に遅れを生じた。住居跡5軒、溝跡3条、土坑4基などを検出した。

8月6日にラジコンヘリによる全景空中撮影を行い、8月22日に埋め戻しを終了した。

6区…三方を住宅に囲まれた狭い調査区で、重機による掘削土はダンプにより別の場所へ搬送した。6月9日に重機による表土掘削を行った。6月10日に杭打ち測量を行い、遺構掘り下げ・遺構精査を進めていった。遺構確認面まで浅く残りも悪かったが8軒の住居跡などを検出した。7月3日に全景写真撮影を行い、7月11日に埋め戻しを終了した。

7区…国分尼寺の南面に位置する。6月16日から重機による表土掘削を行い、6月18日に杭打ち測量を行った。その後遺構の掘り下げや精査を行っていたが、急遽道路予定地北側部分に仮設住宅を8月下旬に建設するために、6月25日からその部分の重機による表土掘削を行った。調査区の中央から東側では国分尼寺と関わりがあると思われる瓦敷遺構や土坑が検出された。今後再調査が必要となってきたので、仮設住宅建設において遺跡の更なる保護を区画整理第二課に伝えた。住居跡10軒、土坑12基、溝跡2条などを検出した。8月6日にラジコンヘリによる全景空中撮影を行い、8月21日に埋め戻しを行った。

8区…7月3日に重機による表土掘削を行い、7月4日に杭打ち測量を行った。その後遺構の掘り下げを行ったが、溝1条を検出するだけとなった。7月11日に全景写真撮影を行い、7月15日に埋め戻しを行った。

9区は11月6日から耕作土を分けながら重機による表土掘削を開始した。調査区中央に石を含んだ溝が東西方向に走るため、重機による掘り下げに苦労した。その溝に重複する住居跡11軒などを検出した。12月に入り霜と寒さに悩まされながら調査を進め、12月18日に全景写真撮影を行い、12月25日に埋め戻しを終了した。

10区は牛池川に向かって下降する斜面に位置する。11月18日から重機による掘削を開始した。東側は約2m掘削してHr-FA下の水田確認面へ達するために掘削に時間を要した。人力によりHr-FAを剥がし水田面を確認後、12月8日に再び重機掘削を行い、As-C下の水田面を確認したが、湧き水にも悩まされ思うように確認はできなかった。12月10日に全景写真撮影後、12月17日に埋め戻しを終了した。

11区は5区の東側に位置する飛び地である。12月4日に重機による表土掘削を行い、12月8日に杭打ち測量を行った。霜と寒さに悩まされながら調査を進め、住居跡4軒、土坑3基などを検出した。12月18日に全景写真撮影を行い、12月22日に埋め戻しを終了した。

12月25日より文化財保護課庁舎に戻り、出土遺物・図面・写真などの整理作業及び報告書作成にあたり、翌年3月13日までに全ての作業を終了した。

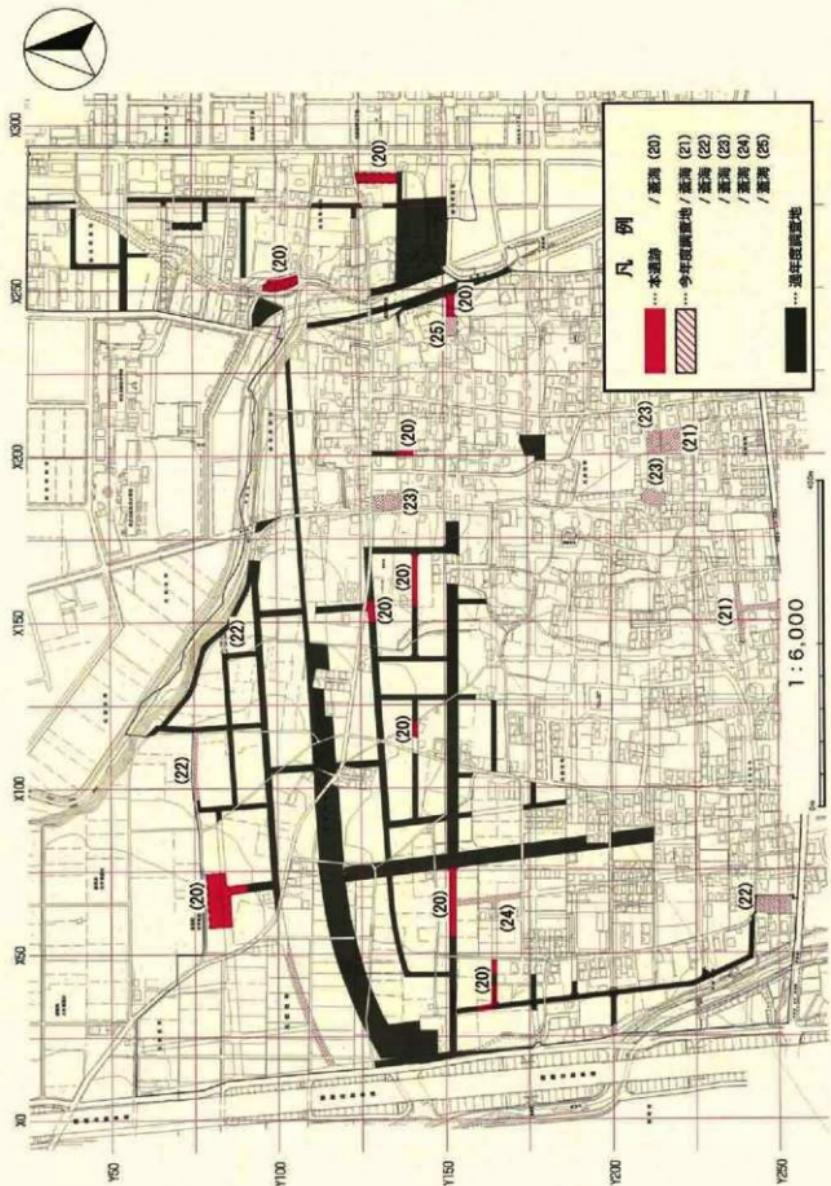


Fig. 3 元紹社舟泊遺跡群位置図とグリッド設定図

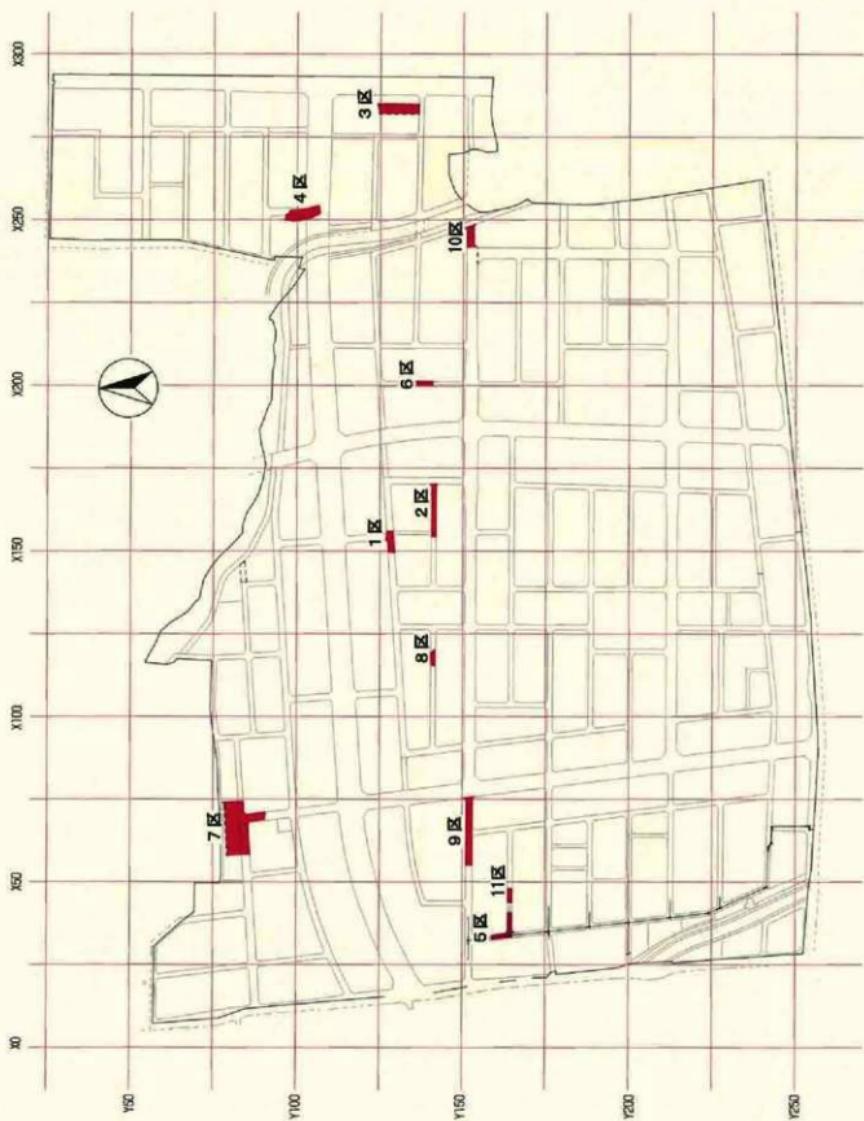


Fig. 4 元松社若海遺跡群(20) 調査区位置図

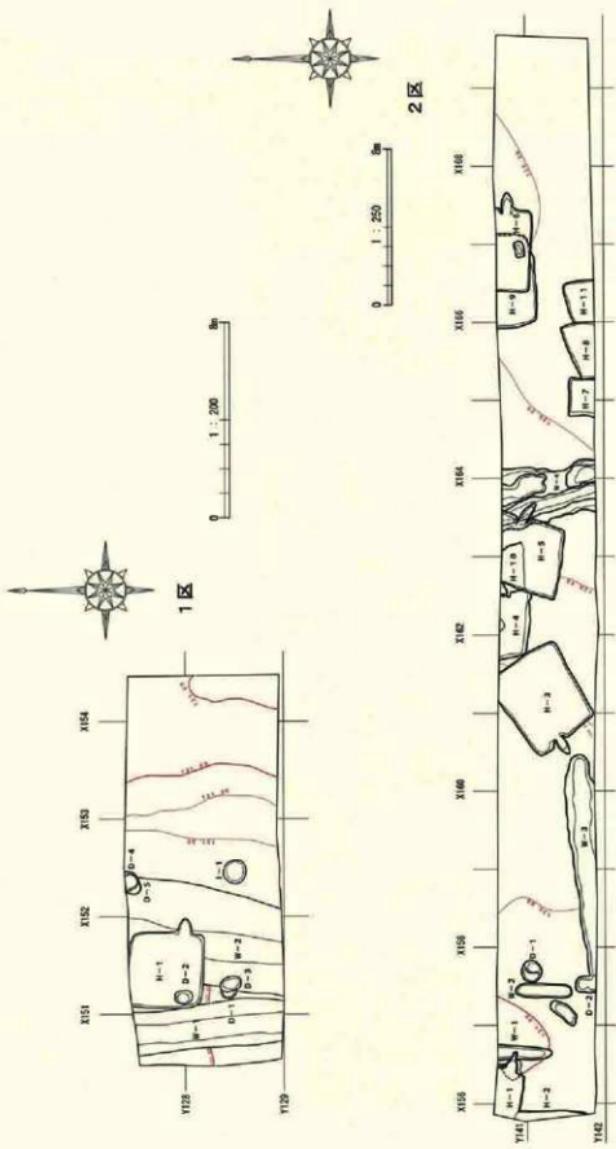


Fig. 5 元紹杜蒼海遺跡群(20) 1·2区全体圖

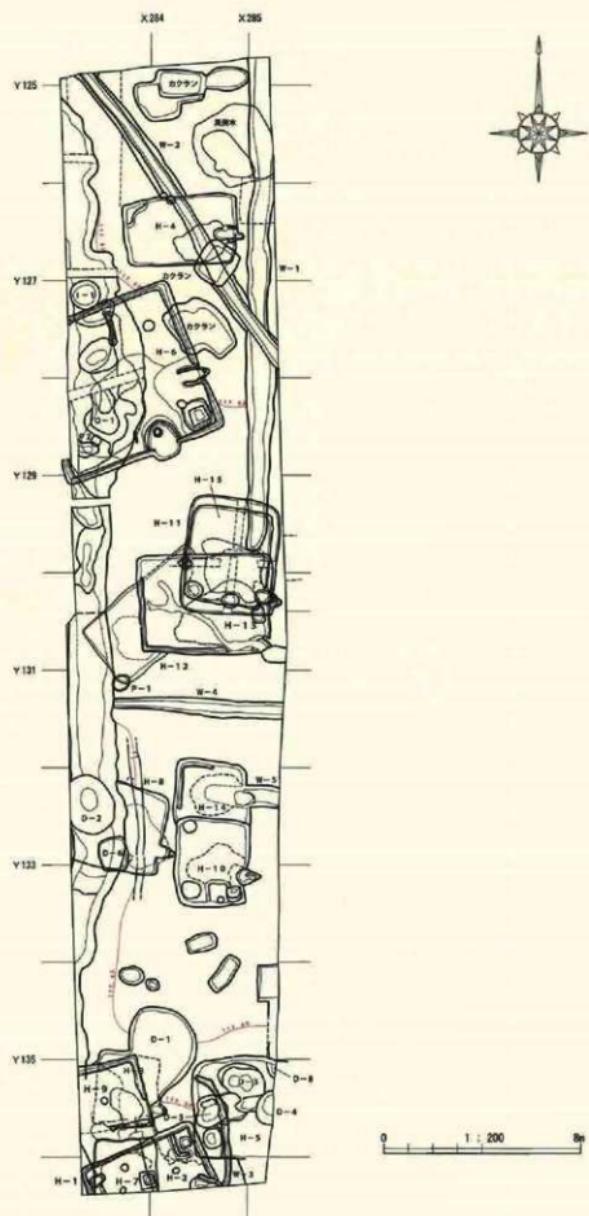


Fig. 6 元總社舊海遺跡群(20) 3区全体図

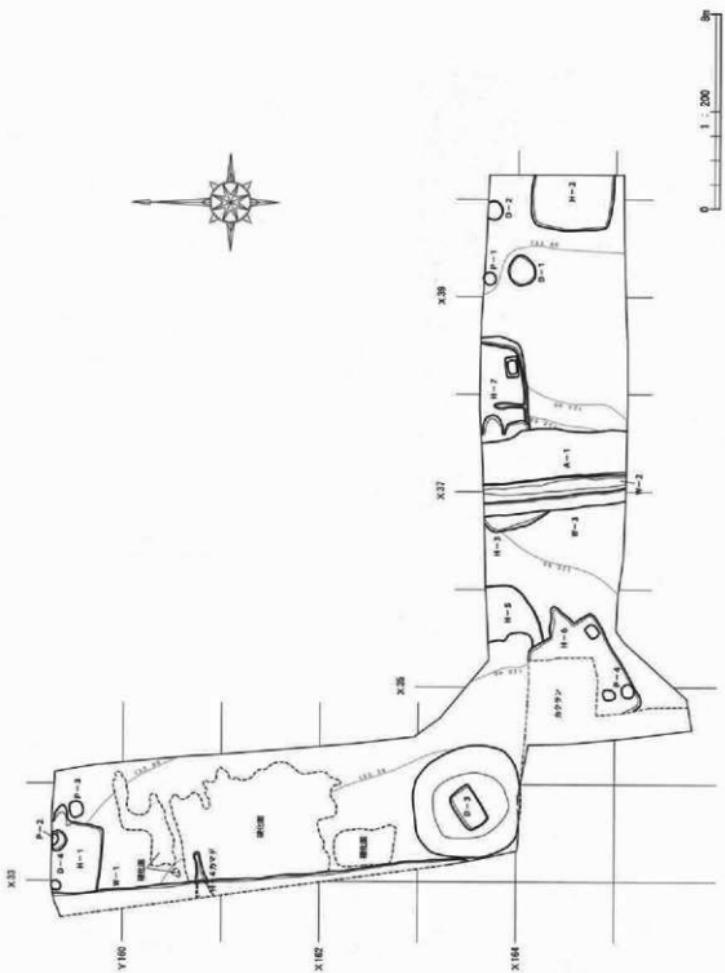


Fig. 7 元龜社蒼海遺跡群(20) 5区全体図

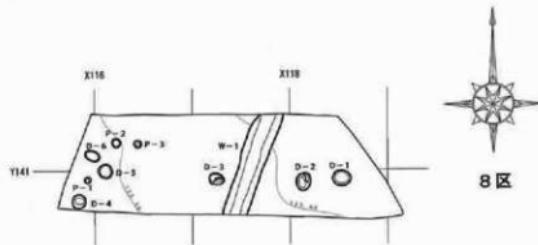
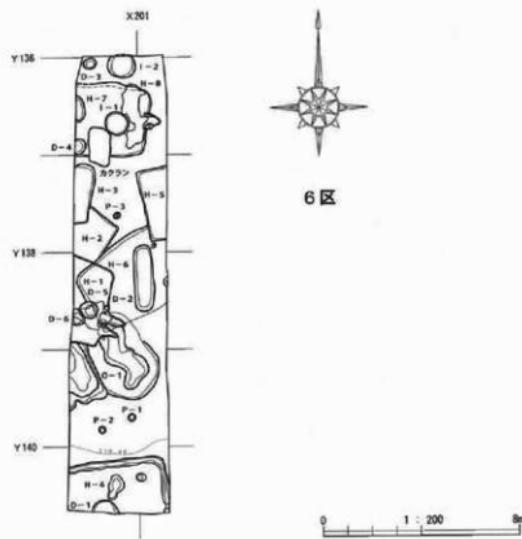


Fig. 8 元裕社蒼海遺跡群(20) 6・8区全体図

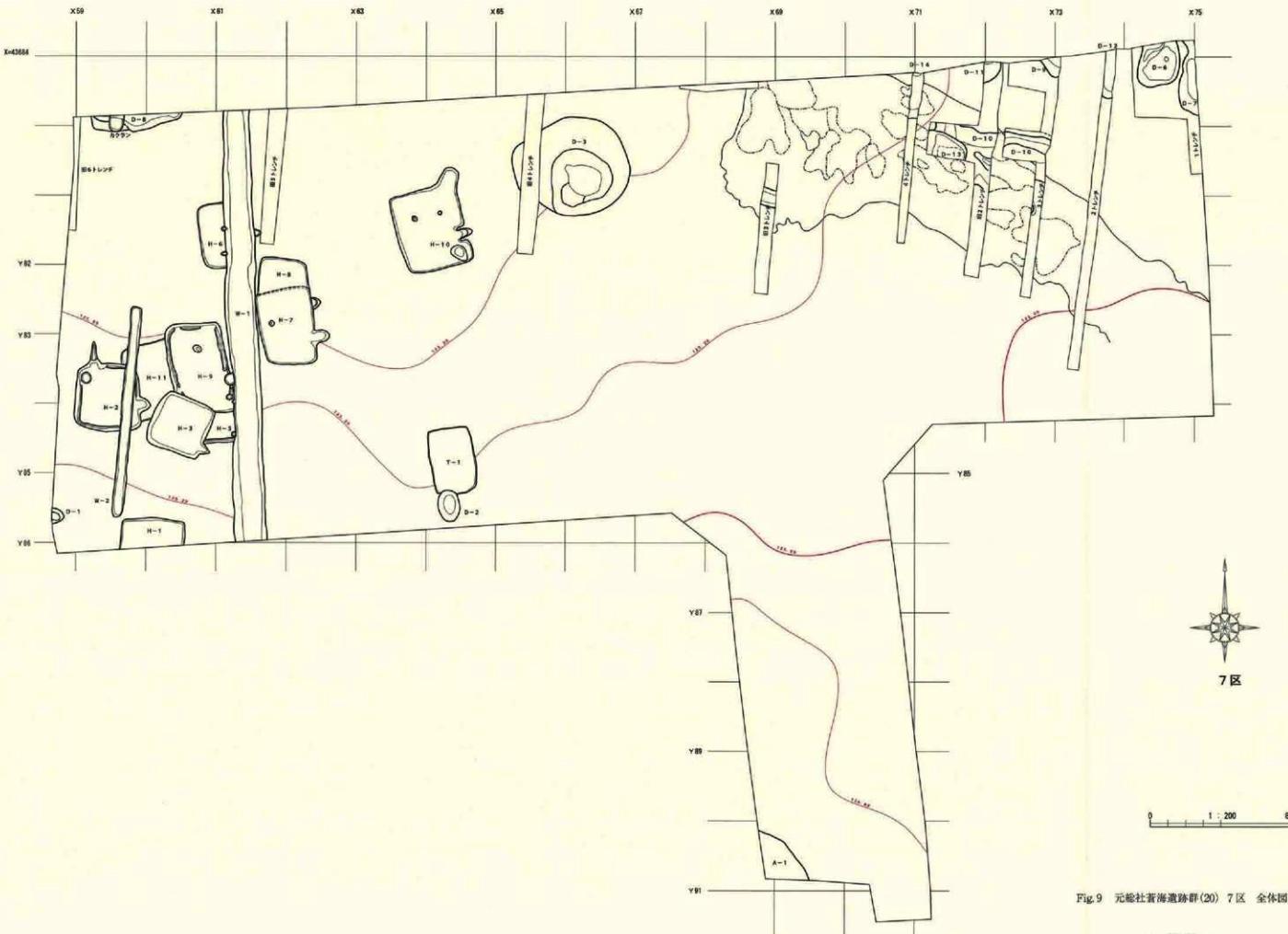


Fig. 9 元榆社蒼海遺跡群(20) 7区 全体図

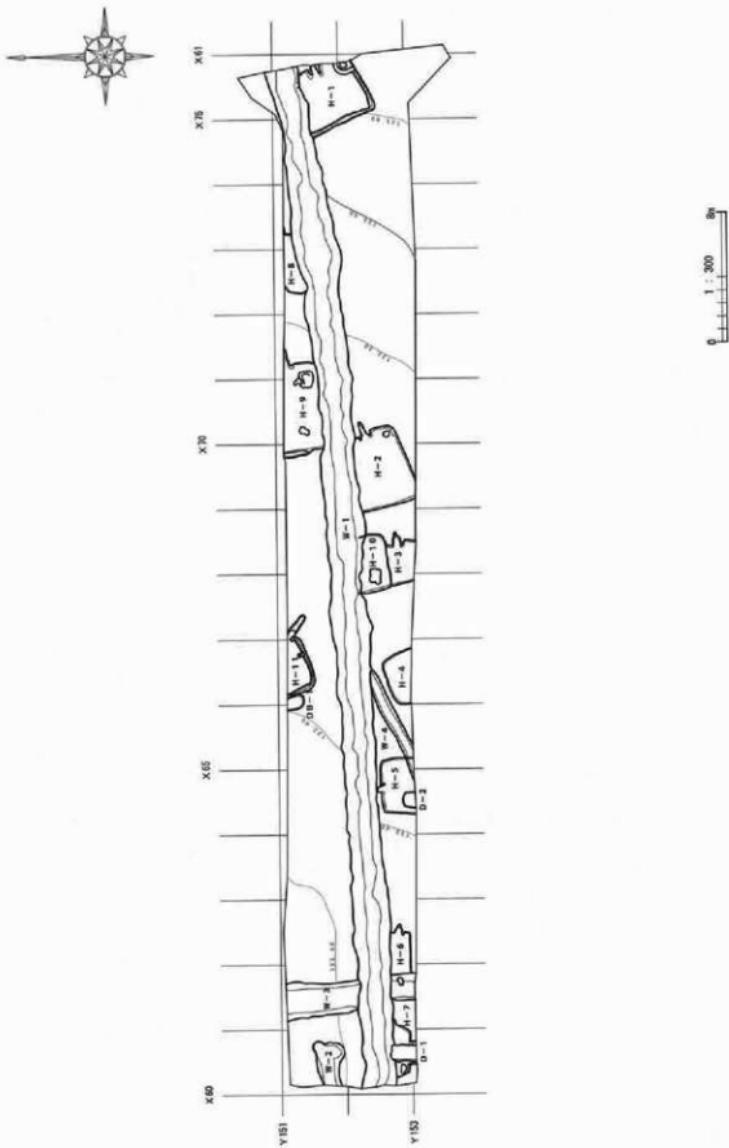


Fig.10 元稔社蒼海遺跡群(20) 9區全體圖

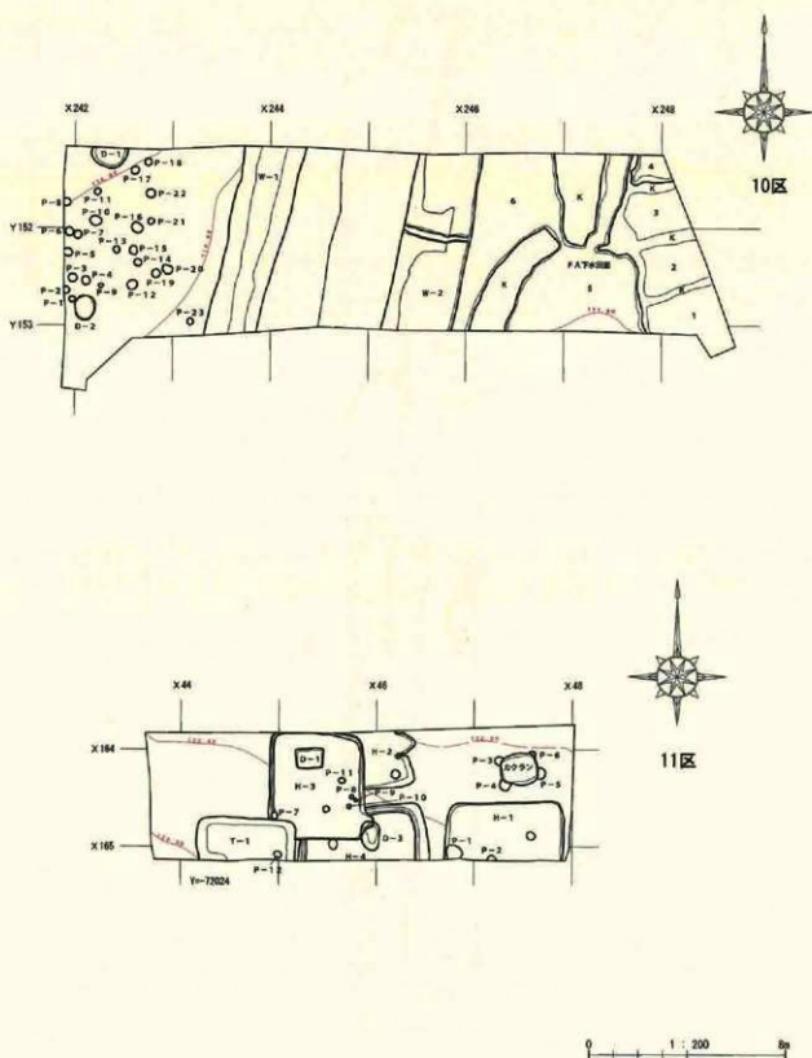


Fig.11 元總社蓄海遺跡群(20) 10・11区全体図

IV 基本層序

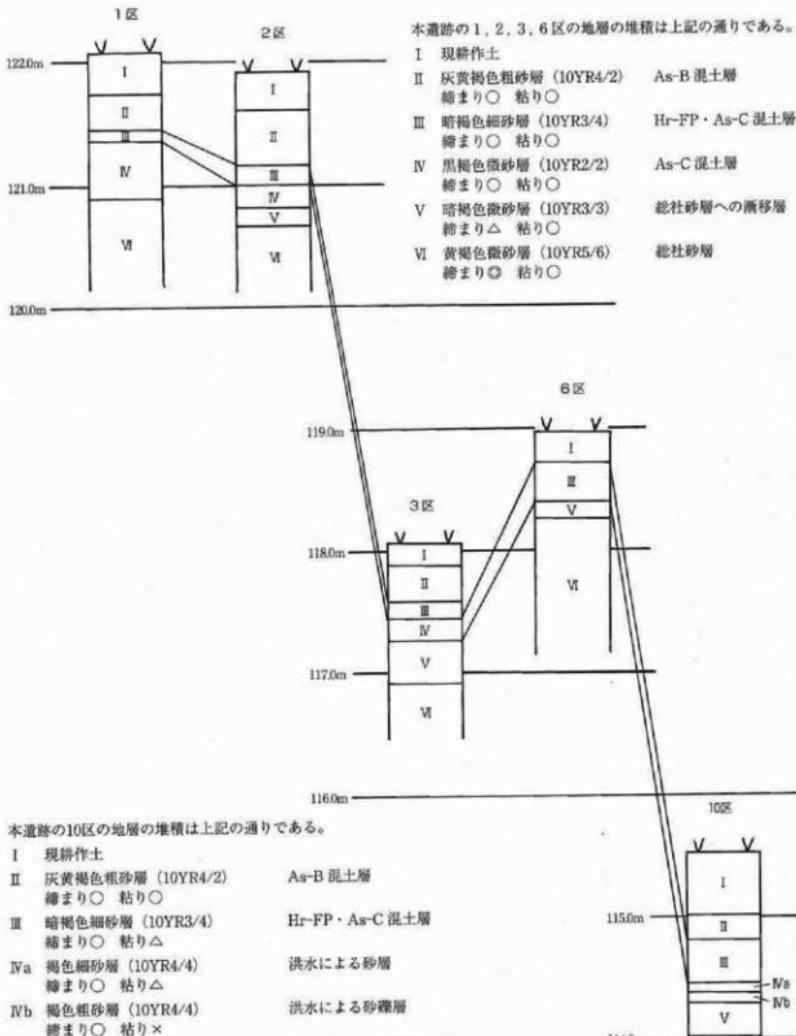


Fig.12 基本層序

V 遺構と遺物

1区

(1) 壇穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.13・62・85, PL. 1・19)

位置 X151、Y127・128グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.22)m、南北(3.12)m、壁現高46.0cm。面積(11.55)m² 床面 平坦な貼り床。竪 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-90°-E。全長68cm、最大幅76cm、焚口部幅46cm。構築材に凝灰岩、粘土、袖部に瓦を用いる。重複W-2と重複しており、新旧関係はW-2→本遺構 出土遺物 土師器27点、須恵器22点、瓦21点、鉄製品2点、石製品1点。そのうち土師器壺1点、須恵器小型壺1点、須恵器甕1点、須恵器蓋1点、瓦4点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.14, PL. 1)

位置 X150・151、Y127・128グリッド 主軸方向 N-5°-W 形状等 逆台形。長さ 6.0m 深さ 87.0cm 最大上幅270cm、最大下幅82cm 出土遺物 土師器1点、須恵器3点、縄文土器1点、石製品1点。時期 覆土からAs-B降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-2号溝跡 (Fig.14・62・85, PL. 1・19)

位置 X151・152、Y127・128グリッド 主軸方向 N-6°-E 形状等 逆台形。長さ 6.4m 深さ 129.5cm 最大上幅406cm、最大下幅140cm 出土遺物 土師器105点、須恵器64点、瓦9点、縄文土器41点、鉄製品3点、灰釉陶器3点。そのうち土師器壺1点、須恵器蓋1点、鉄製品3点を図示。時期 覆土と出土遺物からAs-B降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

(3) 土坑、井戸跡 (Fig.13)

土坑、井戸跡については、Tab. 4 土坑、井戸跡計測表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物 (Fig.85、PL.36)

土師器95点、須恵器62点、瓦12点、鉄製品2点、石製品5点を出土。そのうち鉄製品2点を図示。

2区

(1) 壇穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.15・62、PL. 2・20)

位置 X155・156、Y140グリッド 主軸方向 N-94°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.26)m、南北(1.68)m、壁現高9.0cm。面積(3.17)m² 床面 平坦な貼り床。竪 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-96°-E。全長112cm、最大幅124cm、焚口部幅56cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。重複H-2と重複しており、新旧関係は本遺構→H-2 出土遺物 土師器32点、須恵器3点、瓦3点。そのうち土師器甕3点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.15, PL. 2)

位置 X155、Y141グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形と推定される。東西(0.52)m、南北(3.82)m、壁現高11.0cm。面積 (1.40)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-1と重複しており、新旧関係はH-1→本遺構 時期 時期は覆土と重複関係から10世紀後半以降からAs-B降下以前と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.16・62・85・89, PL. 2・20)

位置 X160・161、Y140・141グリッド 主軸方向 N-127°-W 形状等 長方形。東西4.74m、南北4.30m、壁現高27.0cm。面積 17.36m² 床面 平坦な貼り床。竈 西壁中央北寄りに位置する。主軸方向N-132°-W。全長110cm、最大幅100cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、袖部に瓦、川原石を用いる。出土遺物 土師器27点、須恵器42点、瓦12点、灰釉陶器4点、石製品4点、鉄製品1点。そのうち須恵器小型壺2点、瓦4点、鉄製品1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.16・64、PL. 2・20)

位置 X161・162、Y140・141グリッド 主軸方向 N-101°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.30)m、南北(1.40)m、壁現高38.0cm。面積 (4.78)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-5、10と重複しており、新旧関係はH-5→H-10→本遺構 出土遺物 土師器18点、須恵器10点、瓦2点、灰釉陶器3点。そのうち土師器壺1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.17・62、PL. 2・20)

位置 X162・161、Y140・141グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.00)m、南北(3.71)m、壁現高27.0cm。面積 (11.16)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央に位置する。主軸方向N-120°-E。全長140cm、最大幅86cm、焚口部幅34cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-4、W-4と重複しており、新旧関係はW-4→本遺構→H-10 出土遺物 土師器36点、須恵器44点、瓦1点、灰釉陶器4点。そのうち土師器壺1点、須恵器壺1点、須恵器高台碗1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.17・63・85・89、PL. 3・20・21)

位置 X162・163、Y140・141グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.30)m、南北(2.20)m、壁現高30.0cm。面積 (11.85)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N-92°-E。全長112cm、最大幅80cm、焚口部幅24cm。構築材に粘土、瓦を用いる。重複 H-9と重複しており、新旧関係はH-9→本遺構 出土遺物 土師器290点、須恵器90点、瓦21点、瓦6点、灰釉陶器1点、鉄製品1点。そのうち土師器壺4点、須恵器小型壺3点、瓦1点、鉄製品1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.18・62、PL. 20・21)

位置 X164・165、Y141グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.02)m、南北(1.50)m、壁現高29.0cm。面積 (2.62)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-8と重複しており、新旧関係は本遺構→H-8 出土遺物 土師器13点、須恵器19点。そのうち土師器壺1点、須恵器高台碗3点を図示。 時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.18)

位置 X165、Y141グリッド 主軸方向 N-99°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.99)m、南北(1.80)m、壁現高28.0cm。面積(3.72)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-7、11と重複しており、新旧関係はH-7、11→本造構 時期 覆土や重複関係から9世紀代と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.18・63・64、PL.3・21)

位置 X165~167、Y140-141グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.24)m、南北(4.90)m、壁現高45.0cm。面積(8.88)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-6と重複しており、新旧関係は本造構→H-6 出土遺物 土師器180点、須恵器47点。そのうち土師器5点、須恵器壺1点・須恵器蓋1点を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.16、PL.2)

位置 X162・163、Y140グリッド 主軸方向 N-102°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.40)m、南北(1.60)m、壁現高11.0cm。面積(2.76)m² 床面 平坦な貼り床。重複 W-2と重複しており、新旧関係はH-5→本造構→H-4 出土遺物 須恵器1点。時期 覆土や重複関係から9世紀代と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.18)

位置 X106、Y141グリッド 主軸方向 N-105°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.20)m、南北(1.70)m、壁現高21.0cm。面積(2.97)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-8と重複しており、新旧関係は本造構→H-11 出土遺物 土師器41点、須恵器20点、瓦2点、鉄製品2点。時期 覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.19)

位置 X156、Y140・141グリッド 主軸方向 N-1°-E 形状等 U字形。長さ 28m 深さ 17.0cm 最大上幅80cm、最大下幅54cm 時期 覆土からAs-B降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-2号溝跡 (Fig.19)

位置 X157、Y140・141グリッド 主軸方向 N-45°-E 形状等 U字形。長さ 29m 深さ 13.5cm 最大上幅74cm、最大下幅56cm 時期 覆土からAs-B降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-3号溝跡 (Fig.19)

位置 X157~160、Y141グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 U字形。長さ 11.5m 深さ 29.5cm 最大上幅160cm、最大下幅100cm 出土遺物 土師器20点、須恵器16点。時期 覆土と出土遺物からAs-B降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-4号溝跡 (Fig.19・63・64、PL.3・22)

位置 X163・164、Y140・141グリッド 主軸方向 N-18°-W 形状等 逆台形。長さ 4.8m 深さ 69.5cm 最大上幅323cm、最大下幅54cm 出土遺物 土師器186点、須恵器251点、石製品1点。そのうち土師器壺3点・土師器高杯1点、須恵器壺1点・須恵器壺1点・須恵器壺2点を図示。時期 覆土と重複関係から

Hr-FP 降下以降 9世紀以前と考えられる。 備考 流水の痕跡無し。

(3) 土坑 (Fig.18, PL.3)

土坑については、Tab.4 土坑、ピット、井戸跡計測表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物 (Fig.64, PL.22)

土器部158点、須恵器86点、瓦14点、繩文土器1点、灰釉陶器2点、石製品6点を出土。このうち須恵器亮1点を図示。

3区

(1) 壺穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.20・65, PL.23)

位置 X283、Y135～136グリッド 主軸方向 不明 形状等 遺構本体の多くは調査区外にあり、東壁側の一部と竪部分を確認。面積 検出部分で (122)m² 床面 わずかに堅紙面を確認。竪 東壁側に付設。主軸方向 N-63°-E。全長71cm、最大幅52cm、焚口部幅30cm。本体は粘土で構築、被熱により焼土化している。手袖部両側に、径20～25cm大の安山岩自然礫を設置する。重複 H-3と重複しており、新旧関係はH-3→本造排 出土遺物 床面出土の遺物2点を図示。時期 重複関係や出土遺物から10世紀中～後半頃。

H-2号住居跡 (Fig.20・65, PL.4・23)

位置 X283・284グリッド、Y135・136グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 検出部分から、方形状をなす。規模 東西5.16m、南北(3.11)m、壁高55.5cm。面積 (10.56)m²。床面ほぼ平坦。竪手前付近を中心に不整形形状に堅紙面が拭がる。貯藏穴 北東コーナー部に平面方形状で確認。またピット西～南側にはL字状をなし、粘質土主体の高さ5cm程度の周堤で区画する。P5掘削土で構築。周堤部上面で炭化材確認。竪 東壁側に付設。主軸方向 N-96°-E。全長 (106)cm、最大幅 (64)cm、焚口幅 (30)cm。袖部は粘土構築、長く舌状に張出す。燃焼部内側の焼土分布拭がる。重複 H-7と重複。H-2→7の順。出土遺物 竪内で土器器皿(3)が出土したほか、東壁下・竪前付近の床面遺物を中心に図化。時期 出土遺物から6世紀末～7世紀初頭頃。

H-3号住居跡 (Fig.21・65, PL.4・23)

位置 X283・284グリッド、Y135・136グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 南北に長い方形状。規模 東西 (2.64)m、南北 (3.11)m、壁高33.0cm。面積 (7.96)m² 床面 ほぼ平坦。さほどの堅紙はみられない。ピット等は確認できなかった。竪 東壁南寄りに付設。主軸方向 N-99°-E。全長70cm、最大幅57cm、焚口幅30cm。袖部・燃焼部には構築材・支脚材の安山岩礫がまとまる。重複 O-1・D-1と重複。いずれより本跡が古い。出土遺物 比較的竪付近の床面に集中。時期 出土遺物から10世紀中～後半頃か。

H-4号住居跡 (Fig.21・22・65・82, PL.3・23)

位置 X283・284、Y126グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 東西に長い方形。東西4.72m、南北2.90m、壁現高36.5cm。面積 12.72m² 床面 北西隅部がやや高まるが、全体的には平坦。暗褐色土を用いた貼床。竪前が堅紙。竪 東壁中央に付設。主軸方向 N-96°-E、全長122cm、最大幅76cm。焚口部幅34cm。構築材として両袖に粘土、右袖に円筒埴輪片、右袖には安山岩礫を使用。竪手前には構築材に用いられたと思われる凝灰質

砂岩の流出も確認された。重複 W-2と重複し、本造構が新。出土遺物 総数230点が出土。うち土師器4点（壺1、小型壺2、甕1）、円筒埴輪2点（甕構築材と考えられる）を図示した。時期 出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.22・66・67, PL.4・23・24)

位置 X284・285グリッド、Y134・135グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 方形状。規模 東西(3.46)m、南北(4.30)m、現壁高49.0cm。面積 (13.19)m² 床面 南東側付近で、比較的平坦面形成。甕未検出。重複 中央部分で(D-3・4・5・7)土坑が出土。これらについては、床下土坑の可能性も想定されたが、須恵器甕(20・21・24)等が、住居跡覆土上面～土坑(D-3・5)の底面にかけて出土することから、住居跡床あるいは下面(床下土坑)のいずれかに帰属するといった状況は窺えない。土坑群との関係は遺物出土状況から、住居跡～土坑群(D-3・5、若干の時間差でD-4)であろうか。出土遺物 住居跡覆土～D-3・5内に須恵器大甕(20・24)、住居跡床面で同(21)、D-3底面で土師器高壺(19)が出土。(20)はH-6出土片を含む等の特徴を示す。時期 5世紀末～6世紀初め頃。

H-6号住居跡 (Fig.23・24・68・81・82, PL.5・6・24～26)

位置 X283・284、Y127～129グリッド 主軸方向 N-69°-E 形状等 正方形。東西6.98m、南北7.00m、壁現高73.0cm。南壁中央やや東側に張り出しがある。面積 (36.67)m² 覆土 地山の黄褐色土ブロックを多量に含み、人為的に埋められたような状況が看取された。床面 全体的に平坦で、甕前に広く堅微面を確認。黄褐色土と黒褐色土で貼床を施す。住居西側の床面には広く灰の分布が認められた。間仕切り 3ヵ所で間仕切りと思われる溝状の掘り方を検出。長さ0.9～1.4m、幅0.2m、深さ10～15cm程度。甕 東壁中央やや南に付設。主軸方向N-73°-E、全長152cm、最大幅87cm。焚口部幅45cm。両袖は粘土により構築され、袖石・天井石および支脚に凝灰質砂岩を使用している。天井石(Fig.82 3～石18)は崩落した状況で出土。支脚周辺には粘土が分布しており、粘土により固定されていたと見られる。また土師器甕底部(No.47)が支脚頂部に被さった状態で出土している。貯蔵穴 住居南東隅で検出。形状は隅丸方形で長軸116cm、短軸113cm、深さ55cmを測る。貯蔵穴内から土師器甕(No.51)が出土。張り出し 台形、東西1.18m、南北0.4mを測る。張り出し部周辺は床面がわずかに堤状に高まる(馬蹄形状造構)。馬蹄形状造構中央部からは梯子穴と思われるピット(Po)を検出。これらは、入口施設に関連するものと考えられる。重複 O-1と重複し、本造構が切られる。出土遺物等 床面および壁面際から炭化材が多数出土し、とくに南・西壁付近での出土が多かった。遺物は甕周辺で土師器壺・甕などがまとまって出土した。また、南西隅部では菰編石14点が出土している。遺物の総数は1,167点。うち土師器壺・甕、手づくね小型壺、須恵器、菰編石などを図示した。時期 出土遺物から5世紀末～6世紀初頭と考えられる。備考 炭化材の出土状況や覆土の状況などを勘案すると住居焼失後、人為的に埋められたものと考えられる。造構・遺物とも残存状況が良く、該期の諸特徴をよく表している。

H-7号住居跡 (Fig.25・69, PL.6・25)

位置 X283・284グリッド、Y135・136グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 南半部は調査区外。現状から、南北に長い方形状か。規模 東西2.65m、南北(2.34)m、現壁高16.5cm。面積 (5.67)m² 床面 ほぼ平坦。中央部分で黒褐色土主体の堅微面を確認。重複 H-1・9と重複、新旧は、H-9→7→1の順である。

出土遺物 遺物数は少なく、覆土内出土の土師器壺(52)を図化。時期 出土遺物から7世紀末頃であろうか。

H-8号住居跡 (Fig.25, PL.6)

位置 X283・284、Y132・133グリッド **主軸方向** N-101°-E **形状等** 西側が落ち込み（O-1）により切られるが、調査区西壁際に床面が残存していた。方形と推測される。東西（3.57）m、南北3.66m、壁現高26.0cm。 **面積** (5.79) m² **床面** 全体的に平坦で堅緻。部分的に黄褐色土で貼床を施す。 **竈** 東壁南寄りに付設。主軸方向N-100°-E、全長85cm、最大幅72cm。焚口部幅38cm。竈壁面および周辺部に粘土を貼付して構築している。また、周辺からは構築材として用いたとみられる安山岩礫片が出土した。 **重複** O-1、D-2と重複し、いずれも本造構を切る。 **出土遺物** 総数61点が出土。 **時期** 出土遺物は少ないものの概ね9世紀代と推測される。

H-9号住居跡 (Fig.26・69・83、PL. 6・25)

位置 X283・284グリッド、Y134～136グリッド **主軸方向** N-76°-E **形状等** 東半側1/2程度を検出。現状から整った方形をなすとみられる。 **規模** 東西（5.82）m、南北（3.70）m、現壁高24.5cm。 **面積** (9.49) m² **床面** ほぼ平坦。中央東寄りの壁下で、不整形状に堅緻面が拡がる。 **間仕切り** 東壁下で、長1.6m、幅20cm、深18cmの溝状。 **貯藏穴** 東壁下南寄りに出土。平面方形状。 **竈** H-7に切られ本体は未検出だが、間仕切りの南側に竈闕連とみられる、灰色粘土主体分布が確認された。 **重複** H-9→7の順。 **出土遺物** 竈付近床面を中心に瓦礫石群、貯藏穴内で土器器坏（54）、床面で同（53）が出土。 **時期** 出土遺物から7世紀前半代。

H-10号住居跡 (Fig.26・27・69・70・83、PL. 7・25)

位置 X284・285グリッド、Y132・133グリッド **主軸方向** N-95°-E **形状等** 楕円方形状 **規模** 東西3.13m、南北3.73m、現壁高41.0cm **面積** 10.68m² **床面** ほぼ平坦。竈手前付近を中心に堅緻面拡がる。 **貯藏穴** 南東コーナー部で検出。 **竈** 東壁南寄りに付設。袖部に大形自然縫を配し、燃焼部内には支脚材や、構築材に使用したとみられる縄、土釜等の土器類が散在する。主軸方向N-89°-E。全長102cm、最大幅73cm、焚口幅38cm。 **出入口** 南壁下中央部分で、幅75cm程度のテラス中央部分に少ビット1本を確認、梯子穴であろうか。 **重複** 北半側でH-14と重複。H-14→10の順。 **出土遺物** 竈内、焚口付近を中心に集中していた。 **時期** 出土遺物から、およそ10世紀後半頃。

H-11号住居跡 (Fig.27・70、PL. 7・26)

位置 X284・285、Y129・130グリッド **主軸方向** N-97°-E **形状等** 南北に長い長方形。東西3.88m、南北4.90m、壁現高14.0cm。 **面積** 17.64m² **床面** 全体的に平坦で、竈前を中心に堅緻。 **竈** 東壁南東隅近くに付設。主軸方向N-91°-E、全長68cm、最大幅44cm。焚口部幅22cm。 **貯藏穴** 中央南壁近くでPsを検出。形状は楕円形、長径72cm、短径57cm、深さ51cm。 **重複** H-12・13・15、W-1と重複し、新旧関係はH-12→H-13→H-15→本造構→W-1の順。 **出土遺物** 総数116点が出土した。そのうち須恵器小型坏1点、灰釉陶器段皿1点を図示した。 **時期** 出土遺物から11世紀前半と推測される。

H-12号住居跡 (Fig.28、PL. 7)

位置 X283・284、Y129～131グリッド **主軸方向** N-53°-E **形状等** 東西に長い長方形。東西5.78m、南北3.20m、壁現高32.5cm。 **面積** (6.62) m² **床面** 全体的に平坦で、部分的に堅緻。 **貯藏穴** 北東隅で検出。形状は方形、長軸49cm、短軸46cm、深さ35.5cm。 **重複** H-11・13・15、O-1と重複し、新旧関係は本造構→H-13→H-15→H-11、本造構→O-1の順。 **出土遺物** 総数66点が出土した。 **時期** 出土遺物が少なく時期決定は難しいが、重複するH-13との関係から、6世紀代と推測される。

H-13号住居跡 (Fig.28・70、PL.7・26)

位置 X283~285、Y129・130グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 東西に長い長方形。東西5.64m、南北3.17m、壁現高45.5cm。面積 (21.71)m² 床面 全体的に平坦で、竈前を中心堅緻。竈 東南隅に付設。擾乱により一部壊される。主軸方向N-131°-E、全長 (58)cm、最大幅 (85)cm。焚口部幅 (44)cm。貯藏穴竈北側で検出。形状は梢円形、長径72cm、短径52cm、深さ19.5cm。重複 H-11・12・15と重複し、新旧関係はH-12→本遺構→H-15→H-11の順。出土遺物 総数89点が出土。うち土師器坏1点を図示した。時期 出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig.26・70・71、PL.7・26)

位置 X284・285グリッド、Y131・132グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 現状で隅丸方形状 規模東西3.24m、南北(2.80)m、現壁高38.0cm 面積 (7.07)m² 床面 ほぼ平坦。中央部円形状に堅緻面折がる。周溝 西～北壁下の一部に確認。最大幅20cm、深さ4cm前後。竈 東壁北寄りに付設痕。主軸方向N-87°-E、全長84cm、最大幅56cm、焚口幅36cm。重複 H-10、W-5と重複。H-14→10、H-14→W-5の順。出土遺物 竈内、検出南側床面を中心にまとまる。時期 10世紀後半頃。

H-15号住居跡 (Fig.29・71、PL.26)

位置 X284・285、Y129・130グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 南北に長い長方形。東西3.50m、南北4.10m、壁現高28.5cm。面積 13.25m² 床面 全体的に平坦で、竈前を中心堅緻。竈 東壁南東隅近くに付設。主軸方向N-97°-E、全長92cm、最大幅60cm。焚口部幅34cm。貯藏穴 南西隅で検出。形状は円形、長径74cm、短径72cm、深さ31.5cm。重複 H-11・12・13、W-1と重複し、新旧関係はH-12→H-13→本遺構→H-11→W-1の順。出土遺物 総数48点が出土。うち須恵器坏2点を図示した。時期 出土遺物や重複関係から10世紀後半頃と考えられる。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.30)

位置 X284~285、Y124~129グリッド 主軸方向 N-2°-E 長さ 23.0m 最大幅 上幅120cm、下幅35cm。深さ 31cm 形状 U字形 重複 W-2、H-11・15と重複し、いずれの遺構よりも新しい。出土遺物 土師器・須恵器など総数17点が出土。時期 覆土にAs-B軽石の混入が認められることから、As-B降低以下に降ると考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.30、PL.7)

位置 X283~285、Y124~127グリッド 主軸方向 N-33°-W 長さ 14.2m 最大幅 上幅95cm、下幅36cm。深さ 51cm 形状 U字形 重複 W-1、H-4と重複し、新旧関係は本遺構→H-4→W-1の順。出土遺物 土師器など総数73点が出土。時期 H-4との新旧関係から、7世紀後半以前と考えられる。

W-3号溝跡 欠番

W-4号溝跡 (Fig.30、PL.7)

位置 X283~285、Y131グリッド 主軸方向 N-87°-W 長さ 7.0m 最大幅 上幅76cm、下幅36cm。深さ 23.5cm 形状 U字形 重複 O-1と重複し、切られる。出土遺物 土師器16点が出土。時期 不明。

As-B 軽石降下以前。

W-5号溝跡 (Fig.30)

位置 X284・285、Y132グリッド 主軸方向 N-86°-W 長さ (3.2)m 最大幅 上幅90cm、下幅60cm。深さ 18~28.5cm 形状 U字形 重複 H-14と重複。新旧関係はH-14→本造構の順。出土遺物 土師器・須恵器・瓦片など総数17点が出土。時期 H-14との関係から、10世紀後半以降と考えられる。

(3) 土坑・ピット・井戸跡・落ち込み (Fig.29・71、PL.7・26)

3区からは土坑8基、ピット2基、井戸跡1基を検出した。土坑・ピットについてはいずれも古代、井戸跡は出土遺物から中世と考えられる。Tab.4にこれらの規模等の詳細を記した。

また、調査区東側には自然地形と考えられる落ち込み(O-1)が確認された。覆土は褐色シルトを多く含む黄褐~暗褐色土で、As-CやHr-FPと思われる白色軽石粒をわずかに含む。As-B軽石は混入しない。砂利層などは確認できず、洪水による堆積層ではなく形成要因は不明であるが、H-6・8・11などはこの落ち込みに切られていた。覆土中からは古墳~平安時代にかけての土器片等が出土しており、うち須恵器壺など6点を図示した。これらの出土遺物からこの落ち込みの堆積層は、10世紀後半以降に形成されたとみられる。

4区

試掘調査のみ

5区

(1) 穫穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.31・72、PL.8・27)

位置 X32・33、Y159グリッド 主軸方向 N-97°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.22)m、南北(2.29)m、壁現高23.0cm。面積 (5.92)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央に位置する。主軸方向N-100°-E。全長86cm、最大幅76cm、焚口部幅48cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 W-1と重り、新旧関係は本造構→W-1 出土遺物 土師器102点、須恵器40点、瓦6点、繩文土器9点、石製品4点。そのうち土師器壺1点・土師器甕1点、須恵器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.31・61・72、PL.8・19・27)

位置 X39・40、Y164グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.22)m、南北(2.29)m、壁現高39.0cm。面積 (10.63)m² 床面 平坦な床面。炉 長軸方向N-72°-E。長軸52cm、短軸48cm、深さ10.5cm。出土遺物 土師器101点、須恵器1点、繩文土器瓦9点、石8点。そのうち土師器甕3点、繩文土器2点を図示。時期 覆土や出土遺物から4世紀代と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.32・61・73・84・85、PL.8・19・27・28)

位置 X31・32、Y163・164グリッド 主軸方向 N-72°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.20)m、南北(3.20)m、壁現高40.0cm。面積 (10.35)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N-82°-E。全長90cm、最大幅123cm、焚口部幅70cm。構築材に粘土と凝灰岩を用いる。重複 H-

7、A-1、W-2、W-3と重複しており、新旧関係はH-7→本遺構→A-1→W-2→W-3 出土遺物 土師器216点、須恵器204点、縄文土器36点、鉄製品1点、石製品20点。そのうち土師器壺13点・土師器甕4点、須恵器壺1点・須恵器甕1点、縄文土器2点、石製品1点、鉄製品1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.32・72、PL.8・28)

位置 X32・33、Y160グリッド 主軸方向 不明 形状等 不明 面積 不明 床 不明 爐 位置は不明。主軸方向N-86°-E。全長191cm、最大幅67cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、土師器壺、須恵器壺、瓦、凝灰岩を用いる。 重複関係 W-1と重複しており、新旧関係は本遺構→W-1 出土遺物 土師器47点、縄文土器4点、石製品2点。そのうち土師器壺1点、須恵器壺1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.33・85、PL.9・28・29)

位置 X34・35、Y164・165グリッド 主軸方向 N-59°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.40)m、南北(3.32)m、壁現高36.0cm。 面積 (7.30)m² 床面 平坦な床面。 爐 中央南寄りに位置する。主軸方向N-63°-E。全長116cm、最大幅112cm、焚口部幅78cm。 重複 H-6と重複しており、新旧関係はH-6→本遺構 出土遺物 土師器43点、須恵器11点、縄文土器17点、鉄製品1点。そのうち鉄製品1点を図示。 時期 覆土からAs-C降下以降から、Hr-FP降下以前と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.33・72・84)

位置 X35・36、Y164・165グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.48)m、南北(2.27)m、壁現高12.0cm。 面積 (4.27)m² 床面 平坦な床面。 爐 長軸方向N-25°-E。長軸41cm、短軸35cm、深さ4cm。 重複 H-5と重複しており、新旧関係は本遺構→H-5 出土遺物 土師器15点、縄文土器2点、鉄製品1点、石製品1点。そのうち土師器甕1点、鉄製品1点、石製品1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から4世紀代と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.34・61・72、PL.19)

位置 X37・38、Y163・164グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 長方形と推定される。東西(5.80)m、南北(2.14)m、壁現高58.0cm。 面積 (11.06)m² 床面 平坦な貼り床。 重複 H-3と重複しており、新旧関係は本遺構→H-3 出土遺物 土師器88点、須恵器10点、縄文土器26点、石製品1点。そのうち土師器壺1点・土師器甕2点・縄文土器1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から6世紀後半から7世紀前半と考えられる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.35)

位置 X32・33、Y159~163グリッド 主軸方向 N-5°-W 形状等 逆台形。 長さ 16.9m 深さ 34.0cm 最大上幅90cm、最大下幅30cm 出土遺物 土師器26点、須恵器18点、瓦2点、縄文土器5点、灰釉陶器3点、鉄製品1点。 時期 覆土からAs-B降下以降と考えられる。 備考 流水の痕跡無し。

W-2号溝跡 (Fig.35)

位置 X37・38、Y163~165グリッド 主軸方向 N-45°-E 形状等 U字形。 長さ 6.0m 深さ

33.5cm 最大上幅80cm、最大下幅40cm 重複 H-7、H-3、A-1、W-3と重複しており、新旧関係はH-7→H-3→A-1→本遺構→W-3 出土遺物 土師器40点、須恵器10点、瓦2点、繩文土器2点、石製品1点、灰釉陶器3点。 時期 覆土から As-B 降下以降と考えられる。 備考 流水の痕跡無し。

W-3号溝跡 (Fig.35)

位置 X36・37、Y163~165グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 U字形。長さ 6.1m 深さ 43.0cm 最大上幅155cm、最大下幅88cm 重複 H-7、H-3、A-1、W-2と重複しており、新旧関係はH-7→H-3→A-1→W-2→本遺構 時期 覆土から As-B 降下以降と考えられる。 備考 流水の痕跡無し。

(3) 道路状遺構

A-1号溝跡 (Fig.35)

位置 X37、Y163~165グリッド 主軸方向 N-5°-W 長さ 6.0m 最大幅 183cm 時期 覆土や重複から8世紀後半以降 As-B 降下以前と考えられる。

(4) 土坑 (Fig.35・61・72・74・84、PL.19・29)

土坑については、Tab.4 土坑・ピット・井戸跡・落ち込み計測表を参照のこと。

(5) グリッド等出土遺物 (Fig.74・61・80、PL.19・29)

土師器762点、須恵器219点、瓦22点、繩文土器327点、灰釉陶器3点、緑釉陶器2点、土製品1点、石製品19点を出土。そのうち土師器壺3点、緑釉陶器2点、繩文土器6点、土製品1点を図示。

6区

(1) 堪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.36・74・85、PL.9・29)

位置 X200、Y138グリッド 主軸方向 N-104°-E 形状等 長方形と推定される。東西(1.96)m、南北(3.59)m、壁現高7.0cm。面積 (4.86)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N-111°-E。全長109cm、最大幅74cm、焚口部幅14cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。重複 H-2、6と重り、新旧関係はH-6→H-2→本遺構 出土遺物 土師器108点、須恵器34点、瓦2点、灰釉陶器1点、鉄製品1点。そのうち須恵器羽釜1点、須恵器小型壺2点、須恵器高台碗1点、鉄製品1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.36、PL.10)

位置 X200、Y137・138グリッド 主軸方向 N-125°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.38)m、南北(3.42)m、壁現高14.0cm。面積 (9.45)m² 床面 平坦な床。重複 H-1、3、6と重り、新旧関係はH-6→本遺構→H-1、3 出土遺物 土師器47点、須恵器10点、瓦1点。 時期 覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.36、PL.10)

位置 X200、Y137グリッド 主軸方向 N-100°-E 形状等 長方形と推定される。東西(0.92)m、南北(2.50)m、壁現高18.0cm。面積(1.70)m² 床面 平坦な床。重複 H-2と重り、新旧関係は→H-2→本遺構 出土遺物 土師器10点、須恵器4点、瓦2点。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.37・74、PL.10・29)

位置 X200・201、Y140グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.23)m、南北(2.40)m、壁現高18.0cm。面積(8.81)m² 床面 平坦で堅緻な貼り床。出土遺物 土師器147点、須恵器15点。そのうち土師器壊1点を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.37・74、PL.10)

位置 X200・201、Y137グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 長方形と推定される。東西(1.32)m、南北(3.00)m、壁現高11.0cm。面積(2.72)m² 床面 平坦な床。重複 H-6と重り、新旧関係はH-6→本遺構 出土遺物 土師器2点、須恵器27点。そのうち須恵器小型壊2点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀前半から中葉と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.37)

位置 X200・201、Y137・138グリッド 主軸方向 N-60°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.90)m、南北(3.30)m、壁現高22.0cm。面積(10.83)m² 床面 平坦で堅緻な貼り床。重複 H-1、2、5と重り、新旧関係は本遺構→H-2→H-1、5 出土遺物 須恵器3点。時期 覆土や重複関係から7世紀後半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.37・74・85、PL.29)

位置 X200・201、Y137・138グリッド 主軸方向 N-60°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.20)m、南北(3.10)m、壁現高20.0cm。面積(8.48)m² 床面 平坦な貼り床。竪 東壁中央に位置する。主軸方向 N-90°-E。全長62cm、最大幅70cm、焚口部幅34cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-8と重り、新旧関係は本遺構→H-8 出土遺物 土師器239点、須恵器25点、瓦1点、鉄製品2点。そのうち土師器壊2点、鉄製品2点を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.74)

位置 X200・201、Y136グリッド 主軸方向 不明 形状等 不明 面積(4.86)m² 床面 平坦で堅緻な貼り床。重複 H-7と重り、新旧関係はH-7→本遺構 出土遺物 須恵器2点。そのうち須恵器小型壊1点を図示。時期 重複関係や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

(2) 土坑、ピット、落ち込み、井戸跡 (Fig.38・74・85、PL.10・29・30)

土坑、ピット、落ち込み、井戸跡については、Tab.4 土坑、ピット、井戸跡等計測表を参照のこと。

(3) グリッド等出土遺物

土師器390点、須恵器38点、瓦4点、縄文土器1点を出土。

7区

(1) 壓穴住居跡 (Fig.39)

位置 X59・60、Y85・86グリッド 主軸方向 N-93°-E 規模 東西3.70m、南北(1.94)m、壁現高17cm。
面積 (5.95)m² 床面 平坦な床面。貼り床有り。周溝有り。竈 竈検出されず。出土遺物 土師器37点、須恵器7点、瓦3点、石類1点。時期 墓土からHr-FP降下以降As-B降下以前と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.39・75、PL.30)

位置 X58・60、Y83・84グリッド 主軸方向 N-92°-E 規模 東西3.90m、南北3.98m、壁現高52cm。
面積 14.42m² 床面 平坦で堅密な貼り床。周溝有。竈 東壁中央やや南と北壁やや西寄りに位置する。東竈 主軸方向 N-100°-E。全長94cm、最大幅98cm、焚口部幅42cm。北竈 主軸方向 N-2°-E。全長160cm、最大幅90cm、焚口部幅22cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-11・W-2と重複しており、新旧関係は、H-11→本造構→W-2の順である。出土遺物 土師器60点、須恵器42点、瓦10点、鉄製品1点。そのうち土師器壊4点、須恵器壊2点、土師器壊1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.40・75、PL.30)

位置 X60、Y83・84グリッド 主軸方向 N-112°-E 規模 東西3.32m、南北3.32m、壁現高は37.5cm。
面積 10.56m² 床面 平坦で堅密な床面。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-116°-E。全長72cm、最大幅62cm、焚口部幅30cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-5・9・11と重複しており、新旧関係はH-11・H-5→H-9→本造構の順である。出土遺物 土師器295点、須恵器47点、瓦52点。そのうち土師器壊1点、カワラケ1点を図示。時期 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 欠番

H-5号住居跡 (Fig.40)

位置 X60・61、Y84グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 東西(1.92)m、南北(1.92)m、壁現高は24.0cm。面積 (2.92)m² 床面 平坦な床面。周溝有。竈 不明。重複 H-3・9・W-1と重複しており、新旧関係は、本造構が一番古い。出土遺物 土師器67点、須恵器1点、瓦4点。時期 覆土や出土遺物からHr-FP降下以降から8世紀と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.41・75、PL.30・31)

位置 X60・61、Y81・82グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 東西[2.94]m、南北3.80m、壁現高34.0cm。
面積 [10.73]m² 床面 平坦で堅密な床面。竈 東壁に位置する。主軸方向N-90°-E。W-1により焚口部は削られている。重複 W-1と重複しており、新旧関係は、本造構→W-1の順である。出土遺物 土師器91点、須恵器6点、瓦3点。そのうち土師器壊1点、土師器壊1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.41・76、PL.31)

位置 X61・62、Y82・83グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 東西3.30m、南北[4.50]m、壁現高28.5cm。
面積 [13.89]m² 床面 平坦で堅密な床面。竈 東壁に位置する。主軸方向N-84°-E。全長112cm、最大幅

100cm、焚口部幅42cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-8と重複しており、新旧関係は、H-8→本造構の順である。出土遺物 土師器227点、須恵器15点。そのうち土師器坏2点、土師器壺1点、須恵器蓋1点を図示。時期 覆土や出土遺物、重複関係から8世紀中葉と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.41・75, PL.31)

位置 X61-62、Y81-82グリッド 主軸方向 N-96°-E 規模 東西3.00m、南北[2.28]m、壁現高29.0cm。面積 (5.19)m² 床面 平坦で堅硬な床面。竈 東壁に位置する。主軸方向N-79°-E。全長(52)cm、最大幅(70)cm、焚口部幅[-]cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-7と重複しており、新旧関係は、本造構→H-7の順である。出土遺物 繩文土器1点、土師器214点、須恵器2点、灰釉陶器1点、瓦7点。そのうち土師器坏1点、須恵器坏1点を図示。時期 覆土や出土遺物、重複関係から8世紀前半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.42・76, PL.31)

位置 X60-61、Y83-84グリッド 主軸方向 N-87°-E 規模 東西3.88m、南北5.24m、壁現高57.5cm。面積 19.16m² 床面 平坦で堅硬な床面。竈 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向[N-80°-E]。全長-cm、最大幅(110)cm、焚口部幅(46)cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。重複 H-3・H-5・H-11・W-1と重複しており、新旧関係は、H-11・H-5→H-9→H-3→W-1の順である。出土遺物 土師器1027点、須恵器65点、灰釉陶器2点、瓦11点、鉄製品1点、石類2点。そのうち土師器坏3点、須恵器坏2点を図示。時期 覆土や出土遺物、重複関係から8世紀中葉と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.42・76, PL.31・32)

位置 X63-64、Y80-82グリッド 主軸方向 N-75°-E 規模 東西4.38m、南北5.60m、壁現高44.0cm。面積 19.27m² 床面 平坦な床面。張り出し床有り。竈 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向N-75°-E。全長100cm、最大幅116cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。出土遺物 繩文土器1点、土師器389点、須恵器5点、瓦3点、剥片1点。そのうち土師器坏8点、土師器長胴壺1点、須恵器蓋1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.43)

位置 X59-60、Y83-84グリッド 主軸方向 N-75°-E 規模 東西(2.90)m、南北(4.34)m、壁現高16.5cm。面積 (7.53)m² 床面 平坦で堅硬な床面。竈 不明。重複 H-2・3・9・W-2と重複しており、新旧関係は、本造構が一番古い。出土遺物 土師器72点、須恵器6点、瓦3点、石類1点。時期 覆土や出土遺物、重複関係から8世紀初頭と考えられる。

(2) 壓穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig.40)

位置 X63・64、Y84-85グリッド 主軸方向 N-80°-E 規模 東西(2.64)m、南北(3.84)m、壁現高12.5cm。面積 9.41m² 床面 平坦な床面。竈 不明。重複 D-2と重複しており、新旧関係は、本造構→D-2の順である。出土遺物 土師器314点、須恵器29点、石類1点。時期 墓土からHr-FP降下以降As-B降下以前と考えられる。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.43・76、PL.32)

位置 X61、Y79～84グリッド 主軸方向 N-3°-W 長さ 20.90m 最大幅 上幅190.0cm、下幅148.0cm
深さ 74.0cm 形状等 逆台形 重複 H-5～9と重複しており、新旧関係は本遺構が一番新しい。出土遺物 繩文土器1点、土師器956点、須恵器144点、瓦245点、須恵器1点を図示。時期 墓土から9世紀以降 As-B降下以前と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.43)

位置 X59、Y82～85グリッド 主軸方向 N-5°-E 長さ 12.24m 最大幅 上幅66.0cm、下幅48.0cm 深さ 32cm 形状等 U字形 重複 H-2・H-11と重複し、新旧関係はH-11→H-2→本遺構の順である。出土遺物 土師器38点、須恵器10点、灰釉陶器2点、瓦2点。時期 墓土や出土遺物、重複関係からAs-B降下以降と考えられる。

(4) 道路状遺構

A-1号道路状遺構 (Fig.43)

位置 X68-69、Y90グリッド 主軸方向 N-42°-W 長さ 4.04m 最大幅 上幅220.0cm、下幅200.0cm 高さ 15.0cm 出土遺物 灰釉陶器2点、瓦10点。時期 墓土と出土遺物からAs-B降下以前と考えられる。

(5) 土坑・ピット (Fig.44～46・77・87・88・90～92、PL.32・37・38)

土坑・ピットについては、Tab.4 土坑・ピット計測表を参照のこと。遺物は、繩文土器1点、土師器134点、須恵器95点、灰釉陶器2点、瓦2,809点が出土した。そのうち瓦10点を図示した。

(6) グリッド等出土遺物 (Fig.86～88、PL.36・38)

土師器571点、須恵器214点、灰釉陶器14点、石26点、瓦3,375点、剥片1点、鉄製品1点、銭貨1点、陶器11点。そのうち瓦19点、鉄製品1点を図示。

8区

(1) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.47、PL.14)

位置 X117、Y141グリッド 主軸方向 N-20°-E 形状等 逆台形。長さ 4.4m 深さ 36.5cm 最大上幅114cm、最大下幅49cm 出土遺物 土師器1点。時期 墓土からHr-FP降下以降As-B降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

(2) 土坑、ピット (Fig.47、PL.14)

土坑、ピットについては、Tab.4 土坑、ピット計測表を参照のこと。

(3) グリッド等出土遺物

土師器13点、須恵器1点、瓦1点を出土。

9区

(1) 壁穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.48・77, PL.14・32)

位置 X73・74, Y151・152グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.96)m、南北(4.42)m、壁現高37.0cm。面積(14.11)m² 床面 平坦で堅密な貼り床。竈 東壁中央に位置する。主軸方向N-68°-E。全長86cm、最大幅106cm、焚口部幅33cm。構築材に粘土を用いる。重複 W-1と重り、新旧関係は本遺構→W-1 出土遺物 土師器35点、須恵器6点、瓦1点。そのうち土師器壊1点・土師器壊1点を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.48・77, PL.14・32)

位置 X68~70, Y152・153グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.95)m、南北(3.95)m、壁現高36.0cm。面積(16.08)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N-65°-E。全長140cm、最大幅80cm、焚口部幅20cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。重複 W-1と重り、新旧関係は本遺構→W-1 出土遺物 土師器60点、瓦1点。そのうち土師器壊1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.49・77・78, PL.15・32・33)

位置 X68・69, Y152・153グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.60)m、南北(2.12)m、壁現高29.0cm。面積(4.08)m² 床面 平坦で堅密な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N-90°-E。全長96cm、最大幅80cm、焚口部幅44cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。重複 H-10と重り、新旧関係は本遺構→H-10 出土遺物 土師器176点、須恵器12点、縄文土器1点。そのうち土師器壊4点・土師器壊2点、須恵器壊2点、須恵器高台壘1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀中頃と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.49・77・79, PL.15・33)

位置 X59・60, Y152・153グリッド 主軸方向 N-68°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.20)m、南北(2.25)m、壁現高35.0cm。面積(4.46)m² 床面 平坦な貼り床。出土遺物 土師器82点、須恵器18点、瓦1点、縄文土器1点。そのうち土師器壊1点・土師器壊1点、須恵器壊1点を図示。時期 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.50・77, PL.15・33)

位置 X64・65, Y152・153グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.53)m、南北(2.36)m、壁現高27.0cm。面積(6.65)m² 床面 平坦な貼り床。竈 北壁中央に位置する。主軸方向N-11°-W。全長60cm、最大幅66cm、焚口部幅32cm。構築材に粘土、袖部に川原石を用いる。重複 W-1、4と重り、新旧関係は本遺構→W-4→W-1 出土遺物 土師器261点、須恵器28点、瓦1点、縄文土器8点。そのうち土師器壊1点を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.50・61・77・89, PL.15・19・33)

位置 X61・62, Y152グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.62)m、南北(1.45)m、壁現高32.0cm。面積(3.41)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-

96° - E。全長70cm、最大幅66cm、焚口部幅34cm。構築材に粘土、支脚石に瓦を用いる。重複 W-1、3と重り、新旧関係は本遺構→W-3→W-1 出土遺物 土師器102点、須恵器44点、瓦10点、繩文土器5点、石製品2点。そのうち土師器壺1点、須恵器高台椀2点、瓦1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.51・77・86, PL.16・33)

位置 X60・61、Y152グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.28)m、南北(1.31)m、壁現高21.0cm。面積(3.43)m² 床面 平坦な床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-95°-E。全長36cm、最大幅36cm、焚口部幅27cm。構築材に粘土を用いる。重複 W-1と重り、新旧関係は本遺構→W-1 出土遺物 土師器23点、須恵器9点、瓦5点、繩文土器1点、鉄製品2点。そのうち須恵器高台椀1点、鉄製品2点、繩文土器1点を図示。時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.51, PL.16)

位置 X72・73、Y151グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.70)m、南北(1.64)m、壁現高32.0cm。面積(3.52)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N-85°-E。全長128cm、最大幅56cm、焚口部幅24cm。構築材に粘土を用いる。重複 W-1と重り、新旧関係は本遺構→W-1 出土遺物 土師器31点。時期 覆土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.51・78, PL.16・33)

位置 X68・69、Y151グリッド 主軸方向 N-79°-E 形状等 長方形と推定される。東西(5.72)m、南北(3.22)m、壁現高31.0cm。面積(15.59)m² 床面 平坦で堅密な貼り床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-85°-E。全長128cm、最大幅56cm、焚口部幅24cm。構築材に粘土を用いる。重複 W-1と重り、新旧関係は本遺構→W-1 出土遺物 土師器565点、須恵器59点、繩文土器9点、灰釉陶器4点。そのうち土師器壺4点、土師器壺4点、須恵器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.49, PL.15)

位置 X68・69、Y152グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.64)m、南北(2.40)m、壁現高33.0cm。面積(5.43)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-3、W-1と重り、新旧関係はH-3→本遺構→W-1 出土遺物 土師器15点、須恵器1点、瓦1点。時期 覆土や重複関係から9世紀代と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.52・79, PL.16・33・34)

位置 X66・67、Y150・151グリッド 主軸方向 N-68°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.70)m、南北(2.12)m、壁現高51.0cm。面積(4.43)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南に位置する。主軸方向N-122°-E。全長150cm、最大幅49cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。出土遺物 土師器224点、須恵器12点。そのうち土師器壺5点、土師器壺2点、須恵器高台椀1点を図示。時期 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.54・55・79・84・85・89, PL.16・34・36)

位置 X60~75、Y151~152グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 逆台形。長さ 63.0m 深さ 82.0cm 最大上幅280cm、最大下幅170cm 重複 H-1, 2, 5, 6, 7, 8, 9, 10と重なり、新旧関係はH-1, 2, 5, 6, 7, 8, 9, 10→本遺構 出土遺物 土師器1200点、須恵器532点、瓦59点、縄文土器24点、灰釉陶器6点、石製品2点、錢貨点。そのうち土師器壊1点、土師器亮1点、須恵器高台輪1点、瓦1点、石製品2点を図示。

時期 覆土や出土遺物から As-B 降下以降と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-2号溝跡 (Fig.53・78, PL.34)

位置 X60、Y151グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 U字形。長さ 2.6m 深さ 15.0cm 最大178cm、最大下幅108cm 出土遺物 土師器30点、須恵器27点、瓦3点、縄文土器10点、石2点。そのうち須恵器壊2点を図示。 時期 覆土や出土遺物から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-3号溝跡 (Fig.53・78, PL.34)

位置 X61、Y151~154グリッド 主軸方向 N-4°-W 形状等 逆台形。長さ 7.8m 深さ 41.0cm 最大上幅226cm、最大下幅146cm 重複 H-6、W-3と重なり、新旧関係はH-6→本遺構→W-1 出土遺物 土師器280点、須恵器125点、瓦8点、縄文土器7点。そのうち須恵器壊1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-4号溝跡 (Fig.50)

位置 X64~65、Y152~153グリッド 主軸方向 N-63°-E 形状等 U字形。長さ 6.0m 深さ 23.0cm 最大上幅80cm、最大下幅49cm 重複 H-5、W-1と重なり、新旧関係はH-5→本遺構→W-1 出土遺物 土師器32点、須恵器6点、瓦1点。 時期 覆土や出土遺物から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

(3) 土坑 (Fig.52・53・79・86, PL.16・19・34)

土坑については、Tab.4 土坑、ピット計測表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物 (Fig.61・86, PL.19)

土師器335点、須恵器45点、瓦7点、縄文土器21点、石製品1点を出土。そのうち縄文土器3点、鉄製品1点を図示。

10区

(1) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.56, PL.17)

位置 X243・244、Y151~153グリッド 主軸方向 N-12°-E 形状等 逆台形。長さ 8.0m 深さ 86.0cm 最大上幅256cm、最大下幅100cm 時期 覆土から As-B 降下以降と考えられる。備考 流水の痕跡無し。

W-2号溝跡 (Fig.57, PL.17)

位置 X245・246、Y152~154グリッド 主軸方向 N-12°-E 形状等 逆台形。長さ 7.5m 深さ

23.0cm 最大上幅280cm、最大下幅220cm 時期 覆土や出土遺物から As-B 降下以降と考えられる。備考
流水の痕跡あり。

(2) 土坑、ピット (Fig.56・79, PL.17)

土坑、ピットについては、Tab.4 土坑、ピット、井戸跡計測表を参照のこと。

(3) グリッド等出土遺物 (Fig.86, PL.36)

土師器148点、須恵器39点、瓦9点、繩文土器2点、鉄製品1点、石製品1点を出土。そのうち鉄製品2点を図示。

11区

(1) 積穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.58)

位置 X46・47、Y164・165グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.88)m、南北(2.50)m、壁現高18.0cm。面積(10.98)m² 床面 平坦な床面。出土遺物 土師器85点、須恵器19点、瓦1点、繩文土器5点、石1点。 時期 覆土や出土遺物から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.58・61・80, PL.19・34・35)

位置 X45・46、Y163・164グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 長方形と推定される。東西(2.50)m、南北(2.90)m、壁現高30.0cm。面積(5.28)m² 床面 平坦な貼り床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-84°-E。全長139cm、最大幅114cm、焚口部幅70cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。重複 H-3と重り、新旧関係は本遺構→H-3 出土遺物 土師器65点、須恵器8点、繩文土器6点。そのうち土師器壊1点、土師器蓋1点、繩文土器1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.58・61・79・84~86, PL.19・34・35)

位置 X44・45、Y163・164グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.96)m、南北(4.43)m、壁現高32.0cm。面積(15.86)m² 床面 平坦で堅密な貼り床。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-94°-E。全長129cm、最大幅63cm、焚口部幅53cm。構築材に粘土を用いる。重複 H-2、4、T-1と重り、新旧関係は H-4 → H-2 → 本遺構 → T-1 出土遺物 土師器284点、須恵器133点、瓦10点、繩文土器30点、灰釉陶器6点、鉄製品2点、石製品2点。そのうち須恵器壊2点、須恵器高台碗5点、灰釉陶器1点、繩文土器1点、鉄製品2点、石製品2点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.59・80・84・86, PL.35)

位置 X45・46、Y164・165グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 長方形と推定される。東西(5.44)m、南北(2.68)m、壁現高74.0cm。面積(11.66)m² 床面 平坦な貼り床。重複 H-3と重り、新旧関係は本遺構→H-3 出土遺物 土師器517点、須恵器175点、瓦10、繩文土器39点、鉄製品2点、石4点。そのうち須恵器蓋1点、須恵器壊6点、須恵器高台碗2点、鉄製品2点を図示。 時期 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

(2) 壓穴状遺構

T-1号壓穴状遺構 (Fig.59)

位置 X44、Y164・165グリッド 主軸方向 N-2°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.06)m、南北(1.84)m、壁現高56.0cm。面積(6.81)m² 床面 平坦な床。重複 H-3と重り、新旧関係はH-3→本遺構 出土遺物 土師器42点、須恵器27点、縄文土器11点、灰釉陶器2点。時期 覆土からAs-B降下以降と考えられる

(3) 土坑、ピット (Fig.60・61、PL.19)

土坑、ピットについては、Tab.4 土坑、ピット計測表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物 (Fig.61・80、PL.19)

土師器251点、須恵器47点、瓦4点、縄文土器12点、鉄製品1点、石製品3点、錢貨1点を出土。そのうち土師器壺1点、須恵器壺2点、灰釉陶器高台壺1点、縄文土器3点、鉄製品1点を図示。

Tab. 2 住居跡一覧表

1区

遺構名	位置	規模(m)			面積(m ²)	主軸方向	竪		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	標高(cm)			位置	構造材		土師器	須恵器	その他
H-1	X151 Y127・128	[3.22]	[3.12]	46	[11.56]	N-91°- E	東壁南寄り	粘土、瓦		小型壺	瓦	

2区

遺構名	位置	規模(m)			面積(m ²)	主軸方向	竪		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	標高(cm)			位置	構造材		土師器	須恵器	その他
H-1	X155・156 Y140	[3.26]	[1.68]	9	[3.17]	N-94°- E	東壁南寄り	凝灰岩、粘土	-	甕		
H-2	X155 Y141	[0.52]	[3.82]	11	[1.4]	N-91°- E			-			
H-3	X160・161 Y140・141	4.74	4.30	27	17.36	N-127°- W	西壁中央北寄り	瓦、川原石、粘土	-	小型壺	瓦	
H-4	X161・162 Y140・141	[3.3]	[1.40]	38	[4.78]	N-101°- E			-	甕		
H-5	X162・163 Y140・141	(4.00)	[3.71]	27	(11.16)	N-108°- E	東壁中央	粘土	-	高台椀		
H-6	X166・167 Y140・141	[4.20]	[2.20]	30	(11.85)	N-93°- E	東壁中央南寄り	瓦、粘土	-	小型壺、甕	瓦	
H-7	X164・165 Y141	[2.02]	[1.50]	29	(2.62)	N-91°- E			-	甕	高台椀	
H-8	X165 Y141	[2.99]	[1.80]	28	[3.72]	N-99°- E			-			
H-9	X168・167 Y140・141	(2.24)	(4.90)	45	(8.88)	N-95°- E			-	甕、壺		
H-10	X162・163 Y140	[2.40]	[1.60]	11	[2.76]	N-102°- E			-			
H-11	X106 Y141	[2.20]	[1.70]	21	[2.97]	N-106°- E			-			

3区

遺構名	位置	規模(m)			面積(m ²)	主軸方向	竪		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	標高(cm)			位置	構造材		土師器	須恵器	その他
H-1	X283 Y135・136	(1.00)	(2.20)	-	(1.22)	N-65°- E	東壁		-			
H-2	X283・284 Y135・136	5.16	(3.11)	56	(10.56)	N-65°- E	東壁		有			
H-3	X283・284 Y134・135	(2.64)	(3.22)	33	(7.96)	N-65°- E	東壁南		-			
H-4	X283・284 Y126	4.72	2.90	37	12.72	N-87°- E	東壁や南寄り		-	甕	円筒埴輪	
H-5	X284・285 Y134・135	(3.46)	(4.30)	49	(13.19)	N-92°- E			-	高環		
H-6	X283・284 Y127・129	6.98	7.00	73	(36.57)	N-69°- E	東壁南寄り		有	甕・壺		
H-7	X283・284 Y135・136	2.65	(2.34)	17	(5.67)	N-88°- E			-	甕		
H-8	X283・284 Y132・133	3.57	3.65	26	(5.79)	N-101°- E	東壁南寄り		-			
H-9	X283・284 Y134・136	(5.82)	(3.70)	25	(9.49)	N-76°- E			有	甕		
H-10	X284・285 Y132・133	3.13	3.73	41	10.68	N-95°- E	東壁南寄り		有			
H-11	X284・285 Y129・130	3.88	4.90	14	17.64	N-97°- E	東壁南寄り		-	小型甕	灰陶陶器	
H-12	X283・284 Y129・131	5.78	3.20	33	(6.62)	N-53°- E			-			
H-13	X283・285 Y129・130	5.64	4.17	46	(21.71)	N-89°- E	南東隅角		有	甕		
H-14	X284・285 Y131・132	3.24	(2.80)	38	(7.07)	N-95°- E	東壁		有			
H-15	X284・285 Y129・130	3.50	4.10	29	13.25	N-96°- E	東壁南寄り		-	甕		

5区

遺構名	位 置	規 模 (m)			主軸方向	竪		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	標高 (cm)		位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H - 1	X32・33 Y159	3.22	2.29	23	5.92	N - 97° - E	東壁中央	粘土・凝灰岩	壊・甕		
H - 2	X39・40 Y164	2.46	3.41	39	10.63	N - 92° - E			甕		
H - 3	X31・32 Y163・164	4.20	3.20	40	10.35	N - 72° - E	東壁中央南寄り	粘土	壊・甕	甕・甕	
H - 4	X32・33 Y160						粘土・甕		壊	甕	
H - 5	X34・35 Y164・165	4.40	3.32	36	7.30	N - 59° - E					鉄製品
H - 6	X35・36 Y163・164	2.48	2.27	12	4.27	N - 84° - E	東壁中央南寄り	粘土	甕		
H - 7	X37・38 Y163・164	5.80	2.14	58	11.06	N - 85° - E			壊・甕		

6区

遺構名	位 置	規 模 (m)			主軸方向	竪		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	標高 (cm)		位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H - 1	X200 Y138	[1.96]	[3.99]	7	[4.86]	N - 104° - E	東壁中央南寄り	粘土	-	小型壊・ 羽釜	
H - 2	X200 Y137・138	[2.38]	[3.42]	14	[9.45]	N - 125° - E			-		
H - 3	X200 Y137	(0.92)	[2.50]	18	(1.70)	N - 100° - E			-		
H - 4	X200・201 Y140	[4.23]	[2.40]	18	[8.81]	N - 85° - E			有	壊	
H - 5	X200・201 Y137	[1.32]	(3.00)	11	(2.72)	N - 78° - E			-	小型壊	
H - 6	X200・201 Y137・138	[3.90]	[3.30]	22	[10.83]	N - 60° - E			有		
H - 7	X200・201 Y136・137	[3.20]	[3.10]	20	[8.48]	N - 72° - E	東壁中央	粘土	-	甕	
H - 8	X200・201 Y136								-	小型壊	

7区

遺構名	位 置	規 模 (m)			主軸方向	竪		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	標高 (cm)		位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H - 1	X59・60 Y85・86	3.70	(1.94)	17	(5.95)	N - 93° - E			-		
H - 2	X58・60 Y83・84	3.90	3.98	52	14.42	N - 92° - E	東壁南寄り・ 北壁西寄り	粘土・凝灰岩	○	壊・甕	壊・甕・刀子
H - 3	X60Y83・84	3.32	3.32	37.5	10.56	N - 116° - E	東壁南寄り	粘土・瓦	-	甕	甕
H - 4	X - Y -					欠 番					
H - 5	X60・61 Y84	(1.92)	(1.92)	24	(2.92)	N - 90° - E			○	壊	
H - 6	X60・61 Y81・82	[2.94]	3.80	34	[10.73]	N - 85° - E	東壁		-	壊・甕	
H - 7	X61・62 Y82・83	3.30	[4.50]	28.5	[13.89]	N - 84° - E	東壁	粘土・凝灰岩	-	壊・甕	甕
H - 8	X61・62 Y81・82	3.00	[2.28]	29	(5.19)	N - 79° - E	東壁南寄り	粘土	-	壊・甕	甕・瓦・鐵石
H - 9	X60・61 Y83・84	3.88	5.24	57.5	19.16	N - 80° - E	東壁南寄り	粘土	-	壊・甕	白付焼
H - 10	X63・64 Y80・82	4.38	5.60	44	19.27	N - 75° - E	東壁南寄り	粘土・凝灰岩	-	甕	甕
H - 11	X59・60 Y83・84	(2.90)	(4.34)	16.5	(7.53)	N - 75° - E			-	壊	
T - 1	X94 Y84・85	2.64	3.84	12.5	9.41	N - 80° - E			-	壊・甕	甕

9区

遺構名	位置	規模(m)			面積 (m ²)	主軸方向	廐		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	標高 (cm)			位置	構築材		土器	須恵器	その他
H-1	X73・74 Y151・152	[3.96]	[4.42]	37	[14.11]	N-65°-E	東壁中央	粘土	有	坏、甕		
H-2	X68・70 Y152・153	[4.95]	[3.95]	36	[16.08]	N-76°-E	東壁中央南寄り	粘土、凝灰岩	坏			
H-3	X68・69 Y152・153	[2.60]	[2.12]	29	[4.08]	N-75°-E	東壁中央南寄り	粘土、凝灰岩	坏、甕	坏、高台輪		
H-4	X59・60 Y152・153	[3.20]	[2.25]	35	[4.46]	N-68°-E			-	坏、甕	坏	
H-5	X64・65 Y152・153	[3.53]	[2.36]	27	[6.65]	N-93°-E	北壁中央	粘土、川原石	-	坏		
H-6	X61・62 Y152	[2.62]	[1.45]	32	[3.41]	N-85°-E	東壁南寄り	粘土、瓦	-	甕	高台輪	
H-7	X60・61 Y152	[3.28]	[1.31]	21	[3.43]	N-91°-E	東壁南寄り	粘土	-		高台輪	
H-8	X72・73 Y151	[3.70]	[1.64]	32	[3.52]	N-92°-E	東壁中央南寄り	粘土				
H-9	X68・69 Y151	[5.72]	[3.22]	31	[15.59]	N-79°-E	東壁南寄り	粘土	坏、甕	甕		
H-10	X68・69 Y152	[3.64]	[2.40]	33	[5.43]	N-83°-E			-			
H-11	X66・67 Y150・151	[3.70]	[2.12]	51	[4.43]	N-68°-E	東壁南	粘土、凝灰岩	坏、甕	高台輪		

11区

遺構名	位置	規模(m)			面積 (m ²)	主軸方向	廐		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	標高 (cm)			位置	構築材		土器	須恵器	その他
H-1	X46・47 Y164・165	[4.88]	[2.50]	18	[10.98]	N-88°-E			-			
H-2	X45・46 Y163・164	[2.50]	[2.90]	30	[5.28]	N-83°-E	東壁南寄り	粘土、凝灰岩	-	坏、甕		
H-3	X44・45 Y163・164	3.96	4.43	32	15.86	N-89°-E	東壁南寄り	粘土	有	坏・高台輪	灰釉陶器	
H-4	X45・46 Y164・165	[5.44]	[2.68]	74	[11.66]				有		坏・高台輪	
T-1	X44 Y164・165	4.06	1.84	56.0	6.8	N-2°-E			有			

Tab. 3 溝跡・道路跡計測表

1区

遺構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X150・151 Y127・128	6.0	87.0	69.5	27.0	236.0	82.0	72.0	N-5°-W	逆台形	古代
W-2	X151・152 Y127・128	6.4	129.5	89.5	40.6	370.0	140.0	110.0	N-6°-E	逆台形	古代

2区

遺構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X156 Y140・141	2.8	17.0	3.0	80.0	65.0	54.0	37.0	N-1°-E	U字形	古代
W-2	X157 Y140・141	2.9	13.5	6.0	74.0	69.0	56.0	50.0	N-45°-E	U字形	古代
W-3	X157・160 Y141	11.5	23.5	9.0	160.0	50.0	100.0	50.0	N-88°-E	U字形	古代
W-4	X163・164 Y140・141	4.8	69.5	20.0	323.0	224.0	54.0	33.0	N-18°-W	逆台形	古代

3区

遺構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X284・285 Y124-129	23.0	31.0	7.5	120.0	70.0	35.0	15.0	N-182°-E	U字形	中世
W-2	X283-285 Y124-	14.2	51.0	35.5	95.0	72.0	36.0	20.0	N-147°-E	逆台形	古代
W-3											
W-4	X283-285 Y131	7.0	23.5	11.0	76.0	35.0	36.0	15.0	N-93°-E	逆台形	古代
W-5	X283-285 Y132	13.2	26.5	18.0	90.0	84.0	60.0	50.0	N-94°-E	U字形	中世

5区

遺構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X32・33 Y159-163	16.9	34.0	19.5	90.0	30.0	90.0	20.0	N-5°-W	逆台形	中世
W-2	X37・38 Y163-165	6.0	33.5	27.5	80.0	68.0	40.0	24.0	N-45°-E	逆台形	中世
W-3	X36・37 Y163-165	6.1	43.0	18.0	155.0	136.0	88.0	68.0	N-88°-E	逆台形	中世
A-1	X32・33 Y159-163	16.9	34.0	-	90.0	30.0	-	-	N-5°-W	-	古代

7区

遺構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X61 Y79-84	20.9	74	56	190	146	142	102	N-3°-E	逆台形	古代
W-2	X59 Y82-85	12.2	66.0	58.0	48.0	38.0	32.0	3.0	N-5°-E	U字形	中世
A-1	X68・69 Y90	4.0	15.0	-	22.0	-	20.0	-	N-42°-W	-	古代

8区

遺構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X117 Y141	4.4	36.5	31.0	114.0	97.0	49.0	38.0	N-20°-E	逆台形	中世以降

9区

遺構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X60-75 Y151-152	63.0	82.0	77.0	280.0	180.0	170.0	40.0	N-85°-E	逆台形	中世
W-2	X60 Y151	2.6	15.0	11.0	178.0	108.0	108.0	70.0	N-80°-E	U字形	中世
W-3	X61 Y151-154	7.8	41.0	32.0	226.0	174.0	146.0	96.0	N-4°-W	U字形	中世
W-4	X64-65 Y152-153	6.0	23.0	2.5	80.0	69.0	49.0	38.0	N-63°-E	逆台形	古代

10区

遺構名	位置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方向	断面形	時期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X243・244 Y151-153	8.0	86.0	58.5	256.0	200.0	100.0	56.0	N-12°-E	逆台形	中世
W-2	X245・246 Y152-154	7.5	23.0	21.0	280.0	260.0	230.0	80.0	N-12°-E	逆台形	中世以降

Tab. 4 土坑・ピット・井戸跡等 計測表

1区

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
D - 1	X151 Y128	58	27	37.5	楕円形		
D - 2	X151 Y127・128	72	54	52.0	楕円形	瓦 1	
D - 3	X151 Y128	90	60	33.5	楕円形		
D - 4	X152 Y127	76	48	57.0	楕円形	瓦 1	
D - 5	X152 Y127	88	58	-	楕円形		
I - 1	X152 Y128	97	91	-	円形	土 1・須 1	

※土…土師器、須…須恵器

2区

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
D - 1	X157 Y140・141	110	110	53.0	円形	土 2・須 2	
D - 2	X157 Y141	100	80	29.0	楕円形	土 18・須 3	

※土…土師器、須…須恵器

3区

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
D - 1	X283・284 Y134・135	400	280	51.5	楕円形		
D - 2	X283 Y132	246	196	31.5	楕円形		
D - 3	X284・285 Y135	210	135	46.5	楕円形		
D - 4	X285 Y135	92	(68)	43.0	円形		
D - 5	X284 Y135	138	124	52.0	不定形		
D - 6	X283 Y132・133	138	120	56.0	圓角方形		
D - 7	X284 Y135	86	75	14.0	円形		
D - 8	X285 Y135	(60)	(40)	14.0	不明		
P - 1	X283 Y131	76	62	13.5	円形		
P - 2	X283 Y126	38	34	69.5	円形		
I - 1	X283 Y127	122	122	268.0	円形		

※土…土師器、須…須恵器、灰…灰釉陶器、繩…縄文土器、石…石製品

5区

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
D - 1	X39 Y163・164	111	103	9.0	円形		
D - 2	X39 Y163	80	62	3.0	楕円形		
D - 3	X33・34 Y162・164	510	470	149.0	円形	土 279・須 88・灰 1・瓦 4・繩 30・石 7	
D - 4	X33 Y159	82	61	28.0	楕円形		
P - 1	X39 Y163	52	52	29.0	円形		
P - 2	X33 Y159	44	25	21.0	楕円形		
P - 3	X33 Y159	68	56	30.0	円形		

※土…土師器、須…須恵器、灰…灰釉陶器、繩…縄文土器、石…石製品

6区

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
D-1	X200 Y140	116	54	31.5	椭円形	土2	
D-2	X200・201 Y137・138	278	78	24.5	椭円形	土39・須2	
D-3	X200 Y136	54	44	29.5	円形	土9	
D-4	X200 Y136	60	46	10.0	椭円形		
D-5	X200 Y138	78	70	12.0	円形		
D-6	X200 Y138	68	44	17.0	椭円形	土12・須23	
P-1	X200 Y139	30	30	17.0	円形		
P-2	X200 Y139	28	28	8.0	円形		
P-3	X200 Y137	30	24	-	円形		
O-1	X200・201 Y138・139	380	230	33.5	椭円形	土1	
I-1	X200 Y136	76	74	162.5	円形	土1・須2・瓦1・石2・その他6	
I-2	X200 Y136	116	89	85.5	円形		

素土…土師器、須…須恵器、石…石製品

7区

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
D-1	X58 Y85	192	(70)	43.5	椭円形		
D-2	X64 Y85	180	124	23.5	椭円形	土20・須3・瓦3	
D-3	X65・66 Y79・81	678	570	131.5	椭円形	純1・土71・須72・瓦2786	
D-4					欠番		
D-5					欠番		
D-6	X74 Y78・79	270	224	62.0	隅丸方形	平瓦1	1・2トレンチ中間
D-7	X74 Y78・79	434	70	50.0	隅丸方形	土1・須10・平瓦20・丸瓦1	1トレンチ
D-8	X59・60 Y79	490	450	75.0	椭円形	土41・須20・灰2・瓦18	
D-9	X72・73 Y78・79	136	120	21.0	-	土1・須7・灰1・平瓦21・丸瓦1	3トレンチ
D-10	X71・72 Y79・80	532	245	58.0	-	土10・須12・灰1・平瓦255・丸瓦2・軒瓦4	3トレンチ
D-11	X71・72 Y79	124	96	15.0	-	平瓦6	旧2トレンチ
D-12	X74 Y78・79	280	56	39.0	-	平瓦6	2トレンチ
D-13	X71 Y80	192	110	58.0	-	土2・須12・平瓦630・丸瓦6・軒瓦20	旧2トレンチ
D-14	X70・71 Y79	260	60	65.0	-	須1・平瓦19	4トレンチ
D-15	X71 Y79・80	166	48	67.0	-		4トレンチ

素土…土師器、須…須恵器、灰…灰釉陶器

8区

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
D - 1	X118 Y141	76	63	22.5	円形	土 1	
D - 2	X118 Y141	72	58	50.0	円形		
D - 3	X117 Y141	59	44	13.0	円形		
D - 4	X115 Y141	56	54	33.0	円形		
D - 5	X116 Y140・141	59	57	13.0	円形		
D - 6	X115・116 Y140	63	41	11.0	楕円形	土 1	
P - 1	X115 Y141	25	25	38.0	円形		
P - 2	X116 Y140	37	37	16.5	円形		
P - 3	X116 Y140	30	29	21.5	円形		

東土…土器

9区

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
D - 1	X60 Y152・153	160	150	39.0	長方形		
D - 2	X64 Y152・153	96	78	75.0	閉丸方形	鉄 3	
DB - 1	X65・66 Y150	210	170	13.0	円形	鉄 1	

準鉄…鉄製品

10区

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
D - 1	X242 Y151	150	80	40.0	楕円形		
D - 2	X241・242 Y152	100	70	12.0	楕円形		
P - 1	X241・242 Y152	24	24	16.0	円形		
P - 2	X241 Y152	32	24	39.0	円形		
P - 3	X241・242 Y152	36	34	21.0	円形		
P - 4	X242 Y152	36	32	35.0	楕円形		
P - 5	X241 Y152	34	34	17.0	円形		
P - 6	X241 Y151・152	38	32	22.0	楕円形		
P - 7	X241・242 Y152	34	32	22.0	円形		
P - 8	X241 Y151	36	32	27.5	楕円形		
P - 9	X242 Y152	20	16	15.5	円形		
P - 10	X242 Y151	50	40	16.0	楕円形		
P - 11	X242 Y151	26	26	16.0	円形		
P - 12	X242 Y152	42	40	26.0	円形		
P - 13	X242 Y152	30	24	41.0	楕円形		
P - 14	X242 Y152	30	30	14.5	円形		
P - 15	X242 Y152	34	32	15.0	円形		
P - 16	X242 Y151・152	50	40	17.0	楕円形		
P - 17	X242 Y151	34	30	15.0	円形		
P - 18	X242 Y151	30	30	25.0	円形	羽茎 1	

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
P - 19	X242 Y152	36	34	21.5	円形		
P - 20	X242 Y152	44	36	14.0	椭円形		
P - 21	X242 Y151	28	24	15.0	円形		
P - 22	X242 Y151	40	36	22.5	円形		
P - 23	X243 Y152	40	36	13.5	円形		

11区

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	出土遺物	備 考
D - 1	X45 Y164	112	84	13.5	長方形		
P - 1	X46 Y164・165	62	58	52.0	円形		
P - 2	X47 Y165	26	22	75.0	円形		
P - 3	X47 Y164	32	28	78.0	円形		
P - 4	X47 Y164	43	32	21.0	椭円形		
P - 5	X47 Y164	48	30	32.0	椭円形		
P - 6	X47 Y164	28	25	39.0	円形		
P - 7	X44 Y164	29	24	11.0	椭円形		
P - 8	X45 Y164	18	18	19.0	円形		
P - 9	X45 Y164	14	12	15.0	円形		
P - 10	X45 Y164	19	16	22.0	円形		
P - 11	X45 Y164	27	22	48.5	椭円形		
P - 12	X44 Y165	32	26	28.0	椭円形		

Tab. 5 楩文土器規観表

5区

番号	出土遺構 名	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
5-楕1	H-2	深鉢	① - ②(5.5) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦口縁片	外側に半裁竹管による横位の平行沈縫を施文。棒状胎土を縫に貼付し、その間にボタン状貼付文を2個貼付。口唇部内部に半裁竹管による新鏡の平行沈縫を施文。外側から最も棒状胎土の延長に沿うアン状貼付文を2個貼付し、その間に幅広の棒状胎土を2個貼付。	32	諸鏡c
5-楕2	H-2	深鉢	① - ②(10.5) ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥橙 ⑦口縁片	口縁文様は捺壓による溝巻きを施し、区画内横文RLを充填。	43	加曾利E3
5-楕3	H-3	深鉢	① - ②(4.5) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦口縁片	口唇部に貼付されたと思われる円盤状の突起。やや開闊をあける施文が波形文が確認できる。	115	諸鏡bか
5-楕4	H-3	深鉢	① - ②(6.6) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥橙 ⑦口縁片	口縁部文様帯を沈縫で構成し、区画内に横文RLを施文。	カマド フクド	加曾利E3
5-楕5	H-7	深鉢	① - ②(5.7) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦口縁片	外側に半裁竹管による横位の平行沈縫を施文。棒状胎土を縫に貼付し、その間にボタン状貼付文を2個貼付。口唇部内部に半裁竹管による斜位の平行沈縫を施文。外側から最も棒状胎土の延長に沿うアン状貼付文を2個貼付。その間に幅広の棒状胎土を1個貼付。	2	諸鏡c
5-楕6	D-3	深鉢	① - ②(3.7) ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦口縁片	外側に半裁竹管による横位の平行沈縫を施文。棒状胎土を2条貼付する。口唇部内面に半裁竹管による斜位の平行沈縫を施文。棒状胎土を3条貼付。うち2条は破損している。	10	諸鏡c
5-楕7	X35Y165 覆土	深鉢	① - ②(5.1) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥橙 ⑦口縁片	半裁竹管による横位の集合沈縫を施文。地文に横文RLを施文。口縫部も同様。		諸鏡b
5-楕8	X39Y164 覆土	深鉢	① - ②(13.3) ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦口縁片	波状口縁。口縁文様は捺壓で溝巻きを施し、区画内横文RLを充填。	33	加曾利E3
5-楕9	X39Y164 覆土	深鉢	① - ②(5.5) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦口縁片	波状口縁。口縫部に突起を形成。幅広の波状の区画内に横文LRを施文。	57	加曾利E3
5-楕10	X36Y164 覆土	深鉢	① - ②(6.5) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥橙 ⑦口縁片	波状口縁。口縫部に瘤状把手が貼付され、円形刺突で上部に穴が2つ、下部に穴が3つ。口唇部内面に円形刺突の穴が3つ。	4	加曾利B
5-楕11	X36Y164 覆土	深鉢	① - ②(4.9) ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥にぼい赤褐 ⑦口縁片	捺壓により溝巻きを施文。	1	加曾利E3
5-楕12	X40Y164 覆土	深鉢	① - ②(5.5) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦口縁片	口縁文様は捺壓で溝巻きを施し、区画内横文LRを充填。	11	加曾利E3

9区

番号	出土遺構 名	器種名	①G径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
9-楕1	H-6 覆土	深鉢	① - ②(6.5) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥橙 ⑦崩部片	段帶に通裁斜突を巡らせる。その下に二本一筋の波状で捺円を組み、その中に對突文を施す。		勝板系
9-楕2	D-1 覆土	深鉢	① - ②(2.8) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥橙 ⑦口縁片	半裁竹管による斜位の平行集合沈縫を施文。ボタン状貼付文を貼付。		諸鏡c
9-楕3	X68Y151 覆土	深鉢	① - ②(6.8) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦崩部片	口唇部・斜位の平行集合沈縫を施文。その後断面三角形の棒状胎土を縫に貼付。棒状胎土の間にボタン状貼付文を貼付。		諸鏡c
9-楕4	X68Y151 覆土	深鉢	① - ②(2.7) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦崩部片	半裁竹管による横位の連続する平行沈縫を施文。その後断面三角形の棒状胎土を縫に貼付。棒状胎土の間にボタン状貼付文を貼付。		諸鏡c
9-楕5	X71Y153 覆土	深鉢	① - ②(4.6) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥橙 ⑦崩部片	捺壓と平行沈縫による溝巻文か?		

11区

番号	出土遺構 名	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
11-楕1	H-2	深鉢	① - ②(4.3) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥灰青緑 ⑦口縁片	捺壓と口縁部文様を構成。区画内に横文RLを施文。	5	加曾利E3
11-楕2	H-3	深鉢	① - ②(6.5) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦成片	捺壓のにそって捺壓直痕を施文。	6	加曾利E3
11-楕3	H-4 覆土	深鉢	① - ②(5.5) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦崩片	円形斜突文を二段に施文。		加曾利E3
11-楕4	表採覆土	深鉢	① - ②(5.5) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦口縁片	口唇部を丁寧に研磨する。半裁竹管による平行沈縫で口縁部に文様を構成。		諸鏡b
11-楕5	表採覆土	深鉢	① - ②(4.3) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥にぼい緑 ⑦口縁片	棒状の胎土を外側に巡らして口唇部を形成。		加曾利E?

注) ① 層位は、「床直」: 床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」: 床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。
 薄い板の檢出については「鑑内」と記載した。

② 長さ、厚さの単位はcmである。現存値を〔 〕、復元値を〔 〕で示した。

③ 赤土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な紅物が入る場合に紅物名等を記載した。

④ 焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

Tab. 6 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

1区

番号	出土遺構 層位	器種名	TOD径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④焼成度	器種の特徴・要形・調整技術	登録番号	備考
1-1	H-1 床底 小型環	①89 ②20 ③54	①粗粒 ②良好 ③粗 ④完形	織維整形、口縁・体部・外縁、底部中位に膨らみを持ち外反。内・外縫織維で。底部・内面擦で、外縫織維を切り末調整。	10 雕化焰		
1-2	H-1 龜内 大型環	①24 ②(10.5) ③-	①粗粒 ②良好 ③にい ④L/S	口縫織・外縁、内面擦側面で。底部: やや膨らみを持つ。内面横擦で、外縫織の荒削り。底部: 欠損。	カマド3 雕化焰		
1-3	W-2 覆土 环	①[128] ② 36 ③ [93]	①粗粒 ②良好 ③にい ④L/S	口縫織: やや直立からやく外反。内面擦側面で、外縫織の荒削り。底部: 平底。内面擦で、外縫織削り。	22 雕		
1-4	W-2 覆土 盖	①[178] ② 42 ③ [57](麻)	①粗粒 ②良好 ③にい ④L/S	織維整形。天井部: 天井平から緩やかに傾斜、内面横擦で、外縫織削り。底部: 内面横擦で、返り有。横み: ポタン状。	14, 24		

2区

番号	出土遺構 層位	器種名	TOD径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④焼成度	器種の特徴・要形・調整技術	登録番号	備考
2-1	H-1 床底 土師器	①[25.3] ②(14.9) ③-	①粗粒 ②良好 ③粗 ④破片	口縫織: やや直立からやく外反。内面横擦で。底部: やや膨らみを持つ。内面擦で、外面上部横擦、中部横擦の荒削り。底部: 欠損。	2, 8 雕化焰		
2-2	H-1 龜内 土師器 大型環	①[240] ② (6.6) ③-	①粗粒 ②良好 ③粗 ④破片	口縫織: やや直立からやく外反。内面横擦で。底部: やや膨らみを持つ。内面擦で、外面上部横擦の荒削り。底部: 欠損。	II, 12 雕化焰		
2-3	H-1 龜内 土師器 大型環	①[27.0] ②(10.4) ③-	①粗粒 ②良好 ③明瞭 ④破片	口縫織: やや直立からやく外反。内面横擦で。底部: やや膨らみを持つ。内面擦で、外縫織の荒削り。底部: 欠損。	13 雕化焰		
2-4	H-3 龜内 小型環	①[102] ② 21 ③ 50	①粗粒 ②良好 ③灰白 ④L/S	織維整形。口縫・体部・外縁、底部中位に膨らみを持ち外反。内・外縫織側面で。底部: 内面擦で、外縫織削り末調整。	54 雕化焰		
2-5	H-3 龜内 小环	① 88 ② 20 ③ 50	①粗粒 ②良好 ③にい ④焼青 (ほぼ完形)	織維整形。口縫・体部・外縁、底部中位に膨らみを持ち外反。内・外縫織側面で。底部: 内面擦で、外縫織削り末調整。	55 雕化焰		
2-6	H-4 覆土 土師器	①[21.1] ② (6.6) ③-	①粗粒 ②良好 ③粗 ④破片	口縫織: やや直立からやく外反。内面横擦で。底部: 内面擦で、外縫織側面の荒削り。底部: 欠損。	6 雕化焰		
2-7	H-5 高台院 土師器 大型環	①[14.4] ② (5.0) ③ 70	①粗粒 ②良好 ③灰白 ④L/S	織維整形。口縫・体部・外縁、底部中位に膨らみを持ち外反。内・外縫織側面で。底部: 内面擦で、外縫織削り末調整。	56 雕化焰		
2-8	H-6 龜内 土師器 大型環	①[27.1] ②(18.2) ③-	①粗粒 ②良好 ③粗 ④破片	口縫織: やや直立からやく外反。内面横擦で。底部: やや膨らみを持つ。内面擦で、外縫織削り。底部: 欠損。	54 雕化焰		
2-9	H-6 龜内 土室 大型環	①[29.0] ②(22.7) ③-	①粗粒 ②良好 ③粗 ④破片	口縫織: やや直立からやく外反。内面横擦で。底部: やや膨らみを持つ。内面擦で、外縫織削り。底部: 欠損。	55 雕化焰		
2-10	H-6 龜内 土室 大型環	①[28.8] ②(10.6) ③-	①中粒 ②良好 ③粗 ④破片	口縫織: やや直立からやく外反。内面横擦で。底部: 欠損。	57 雕化焰		
2-11	H-6 土師器 床底 大型環	①[32.0] ②(15.8) ③-	①粗粒 ②良好 ③にい ④陶 ④破片	織維整形。口縫・体部・外縁、底部中位に膨らみを持ち外反。内・外縫織側面で。底部: 内面擦で、外縫織削り。底部: 欠損。	94 雕化焰		
2-12	H-6 覆土 小环	① 102 ② 20 ③ 54	①粗粒 ②良好 ③にい ④焼青 (完形)	織維整形。口縫・体部・外縁で直進的に外反。内・外縫織側面で。底部: 内面擦で、外縫織削り末調整。	19, 20 雕化焰		
2-13	H-6 覆土 小环	① 91 ② 13 ③ 42	①粗粒 ②良好 ③浅黄青 ④3/4	織維整形。口縫・体部・外縁、底部中位に膨らみを持ち外反。内・外縫織側面で。底部: 内面擦で、外縫織削り未調整。浅い皿で。	28 雕化焰		
2-14	H-6 直下 小环	① 96 ② 18 ③ 48	①粗粒 ②良好 ③にい ④焼青 (ほぼ完形)	織維整形。口縫・体部・外縁、底部中位に膨らみを持ち外反。内・外縫織側面で。底部: 内面擦で、外縫織削り未調整。	H-9 71 雕化焰		
2-15	H-7 床底 土師器 大型環	①[20.4] ②(15.5) ③-	①粗粒 ②良好 ③にい ④破片	口縫織: やや直立。内面横擦で。底部: 中位で、内面擦で、外縫織側面をもつ。中位で、内面擦で、外縫織削り。中位で、斜面側の黒削り。底部: 欠損。	2 雕化焰		
2-16	H-7 床底 高台院	①[13.8] ② 54 ③ 64	①粗粒 ②良好 ③灰 ④L/S	織維整形。口縫・体部・外縁から口縫部やや外反。内・外縫織側面で。底部: 内面擦で、外縫織削り後。やや舗な面を取り付ける。	I 内面は舗し 焼成か?		
2-17	H-7 龜内 土室 大型環	①[13.6] ② (5.8) ③ 68	①粗粒 ②良好 ③灰 ④L/S	織維整形。口縫・体部・外縁から口縫部やや外反。内・外縫織側面で。底部: 内面擦で、外縫織削り後。付け高台。	悪あり		
2-18	H-9 土師器 床底	① 11.4 ② 4.3 ③ -	①粗粒 ②良好 ③粗 ④L/S	口縫部: 削く直立。内面横擦で、内面擦削り。体部: 外縁。内面横擦で、外縫織削り。底部: 外縫織削り。	7, 1519		
2-19	H-9 直底 土師器 环	①[14.0] ② (4.7) ③ -	①粗粒 ②良好 ③粗 ④L/S	口縫部: 削く直立。内面横擦で、外縫織削り。体部: 外縁。内面横擦で、外縫織削り。底部: 外縫織削り。	47		
2-20	H-9 直底 土師器 环	① 10.0 ② 3.3 ③ -	①粗粒 ②良好 ③粗 ④完形	口縫部: 削く直立。内面横擦で、外縫織削り。体部: 外縁。内面横擦で、外縫織削り。底部: やや丸底。内面擦で、外縫織削り。	49 雕		
2-21	H-9 直底 土師器 环	①[14.0] ② (4.5) ③ -	①粗粒 ②良好 ③粗 ④L/S	口縫部: 削く直立。内面横擦で、外縫織削り。体部: 外縁。内面横擦で、外縫織削り。底部: 丸底。内面擦で、外縫織削り。	63		
2-22	H-9 直底 土師器 环	① 10.3 ② 3.3 ③ -	①粗粒 ②良好 ③粗 ④2/3	口縫部: 削く直立。内面横擦で、外縫織削り。体部: 外縁。内面横擦で、外縫織削り。底部: 欠損。	77		
2-23	H-9 直底 土師器 环	① 88 ② 3.0 ③ -	①粗粒 ②良好 ③灰白 ④完形	織維整形。天井部: やや水平から緩やかに傾斜、内面横擦で、外縫織削り。底部: 丸底。内面擦で、外縫織削り。	48		
2-24	H-9 直底 土師器 环	① 21.3 ② (7.0) ③ -	①粗粒 ②良好 ③灰白 ④口縫のみ	織維整形。口縫部: やや直立気味から大きくなり、内面横擦で、後縫合の刷毛目。体部: 上位内面横擦削りで後叩き。底部: 欠損。	3		
2-25	W-4 覆土 小环	①[10.2] ② (5.6) ③ -	①粗粒 ②良好 ③粗 ④破片	口縫部: 直立からやや外縁。内面横擦で。製部: 内面擦で、外縫織削り。底部: 欠損。	108 109		
2-26	W-4 覆土 大环	①[13.2] ② (14.2) ③ 42	①粗粒 ②良好 ③粗 ④破片	口縫部: やや直立からやや外縁。内面横擦で。底部: 平底。内面擦で、外縫織削り。	70 雕		
2-27	W-4 覆土 大环	①[17.8] ② (19.4) ③ 42	①粗粒 ②良好 ③ ④1/2	口縫部: 直立から外反。内面横擦で。底部: 膨らみがなく、縫合の遮断削り。底部: 欠損。	76 雕		

番号	出土遺物 層位	器種名	①口径 ②高さ ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥内面 ⑦底面	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
2-28	W-4 覆土	土器部 环	①(135) ②(64) ③-	④細粒 ⑤良好 ⑥内面 ⑦底面	环部: 大きく外傾。内・外輪脚で。交換点に横筋。底部: 扇い底。 内輪脚で、外輪脚割り。颈部: 内面脚で、外輪脚で。	33,83	口輪部に墨 書?
2-29	W-4 覆土	須志器 环	①(102) ② 34 ③(90)	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦3/4	輪脚整形。口部・体部・外傾から直立気味で口輪部や内傾。内 輪脚で、外輪脚割り。底部: 平底。内輪脚で、外輪脚で後脚で調整。	19個	
2-30	W-4 覆土	須志器 大器	①(265) ② 43.6 ③-	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦3/5	輪脚整形。口輪部: 大きく外反。内面脚で、外輪脚等に後脚で後脚で調整。 その下に黒書きで波状文。颈部: 内面脚被削で後脚で。外輪脚被 削で後脚。	71個	
2-31	W-4 覆土	須志器 环	① 9.6 ② (69) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦1/2	輪脚整形。口輪部: ほぼ直立。内・外輪脚被削で。体部に膨らみを持 ち内傾。内面脚被削で、内面上部に横筋の施加。中部に内面脚被削で、 下部は被削り。底部: やや丸底。内・外輪脚被削。	105 106	
2-32	W-4 覆土	須志器 环	① 30 ②(124) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦1/3	輪脚整形。口輪部: ほぼ直立。内・外輪脚被削で。体部: 上部で最大幅。 内輪脚で、外輪脚で。底部から無地。底部: 小傾。		
2-33	グリッド 覆土	須志器 环	① - ② (94) ③ 11.9	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦底部	輪脚整形。口輪部: 欠損。体部: 内・外輪脚被削で、直立に外反。底部: 底部: 内面脚で、外面内輪脚をり後脚り及び削り。		

3区

番号	出土遺物 層位	器種名	①口径 ②高さ ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥内面 ⑦底面	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
3-1	H-1 底座 环	須志器 环	① 10.9 ② 3.7 ③ 4.8	④中粒 ⑤液化過 程 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦2/3	小形容器。体部膨らみ、口輪部若干外反。輪脚整形。口輪部被削で。 底部輪脚被削り。	5	一部吸炭
3-2	H-1 底座 环	須志器 环	① - ② - ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥オーリーフ灰 ⑦脚部削 り	肩部丸み。外側肩部に地輪脚。器身やや薄い。	2,4他	
3-3	H-2 底座 环	土器部 环	① 12.6 ② 5.0 ③ -	④中粒 ⑤液化過 程 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦1/2	内厚。底部一定底脇辺透。口輪部要換点で棱形成。口輪部外傾し て直く。口輪部被削で。体部・底座部削り。内面放射状下に磨き。	5,6	内外吸炭
3-4	H-2 底座 环	須志器 环	① 13.3 ② 4.9 ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥明示欠 ⑦2/3	内厚。底部一定底脇辺。口輪高めや高く。外傾して直く。口輪部 被削で。底部輪脚削り。内面底筋・放射状底筋。	4	底部吸炭
3-5	H-2 底座 环	土器部 小型丸 环	① 13.3 ② 4.9 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦2/3	底部丸底。体部丸く内凹。口輪部被削で外傾。口輪部被削で。体部 被削り。内面底筋り。内面削り。やや肉厚。	10,11	一部吸炭
3-6	H-2 覆土	土器部 环	①(173) ② - ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦2/3	底筋や留筋。口輪部の字に折れ。強く外反して開く。口輪部 被削で。底部輪脚削り。	3	胎土堅密
3-7	H-2 底座 环	須志器 环	① 10.8 ② 3.6 ③ -	④細粒 ⑤液化過 程 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦4/2	小形容器。少し底厚。体部級く曲毛。口輪部で開く。輪脚整形。 口輪部被削で。底筋削り。	18	一部吸炭
3-8	H-3 底座 环	須志器 环	① 10.9 ② 4.4 ③ 4.9	④中粒 ⑤液化過 程 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦4/2	小形容器。少し底厚。体部要換点くねり。体部下半膨らみ。口 輪部外傾。輪脚整形。口輪部被削で。底部輪脚被削り。	9,13	
3-9	H-3 底座 环	須志器 环	①(147) ② 6.4 ③ 8.3	④中粒 ⑤液化過 程 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦4/2	輪脚部をらむ。底筋丸く内凹。口輪部外傾して開く。輪脚整形。 底部輪脚被削で。内面内風磨削。尾筋は削除。	1,2	
3-10	H-3 底座 环	須志器 环	①(182) ② 23.8 ③ 9.6	④中粒 ⑤液化過 程 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦4/2	つくり丁寧。口輪部内傾。器身平底。肩部上向きに張る。底部若 干上凸底。底部上半部輪脚で、下半部・底脚は削り。	20,21	
3-11	H-3 底座 环	須志器 羽根	①(182) ②(213) ③ -	④中粒 ⑤液化過 程 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦1/2	底部若干内傾。底部半平底。底部上半部輪脚で。下半部・斜・斜脚削り。 口輪部・体部上半部輪脚で。下半部・斜・斜脚削り。	24,28	
3-12	H-4 底座 环	須志器 环	①(104) ② 35 ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥明示欠 ⑦1/3	小形容器。底部・体部丸く内凹。口輪部で近く直立する。口輪部 被削で。底部・底脚削り。内面削り。	5	器肉薄い
3-13	H-4 底座 环	土器部 小型丸 环	① 8.0 ② 7.2 ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦5/6	底部・体部丸く内凹。口輪部被削り直立。口輪部被削で。体部外面 削り。内面削り。	6,8,9	
3-14	H-4 底座 环	土器部 小型丸 环	① 10.2 ② 8.6 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦3/6	底部・体部丸く内凹。口輪部被削り直立。内面削り。底筋は削り。	11	底部吸炭
3-15	H-4 底座 环	土器部 环	①(182) ② (5.0) ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦1/4	側面と半底部をらむ。口輪部外傾して開く。口輪部被削で。周 部斜・底脚削り。内面斜・底脚削り。	2,3	
3-16	H-4 陶壺	基部径[19.2] 壺部φ8.0H05	-	④中粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦1/3	17cm回。側面と半底部をらむ。口輪部外傾して開く。口輪部被削で。周 部斜・底脚削り。内面斜・底脚削り。	13	
3-17	H-4 陶壺	基部径[18.6] 壺部φ11.0H06	-	④中粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦1/4	凸唇面削り直し台形状。体部細かい複数横毛目。凸唇付け後横削 で削削。やや底脚削り。内面斜・底脚削り。内面削り模様。	14	
3-18	H-5 底座 环	土器部 环	① 13.2 ② 4.7 ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦5/6	底部・体部丸く内凹。口輪部被削り削れ。内面でくの字形底筋。口輪 部被削で。外輪脚被削で後脚削り。内面斜削底筋。	30	D-5 内
3-19	H-5 底座 环	土器部 环	① 12.8 ② 9.4 ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚被 削り ⑦6/6	底部丸く内凹。口輪部で縫切る。脚部外反気味に開く。口輪 部被削で。体部被削で。底脚削り。内面削り。内面斜削底筋。	58	D-3 内
3-20	H-5 底座 环	須志器 环	①(418) ②(485) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦1/2	口輪部被削り。底部付近で最大幅。須志器各部の内面削りを抜 く。本車輪底底筋底筋。	40個	D-3,4,5 内
3-21	H-5 底座 环	須志器 环	①(246) ②(456) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦1/2	底部被削く外反。口輪部被削形。底部内凹して立ち上り。上半部に裁 鋸。口輪部被削で。輪脚外側平行一筋子母。内面同心円凸でD。	105個	
3-22	H-5 底座 环	須志器 环	① - ② - ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦3/5	口輪部被削形。内面外斜削底筋で。	D-47	
3-23	H-5 底座 环	須志器 环	① - ② - ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦3/5	上半沈禪區底に波状文。	D-44	
3-24	H-5 底座 环	須志器 环	①(21.0) ②(37.2) ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦1/2	頭部丸く外反。上端で直す。肩部で最大径をなす。口輪部被削形。 頭部斜面平行厚削り。内面不円形斜削り。口輪部走削。	33個	D-3,5 内
3-25	H-6 手すくね 底座 土器	① 9.1 ② 3.6 ③ 3.2	④内粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚不 良 ⑦2/3	底部丸く外反。体部被削して開き。器身直立気味。口輪部被削で。 底部外側削。底脚削り。	127	底面、 窓内	
3-26	H-6 底座 环	① 10.6 ② 6.3 ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥明示欠 ⑦5/6	内厚。底部内凹し。口輪部でわずかに内傾。口輪部走削で。 体部内凹削り。底部内凹削り。	85 293		
3-27	H-6 底座 环	① 13.0 ② 5.0 ③ -	④細粒 ⑤良好 ⑥内・外輪脚不 良 ⑦完形	底部・体部扁球形。口輪部内側くの字に外反。器身直立気味。口 輪部被削で。体部外側削指で。輪脚外側平行一筋子母。内面同心円凸でD。	222	内杯吸炭	
3-28	H-6 底座 环	① 13.6 ② 5.0 ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦4/5	27cm回。口輪部より若干厚い。	114		

番号	出土場所	器種名	①口径 ②高さ ③底径	④輪郭 ⑤存否 ⑥色調	⑦胎部 ⑧地表 ⑨内面	器種の特徴・整形・異常技術	登録番号	備考
3-29	H - 6 床底	土師器 环	① 137 ② 55 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 定形	⑦ 胎部 ⑧ 地表 ⑨ 内面	底部一部胎部暗紅。口縁部近く外折、内面端やや黒暗。口縁部横 腹で。外縁端で・割れ。内面放射状気泡。	224	
3-30	H - 6	土師器 环	① 138 ② 53 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 定形	⑦ 胎部 ⑧ 地表 ⑨ 内面	底部一部胎部暗紅。口縁部近く外折、内面部分丸く凸出。口縁部横 腹で。外縁端で・割れ。内面放射状気泡。	207	
3-31	H - 6	土師器 环	① 135 ② 49 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 定形	⑦ 胎部 ⑧ 地表 ⑨ 内面	底部一部胎部暗紅。口縁部近く外折、内面部分丸く凸出。口縁部横 腹で。外縁端で・割れ。内面放射状気泡。	123	
3-32	H - 6 床底	土師器 环	① 136 ② 54 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 定形	⑦ 胎部 ⑧ 地表 ⑨ 内面	底部一部胎部暗紅。口縁部近く外折、内面部分丸く凸出。口縁部横 腹で。外縁端で・割れ。内面放射状気泡。	306他	一部吸泥
3-33	H - 6 床上	土師器 环	① 136 ② 43 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否 ⑦ 残徑 ⑧ 1/3	⑨ 内面	底部一部胎部深く、丸く内凹。口縁部部外折、底部わざかに丸み。 口縁部横腹で。体部外縁端で後、端割り、内面放射状気泡。	34, 86	
3-34	H - 6 床底	土師器 环	① 135 ② 59 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 定形	⑦ 胎部 ⑧ 地表 ⑨ 内面	底部一部胎部深く、丸く内凹。口縁部部外折、底部わざかに丸み。 口縁部横腹で。体部外縁端で後、端割り、内面放射状気泡。	133	つくり丁寧
3-35	H - 6 床底	土師器 环	① 127 ② 52 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 定形	⑦ 胎部 ⑧ 地表 ⑨ 内面	底部一部胎部深く、丸く内凹。口縁部部外折、底部わざかに丸み。 口縁部横腹で。体部外縁端で後、端割り、内面放射状気泡。	191	
3-36	H - 6 床底	土師器 环	① 131 ② 50 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否 ⑦ 残径 ⑧ 1/3	⑨ 内面	底部一部胎部深く、丸く内凹。口縁部部外折、内面わざかに枝をもつ。 口縁部横腹で。体部外縁端で後、端割り、内面放射状気泡。	130	
3-37	H - 6 床底	土師器 环	① 135 ② 56 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 明瞭輪郭 ⑦ 1/5	⑨ 内面	36に同。	144	
3-38	H - 6 床上	土師器 环	① 156 ② 84 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否 ⑦ はぼ定形	⑨ 内面	全体深く、丸く内凹。口縁部部外折。肩部丸み。口縁部横腹で。 体部外縁端で、割れ。内面放射状気泡。	209	
3-39	H - 6 床上	土師器 环	① 143 ② 79 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 定形	⑨ 内面	全体内凹、上半部丸み。口縁部部外折。傾斜度30よりや直立 気泡。口縁部横腹で。体部外縁端で・割れ。内面放射状気泡。	230	
3-40	H - 6 床底	土師器 环	① 160 ② 72 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 定形	⑦ 胎部 ⑧ 地表 ⑨ 内面	全体深く、丸く内凹。口縁部部外折。内面放射状気泡。	125	
3-41	H - 6 床底	土師器 环	① 182 ② 72 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 明瞭輪郭 ⑦ 1/2	⑨ 内面	同じに同。口縁部部外折40よりや直立気泡。口縁部横腹で。体部 外縁端で後、端割り。内面・斜方輪巻きされが。直線不鮮明。	140	内面吸泥
3-42	H - 6 床底	土師器 环	① 152 ② 80 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否	⑨ 内面	静けさに同。口縁部横腹で。体部外縁端で、丸割り。内面放射 状気泡。	276	
3-43	H - 6 床底	土师器 环	① 120 ② 74 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 明瞭輪郭 ⑦ 部品1/4	⑨ 内面	断部短く外折。口縁部沈黙状。口縁部横腹で。内面丸削き。	257	
3-44	H - 6 床底	頬窓器 环	① 120 ② 74 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 定形	⑨ 内面	頭部外方へ傾いて外折。脇部平面部形成。口縁部と頭部の境に 一筋の凹部を残し、上下に輪郭波状文。内面自然付着。	P.s	
3-45	H - 6 床底	土師器 环	① 218 ② 156 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否 ⑦ 1/3	⑨ 内面	筋内やや厚く。病部上半部で最も大。口縁部外折して下後。口縁部 上半横腹で。同下半・側部底面粗毛目。内面刷毛目・足跡で直。	406	
3-46	H - 6 床底	土師器 环	① 182 ② 120 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否	⑨ 内面	脇部上半に最も厚く。口縁部外傾して下前。脇部底面による凸凹 輪郭。口縁部横腹で。外縫延位指標で。内面丸削り。	145	
3-47	H - 6 床上	土師器 环	① - ② 55 ③ 76	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ 定形	⑨ 内面	底部平底氣泡。脇部下端で・引れ、外傾して下前。底部内厚。外縫 延位で・窓割れ。内面丸削り直。	451	
3-48	H - 6 室内 裏	土師器 环	① 182 ② 120 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否 ⑦ 8	⑨ 内面	脇部中位に最も厚く。口縁部外傾して下前。口縁部横腹で。脇部外 縫延位割れ。内面丸削り直。	442	
3-49	H - 6 床底	土師器 环	① 178 ② 130 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否 ⑦ 1/3	⑨ 内面	脇部中位行近で最大径をもつか。口縁部外傾して下前。口縁部横 腹で。脇部外縫延位以下毫削りなし。内面丸削り。	21	
3-50	H - 6 床底	土師器 环	① 166 ② 330 ③ 57	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否 ⑦ 1/3	⑨ 内面	口縁部底立氣泡。脇部中位下平に最も大。底面に向かひすます。口 縁部横腹で。脇部底面凹削り。内面丸削りされるのが見ゆ氣泡。	194	
3-51	H - 6 床底	土師器 环	① 222 ② 285 ③ 102	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否 ⑦ 1/3	⑨ 内面	底部・脇部底面に縦に渦曲、上位に最も大。口縁部外傾して下前。 口縁部横腹で。口縁部底面下・脇部底面凹削り。内面丸削り。	403	
3-52	H - 6 難 环	土師器 环	① 101 ② 37 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否 ⑦ 1/3	⑨ 内面	小形の容器。底部・脇部底面に内凹。口縁部で脇・内傾す。口縁 部横腹で。脇部削り。内面削り。	3	
3-53	H - 9 床底	土師器 环	① 105 ② 31 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・存否 ⑦ 1/3	⑨ 内面	小形の容器。底部・脇部底面平。口縁部変換点に横。口縁部外傾し て脇部削り。脇部削り直。	6	
3-54	H - 9 P.s	土師器 环	① 142 ② 55 ③ -	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・赤褐 ⑦ 1/3	⑨ 内面	やや内厚。底部・脇部底面内凹。口縁部変換点に脇形成。口縁部 外反気泡に開く。口縁部横腹で。脇部削り直。内面丸削り直。	P.s	
3-55	H - 10 室内 裏	頬窓器 环	① 127 ② 37 ③ 64	④ 中段 ⑤ 良好 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 1/3	⑨ 内面	底面上げ広。脇部底面外傾・外傾で反する。脇部丸成る。輪 郭整形。口縁部横腹で。脇部削り直。	34	
3-56	H - 10 室内 裏	頬窓器 环	① 128 ② 36 ③ 63	④ 轮郭 ⑤ 酸化輪 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 1/3	⑨ 内面	脇溝薄い。底部平底。脇部は下端にわずかに外反気泡。 輪郭整形。口縁部横腹で。脇部削り直。	25	
3-57	H - 10 室内 裏	頬窓器 环	① 128 ② 34 ③ 58	④ 轮郭 ⑤ 酸化輪 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 1/3	⑨ 内面	脇溝56に似。底部やや上げ底。脇部底面に外傾。輪郭整形。口 縁部横腹で。脇部削り直。	60	
3-58	H - 10 床上 高台	頬窓器 环	① 128 ② 48 ③ 56	④ 中段 ⑤ 酸化輪 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 1/3	⑨ 内面	脇部底面たたむ長いV形折れ。脇部底面に外傾。口縁部わざかに外反。 輪郭整形。口縁部横腹で。脇部削り直。	68	
3-59	H - 10 室内 裏	頬窓器 环	① 128 ② 44 ③ 54	④ 轮郭 ⑤ 良好 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 1/5	⑨ 内面	脇部底面よじだれる。脇部丸く膨らみ。口縁部わざかに外反気泡。 輪郭整形。口縁部横腹で。脇部削り直。	P.s. 44	
3-60	H - 10 室内 高台	頬窓器 环	① 136 ② 50 ③ 65	④ 中段 ⑤ やや不良 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 1/2	⑨ 内面	高台底少。貼付け後調整。脇部底面的に外傾して開く。輪郭整形。 口縁部横腹で。脇部削り直。	54	
3-61	H - 10 室内 高台	頬窓器 环	① 132 ② 42 ③ 66	④ 轮郭 ⑤ 酸化輪 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 1/3	⑨ 内面	高台底剥落。脇部外傾して開く。口縁部外傾。輪郭整形。口縁 部横腹で。脇部削り直。	52	
3-62	H - 10 室内 高台	頬窓器 环	① 134 ② 45 ③ 78	④ 中段 ⑤ 酸化輪 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 1/5	⑨ 内面	底部丸く。脇部外傾して開く。口縁部わざかに外反。輪郭整形。口 縁部横腹で。	40, 59	
3-63	H - 10 室内 高台	頬窓器 环	① 150 ② 52 ③ 60	④ 中段 ⑤ 酸化輪 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 1/3	⑨ 内面	高台底付貼り直。脇・底材ハの字に外傾して開く。輪郭整形。外 面丸削り直。	48	
3-64	H - 10 室内 高台	頬窓器 环	① 174 ② 60	④ 中段 ⑤ 酸化輪 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 2/5	⑨ 内面	大筋形。底部丸く。脇部丸く内凹。口縁部で外傾気泡に開く。輪 郭整形。口縁部横腹で。脇部削り直。	65	
3-65	H - 10 室内 高台	頬窓器 环	① 144 ② 59 ③ 81	④ 中段 ⑤ 酸化輪 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 2/5	⑨ 内面	前面方形状のやや楕円の高台。脇部外傾して開く。脇部やや厚い。 輪郭整形。口縁部横腹で。脇部削り直。	33	
3-66	H - 10 覆土	頬窓器 环	① 141 ② 54 ③ 85	④ 中段 ⑤ 酸化輪 ⑥ にふい・黄褐 ⑦ 1/3	⑨ 内面	前面方形状のやや楕円の高台。脇部外傾して開く。脇部やや厚い。 輪郭整形。口縁部横腹で。脇部削り直。		

番号	治土遺構位	器種名	①口径 ②高さ 直径 容量	①軽土 ②焼成 ③色調 ④焼成度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
3-67	H-10 灰陶器 窓	①[124] ② 29 皿 ③ 73	①細鉢 ②良好 ③灰白 ④1/2	小さな形容。低い圓台形容の高台。腰部わずかに膨らみ。底部外相して開く。楕圓形。口縁部・底部削輪施。底部削輪施。	11, 35		
3-68	H-10 灰陶器 窓内	①[136] ② 31	①細鉢 ②良好 ③灰白 ④1/2	口縁部4ヶ所に指揮させによる輪花形成。高台部外相後。底部外相して開く。楕圓形。	22		
3-69	H-10 灰陶器 窓内	①[160] ② 55 鏡 ③ [86]	①細鉢 ②良好 ③灰白 ④1/5	高台側面わざかに輪花形成。底部削輪し内曲。口縁部で開く。楕圓形。	56		
3-70	H-10 灰陶器 窓内	①[165] ② 168 土釜 ③ 73	①中鉢 ②酸化焰気味 ③灰白 ④1/5	やや小形。底部平底。底部下平直時に外相。上半わざかに膨らむ。底部削輪施。底部削輪施。	28, 46		
3-71	H-10 灰陶器 窓内	①[174] ②(170) 土釜 ③ -	①中鉢 ②酸化焰気味 ③灰白 ④1/2	底部下平身。上口・口縁部で開く内湾する。唇部平坦。わざかに内凹する。上半削輪施。下半削・斜削観割り。	45, 46		
3-72	H-10 灰陶器 窓内	①[201] ② (74) 鏡 ③ [225]	⑤灰黄 ⑥3/4	羽形形容。縁部の側面半から大きく外反。底部鋸く直立する。内凹部2ヶ所に弧ある。内底部削輪施。	1, 12		
3-73	H-11 灰土	①[88] ② 23 环 ③ 48	①中鉢 ②酸化焰 ③灰白 ④1/3	小形容形。底部平底。底部削輪し外傾。唇部内凹。楕圓形。底部削輪施。			
3-74	H-11 灰陶器 床底	①[122] ② 24 波紋 ③ 68	①細鉢 ②良好 ③灰白 ④1/2	高台削輪程い三形容。底部・体部窓前後に外相して開く。唇部4ヶ所に輪花形成。底部・底部削輪施。底部削輪施。	1, 2		
3-75	H-13 土器	①[126] ② 39 环 ③ -	①中鉢 ②良好 ③灰黑 ④1/2	底部・一部削輪平。口縁部変換点で後、口縁部直立する。口縁部横擦で、底部・一部削輪で後削輪。内面削。	1		
3-76	H-14 灰陶器 窓内	①[106] ② 33 环 ③ 60	①中鉢 ②良好 ③灰白 ④3/4	小形容形。底部は平底気味。底部削輪し直角。口縁部で開く。内凹部削輪着用。楕圓形。底部削輪施。	19		
3-77	H-14 灰陶器 窓内	①[105] ② 31 环 ③ 43	①中鉢 ②酸化焰 ③灰黄 ④2/3	小形容形。底部小さい平底。底部削輪。内凹気味。口縁部削輪施。	2, 3		
3-78	H-14 灰土	①[124] ② 29 环 ③ [58]	①中鉢 ②酸化焰 ③灰白 ④1/4	底部部上げて。底部中削輪らみ。口縁部多削輪する。楕圓形。口縁部削輪施。底部削輪施。			
3-79	H-14 灰土	①[121] ② 27 环 ③ [58]	①中鉢 ②酸化焰 ③灰白 ④1/4	底部平底。底部ハの字形に開き。口縁部で幅いくの字状をなす。楕圓形。口縁部削輪施。底削輪削輪引り。	12		
3-80	H-14 灰陶器 窓内	①[148] ② (43)	①中鉢 ②酸化焰 ③灰白 ④1/4	体部ハの字形に外傾して開く。口縁部接合部。底部上半部指揮溝、下端削輪。内面削で調整。	21		
3-81	H-14 灰土	①[116] ② 49 高白模 ③ 70	①中鉢 ②やや不良 ③灰黄 ④5/6	小形容の形容。高台部直い台形容。体部中位に膨らみ。口縁部でおずかに反する。楕圓形。口縁部削輪施。底部削輪引り。	16		
3-82	H-14 灰陶器 窓内	①[116] ② 51 环 ③ 59	①中鉢 ②漬け焼成 ③灰 ④はち形	高台形容の形容。高台部直い台形容。体部丸をもたら。口縁部で外相する。楕圓形。口縁部削輪施。底削輪削輪引り。	15	つくり難	
3-83	H-14 灰土	①[151] ② 58 环 ③ [76]	①中鉢 ②酸化焰 ③青釉 ④5/6	高台部直い台字形容。体部やや深く丸みをもつ。口縁部外傾して開く。斜削えん。楕圓形。内面削で外相引り。底部削輪。底部削輪引り。			
3-84	H-14 灰陶器 床底	①[128] ② 35 皿 ③ 66	①細鉢 ②良好 ③灰白 ④1/2	高台部外面に斜。腰部張り。口縁部ハの字形に開く。内相して斜張。楕圓形。底部削輪施。底部削輪引り。清衝け施。	13		
3-85	H-14 灰陶器 床底	①[154] ② 47 环 ③ 84	①細鉢 ②良好 ③灰白 ④1/2	高台低く直い三角形容。腰部やや張り。口縁部ハの字に開く。楕圓形。腰部・底部削輪。	17		
3-86	H-14 灰陶器 窓内	①[183] ② (160) 羽釜 ③ -	①中鉢 ②良好 ③灰黄 ④3/3	脚部下部直立形容。上半わざかに済出する。鶴上向に張り。底部削輪。底部削輪引り。斜削えん。楕圓形。底部削輪。底部削輪引り。底部削輪引り。	1, 24		
3-87	H-15 灰土	①[125] ② 46 环 ③ 62	①中鉢 ②酸化焰 ③灰 ④1/4	底部平底。底部下部直線的に外傾。中位で削みをもつ。楕圓形。底部削輪。底部削輪引り。斜削えん。内面削調整。			
3-88	H-15 灰陶器 床底	①[126] ② 37 环 ③ 60	①中鉢 ②酸化焰气味 ③灰 ④1/2	底部茎上千代形。体部下部済出され。腰部張りをもつ。口縁部大きく外相して開く。楕圓形。口縁部削輪施。削輪引り。	5		
3-89	O-1 F区	①[110] ② 37 环 ③ 40	①中鉢 ②酸化焰 ③灰 ④1/4	小形容の形容。底部小さく、下半部削み外相して開く。口縁部若干外反する。楕圓形。口縁部削輪施。底部削輪引り。			
3-90	O-1 F区	①[98] ② 36 环 ③ 40	①中鉢 ②酸化焰 ③灰 ④1/5	小さい形容。体部ハ下やや削らみ。外傾して斜開く。口縁部若干外反気味。口縁部削輪施。底部削輪引り。			
3-91	O-1 C区	①[98] ② 36 环 ③ 40	①中鉢 ②酸化焰 ③灰 ④1/4	小さい形容。高台削輪H字形容。体部丸みをもって外傾する。楕圓形。口縁部削輪施。底部削輪引り。	一部吸浜		
3-92	O-1 D区	①[96] ② 46 灰陶器 床底 ③ [86]	①中鉢 ②酸化焰 ③灰 ④1/4	高台削輪程わざかに斜。体部丸みをもつ外傾する。楕圓形。体部下平。底部削輪引り。清衝け施。			
3-93	O-1 D区	①[151] ② 50 环 ③ [72]	①細鉢 ②良好 ③灰白 ④1/4	古墳前崩(石田川周)のS字状口縁をもつ变形形。外削輪毛日。内面削施。			
3-94	O-1 C区	① 土器 ② - 台付陶 ③ -	①中鉢 ②良好 ③灰白 ④1/4	器内厚い。外傾して開くやや高めの高台。楕圓形。底部高台貼付後削輪で清衝。			
3-95	D-1 床底	① - ② (33) 高白模 ③ [96]	①中鉢 ②良好 ③灰白 ④1/4	脚部小形。削輪丸い台形容。口縁部内側気味に立上る。唇部平底。外側削輪施。底部削輪引り。	2		
3-96	D-1 灰土	①[194] ② 60	①中鉢 ②酸化焰 ③灰 ④ -	中位出火跡。底部底裏の外傾。口縁部丸い。唇部外側採付着。外圓明具に使用。楕圓形。底部削輪引り。			
3-97	I-1 灰土	① - ② - かわらけ ③ 44	①中鉢 ②良好 ③灰白 ④1/4	常滑燒。唇部上端外側削輪。内面絞つり糸。			
3-98	I-1 灰土	① - ② - 燒成器 ③ -	①細鉢 ②良好 ③灰白 ④1/4	常滑燒。底部削輪引文。			
3-99	I-1 灰土	① - ② - 羽釜 ③ -	①中鉢 ②良好 ③灰白 ④1/4	常滑燒。底部外側削輪引文。			

5区

番号	治土遺構位	器種名	①口径 ②高さ 直径 容量	①軽土 ②焼成 ③色調 ④焼成度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
5-1	H-I 土器	①[120] ② 35 环 ③ 80	①粗粒 ②良好 ③明赤 ④完形	口縁部: やや外反、内面削輪。体部: やや削らみを持って外傾、内面指揮させ、端で、外側削輪引り。底部: やや丸みをもった平底。	2		
5-2	H-I 窓内	①[198] ② (160) 皿 ③ -	①粗粒 ②良好 ③灰 ④1/5	口縁部: 「コ」の字状、内面外側面。底部: 内面削、外側上部機位の削り、外側下部機位の削り。底部欠損。	カマド4		

番号	出土遺構番号	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤成形 ⑥色調 ⑦造形度	器種の特徴・整形・彫刻・施装技術	登録番号	備考
5-3	H-1 床底	須恵器	① 146 ② 40 ③ 68	④中粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦2/3	楕円形容。口縁部: やや外反、内外面撫で。体部: やや膨らみをもつて外傾、内外面撫。内面底: 内外面撫で、外面上部底の荒削り。脚部: ほとんど欠損している。内面無で、外側崩落部底に荒らぎが残る。	5, 22集	鐵化焰
5-4	H-2 床底	土器器	① - ②(20.1) ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/2	口縁部: 脚部: ミチジク形、内面撫で、外面上部底の荒削り。脚部: ほとんど欠損している。内面無で、外側崩落部底に荒らぎが残る。	15	石田川式
5-5	H-2 床底	土器器	① 144 ②(16.0) ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/3	口縁部: 「S」の字状、内面・外側撫で。内面底: 外面横窓の荒削り。底部: 小底。	15	石田川式
5-6	H-2 床底	土器器	① - ②(7.5)	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/2	脚部: 内面撫で後、残による塗装。外側撫で後、刷毛撫で。接地部分底面に折れ返して倒伏。	17	石田川式
5-7	H-3 覆土	土器器	①[11.0] ② 31 ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/4	口縁: 侈張、やや膨らみを持って外傾。内・外側撫で。胴部: 丸底、内面撫で、外側荒削り。	10	
5-8	H-3 覆土	土器器	① 130 ② 42 ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦2/3	口縁部: やや直線から外傾、内外面撫で。体部: やや膨らみを持てて外傾、内面撫で、外側横窓の荒削り。底部: やや平底、内面撫で、外側荒削り。内面に施装焼付文。施装焼付文有り。	62	繪文
5-9	H-3 床底	土器器	①[16.6] ② 33 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/2	口縁: 侈張、内外・外側撫で。底部: 丸底、内面撫で、外側荒削り。	68	
5-10	H-3 床底	土器器	①[11.8] ② 35 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦2/3	口縁: 体部: やや膨らみを持って直立、内外面撫で。底部: 丸底、内面撫で、外側荒削り。	80	
5-11	H-3 床底	土器器	①[18.0] ② 39 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦2/3	口縁: 体部: やや外傾、内外面指揮させ、撫で。底部: 丸底、内面撫で、外側荒削り。	12, 86	
5-12	H-3 床底	土器器	①[16.4] ② 36 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/4	口縁: 体部: 外傾、内外面撫で。底部: 丸底、内面撫で、外側荒削り。	96組	
5-13	H-3 覆土	土器器	① 124 ② 36 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦5.6	口縁: 体部: やや膨らみを持って直立、内外面撫で。底部: 丸底、内面撫で、柱状痕有り、外側荒削り。	97	
5-14	H-3 覆土	土器器	①[18.3] ② 68 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦2/3	口縁: 侈張、内外・外側撫で。底部: 丸底、内面撫で、外側荒削り。	39, 42組	
5-15	H-3 覆土	土器器	①[15.6] ② 44 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/3	口縁: 体部: やや外傾、内外面撫で。底部: 丸底、内面撫で、外側荒削り。	5.6	
5-16	H-3 床底	土器器	① 15.2 ② 31 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦2/3	口縁: 体部: 外傾、内外面撫で。底部: 丸底、内面撫で、外側荒削り。	58, 87組	
5-17	H-3 床底	土器器	①[20.1] ② (8.1) ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦1/3	口縁: 体部: 短く直立、内外面撫で、底部との境に荒削りの疵が二条有り。底部: 丸底、内面撫で、外側荒削り。	65, 69, 79	
5-18	H-3 床底	土器器	①[16.2] ② 45 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦1/2	口縁: 体部: 外傾、内外面撫で。底部: 丸底、内面撫で、外側荒削り。	カマド 2, 7.6	
5-19	H-3 床底	土器器	① 22.0 ② 35.5 ③ 4.5	④粗粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦2/3	口縁部: 大きく外傾、内指揮で、外側面撫で後刷毛撫。胴部: 中位にやや膨らみを持つ、内面撫で、外面上部底の荒削り、外側下部底の荒削り。底部: 平底、内面撫で、外側荒削り。	117	
5-20	H-3 覆土	土器器	①[22.0] ②[19.8] ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦1/6	口縁部: 外傾、内外面撫で、中位に接合部有り。胴部: 内面撫で、外側面撫の荒削り。口縫と胴部の境に接合部有り。	15, 29組	
5-21	H-3 覆土	土器器	①[25.0] ② 95 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/8	口縁部: 大きく外傾、内外面撫で。胴部: 内面撫で、外側横窓の荒削り。口縫と胴部の境に接合部有り。	59, 16組	
5-22	H-3 床底	須恵器	① - ②(11.2) 長柄瓶	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦4/5	楕円形容。肩部: 内面撫で、二条の疣突、4円の胸突。胴部: 内面撫で。底部: 内面撫で、高台貼付。	90, 99	
5-23	H-3 床底	須恵器	①(22.7) ② (7.2) ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/5	楕円形容。口縁部: 外傾、内外面撫で。胴部以下欠損。	26, 27, 104	
5-24	H-4 覆土	土器器	① 125 ② 34 ③ -	④中粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦4/5	口縁部: 外傾、内面撫で、外側指揮させ後撫。体部: 外傾、内面撫で、外側指揮させ後撫。底部: 内面撫で、外側面撫。	14	
5-25	H-4 覆土	須恵器	① 126 ② 38 ③ 68	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦4/3	楕円形容。口縁部: 外傾、内外面撫で。体部: やや膨らみを持つ、内面・外側面撫。底部: 平底、内面撫で、外側指揮させ後撫。	17, 18集	鐵化焰
5-26	H-6 床底	土器器	①[12.0] ② (4.2)	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/4	口縁部: 「S」の字状、内面撫で。胴部: 内面撫で、外側斜位の刷毛撫。脚部: 下部中央に凹痕有り。	1	石田川式
5-27	H-7 床底	土器器	① 106 ② 15.9 ③ 5.0	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦4/8	口縁部: 外傾、内面撫での荒削り。腰部: 内面撫で、外側横窓の荒削り。底部: 上位に刷毛を待ち底面に向て突まる、外側荒削り。底部: 平底、内面撫で、外側面撫。	24	
5-28	H-7 床底	土器器	①[18.0] ② 10.3 小要 ③ 41	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/2	口縁部: 外傾、内面撫で、外側面撫で後、削除。底部: 上位に刷毛を待ち底面に向て突まる、外側荒削り。底部: 平底、内面撫で、外側面撫。	23	
5-29	H-7 床底	土器器	① - ②(16.0) ③ 68	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦2/3	脚部: 膨らみを持ち、東部に向けて窄まる。内面撫で、外側縱縫の荒削り後、横位の荒削り。底部: 内面指揮させ後撫で、外側荒削り。	8, 9組	
5-30	D-3 覆土	土器器	①[11.0] ② 3.5 ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦4/2	口縁部: わずかに外反するややコの字の形状、内面撫で、外側面撫で、内面底の荒削り後、脚部に接合部有り。底面: 内面指揮させ後撫で、外側面撫。		
5-31	D-3 覆土	土器器	①(12.6) ②(11.1) ③ -	④粗粒 ⑤良好 ⑥粗粒 ⑦0.8	口縁部: わずかに外反するややコの字の形状、内面撫で、外側面撫で、内面底の荒削り後、脚部に接合部有り。底面: 内面指揮させ後撫で、外側面撫。	14, 21	
5-32	D-3 覆土	須恵器	①[18.0] ② 4.0 ③ [8.2](拂み)	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/3	楕円形容。天井部: やや平底から傾斜し、内面撫で、外側面撫で、内面底の荒削り後、脚部に接合部有り。		覆土
5-33	D-5 覆土	須恵器	① 13.6 ② 2.9 ③ 6.6	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦3/4	楕円形容。口縁: 体部: 外傾、内外面撫で。底部: 内面撫で。外側面撫で、内面底の荒削り後、脚部に接合部有り。	2	
5-34	X34 Y169	縁輪陶器	① - ② (2.2)	④粗粒 ⑤良好 ⑥オーバー灰 ⑦繊片	楕円形容。素地は灰白。体部に種有り。高台は新羅四角形。		
5-35	X39 Y164	土器器	①[14.2] ② (4.4)	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦4/8	口縁部: 「S」の字状、内面撫で。胴部: 内面撫で、外側面撫の刷毛撫。脚部: 丸底以下欠損。	3	石田川式
5-36	X40 Y163	土器器	①[14.8] ② (10.1)	④粗粒 ⑤良好 ⑥灰褐色 ⑦1/8	口縁部: 「S」の字状、内面撫で、外側面撫で、刷毛撫。底部: 内面指揮底有り、刷毛撫で、外側面撫で。底部欠損。	7	石田川式

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦底面有無	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
5-37	X40 Y164	土器部 甕	① - ②(16.0) ③ 5.6	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい緑 ⑦4/2	口縁部：欠損。脚部、底面、内面側で、外面上部斜位の羽毛削で。 外面上中・下部斜位の羽毛削で。底部：平底、内外面無地。	9	右田川式
5-38	X40 Y164	土器部 甕	①(14.0) ②(5.7) ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい黄緑 ⑦1/8	口縁部：外傾からやや外反、内外面無地。脚部：内面側で、外頭削 位左右両方向からの羽毛削で。脚部下位以下欠損。	18	右田川式
5-39	表揮覆土 甕	綠釉陶甕	① - ② - ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥オーリーブ灰 ⑦破片	底地は灰白。外表面ともに緑釉が施される。		調査区西北

6 区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦底面有無	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
6-1	H-1 床直	須恵器 小口甕	① 8.8 ② 1.9 ③ 6.0	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい白 ⑦充形	輪郭整形。口縁・底部：外傾で直線的に外反、内・外面輪郭削で。底部： 内面側で、外頭削を切り未調整。	25	楳化焰
6-2	H-1 床直	須恵器 小型甕	① [9.6] ② 2.2 ③ 5.6	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい黄緑 ⑦3/4	輪郭整形。口縁・底部：外傾で直線的に外反、内・外面輪郭削で。底部： 内面側で、外頭削を切り未調整。	18	楳化焰
6-3	H-4 土覆土	土器部 甕	①[11.9] ② 3.1 ③ 6.1	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい白 ⑦1/2	口縁部：はく直立、内面横削で、外頭削削り。脚部：外傾。内面横 削で、外頭削削り。底部：やや丸底、内面側で、外頭削削り。		
6-4	H-5 床直	須恵器 小型甕	① 8.8 ② 2.3 ③ 6.1	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい黄緑 ⑦はく完全	輪郭整形。口縁・底部：外傾で直線的に外反、内・外面輪郭削で。底部： 内面側で、外頭削を切り未調整。	7, 8	秋賀酸化焰
6-5	H-5 床直	須恵器 小型甕	① 9.9 ② 3.0 ③ 6.5	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい黄緑 ⑦はく完全	輪郭整形。口縁・底部：外傾で直線的に外反、内・外面輪郭削で。底部： 内面側で、外頭削を切り未調整。	9	秋賀酸化焰
6-6	H-7 床直	土器部 甕	①[22.0] ②(5.1) ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい白 ⑦破片	口縁部：やく直立からやく外反。外頭削削り。底部：丸底。	4	
6-7	H-7 床直	土器部 甕	①[22.4] ②(5.1) ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい白 ⑦破片	口縁部：やく直立からやく外反。外頭削削り。底部：丸底。	9	
6-8	H-8 土覆土	須恵器 小型甕	① 9.0 ② 2.6 ③ 4.4	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい白 ⑦充形	輪郭整形。口縁・底部：外傾でわざかに膨らみを持ちながら小さく外反。 内・外面輪郭削で。底部：内面側で、外頭削を切り未調整。		楳化焰油桂 付着
6-9	D-6 須恵器 羽茎	須恵器 羽茎	①(27.2) ②(17.5)	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい赤緑 ⑦完形	輪郭整形。口縁部：やく内傾、内面側で。脚部：断面三角形では はく半に付く。脚部上位に器最大径、外頭削削り。脚部：欠損。	1	
6-10	I-1 須恵器 培塿	土器部 甕	①[16.4] ② 5.1 ③[32.8]	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい白 ⑦破片	粘土珪成形、輪郭整形。口縁・底部：やく外傾。底部：不明。		
6-11	O-1 土覆土 甕	土器部 甕	① 11.4 ② 3.7 ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは充形	口縁部：はく直立、内面横削で、外頭削削り。底部：外傾で浅い。 内面横削で、外頭削削り。底部：やく丸底、内面側で、外頭削削り。		口縫部欠損 は釐か?
6-12	O-1 土覆土 甕	土器部 甕	①[22.4] ②(5.1) ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦破片	口縁部：外傾、内面横削で、底部：外傾。内面横削で、外頭削削り。 底部：やく丸底、内面側で、外頭削削り。		口縫部欠損 は釐か?
6-13	O-1 土覆土 甕	土器部 甕	①[20.2] ②(5.4)	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦破片	口縁部：やく直立から外反。内面横削で、底部：やく膨らみを持 つ。内面側で、外頭削削り。底部：欠損。		
6-14	O-1 土覆土 甕	須恵器 高台脚	①[17.0] ②(7.2)	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦1/3	輪郭整形。口縁・底部：外傾から口縁部彫や外反、内・外面輪 削で。底部：内面側で、外頭削を切り後、付け合意。		楳化焰

7 区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦底面有無	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
7-1	H-2 床直	土器部 甕	① 13.6 ② 4.1 ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい白 ⑦はく完全	口縁・底部：外傾から口縁部はく直立、内・外面削で外頭削削り。 底部：内面側で、外頭削削り。丸底。	70	
7-2	H-2 土覆土	土器部 甕	① 12.8 ② 3.7 ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい白 ⑦口の部分少欠	口縁部：やく内傾、内・外面削で、外頭削削り。	68	
7-3	H-2 床直	土器部 甕	① 15.2 ② 4.9 ③ 9.6	④胎柱 ⑤良好 ⑥にぶい白 ⑦3/4	口縁・底部：外傾。内面削でた後に放射線削り。外頭削削り。 底部：平底丸底。内耳有無。	69	
7-4	H-2 土覆土 甕	土器部 甕	① 12.3 ② 3.6 ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦破片	口縁部：はく直立、内・外面削で。底部：やく膨らみを持つ。内面側で、外頭削削り。	31	
7-5	H-2 床直	土器部 甕	①[23.0] ② 24.5	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦1/4	口縁部：砂利大混、直立丸底から外反、内・外面削で。底部：上位 に膨らみをもつ。内面側で、中底削削り。外頭削削りの割りり。底 部欠損。	64	はか 底欠損
7-6	H-2 貯藏穴	須恵器 甕	① 13.0 ② 3.6 ③ 8.1	④胎柱 ⑤良好 ⑥暗灰青色 ⑦9/10	輪郭整形。口縁・底部：外傾からやや外反、内・外面削で下位部 圓盤形削り。底部：外部に削り出し高台、内面削で、外頭削削 り切り後削り。	61	
7-7	H-2 貯藏穴	須恵器 甕	①[11.2] ② 3.8 ③ [7.5]	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦3/4	口縁部：やく外傾気味、内・外面削で。底部：下部削削り。底部： 底部：平底丸底。内耳有無。	106	はか
7-8	H-3 遺棄	土器部 甕	①[21.0] ②(15.0)	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦底部欠損	口縁：直立から外傾、内・外面削で。底部：上位に膨らみをもち、内面 削で外頭削削りの割りり。中底以下欠損。	8	はか
7-9	H-3 床直	カワラケ 甕	① 9.7 ② 2.1 ③ 4.2	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦4/5	輪郭整形。口縁・底部：外傾からやや外反、外・内面削で。底部： 内面削で、外頭削削り。	30	楳化焰
7-10	H-6 土覆土 甕	土器部 甕	①[12.2] ② 4.1 ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦2/5	口縁部：外傾、内・外面削で、指圧痕。底部：上位に膨らみをもち、内 面削で、外頭削削り。		
7-11	H-6 土覆土 甕	土器部 甕	① 24.8 ② 32.0	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦1/2	口縁部：外傾、内・外面削で。底部：上位に膨らみをもち、内 面削で、外頭削削り。	4	
7-12	H-7 床直	土器部 甕	①[13.6] ② 2.9 ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦1/2	口縁部：やく外傾、内・外面削で、底部：内面削で、外頭削削り。 底部：平底、内面削で、外頭削削り。	16	
7-13	H-7 甕	土器部 甕	① 12.1 ② 3.0 ③ -	④胎柱 ⑤良好 ⑥にばは ⑦完形	口縁部：やく外傾、内・外面削で。底部：内面削で、外頭削削り。底部： 丸底、内面削で、外頭削削り。	17	

番 号	出土遺構 層 位	器種名	①口径 ②底径	①胎土 ②燒成 ③色調 ④透光度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
7-14	H - 7 底 盤	土師器 蓋	①[15.2] ② (9.9) ③ -	①中粒 ②良好 ③橙色 ④口部一部 ⑤褐色 ⑥刷 - 部底欠損	口縁部：外反、内・外面撫で。胴部：上位に膨らみをもち器最大径。 内面撫で、外面部斜め割れ。	18	
7-15	H - 7 底 直 底	土師器 蓋	①[26.0] ②(16.0) ③ -	①中粒 ②良好 ③橙色 ④刷 - 部底欠損	口縁部：器最大径、大きく外傾、内・外面撫で、上部に眉毛目。胴部： 内面撫で、外面部斜め割れ。中位以下欠損。	19	
7-16	H - 7 底 直 底	肌窓器 蓋	① 13.0 ② 22 ④(4.8)み	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④透形	輪郭整型。天井部：水平、外面窓割り。体部：穂やかに傾斜。内面 撫で、外面部斜め割れ。底状の溝を付す。	20	
7-17	H - 8 底 直 底	土師器 环	① 15.0 ② 44 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	口縁部：やや外傾、内面撫で、外面窓割り。体部：内面撫で、外面 窓割り。底部：平底、内面撫で、外面窓割り。	17ほか	
7-18	H - 8 底 直 底	須窓器 环	①[11.7] ② [36] ③ [65]	①細粒 ②良好 ③灰色 ④透形	輪郭整型。口縫・体部：外傾から口縁窓部や外反、内・外面撫で。 底部：内面撫で、外面部斜め割れ。	9	
7-19	H - 9 底 直 底	土師器 环	① 13.2 ② 33 ③ 4.5	①細粒 ②良好 ③橙色 ④透形	口縁部：やや外傾、内・外面撫で、体部：内面撫で、外面部窓割り。底部： 丸底、内面撫で、外面部窓割り。	69ほか	
7-20	H - 9 底 直 底	土師器 环	① 13.3 ② 31 ③ 2.3	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	口縫・体部：やや外傾、内・外面撫で、外面部窓割り。底部：平底、内面撫 で、外面部窓割り。	78ほか	
7-21	H - 9 底 直 底	土師器 环	①[16.1] ② (2.3) ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	口縫・体部：内・外面撫で。底部：ほぼ平底、内面撫で、外 面部窓割り。		
7-22	H - 9 底 直 底	須窓器 环	① 13.1 ② 39 ③ 9.7	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	輪郭整型。口縫・体部：やや外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外 面部斜め割れ。	71ほか	酸化焰
7-23	H - 9 底 直 底	須窓器 环	①[12.6] ② 39 ③ 9.3	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④透形	輪郭整型。口縫・体部：外傾、内・外面撫で、底部：内面撫で、尾 で起こして走る輪郭。	79ほか	酸化焰
7-24	H - 10 底 直 底	土師器 环	① 11.3 ② 32 ③ 2.1・欠損あり	①細粒 ②良好 ③褐色 ④口縫欠損有り	口縫・体部：外傾から口縫窓部で内傾、外面部窓割り、内面撫で。底部： 丸底、内面撫で、外面部窓割り。	25ほか	
7-25	H - 10 底 直 底	土師器 环	① 13.4 ② 42 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	口縫・体部：外傾から口縫部で内傾、外面部窓割り、内面撫で。底部： 丸底、内面撫で、外面部窓割り。	27ほか	
7-26	H - 10 底 直 底	土師器 环	① 11.3 ② 30 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	口縫・体部：外傾から口縫部で内傾、外面部窓割り。内面撫で。底部： 丸底、内面撫で、外面部窓割り。	40ほか	
7-27	H - 10 底 直 底	土師器 环	① 15.3 ② 52 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	口縫・体部：外傾から口縫窓部で内傾、外面部窓割り、内面撫で。底部： 丸底、内面撫で、外面部窓割り。	44ほか	
7-28	H - 10 底 直 底	土師器 环	① 11.5 ② 34 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	口縫・体部：外傾から口縫窓部で内傾、外面部窓割り、内面撫で。底部： 丸底、内面撫で、外面部窓割り。	26ほか	
7-29	H - 10 底 直 底	土師器 环	① 10.0 ② 39 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④1/2缺	口縫部：外傾からやや直立、内面撫で、外面部窓割り。体部：内面撫 で、外面部窓割り。底部：丸底、内面撫で、外面部窓割り。	2ほか	
7-30	H - 10 底 直 底	土師器 环	① 11.4 ② 34 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	口縫・体部：外傾から口縫窓部で内傾、外面部窓割り、内面撫で後 部で直立。底部：浅い丸底、内面撫で、外面部窓割り。	3ほか	
7-31	H - 10 底 直 底	土師器 环	①[12.3] ② 33 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	口縫・体部：外傾から口縫窓部で直立、外面部窓割り、内面撫で。底部： 浅い丸底、内面撫で、内面窓割り。	1ほか	
7-32	H - 10 底 直 底 長削根	土師器 环	①[24.0] ② 35.3 ③ -	①細粒 ②良好 ③にぶい 褐色 ④3/4	口縫部：器最大径、大きく外傾、内・外面撫で。底部：内面撫 で、外面部斜め割れ。	33ほか	
7-33	H - 10 底 直 底	須窓器 环	①[8.5] ② 56 ③ 18.2	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④透形	輪郭整型。天井部：水平。体部：穂やかに傾斜。垂直折れる口縫鋸 筋、内面撫で、口縫部直角。ボタン状の溝を付す。	16ほか	
7-34	W - 1 底 直 底	須窓器 环	① 13.0 ② 42 ③ 8.0	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④透形	輪郭整型。口縫・体部：外傾、内・外面窓割れ。底部：内面撫で、 外面部窓割り。	113ほか	
7-35	D - 3 底 直 底	須窓器 环	①[12.4] ② 41 ③ 7.6	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④透形	輪郭整型。口縫・体部：外傾、内・外面窓割れ。底部：内面撫で、外 面部窓割り。		
7-36	D - 3 底 直 底 長削根	須窓器 环	① (8.0) ② 229 ③ 5.0	①細粒 ②良好 ③明褐窓 ④1/2欠	まとめ「3 壺 Gについて」にて観察。	613	花瓶か
7-37	D - 3 底 直 底 長削根	須窓器 环	① - ② 157.7 ③ 5.9	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④1/2以上欠損	まとめ「3 壺 Gについて」にて観察。	612	花瓶か
7-38	D - 3 底 直 底 短削根	須窓器 环	① 6.5 ② 87 ③ 7.4	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④刷一部・脚1/2欠	まとめ「3 壺 Gについて」にて観察。	370	蓋

9区

番 号	出土遺構 層 位	器種名	①口径 ②底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④透光度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
9-1	H - 1 底 直 底	土師器 环	①[14.0] ② 4.1 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形	口縫部：やや外反、内・外面撫で、交換点に後有。底部：丸底、内 面撫で、外面部窓割り。		
9-2	H - 1 底 直 底	土師器 环	①[11.5] ② 30 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形 ④にぶい 橙 ⑤1/3	口縫部：やや内傾、内外面撫で。底部：ほぼ平底。内面撫で、外 面部窓割り。		
9-3	H - 1 底 直 底 小便	土師器 环	①[18.4] ② (9.8) ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形 ④にぶい 橙 ⑤1/3	口縫部：直立からやや外反。底部：内面撫で。上部傾斜、下部平坦化。 底部：欠損。		
9-4	H - 2 底 直 底	土師器 环	① 13.4 ② 30 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形 ⑤褐色 ④/5	口縫部：外傾、内外面撫で。交換点に後有。底部：浅い丸底。内 面撫で、外面部窓割り。	X69 Y163	糠と燒成
9-5	H - 3 底 直 底	土師器 环	① 14.9 ② 4.3 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形 ④にぶい 橙 ⑤4/5	口縫部：外傾、内外面撫で後溶みを出す。外面部窓割。底部：平底。 内面撫で、外面部窓割り。	9, 28ほか	暗文
9-6	H - 3 底 直 底	土師器 环	① 14.8 ② 4.0 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形 ④にぶい 橙 ⑤2/3	口縫部：直立からやや内傾。内外面撫で。底部：ほぼ平底。内面 撫で、外面部窓割り。	19	
9-7	H - 3 底 直 底	土師器 环	① 12.7 ② 34 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形 ④にぶい 橙 ⑤4/5	口縫部：やや直立。内外面撫で。底部：やや丸底。内面撫で、外 面部窓割り。	20	
9-8	H - 3 底 直 底	土師器 环	①[14.0] ② 34 ③ -	①細粒 ②良好 ③褐色 ④透形 ④にぶい 橙 ⑤1/2	口縫部：やや外傾、内外面撫で。底部：ほぼ平底。内面撫で、外 面部窓割り。	23地	
9-9	H - 3 底 直 底	土師器 蓋	① - ② (7.2) ③ 7.6	①細粒 ②良好 ③にぶい 橙 ④底部	口縫部：刷・脚部上位：欠損。脚部下位：内面撫で。外面部斜 め割り。底部：内面撫で、外面部窓割り。	26地	
9-10	H - 3 底 直 底	土師器 蓋	① - ② (14.6) ③ 10.8	①細粒 ②良好 ③にぶい 黄橙 ④底部	口縫部：刷・脚部上位：欠損。脚部下位：内面撫で。外面部斜 め割り。底部：内面撫で、外面部窓割り。	29地	

番号	出土遺物 層	器種名	①口径 ②底径	③器高 ④色調 ⑤存度	器種の特徴・形態・調整技術	登録番号	備考
9-11	H - 3 覆土	須恵器 环	①15.1 ②10.8	③2.3 ④灰 ⑤良形	輪縁整形。口縁・体部: やや膨らみを持ちながら外縁。口縁部や外反・内外面横擴張で。底部: 内面に崩れ出し高台を付す。内面撫で、外面部崩れで調整。	17	
9-12	H - 3 覆土	須恵器 环	①[12.9] ②7.8	③3.6 ④灰 ⑤3/4	輪縁整形。口縁・体部: 外縁・内・外外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部崩れ切り無しで調整。	24	
9-13	H - 3 床直	須恵器 环	①13.4 ②10.0	③2.2 ④灰白 ⑤良形	輪縁整形。口縁・体部: 外縁・内・外外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部崩れ崩壊。	18	
9-14	H - 4 床直	土師器 环	①[12.1] ②3.0	③2.8 ④灰 ⑤1/2	口縁部: やや内傾。内外面横擴張で。体部: 外縁。内面撫で、外面部崩れ。底部: やや丸底。内面撫で、外面部崩壊。	4.5他	
9-15	H - 4 床直	土師器 环	①[20.4] ②3.7	③4.0 ④灰 ⑤-	口縁部: 外縁。内面横撫で、外面部横擴張で後唇削り。胴部・底部: 欠損。 ⑤にふく・覗 ④口縁碎片	2他	
9-16	H - 5 床直	須恵器 环	①[12.8] ②5.8	③3.9 ④灰白 ⑤1/4	輪縁整形。口縁・体部: やや膨らみを持ちながら外縁。内外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部横拡張で。外縁削り未測定。	1	
9-17	H - 5 床直	土師器 环	①12.6 ②3.0	③2.8 ④灰 ⑤-	口縁部: やや内傾。内面横撫で。外面部崩壊。交換点に崩壊。底部: 丸底。内面撫で、外面部崩壊。	4.9, 13	
9-18	H - 6 覆土	土師器 环	①15.0 ②[11.3]	③2.6 ④灰 ⑤-	口縁部: 直立から外反。内外面横擴張で。胴部: 上位がやや膨らみを持す。内面撫で、外面部の覗削り。底部: 大崩壊。	W - 3 覆土	
9-19	H - 6 覆土	須恵器 高台輪	①[14.3] ②6.5	③4.6 ④灰 ⑤2/3	輪縁整形。口縁・体部: 外縁からややえ込みを帯びて口縁部やや外反・内・外外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部横拡張切り抜き付。	4	外面部横拡張成
9-20	H - 6 覆土	須恵器 高台輪	①[17.2] ②7.2	③7.4 ④灰 ⑤1/2	輪縁整形。口縁・体部: やや膨らみを持ちながら外縁。内外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部横拡張未切り未測定。	5	
9-21	H - 7 床直	須恵器 高台輪	①[12.8] ②[6.3]	③4.7 ④灰 ⑤1/4	輪縁整形。口縁・体部: 外縁からややえ込みを帯びて口縁部やや外反・内・外外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部横拡張切り抜き付高台。	5	燒成
9-22	H - 9 覆土	土師器 环	①11.0 ②3.0	③3.3 ④灰 ⑤-	口縁部: 狹く内傾。内外面横擴張で。底部: やや丸底。内面撫で、外面部崩削。	8,9他	内黒
9-23	H - 9 覆土	土師器 环	①15.5 ②10.0	③4.6 ④灰 ⑤4/5	口縁部: 狹く内傾。内外面横擴張で。底部: 外縁。内面横撫で後唇文を始す・外面部崩削。底部: 丸底。内面撫で後唇文を施す。外面部崩削。	3他	
9-24	H - 9 床直	土師器 环	①[13.5] ②3.7	③4.7 ④灰 ⑤1/3	口縁部: 狹く内傾しやや外反。内面横撫で・外面部横擴張で・肥削り。体部: 外縁。内面横撫で横縞文を施す・外面部崩削。底部: やや丸底。内面撫で、外面部崩削。	52	
9-25	H - 9 覆土	土師器 环	①[10.6] ②3.1	③4.6 ④灰 ⑤-	口縁部: 狹く内傾。内外面横擴張で。底部: 外縁。内面横撫で後唇文を始す・外面部崩削。底部: 丸底。内面撫で、外面部崩削。	13,17	
9-26	H - 9 覆土	土師器 环	①[20.7] ②9.3	③4.7 ④灰 ⑤-	口縁部: やや直立から丸く外反。内外面横擴張で。底部: ほほ直立。内面撫で、外面部崩削で。底部: 欠損。	4他	
9-27	H - 9 覆土	土師器 环	①[23.6] ②5.1	③4.9 ④灰 ⑤-	口縁部: やや直立から外反。内面横撫で。胴部・底部: 欠損。		
9-28	H - 9 覆土	土師器 环	①[21.6] ②5.7	③4.6 ④灰 ⑤-	口縁部: 直立から大きく述べ。内外面横擴張で。底部: 欠損。		
9-29	H - 9 覆土	土師器 环	①[26.6] ②6.2	③4.6 ④灰 ⑤-	口縁部: 直立から大きく述べ。内外面横撫で。底部: 欠損。		
9-30	H - 9 覆土	須恵器 环	①[14.6] ②6.7	③4.6 ④灰 ⑤-	輪縁整形。口縁部: やや直立から外反。内・外外面横擴張で。胴部・底部: 欠損。	5	
9-31	H - 11 床直	土師器 环	①[12.0] ②3.0	③3.4 ④灰 ⑤-	口縁部: 狹く内傾。内外面横撫で。底部: 丸底。内面撫で、外面部横擴張で。底部: 欠損。	1,4	
9-32	H - 11 覆土	土師器 环	①[16.3] ②3.2	③3.2 ④灰 ⑤-	口縁部: 狹く内傾。内外面横撫で。底部: 丸底。内面撫で、外面部横撫り。	7	
9-33	H - 11 床直	土師器 环	①13.3 ②2.0	③4.1 ④- ⑤良形	口縁部: 狹く内傾。内面横撫で、外面部横撫で、崩削り。体部: 外縁。内面横撫で、外面部崩削り。底部: やや丸底。内面撫で、外面部崩削。	11	
9-34	H - 11 床直	土師器 环	①[12.3] ②3.0	③3.0 ④灰 ⑤-	口縁部: 狹く内傾。内面横撫で、外面部横撫で、崩削り。体部: 外縁。内面横撫で、外面部崩削り。底部: やや丸底。内面撫で、外面部崩削。	3他	
9-35	H - 11 覆土	土師器 环	①[12.3] ②2.9	③3.0 ④灰 ⑤-	口縁部: 狹く内傾。内面横撫で、外面部横撫で、崩削り。体部: 外縁。内面横撫で、外面部崩削り。底部: やや丸底。内面撫で、外面部崩削。		
9-36	H - 11 覆土	土師器 环	①- ②5.4	③4.7 ④灰 ⑤-	口縁部: 前部上中位: 欠損。前部下位: 内面撫で、外面部斜に丸削り。底部: 内面撫で、外面部崩削り。底部: 欠損。		
9-37	H - 11 床直	土師器 环	①[23.4] ②12.5	③4.0 ④灰 ⑤-	口縁部: やや直立から大きく述べ。内外面横撫で。底部: 内面横撫で、外面部斜に丸削り。底部: 欠損。	10,15	
9-38	H - 11 覆土	須恵器 高台輪	①18.0 ②14.1	②5.6 ④灰 ⑤3/4	輪縁整形。口縁・体部: やや膨らみを持ちながら外縁。口縁部や外反・内外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部横拡張切り抜き後未測定。	17	
9-39	W - 1 覆土	土師器 环	①[11.8] ②4.2	③4.2 ④灰 ⑤-	口縁部: やや外縁。内面横撫で、外面部横撫で。底部: やや丸底。内面撫で、外面部崩削り。		
9-40	W - 1 覆土	土師器 环	①[24.0] ②9.9	③4.0 ④灰 ⑤-	口縁部: 直立から大きく述べ。内外面横撫で。底部: 内面横撫で、外面部横拡張切り抜き後未測定。		
9-41	W - 1 天日茶碗 灰	土師器 环	①[11.8] ②4.0	③6.7 ④灰 ⑤-	輪縁整形。口縁・体部: やや膨らみを持ちながら外縁。口縁部や外反・内外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部横拡張切り抜き後未測定。	1	燒成焰
9-42	W - 2 床直	須恵器 环	①11.6 ②6.0	③3.3 ④灰 ⑤良形	輪縁整形。口縁・体部: やや膨らみを持ちながら外縁。内・外外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部横拡張切り抜き調整。		
9-43	W - 2 覆土	須恵器 环	①10.8 ②5.6	③3.3 ④灰 ⑤3/4	輪縁整形。口縁・体部: 外縁・内・外・内外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部横拡張切り抜き後未測定。	4	燒成焰
9-44	W - 3 覆土	須恵器 环	①[11.0] ②5.2	③3.4 ④灰 ⑤1/2	輪縁整形。口縁・体部: やや膨らみを持ちながら外縁。内・外外面横擴張で。底部: 内面撫で、外面部横拡張切り抜き後未測定。		

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦造作度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
9-45	W - 3 覆土	瓶底器 坏	①[108] ② 35 ③[55]	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰黄 ⑦1/3	輪轉整形。口縁・体部・外縁、内・外面輪轉施で。底部：内面撫で、外面回転系切り後で調整。		酸化焰
9-46	D - 1 覆土	瓶底器 坏	① 125 ② 38 ③ 62	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦は充形	輪轉整形。口縁・体部・やや膨らみを持って口縁部や外縁。底部：内面撫で、外面回転系切り後で調整。意図的に体部一部を破損させたか？	1	酸化焰

10区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦造作度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
10-1	P - 18 覆土	瓶底器 坏	① - ② [61] ③ -	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ -	輪轉整形。口縁部：やや内縁、内外面輪轉施で。底部：断面三角形ではほぼ水平に付く。		酸化焰

11区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦造作度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
II-1	H - 2 窓内	土間器 坏	①[134] ② 35 ③ -	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦造作度	口縁・体部・やや膨らみを持って直立。内面撫で後、指揮で、外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面塑形り。		カマゾ
II-2	H - 2 窓底	土間器 坏	①[201] ② [58]	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ -	口縁部・外縁・内面撫で、胴部：内面撫で、外面塑形り。ほとんどが欠損。底部欠損。	4	
II-3	H - 3 床底	瓶底器 坏	① [66] ② 30 ③ 42	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ -	輪轉整形。口縁・体部・外縁から外反。内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転系切り後調整。	2	酸化焰
II-4	H - 3 床底	瓶底器 坏	①[111] ② 35	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ -	輪轉整形。口縁・体部・やや膨らみを持って外縁、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転系切り後調整。	17	酸化焰
II-5	H - 3 床底	瓶底器 坏	① 186 ② [57]	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ -	輪轉整形。口縁部・やや外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外縁、内面撫で。底部欠損。	28	酸化焰
II-6	H - 3 覆土	瓶底器 坏	①[132] ② [37] ③ [59]	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ -	輪轉整形。口縁部・外反、外面撫で。体部・膨らみを持って外縁、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転系切り後、付け高台、窓台・高台欠損。	10	酸化焰
II-7	H - 3 床底	瓶底器 坏	① 124 ② 49	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ -	輪轉整形。口縁部・やや外反、内外面撫で。体部・膨らみを持って外縁、内面撫で。底部：回転系切り後、付け高台、窓・窓枠欠損。	13	酸化焰
II-8	H - 3 床底	瓶底器 高台柄	①[138] ② 58 ③ 54	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ -	輪轉整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部・外縁・内外面撫で。高台の場合は各面欠損り、瓶底・内面撫で、外面回転系切り後、付け高台、外縁に口縁部から底部までかけてぶついた痕があり、高台が変形している。	20	酸化焰
II-9	H - 3 床底	瓶底器 高台柄	①[130] ② 39 ③ [62]	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 1/2	輪轉整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外縁、内面撫で。底部：内面撫で、外面回転系切り後、付け高台、窓・窓枠欠損で調整。	24	酸化焰
II-10	H - 3 床底	瓶底器 高台底	①[126] ② 23	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰白 ⑦ 1/2	輪轉整形。口縁部・やや外反、内外面撫で。体部・やや膨らみを持って外縁、内面撫で。底部：内面撫で、外面塑形り後、付け高台、窓・窓枠欠損。釉薬は剥がれ。	9	
II-11	H - 4 覆土	瓶底器 窓	①[138] ② 24 ③ 52(接合)	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 1/2	輪轉整形。天井部：水平から稍低し、瓶底部下、内面撫で、外面回転系切り後、小さな環状の挿入部を付けている。	7	
II-12	H - 4 床底	瓶底器 坏	①[138] ② 35	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 1/6	輪轉整形。口縁・体部・外縁、内外面撫で。底部：内面撫で、外面塑形り後、付け高台、窓・窓枠欠損。	17	
II-13	H - 4 床底	瓶底器 坏	① 142 ② 40	④中粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 5/6	輪轉整形。口縁部・やや外反、内面撫で。体部・やや膨らみを持って外縁、内面撫で。底部：内面撫で、外面回転系切り後、窓で調整。全体が窓に並んでる。	24	
II-14	H - 4 覆土	瓶底器 坏	① 146 ② 39	④中粒 ⑤良好 ⑥灰 黄 ⑦ 3/4	輪轉整形。口縁部・外反、体部・やや膨らみを持って外縁、下部にも膨らみ有り、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転系切り後、窓で調整。	27	酸化焰
II-15	H - 4 床底	瓶底器 坏	① 134 ② 35	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 2/3	輪轉整形。口縁部・やや外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外縁、内面撫で。窓部：内面撫で、外面回転系切り後、外周部分のみ調整。	1, 3, 12	
II-16	H - 4 床底	瓶底器 坏	① 138 ② 41	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰白 ⑦ 4/5	輪轉整形。口縁部・外縁、内外面撫で。体部・やや膨らみを持って外縁、内面撫で。底部：内面撫で、外面回転系切り後、窓で調整。	22, 23	
II-17	H - 4 床底	瓶底器 坏	①[134] ② 44	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 1/2	輪轉整形。口縁部・外縁、内外面撫で。体部：外縁、内面撫で。外面上部撫で、外下面下部に膨らみが有り窓面り。底部：回転系切り後、窓で調整。	D - 2 1	
II-18	H - 4 覆土	瓶底器 窓	① 137 ② 38	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 2/3	輪轉整形。口縁・体部・外縁、内外面撫で。底部：回転系切り後。		
II-19	H - 4 覆土	瓶底器 窓	①[126] ② 35	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 1/2	輪轉整形。口縁・体部・外縁、内外面撫で、下部に窓面り。底部：内面撫で、外面回転系切り、外縁のみ窓面り。	32, 33	
II-20	H - 4 覆土	瓶底器 窓	①[121] ② 45	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 1/4	輪轉整形。口縁部・外縁、内外面撫で。体部・やや膨らみを持って外縁、内面撫で。底部：内面撫で、外面回転系切り後付け高台。	14	酸化焰
II-21	H - 4 床底	瓶底器 窓	①[111] ② 42	④中粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 1/2	輪轉整形。口縁・外縁、内外面撫で。体部・やや膨らみを持って外縁、内面撫で。底部：回転系切り後付け窓台、窓で調整。		
II-22	H - 4 覆土	灰被陶器 窓	①[136] ② 21	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰白 ⑦ 1/3	輪轉整形。口縁・体部・やや膨らみを持って外縁、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転系切り後、付け高台。釉薬は剥がれ。		
II-23	井探覆土	土器	①[128] ② 34	④胎粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦ 1/3	口縁部・外縁、内面下部に付ける、内外面撫で。体部・外縁、内面撫で、外面塑形り。放射状孔有り。		暗文

注) ① 窓位は、「床底」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。窓内の検出については「窓内」と記載した。

② 口径、器高の単位はcmである。現存値を〔 〕、復元値を〔 〕で示した。

③ 胎土は、粗粒（0.9mm以下）、中粒（1.0~1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な胎土が入る場合に胎土名等を記載した。

④ 焼成は、良品・良好・不良の三段階とした。

Tab.7 石器・石製品観察表

3区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
3-石1	H-4 覆土	砾石	8.0	4.5	9.0	260g	安山岩	片側小口残		表面中央使用により凹む。
3-石2	H-6 床直	砾石	14.0	6.4	4.0	730g	安山岩	完形	S-1	断面斜円形。片面被熱痕。
3-石3	H-6 床直	砾石	13.6	6.2	4.0	720g	安山岩	一部剥落	S-5	器面剥離。断面斜円形。傾面剥離。
3-石4	H-6 床直	砾石	12.7	4.8	2.3	350g	安山岩	完形	S-18	被熱により黒ずみ。断面斜円形。
3-石5	H-6 床上	砾石	13.9	4.1	3.3	350g	安山岩	完形	S-4	被熱により黒ずみ。断面斜円形。
3-石6	H-6 床直	砾石	17.3	5.3	3.3	610g	安山岩	一部剥落	S-12	被熱により器面隙。断面斜円形。
3-石7	H-6 床直	砾石	17.5	5.9	4.5	820g	安山岩	完形	S-7	片面被熱痕。断面方形状。
3-石8	H-6 床上	砾石	17.7	4.7	4.4	660g	安山岩	完形	S-2	断面方形状。
3-石9	H-6 床直	砾石	17.6	5.8	3.8	740g	安山岩	完形	S-10	断面方形状。
3-石10	H-6 床直	砾石	15.2	6.7	3.8	610g	安山岩	完形	S-8	器面擦れ痕。断面長円形。
3-石11	H-6 床上	砾石	14.4	6.9	3.7	670g	安山岩	完形	S-3	一部被熱。断面方形状。
3-石12	H-6 床直	砾石	14.8	5.5	5.0	670g	安山岩	大半剥落	S-9	器面剥落顕著。断面横円形か。
3-石13	H-6 床上	砾石	16.0	6.4	4.9	860g	安山岩	完形	S-6	被熱により黒ずみ。断面横円形。
3-石14	H-6 床直	砾石	17.0	5.9	4.7	800g	安山岩	完形	S-19	器面剥離。断面斜円形。
3-石15	H-6 床直	砾石	8.7	4.9	4.7	280g	安山岩	1/2程度	S-20	被熱顕著。器面剥落。断面三角形。
3-石16	H-6 床直	磨り石	5.6	4.5	3.9	150g	安山岩	完形	S-15	円形状。器面滑らか。
3-石17	H-6 床直	石？	16.7	10.5	7.9	2410g	安山岩	1/3程度か	S-13	大形块。器面滑らか。
3-石18	H-6 端材	窓天井石	34.2	13.3	11.0	3200g	凝灰岩	ほぼ完形		器面斜状の加工痕顕著。
3-石19	H-6 床直	砾石	27.6	13.1	7.9	3280g	安山岩	小口面欠	S-21	器面研削痕顕著。7面に使用痕。
3-石20	H-9 床直	砾石	14.4	7.5	5.1	850g	安山岩	完形	14	小口面敲痕。断面斜円形。
3-石21	H-9 床直	砾石	12.9	8.6	3.7	680g	安山岩	片側小口欠	15	器面扁平。断面斜円形。
3-石22	H-9 床直	砾石	18.3	8.9	5.4	1350g	安山岩	完形	9	断面斜円形。
3-石23	H-9 床直	砾石	18.6	7.5	4.2	900g	安山岩	完形	11	片側面被熱で剥離。断面斜円形。
3-石24	H-9 床直	砾石	14.3	5.6	5.1	820g	安山岩	完形	13	断面不整斜円形状。
3-石25	H-9 床直	砾石	14.0	7.7	4.8	730g	安山岩	片側小口欠	12	断面三角形。
3-石26	H-9 P内	砾石	14.5	6.2	3.2	680g	安山岩	完形	P内	断面方形状。
3-石27	H-9 床直	砾石	15.3	6.0	4.1	780g	安山岩	完形	10	断面方形状。
3-石28	H-10 床直	石？	15.7	15.7	7.5	1330g	安山岩		66	孔径8.5×深さ2.6mm 斜面加工痕。
3-石29	H-10 床直	石？	17.5	13.2	8.8	1175g	安山岩		64	孔径10.0×8.0mm孔径5.9
3-石30	H-10 床直	石？	19.6	14.3	14.6	2940g	安山岩		69	孔径10.2×8.3

5区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
5-石1	H-3	石鏟	3.8	1.8	0.8	1.3	黒曜石	ほぼ完形		
5-石2	H-6	石斧	4.2	8.3	1.2	40.0	黒色安山岩	完形		
5-石3	D-3	打製石斧	18.3	9.6	3.1	580.0	頁岩	完形		
5-石4	D-3	打製石斧	7.1	6	1.7	80.0	黑色頁岩	完形		

9区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
9-石1	W-1 覆土	石臼	(10.6)	(10.7)	(7.6)	2360.0	安山岩	破片		
9-石2	W-1 覆土	板碑	(30.0)	(10.9)	(2.9)	1450.0	緑色片岩	破片		

11区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備考
11-石1	H-3 覆土	砾石	3	7.7	1.8	60.0	流紋岩	完形	18	
11-石2	H-3 覆土	石製拂拂草	4.6	4.6	1.35	40.0	滑石	完形	30	
11-石3	H-4 覆土	砾石	4.1	3.8	1.7	40.0	流紋岩	完形		
11-石4	H-4 覆土	砾石	15	3.5	2.5	220.0	難燃珪質	ほぼ完形		

注) ① 層位は、「床直」: 床面より10cm以内の層位から検出。「覆土」: 床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。

② 最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab. 8 鉄器・鉄製品観察表

1区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
1-鉄1	W-2 覆土	刀子	(6.2)	1.6	0.4	2.6	破片	3	
1-鉄2	W-2 覆土	刀子	10.0	1.4	1.0	5.2	破片	3	
1-鉄3	W-2 覆土	釘	10.6	0.8	0.6	6.4	ほぼ完形	8	
1-鉄4	グリッド 覆土	刀子	14.6	1.2	0.6	5.8	2/3	62	
1-鉄5	グリッド 覆土	不明	4.0	3.2	0.6	2.7	ほぼ完形	63	

2区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
2-鉄1	H-3 覆土	釘	(8.8)	0.4	0.3	6.3	1/3	39	
2-鉄2	H-6 床直	釘?	(15.8)	0.9	0.7	38	ほぼ完形	1	

5区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
5-鉄1	H-3 覆土	鍔	22.0	8.0	0.6	37	完形		
5-鉄2	H-5 覆土	刀子	(11.1)	1.4	0.6	11.8	不明		

6区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
6-鉄1	H-1 覆土	不明	(22.0)	0.5	0.7	31.8	ほぼ完形		
6-鉄2	H-7 覆土	釘?	(7.0)	0.9	0.4	12	1/2		
6-鉄3	H-7 覆土	不明	(3.1)	1.7	0.5	11.8	1/3		
6-鉄4	I-2 覆土	不明	(3.7)	1.4	1.2	7.4	鍔片		付着物あり
6-鉄5	O-1 覆土	刀子	(4.4)	1.9	0.2	14.4	1/2		

7区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
7-鉄1	X70 Y96 覆土	釘?	(7.0)	0.4	0.5	7.8	ほぼ完形		

9区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
9-鉄1	H-7 床直	釘?	(6.5)	0.5	0.6	12.6	2/3	6	
9-鉄2	H-7 床直	釘?	(4.8)	0.5	0.6	7.6	1/3		
9-鉄3	D-7 覆土	鉄頭	(7.8)	3.1	0.5	19.2	ほぼ完形		
9-鉄4	D-1 覆土	鉄錐	(6.8)	2.2	0.5	15.6	ほぼ完形		
9-鉄5	D-1 覆土	釘?	(5.2)	0.8	0.2	1.9	2/3		
9-鉄6	D-B-1 覆土	刀	31.8	2.7	0.7	160	完形	1	
9-鉄7	表揮 覆土	刀子	(5.9)	1.0	0.4	11.6	1/3		

10区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
10-鉄1	表揮 覆土	不明	(9.4)	1.2	0.5	31.2	2/3		
10-鉄2	表揮 覆土	不明	(5.5)	1.9	1.2	35.2	破片		

11区

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
11-鉄1	H-3 覆土	釘	27.5	3.8	0.9	31.8	ほぼ完形	5	
11-鉄2	H-3 覆土	釘	13.2	1.4	1.2	12.4	ほぼ完形		
11-鉄3	H-4 覆土	刀子	(9.7)	2.8	0.3	9.1	破片		
11-鉄4	H-4 覆土	鉄尾	2.2	2.3	0.3	4.1	1/2	31	

注) ① 層位は、「床直」: 床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。

② 最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab. 9 土製品・銅鏡観察表

番号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
5-土1	X39 Y165 覆土	耳飾	4.3	4.3	1.0		ほぼ完形		
9-鏡1	W-1 覆土	古鏡	名称	不明					
9-鏡2	W-1 覆土	古鏡	名称	不明					
11-鏡1	X46 Y164 覆土	古鏡	名称	不明					

Tab.10 瓦観察表

1区

番号	出土遺構 層位	器種名	①長さ ②厚さ ③色調 ④造作度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
I-瓦1	H-1 窓内	丸瓦	①37.5 ②23 ③灰 ④定形	玉縁式。凹面：布目有り。布袋の継ぎ目有り。凸面：側面を削り削す。側面：圓取り2回。竈構築材に使用。	カマド17	
I-瓦2	H-1 窓内	丸瓦	①38.0 ②20 ③灰 ④1/2	行基式。凹面：布目有り。粘土板の継ぎ目を指削りで削している。凸面：糊叩き後、無で。側面：側面2回。竈構築材に使用。	カマド15	
I-瓦3	H-1 窓内	丸瓦	①25.0 ②23 ③黄 ④破片	行基式。凹面：布目有り。布袋の継ぎ目有り。部分的に無で。凸面：削で。粘土板の継ぎ目有り。側面：圓取り2回。竈構築材に使用。		

2区

番号	出土遺構 層位	器種名	①長さ ②厚さ ③色調 ④造作度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
2-瓦1	H-3 窓内	平瓦	①(19.5) ②24 ③青灰 ④破片	凹面：布目有り。横骨張と思われる模有り。凸面：叩き目有り。側面：圓取り1回。	43	
2-瓦2	H-3 床直	平瓦	①(16.0) ②26 ③にぶい ④破片	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で。付着する。側面：圓取り2回。	9	
2-瓦3	H-3 床直	平瓦	①(12.3) ②25 ③にぶい ④黄 ⑤破片	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で後に斜位の叩き目か？側面：圓取り2回。	28	
2-瓦4	H-6 床直	平瓦	①(9.0) ②15 ③灰 ④破片	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で。側面：圓取り2回。	63	

7区

番号	出土遺構 層位	器種名	①長さ ②厚さ ③色調 ④造作度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
7-瓦1	D-3 覆土	軒丸瓦	①(17.4) ②19 ③暗紅色 ④1/2	内区：三重弁五瓣瓦草紋（瓦葉半升蓮華文瓦殿）。瓦文様は高句麗系。中房：1+4の蓮子。外区：内圈1本。凸面：撫で。側面：丸瓦部布目有り。	637	
7-瓦2	D-3 覆土	軒丸瓦	①(18.2) ②18 ③淡茶灰色 ④1/2	子葉のある二重弁。文様を隆起部によってあらわす。裏面は丸みが少ない直線的で、方向がやや不規則。中房：1+4の蓮子。瓦当表面：無鉄筋り布目有り。國分寺舍利瓦B101と同様。B-2枝法。B101の中では最も丸瓦形の打ち込みが浅い。	526	
7-瓦3	D-3 覆土	軒丸瓦	①(18.3) ②15 ③暗灰色 ④特一部欠損	内区：三重弁五瓣瓦草紋（瓦葉半升蓮華文瓦殿）。瓦文様は高句麗系。中房：1+4の蓮子。外区：内圈1本。凸面：撫で。凹面：丸瓦部布目有り。	553	
7-瓦4	D-3 覆土	軒丸瓦	①17.1 ②14 ③褐色～暗茶色 ④2/3	重弁四弁蓮華草紋軒丸瓦。中房：團頭の中に1+4の蓮子（中央の蓮子が大、他は小。瓣付は不正確）。外区：二重弁外の瓣付（瓣付は不正確）。外区：内圈1本。凹面：布目有り。凸面：撫で。瓦底：C型、打ち込みによる施組と施設される。	295	
7-瓦5	D-3 覆土	軒丸瓦	①(16.0) ②18 ③茶褐色 ④1/2	子葉のある二重弁。文様を隆起部によってあらわす。中房：1+4の蓮子。瓦当表面：撫削り。一部に削除。瓦当表面：裏部部分が大きく削られている。裏面有り。圓筒寺舍利丸瓦B101と同様。B-2枝法。	678	
7-瓦6	D-3 覆土	軒平瓦	①(15.2) ②23 ③暗褐色 ④1/2	瓦当面：極小の横筋紋。凹面：布目有り。凸面：圓取り。側面：圓取り2回。瓦傷が左端で2枚目の唐草の端から外区上部にかけて見られる。	506	
7-瓦7	D-3 覆土	軒平瓦	①(10.9) ②33 ③暗灰色 ④破片	瓦当面：極小の横筋紋。凹面：布目有り。凸面：圓取り。側面：圓取り2回。瓦が長いのでB。	623	
7-瓦8	D-3 覆土	平瓦	①(10.5) ②22 ③暗褐色 ④四割欠損	四面：布目有り。凸面：撫でし、棒仕上げ。並書きで「武子丁」文字有り。	647	
7-瓦9	D-3 覆土	丸瓦	①36.0 ②22 ③茶褐色 ④一部破損	行基式。凹面：布目有り。凸面：廣幅近くには縦の削り跡が残る。全体が軒瓦部で仕上げ。側面：圓取り2回。	681	
7-瓦10	D-3 覆土	平瓦	①(26.1) ②28 ③赤端及び右側 ④破片	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：縦に向の削り跡で左側後側で。並書きで「八日乙」文字有り。側面：圓取り2回。	315	
7-瓦11	D-3 覆土	平瓦	①24.0 ②27 ③茶褐色 ④1/3	輪の分かる瓦。種類書きアリ。凸面：網目状方向の削り、直撫で仕上げ。凹面：板状側。右側が残る。広幅側で、撫削で底有り。側面：刃物による削り落とし、圓取り2回。	545	
7-瓦12	D-10 覆土	鬼瓦	①(11.0) ②4.0 ③良好 ④破片	輪系然、東面鬼瓦の左脚瓣片。界縫が一重。叔母の取り付けと関係があると思われる突起あり。	D-10 瓦1	
7-瓦13	D-10 覆土	軒丸瓦	①(12.6) ②18 ③中脱 ④破片	單弁八瓣瓦草紋。界縫と窓状帶の間は無紋。瓦当面では連弁の中央が一番高い。折口には石英砂が多量に混ざる。巣寺E163。国分寺舍利窓連闇と考えられる。	D-10 瓦2	
7-瓦14	D-10 覆土	軒丸瓦	①(19.6) ②19 ③暗灰 ④良好 ⑤瓦当のみ	三重弁八瓣瓦草紋。中房：窓状の界縫の中に1+4の蓮子、さらに特状の傷有り。横筋き型の製作台を使用したと考えられる。瓦当表面：横位に施設有り。裏面：粗い布目。	D-10 瓦3	
7-瓦15	D-10 覆土	軒丸瓦	①(7.6) ②18 ③褐色 ④瓦当破片	僧寺三重弁八瓣瓦草紋の頸。裏面：布目、窓部剥離りだが布目残る。全体的に紋様が浅い。	D-10 瓦4	
7-瓦16	D-10 覆土	軒丸瓦	①(5.3) ②13 ③褐色 ④瓦当破片	二重弁の破片。秒糸の少ない良質の粘土が用いられる。尼寺中門出土S44第7箇目に近い。	D-10 瓦5	
7-瓦17	D-10 覆土	丸瓦	①(7.8) ②16 ③良好 ④破片	凸面：刻印。刻印羽衣形で彫り込まれた文字「蘿」有り。文字は格子目の中に組み込まれている。凹面：布目有り。國分寺舍利窓連闇と想われる。	D-10 瓦6	
7-瓦18	D-10 覆土	丸瓦	①(4.0) ②- ③良好 ④破片	凸面：記録文字「林」有り。凹面：刻離。	D-10 瓦7	

番号	出土遺構 層	器種名	①長さ ②厚さ	③鉛土・焼成 ④色調 ⑤済存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
7-JC19	D-10 覆土	平瓦	①(35) ②12	③細粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	四面：布目有り。凸面：判読不明文字有り。	D-10 瓦8	
7-JC20	D-10 覆土	平瓦	①(104) ②19	③中粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	四面：布目、凸面：撫で。記録文字「久寿」？あり。垂守にも同様な例有り。山王座守では「人舟」である。尼寺周辺では布目と思われる。	D-10 瓦9	
7-JC21	D-10 覆土	平瓦	①(77)	③細粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	作りの平瓦か？四面：回転撫で。記録文字「井」有り。側面：溝整2回、瓦作り。凸面：回転撫で。笠頭系。歎土にやや石英混じる。	D-10 瓦10	
7-JC22	D-10 覆土	平瓦	①(192) ②28	③中粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	一枚作り。四面：布目有り。凸面：無で、記録文字「八上」？判読不明あり。藤岡・吉井系と思われる。	D-10 瓦11	
7-JC23	D-10 覆土	平瓦	① ②17	③中粒 ④リーブ焼 ⑤良好 ⑥破片	四面：撫で。布目底僅かに残る。凸面：撫で。四面、側面、無面の一部に施工時の焼や溶けがアサフル付有り。	D-10 瓦13	
7-JC24	D-10 覆土	平瓦	①(82) ②21	③中粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	凹面：粗い布目。二重方形有り。种の溝は粗い形で施明。凸面：無で。側面：溝整2回。	D-10 瓦12	
7-JC25	D-13 覆土	軒丸瓦	①325 ②137	③粗粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥ほぼ完形	三重弁外四葉垂幕紋。中折、筒線の間に1+1の蓮子。外折：筒線の外側は溝整となり瓦の縁の端をす。瓦端は瓦正面の直角より小さいC形。侧面：一つに連なる2つの直角。面端部は施明。凸面：有読不明の施書き有り。穂の裏割り撫で仕上げ。瓦踏面に横跡が付帯。藤岡・吉井系。尼寺S7トレンジでも同様な瓦が出土。僧寺A16。	D-13 瓦1	
7-JC26	D-13 覆土	丸瓦	①(138) ②18	③細粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	行式式、侧面：布目有り。筒の縁の縫い目あり。凸面：撫で。側面：溝整3回。内折兼底木口から物語をいれ広腹面へ向けて分割している。	D-13 瓦2	
7-JC27	D-13 覆土	軒丸瓦	①(68) ②20	③中粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥瓦当破片	五重三弁垂幕基盤。蓮子は1+5+瓦当側面：撫で。表面：布目底が一部残る。僧寺B207A。石尖端を多く含む。	D-13 瓦3	
7-JC28	D-13 覆土	軒丸瓦	①(97) ②28	③中粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	穂を多く含む丸動土。藤岡・吉井系。僧寺A302と同様、尼寺では出土例はない。凸面：荒削りの後撫で、半迭形の記号？あり。四面：連続する布目。	D-13 瓦4	
7-JC29	D-13 覆土	軒平瓦	①(212) ②15	③細粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥瓦当破片	瓦込み抹抜法。石偏壓瓦紋。瓦上部強度。四面：余切り痕と布目底有り。凸面：撫で。僧寺P002B。	D-13 瓦5	
7-JC30	D-13 覆土	軒平瓦	①(100) ②29	③細粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥1/3	右側面唐草軒平瓦、二重一翼、11單釘の唐草。凸面：荒削り、側面に近くほど削り込まれた跡が有り。四面：一部側面の仄が付帯。僧寺P002B。	D-13 瓦6	
7-JC31	D-13 覆土	軒平瓦	①(146) ②23	③細粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥2/5	右側面唐草軒平瓦の右側面が残存。四面：布目有り。凸面：継に向て削れり。僧寺P002Bに近い。	D-13 瓦7	
7-JC32	D-13 覆土	軒平瓦	①(88) ②17	③中粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥瓦当破片	二重の界線。筋状の向き合う唐草の瓦当面。凹面：瓦当面直上まで布目。凸面：撫で。約1cm幅の木繩が横に破く。根を付けるための押き痕有り。瓦当近くは施削り。	D-13 瓦8	
7-JC33	D-13 覆土	軒平瓦	①(38) ②27	③細粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥瓦当破片	側面右偏行唐草紋P-001と同様と思われる。尼寺では諸堂罐邊確認調査で出土。僧寺P002Bと同様。	D-13 瓦9	
7-JC34	D-13 覆土	軒平瓦	①(59) ②19	③細粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥瓦当破片	穂は判読不可。凹面：瓦当部までが目。一枚作り。制作台上で瓦筋が打ち込まれた可能性有り。凸面：横撫で。	D-13 瓦10	
7-JC35	D-13 覆土	軒平瓦	①(56) ②19	③粗粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥瓦当破片	瓦筋の外側の穂片。三面：布目。凸面：撫で。	D-13 瓦11	
7-JC36	D-13 覆土	平瓦	①(165) ②19	③細粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	四面：有りあり。凸面：斜行する整形痕、細かい斜格子目が2カ所有り。側面：溝整2回。	D-13 瓦15	
7-JC37	D-13 覆土	平瓦	①(155) ②26	③中粒 ④青灰 ⑤良好 ⑥破片	四面：削り。凸面：荒削り痕を撫で仕上げ、押押されたと思われる縫目有り。其の記号有り。藤岡・吉井系と思われる。	D-13 瓦12	
7-JC38	D-13 覆土	平瓦	①(169) ②17	③粗粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	四面：布目底有り。凸面：斜行する整形痕、細かい斜格子目有り。側面：荒削り痕を有り調整2回。	D-13 瓦13	
7-JC39	D-13 覆土	平瓦	①(233) ②26	③細粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	四面：布目有り。余切り痕あり。凸面：撫で。判読不明の記録文字有り。側面：溝整3回。藤岡・吉井系。	D-13 瓦14	
7-JC40	D-13 覆土	平瓦	①(85) ②18	③粗粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	四面：布目。二重部分内に文字有り。「方」と思われる。种の溝は斜明、金剛輪の印跡の可能性がある。笠想系。	D-13 瓦16	
7-JC41	D-13 覆土	平瓦	①(400) ②25	③粗粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥7/8	一枚作り。四面：撫で。布目底僅かに有り。凸面：撫で。斜格子目の叩き目有り。側面：目有り。側面：溝整2回。	D-13 瓦17	
7-JC42	D-13 覆土	平瓦	①300 ③16	③粗粒 ④明褐色 ⑤良好 ⑥1/2	一枚作り。四面：布目有り。凸面：撫で。	D-13 瓦18	
7-JC43	D-13 覆土	平瓦	①(420) ②20	③粗粒 ④に深い赤褐色 ⑤良好 ⑥4/5	一枚作り。四面：撫で。布目底残る。凸面：撫で。斜格子目の叩き目有り。側面：溝整2回。	D-13 瓦19	
7-JC44	D-13 覆土	平瓦	①(415) ②20	③粗粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥1/2	四面：布目底有り。横骨有り。穂の調整有り。凸面：撫で。側面：溝整2回。	D-13 瓦20	
7-JC45	D-13 覆土	平瓦	①(360) ②22	③粗粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥4/5	四面：布目底僅かに残る。横骨：撫で。斜格子目の叩き目有り。斜行する整形痕有り。側面：溝整2回。	D-13 瓦21	
X68Y80	平瓦 覆土	平瓦	①(50) ②21	③粗粒 ④青灰 ⑤良好 ⑥破片	四面：布目有り。凸面：判読不明の記録有り。	X68Y80-1	
X69Y79	平瓦 覆土	平瓦	①(25) ②-	③粗粒 ④灰黃褐色 ⑤良好 ⑥瓦当破片	三重弁垂幕紋。瓦当面に布目がない。A辺近か？	X69Y79-1	
X69Y78	平瓦 覆土	平瓦	①(27) ②-	③粗粒 ④灰 ⑤良好 ⑥瓦当破片	一本作り。裏面：布目、段有り。B辺近法。	X69Y79-2	
X69Y79	平瓦 覆土	平瓦	①(93) ②16	③粗粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥破片	四面：布目一端残る。凹面：撫で。叩き板斜格子紋の窓に「人」？の刻印有り。尼寺S7トレンジで同様な例が有り。	X69Y79-3	
X69Y80	平瓦 覆土	平瓦	①(59) ②31	③粗粒 ④焼灰 ⑤良好 ⑥瓦当破片	右側面唐草紋、主業と子業2枚が1枚。瓦当面部剥離り。四面：撫で。凸面側で。僧寺P002。尼寺S7トレンジ。中門跡に出土例有り。	X69Y80-5	

番号	出土遺物 編	器種名	①長さ ②厚さ	④軸上 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦保存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
7-JL51	X69Y80 覆土	軒丸瓦	①(4.9) ②1.6	④細粒 ⑤灰褐色 ⑥良好 ⑦瓦当破片	選舉紋の外側に縞模様が付く。裏面無地。山王廟寺軒丸瓦X1式、崇寺M002と同様。尼寺ではS7トレンチ、南門1トレンチで出土。秋田郡。	X69Y80-1	
7-JL52	X69Y80 覆土	軒丸瓦	①(9.1) ②1.8	④中粒 ⑤暗褐色 ⑥良好 ⑦瓦当破片	二重脊五弁選舉瓦紋、素紋の外縁。裏面: 斜削り、鉄分の付着が目立つ。 横等径D104、尼寺S7トレンチで出土。所持有り。	X69Y80-4	
7-JL53	X69Y80 覆土	平瓦	①(11.4) ②2.1	④細粒 ⑤暗褐色 ⑥良好 ⑦破片	凹面: 布目。凸面: 濃で。既による判斷不明の文字か記号あり。裏面: 調整剝離。	X69Y80-2	
7-JL54	X69Y80 覆土	平瓦	①(25) ②2.6	④細粒 ⑤灰褐色 ⑥良好 ⑦破片	凹面: 梨骨張有り。布目(底面)に残る。凸面: 叩き鳥による調整坑有り、施す。凹面の中央が端部に傾かねる。側面: 斜削りによる調整1斜。	X69Y80-6	
7-JL55	X69Y80 覆土	平瓦	①(11) ②2.1	④中粒 ⑤暗褐色 ⑥良好 ⑦破片	凹面: 粗い布目。凸面: 濃で。記録文字「瓦」有り。裏面: 調整2回。	X69Y80-3	
7-JL56	X69Y82 覆土	軒丸瓦	①(5.0) ②2.4	④中粒 ⑤灰褐色 ⑥良好 ⑦破片	一本作り。瓦当部の窓帯が小さい。横窓型の製作台が用いられたと推定する。B-2技法。	X69Y82-1	
7-JL57	X70Y79 覆土	軒平瓦	①(11.0) ②2.7	④細粒 ⑤暗褐色 ⑥良好 ⑦瓦当破片	瓦窓は比較的深い。二重の界線内で平行する唐草紋。凹面: 布目底有り。凸面: 施で仕上げ。一枚作りか、並置窓と思われる。崇寺P008の可能性有り。	X70Y79-1	
7-JL58	X70Y80 覆土	軒丸瓦	①(0.9) ②2.9	④細粒 ⑤灰褐色 ⑥良好 ⑦瓦当破片	重窓と界線は確認できる。瓦当裏剥離。技法の判定は不可。	X70Y80-1	
7-JL59	X72Y81 覆土	平瓦	①(6.3) ②1.8	④細粒 ⑤暗褐色 ⑥良好 ⑦瓦当破片	凹面: 布目。二重方形枠内に文字有り、「方」と思われる。笠懸系。	X72Y81-1	
7-JL60	サンブルA 覆土	平瓦	①(9.5) ②1.7	④細粒 ⑤暗褐色 ⑥良好 ⑦破片	凹面: 粗い布目。凸面: 濃で。格子目の中に文字「重田」有り。裏面: 面取1回。笠懸系。	サンブル A-1	サンブル A
7-JL61	全体 覆土	軒丸瓦	①(10.7) ②1.8	④細粒 ⑤良好 ⑥淡褐色 ⑦1/4	子窓のある二重窓を持つ。文様を陰起線によってあらわす。陰起線が高くて、細鉛錠を含み表面がザラザラした感じ。B-2技法。		
7-JL62	全体 覆土	軒丸瓦	①(17.3) ②1.9	④細粒 ⑤良好 ⑥灰白色 ⑦4/5	鳥足状陰文糸。裏子は瓦当中央に1子。裏面外縁にぞうて7子。裏子は梯形のもの3本1組組成され、被せし瓦選舉瓦様が組形となつた。		
7-JL63	全体 覆土	平瓦	①(7.5) ②2.3	④細粒 ⑤良好 ⑥淡褐色 ⑦破片	凹面: 施で仕上げ。方形二重窓の中に「方」が押引きされている。凹面: 布目有り。		
7-JL64	全体 覆土	丸瓦	①(7.1) ②1.7	④細粒 ⑤良好 ⑥淡褐色 ⑦破片	凹面: 布目有り。凸面: 濃で。書ききで「羊」と読める文字有り。記録部から考えて貼上円筒の状態で記録された可能性あり。石英・雲母などの鉱物を含む。		

9区

番号	出土遺物 編	器種名	①長さ ②厚さ	④軸上 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦保存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
9-JL1	H-6 窓内	平瓦	① 5.0 ② 2.4	④細粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦破片	一枚作り。凹面: 濃で。凸面: 濃で。格子目の中印き目有り。裏面: 面取3回。	9	
9-JL2	W-1 覆土	平瓦	① 14.0 ② 2.7	④中粒 ⑤良好 ⑥灰 ⑦瓦当 ⑧破片	一枚作りか、凹面: 布目有り。凸面: 濃で。凹面: 布目有り。裏面: 面取2回。		

注) ① 縮化は、「床底」: 床面より10cm内の層位から検出。「覆土」: 床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。

窓内の検出については「窓内」と記載した。

② 長さ、厚さの単位はcmである。規査値を〔 〕、復元値を〔 〕で示した。

③ 軸上は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~19mm以下)、粗粒(20mm以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④ 焼成は、椎良、良好、不良の三段階とした。

VI まとめ

本遺跡の主な遺構・遺物の検出成果としては、4世紀～11世紀までの集落跡、7区と呼んだ国分尼寺南面における瓦敷や硬化面、所謂「須恵器壺G」と「小型短頭壺」の共伴出土が挙げられる。本章ではまとめとして、以上の事柄について記述する。

1 堅穴住居跡について

ここでは調査区ごとに特徴ある住居跡を紹介する。また、本遺跡が区画整理域内に点在することから調査区を3地域に分類し、検出住居軒数などのデータを掲載する。

(1) 特徴的な住居跡

1区からは住居跡を1軒検出した。H-1号住居跡は、W-1・2号溝跡を切っていることから、二条の溝跡が10～11世紀以前に存在していたことが分かる。窓は国分寺瓦を再利用して構築しており、丸瓦を垂直に立てて袖の土留めとして使用する。

2区からは住居跡11軒を検出した。そのうち9～10世紀代の住居跡が10軒である。国府の最盛期～衰退期にかけて多くの人々が居住した様子が窺える。

3区からは15軒の住居跡を検出した。住居跡の時期は5世紀後半～11世紀前半までであるが、8～9世紀代の間は住居跡の数が極端に少なく、5～7世紀代、10～11世紀代に集中している。住居が減少する時期は国府の最盛期にも重なり、居住制限があったことも考えられる。特徴的な住居跡としてはH-6号住居跡が挙げられる。この住居跡の床面や、壁近くからは炭化物が多く検出し、住居が燃えたことを想定できる。また覆土に黄褐色ブロックが多く含まれており、人為的に埋められたことも想定できる。窓、遺物の残存状態も良く、住居廃棄の様子が窺える貴重な資料となった。

4区は試掘調査のみであり、住居跡の検出はなかった。

5区からは住居跡7軒を検出した。各調査区の中では唯一石川式土器を持つ住居跡を検出した。他には總社砂層の岩盤層まで掘り込んで窓を構築しているH-4号住居跡や、床に問仕切りを持つH-7号住居跡が特徴的な住居跡として挙げられる。

6区は8軒の住居跡を検出した。しかし、地表から遺構確認面までが浅く、住居跡同士の重複も激しいため、住居跡の残存状態は良いものとはいえない。

7区は国分尼寺南面に位置し、10軒の住居跡を検出した。そのうち8軒は8世紀代と偏りがあり、特に8世紀前半～中葉に集中する。特徴的な住居跡としては、H-2・10号住居跡が挙げられる。H-2号住居跡は窓を二つ持つおり、東側の窓を使用した後に北に新しく窓を構築したと考えられる。H-10号住居跡は壁に張り出しを持つ住居である。



7区における8世紀前半～中葉の住居跡

8区からは住居跡を検出しなかった。

9区からは11軒の住居跡を検出した。時期はいずれも7世紀後半～9世紀代までである。ほかに中世の溝跡が西から東に走行しているため住居跡の多くはその構に切られ破壊されていた。

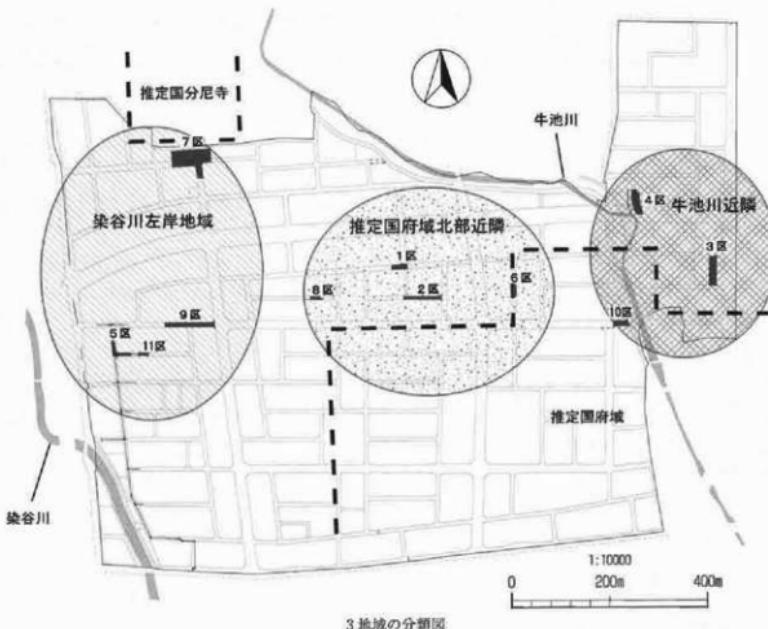
10区からは住居跡の検出はなかった。

11区からは住居跡を4軒検出した。特徴的な住居跡としては床下土坑を持つH-4号住居跡が挙げられ、深い掘り込みを持つために残存状態は良好であった。また、この住居跡から銘金具の鉈尾が1点出土している(註1)。

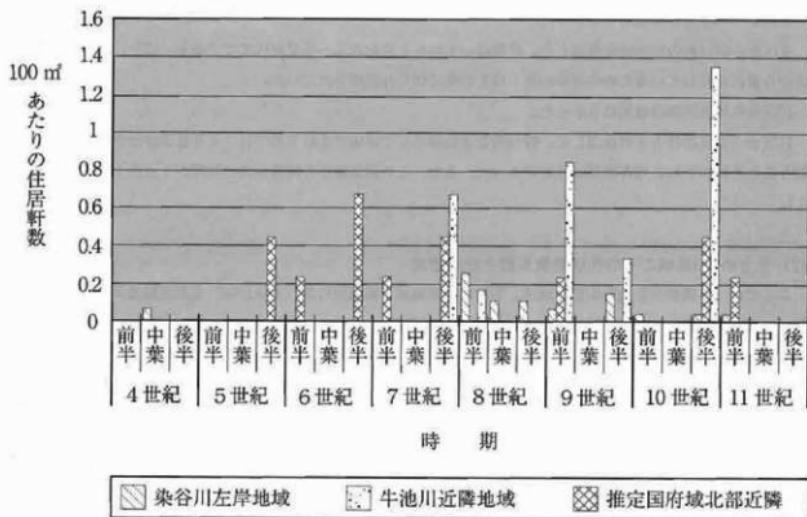
(2)まとめ-3地域ごとの住居軒数集計と住居密度

ここでは、各調査区を染谷川左岸地域、牛池川近隣地域、推定国府域(木津1998)北部近隣地域の3地域に分類してデータをまとめる。分類は以下のとおり。

- 染谷川左岸地域 … 5・7・9・11区
- 牛池川近隣地域 … 3・4・10区
- 推定国府域北部近隣 … 1・2・6・8区



なお、地域ごとに調査面積が異なることから、比較のために100mあたりの住居軒数を計算し、時期別に分類する。Hr-FP 降下以後からAs-B 降下以前までと判定した詳しい時期判定が不可能であった住居は分析対象としない。以上のような条件の下、次項のグラフを作成した。



100m²ごとの住居軒数グラフ

グラフの分析から、3地域の特徴は以下のとおりである。

染谷川左岸地域は、8～9世紀代の住居跡が集中している。これは国府の最盛期にも重なっている。国府と連動するかのように、この地域に集落が展開された。

牛池川近隣地域は5～7世紀代、10～11世紀代の住居跡が集中する。5～7世紀代に多くの住居が集中するのは牛池川近隣地域のみである。近隣で同時期のものと思われる田畠が検出されており、国府成立以前から人々がこの地域で耕作を行って生活してきた様子が窺える（註2）。また、8～9世紀代の国府の最盛期には住居が減少しているため、居住制限の可能性も考えられよう。

推定国府域北部近隣地域は7～10世紀代の住居跡が集中する。特に10世紀後半の住居密度の増加が著しく、国府が衰退した後に多くの人々がこの地域に流入してきた様子が窺える。「元総社舊海遺跡群(6)、(13)」で指摘した国府による居住制限に関連があるものと思われる（註3）。

本遺跡全体では、4～11世紀代の住居跡を検出することができ、幅広い時期の住居跡の資料を得ることができた。しかしながら、あくまでも限定的な範囲を調査にすぎず、今回得た資料のみでは集落全体を把握するのは難しい。今後も調査を継続し、情報の蓄積によって元総社舊海遺跡群における集落の変遷を捉えていきたい。

2 7区 国分尼寺南側での調査について

(1) 平成12年度調査について

平成12年度に国分尼寺寺域南限を確定するために試掘調査が行われ、1～6トレンチが設定された。この調査では尼寺の南限が解明され、東西の大溝とそれに並行する南側に溝が付設された道路状遺構が確認された。（上野国分尼寺寺域確認調査 2000.3 前橋市埋蔵文化財発掘調査団）報告書では、東西の大溝とそれに並行する道路状遺構について以下のようにまとめてある。

- ①溝底より1m高いローム上面を平坦にし、幅5mほどの路面を持つ。その南限には幅2.4m、深さ30cmのV字状の側溝を設けている（3トレンチ）。
- ②路面状には部分的に瓦片を敷き詰めている部分があり、地面に食い込むように踏み固められている。これは路面の荒廃を補修するための所作と考えられる。
- ③路面幅は必ずしも一定していないが、路肩面の崩落などの影響によるものと考えられる。路面が硬化していない部分が多くたが、これは後の擾乱により表面が削平を受けたためと考えられる。
- ④最も東の第1トレンチでは、道路面を破壊してローム面が開られた10世紀初頭頃の竪穴住居跡が検出された。よってこの時期には道路の機能は失われていたと考えられる。



Fig. 1 推定国分尼寺及び調査区位置図

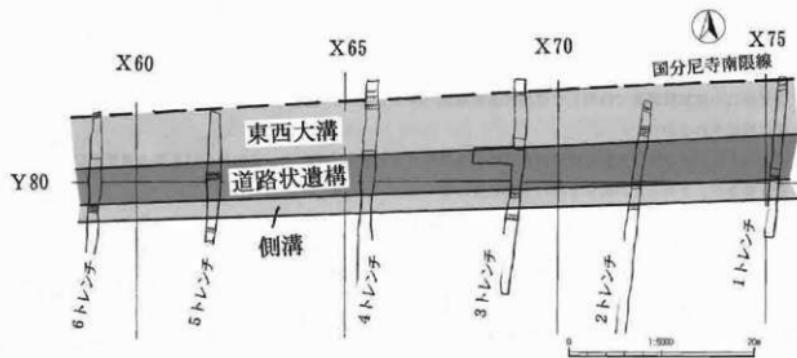


Fig. 2 平成12年度調査トレンチ位置図及び道路状遺構想定図

(2) 本年度調査について

今年度行われた本調査区の北限は平成12年度調査での東西方向の大溝の位置から5m程南になる。よって道路状遺構が東西に走っていることが確認できる場所であった。遺構確認の段階では平成12年度調査の3号トレンチ付近から東側で瓦が多く出土し、遺構確認面でも多く瓦が含まれていた。また瓦と共に鉄分凝集層が広がっており、そこでこれらの範囲確認と平成12年度調査の2~6号トレンチの再調査を行った。

調査によって明らかになったことは、

- ①瓦敷部分及び鉄分凝集層はX69Y80付近からX73Y82付近へと南東方向へ幅6m、長さ30mにわたって検出された。特にX69Y80付近からX72Y82付近までは瓦片を密に敷き詰めてあった。瓦片は3cm以下の小片が中心で、他に小砾や砂利を敷き詰めてあった。瓦を敷き詰めた部分は周りより低く凹んでおり、その凹みを修復するために敷き詰めたと考えられる。瓦敷の下は鉄分凝集層になっていた。瓦敷部分は凹んで水が溜まっていたことも考えられる。

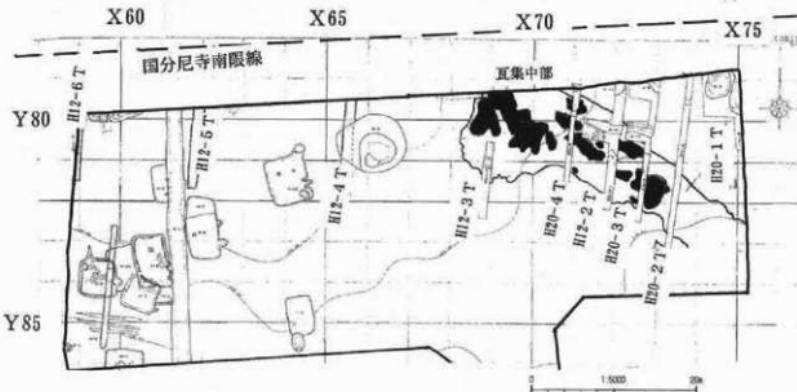


Fig. 3 元總社蒼海遺跡群(20) 7区 全体図

②平成12年度試掘調査で検出した道路状遺構南側の溝は3号トレンチではやや下がる部分があったがV字状の溝は検出されなかった。

③2号トレンチでは、南側は傾斜が急で北側は緩やかな土坑を検出した。この部分は瓦敷き遺構及び鉄分凝集層と重なり、それらとの関係を検討する必要となった。

④土坑の広がりを確認するために、東から4本のトレンチ（以下H20-1号トレンチから4号トレンチ）を設定した。結果、H20-3号トレンチでは2号トレンチと同様な土坑を確認し、この土坑では底部よりやや上から斬丸瓦や軒平瓦を含めて大きな瓦が多く出土した。H20-2号トレンチでは土坑は検出せず東側への広がりはないことが明らかになった。H20-4号トレンチでは調査区北端近くで南側の立ち上がりの急な土坑を確認した。

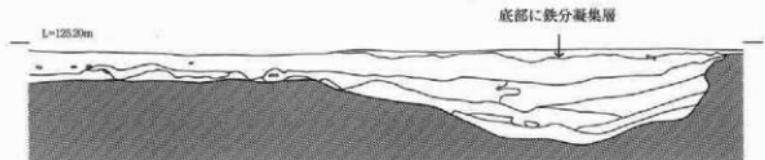


Fig. 4 2号トレンチ東壁セクション図

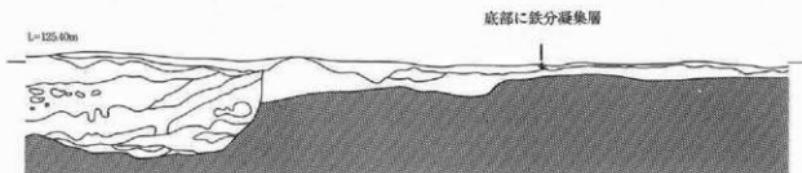


Fig. 5 H-20 4号トレンチ東壁セクション図

⑤この範囲以外では調査区西側 X61付近では南北に走る溝が1条検出された。また尼寺中軸線やや東のX66Y80付近では須恵器壺Gや短頸壺、凝灰岩切石、扁平な川原石や瓦を含んだ土坑（D-3）を検出した。この土坑には水性堆積した痕跡があった。

以上の結果、平成12年度試掘調査で考えられた道路状遺構と南側の側溝は存在しないと考えられる。またこの遺構の性格としては国府方向へ延びる道路としての機能が考えられる。

(3) 出土瓦について

本調査では多くの瓦が出土した。その瓦から考えられることは、瓦敷部分の瓦は、国分僧寺と同様に笠置産、藤岡・吉井方面の瓦窯で生産されたものと思われる。ただし時期を示唆するような瓦片はない。また瓦敷部分と重なる土坑（D-10, 13）から出土する瓦では、国分寺創建期（尼寺が僧寺と平行したと考えられれば、8世紀後半の早い時期）の軒瓦（A101, E103, B207A, P001, P002）や修造期の軒瓦（A101）なども見られる。なお上野国分寺跡調査報告書では、修造期軒瓦の使用された時期について明確に記されていないが、今回出土した修造期軒瓦は9世紀後半頃と考えられる。文字瓦では、国分寺創建期から比較的新しいものまで存在する。これらのことから瓦敷部分の形成は、国分尼寺創建期から9世紀後半の広い時期が考えら、時期を断定するまでには至っていない。ただし国分尼寺南面という場所から考えると、かなり早い時期に広場として作られ、南大門の前面に瓦の小片を意識的に敷き込んで堅致面を作ったことも考えられる。

なお、瓦の分析は栗原和彦（前橋市教育委員会嘱託員）によるものである。

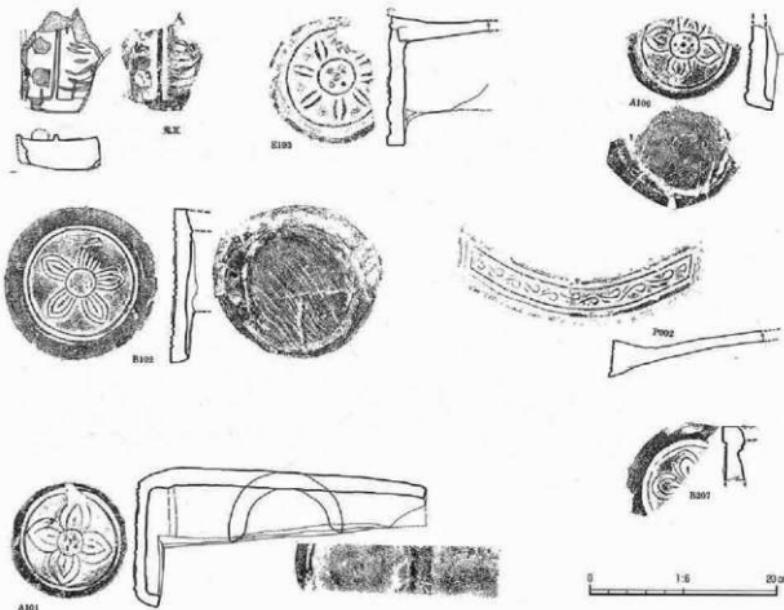


Fig. 6 D-10, 13号土坑（2号トレンチ）出土軒瓦

(4) 今後の検討課題

瓦敷や硬化面では、当初は国分尼寺の参道や国分僧寺と結ぶ東西の道と想定されたが、瓦敷遺構及び鉄分凝集層分布範囲が南東方向に延びるのでその可能性は低いと思われる。しかし国分尼寺の築地を区画する溝との関わりを含めて、国分尼寺とどのような関係あるか検討していく必要がある。また今回の調査区が国分尼寺南面の中央部（南大門付近）であることから、かなり早い時期に広場として作られ、南大門の前面に瓦の小片を意識的に敷き込んだことも考えられる。ただし、昭和44・45年の調査では南門トレンチがH12-4トレンチ付近に設定されたが、この調査では南門跡は判明していない。このことも含めて、今後検討する必要がある。

土坑については、H20-3トレンチなどにある南側の立ち上がり傾斜がきつく、北側は比較的緩やかな土坑は尼寺造営に関係する採掘土坑と考えられる。土を運びやすくするために北側の傾斜を緩くしたと考えられる。この場所は比較的浅い面でローム層になり、必要とされる土が容易に採掘できた場所だったことも関係があると思われる。ただこれらの土坑の多くは瓦敷部分及び鉄分凝集層と重なっているので、この土坑がいつ埋められたものか、今後の調査で解明していく必要がある。

他の国の国分僧寺・尼寺の発掘調査では、南門南側の空間が調査されている例はほとんどない。武藏国分寺、下総国分寺、上総国分寺、下野国分寺などでは、寺域が溝によって区割りされ、伽藍の南端である南大門、南面築地と寺城南限の溝との間に広い空間がある。しかしこの部分の発掘調査例はあまりなくどのように土地利用されたか不明である。今回の国分尼寺跡南側の調査では、瓦敷き遺構や土坑以外にも伽藍中軸線より西側で堅穴式住居跡を検出した。H-2・8・10・11号住居跡の4軒は国分尼寺創建以前である8世紀前半までと考えら

れる。一方H-6・7・9号住居跡は寺域でありながら国分尼寺の存在する時期と重なる。ここに国分尼寺と関わりのある人々の生活空間が存在したこととも考えられる。またH-3号住居跡は11世紀前半と考えられ、国分尼寺の廃絶期を示すものと言えよう。また調査区西側X61付近で南北に走るW-1号溝跡と尼寺との関係も含めて、南門南側の空間について今後さらに調査していく必要があろう。

今回の調査では今後の調査へ向けたいくつかの課題が出てきた。しかし国分尼寺南面を広い範囲で調査を行っていく必要性を改めて痛感した。

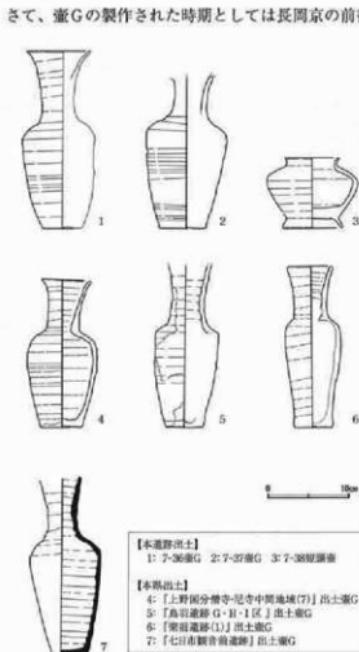
3 壺Gについて

「壺G」とは国立奈良文化財研究所による平城宮土器分類における長頸壺の呼称である。分類では、各器種をアルファベット順に呼称する。須恵器壺のうち、胴部が細く、口縁がラッパ状に開く長頸壺について「須恵器壺G」と呼称している。ここでは、平城宮土器分類での「壺G」という呼称を使用する。

今回、国分尼寺南面の7区D-3号土坑から「須恵器壺G（以下壺G）」と「小型短頸壺の薬壺（以下薬壺）」が共伴して出土した。

なお、観察を行うに当たって、群馬県埋蔵文化財調査事業団の神谷佳明氏、高島英之氏、谷藤保彦氏にご指導いただいた。

（1）壺G



壺G図① 本遺跡および本県出土の壺G

さて、壺Gの製作された時期としては長岡京の前後、8世紀中葉の後期～9世紀第1四半期に分類される（註4）。本県でも本遺跡近隣の『上野国分寺・尼寺中間地域』や『鳥羽遺跡』、太田市の『楽前遺跡』、富岡市の『七日市觀音前遺跡』などである程度残存状態のよい形で出土している（註5）。また、破片のみの出土は多くの報告がある。使用用途については、仏具として祭祀に用いたとされる花瓶説と、水筒などに利用されたとされる水瓶説がある。

では、本遺跡から出土した壺G2個体、薬壺1固体を詳しく観察していきたい。記述に当たっては、Tab.6 土器観察表における呼称に従う。

7-36壺G（壺G図①1）の胎土は明褐色を呈し、白色の輕石と砂礫を含む。右回転で粘土組を積み上げ、橢圓整形で製作されている。底部より肩部に向けてやや広がる円筒形の胴部を呈し、肩部は屈曲して頸部に移行する。頸部は細長い長頸で口縁部は外反して大きく開く。口縁・頸部は胴部を製作した後に接合されており、胴部と頸部の境目には接合痕が残っている。肩部と胴部は回転削りの調整を施している。底部は鋸歯足切りである。

7-37壺G（壺G図①2）の形状、製作技法は7-36壺Gとほぼ同じ。異なった部分としては、胎土は灰黄色を呈し、7-36壺Gに比べてやや硬質な印象を受

けること、肩部の回転範削りの痕が鮮明に残っていること、底部を回転糸切り後、外周部分のみ撫でて調整していることなどが挙げられる。また、口縁部が破損している。

(2) 薬壺

7-38薬壺（壺G図①③）の胎土は褐灰色を呈し、黒色の粒子を含み、本項で扱っている三つの須恵器の中では群を抜いて硬質である。橢円整形で作られている。底部は回転糸切り後、付け高台で接合部分を撫で調整。高台はハの字に広がっている。底部から肩部に向かって広がる。肩部に器最大径を有し、屈曲部に回転範削りを施している。頸部はつまみ上げによる小さなもので口唇部に向かってやや外反している。口縁と肩部に自然釉が付着している。

(3) まとめ－生産時期とその用途



壺G図② 道明寺十一面觀音菩薩立像
水野 敏三郎編『カラー版日本仏像史』2001年より

今回出土した壺G 2個体、薬壺 1個体の製作時期については、肩部が張り出す器形であることや、国分寺創建期と考えられる軒瓦などが同じ土坑から出土しているため、8世紀後半と考えられる。壺G 2個体とともに作りが粗いことや、胎土の特長から本県の藤岡で生産された可能性がある。薬壺は胎土が硬質であることや、黒い粒子を含むことから東海地方で生産され、本遺跡の地域に持ち込まれた可能性がある（註6）。

次に壺Gの使用用途であるが、国分尼寺南面から出土したこと、祭祀的な用途で用いられる薬壺と共に伴ったこと、口縁部が外反し肩部が張り出す器形で大坂・道明寺十一面觀音菩薩立像（壺G図②）などの觀音菩薩が持つ花瓶のモチーフに酷似しているなどの理由から、祭祀的目的で使用されたものと考える。

以上のような事柄から、本遺跡で出土した壺Gと薬壺は、国分尼寺に関連して祭祀的な目的で使用された後に、まとめて国分尼寺南面の土坑に破棄されたものと考えられる。

〈註釈〉

- 註1 田中広明著「律令時代の身分表彰(II) -腰帯をめぐる人々の奈良・平安時代-」『土曜考古 第16号』
土曜考古学研究会 1991年 による。なお、鉈尾の類例については、群馬県埋蔵文化財調査事業団の純貴邦男氏に
ご教授をいただいた。
- 註2 近藤雅順・村越純子編『元絶社蒼海遺跡群(14) 元絶社蒼海遺跡群(19)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008年
および 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『總社開泉明神IV遺跡・元絶社牛池川遺跡・元絶社北川遺跡・元絶社小
見内V遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007年で検出。
- 註3 大崎和久・遠藤たか美編『元絶社蒼海遺跡群(6)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年 および 阿久澤真一・
神宮 啓・清水亮介編『元絶社蒼海遺跡群(13)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008年 による。
- 註4 酒井清治著「武藏国における須恵器年代の再検討」「研究紀要 第9号」埼玉県歴史資料館 1987年 による。
- 註5 群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編『鳥羽遺跡 G・H・I区-関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第11集-』 1986年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分寺・尼寺中間地域(7)』 1992年
富岡市教育委員会編『七日市觀音前遺跡』 1994年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編『栄前遺跡(1)』 2009年
- 註6 時期判定や、生産地については群馬県埋蔵文化財調査事業団神谷氏にご教授をいただいた。
また、壺G、薬壺と共に出土した瓦については本章「2 7区 国分尼寺南面での調査について」で記述。

〈図版転載〉

- (壺G図①) 群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分寺・尼寺中間地域(7)』本文編
群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編
『鳥羽遺跡 G・H・I区-関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集-』
本文編 Fig.165 G57号住居跡出土遺物
群馬県埋蔵文化財調査事業団編『栄前遺跡(1)』図148 4区1号溝跡出土遺物(4)
富岡市教育委員会編『七日市觀音前遺跡』第164図 5号溝跡(1A区)出土遺物(2)
- (壺G図③) 水野敬三郎編『カラー版日本仏像史』株式会社美術出版社発行 第2章古代II奈良時代2-26図

〈引用参考文献〉

- 「上野国分尼寺跡発掘調査報告書（昭和44年度調査概報）」群馬県教育委員会 1970年
- 「上野国分尼寺跡発掘調査報告書（昭和45年度調査概報）」群馬県教育委員会 1971年
- 「上野国分寺跡発掘調査報告」群馬県教育委員会 1979年
- 群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編
『鳥羽遺跡 G・H・I 区 - 開墾自歎車道（新潟県）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集-』 1986年
- 酒井清治著 「武藏国における領主葬年代の再検討」「研究紀要 第9号」埼玉県歴史資料館 1987年
- 群馬県教育委員会事務局 文化財保護課編 「史跡上野国分寺跡」群馬県教育委員会 1988年
- 群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編
『鳥羽遺跡 I・J・K区 - 開墾自歎車道（新潟県）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第21集-』 1988年
- 田中広明著 「律令時代の身分表記(Ⅰ) -帶荷具の生産と変遷-」「土壤考古 第15号」土壤考古学研究会 1990年
- 田中広明著 「古今時代の身分表記(Ⅱ) -腰袋をめぐる人々の奈良・平安時代-」「土壤考古 第16号」土壤考古学研究会 1991年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「上野国分寺跡・尼寺中間地(7)」群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「上野国分寺跡・尼寺中間地(8)」群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992年
- 富岡市教育委員会編 「七日市鍛音前遺跡」 1994
- 牛山武考古学研究所編 「能社南泉明神北遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999年
- 山武考古学研究所編 「元経社小見遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 箕塙明男・飯田祐二編 「上野国分尼寺跡城壁認定調査」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 考古学から古代を考える会編 「古代仏教系遺物集成・関東・考古学の新たな開拓をめざして-」 2000年
- 株式会社美術出版社発行 「カラー版日本仏像史」 2001年
- 鈴木雅浩・高橋一彦編 「元経社屯邊遺跡・上野国分尼寺跡城壁認定調査II」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
- 山武考古学研究所編 「元経社小見三遺跡・元経社草作V道路」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 平野修著 「山梨県の奈良・平安時代におけるカミ・ホトケ関連遺構・遺物について」
- 『古代考古学フォーラム 古代の社会と環境 遺跡中のカミ・ホトケ 資料集』帝京大学山梨文化財研究所・山梨県考古学学会 2003年
- 高橋一彦・高坂麻子編 「元経社小見V遺跡 元経社小見内V遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 藤又直人著 「古代における香炉の一形態 - 異巻状の講を有する資料についての考察-」
- 『財团法人静岡県埋蔵文化財調査研究所設立20周年記念論文集』静岡県埋蔵文化財調査研究所 2004年
- 岩崎琢郎・高坂麻子編 「元経社蒼海遺跡群小見内遺跡・総社聞泉明神北V遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
- 近藤雅順・池田史人編 「元経社蒼海遺跡群(2)」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年
- 大堀和久・遠藤たか美編 「元経社蒼海遺跡群(6)」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「総社聞泉明神V遺跡・元経社牛池川遺跡・元経社北川遺跡・元経社小見内V遺跡」 前橋市埋蔵文化財調査事業団 2007年
- 近藤雅順・阿久澤真一編 「元経社蒼海遺跡群(8)」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2007年
- 阿久澤真一・神宮 啓・清水亮介編 「元経社蒼海遺跡群(13)」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008年
- 近藤雅順・村越純子編 「元経社蒼海遺跡群(14)元経社蒼海遺跡群(19)」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「奈良道路(1)」 前橋市埋蔵文化財調査事業団 2009年

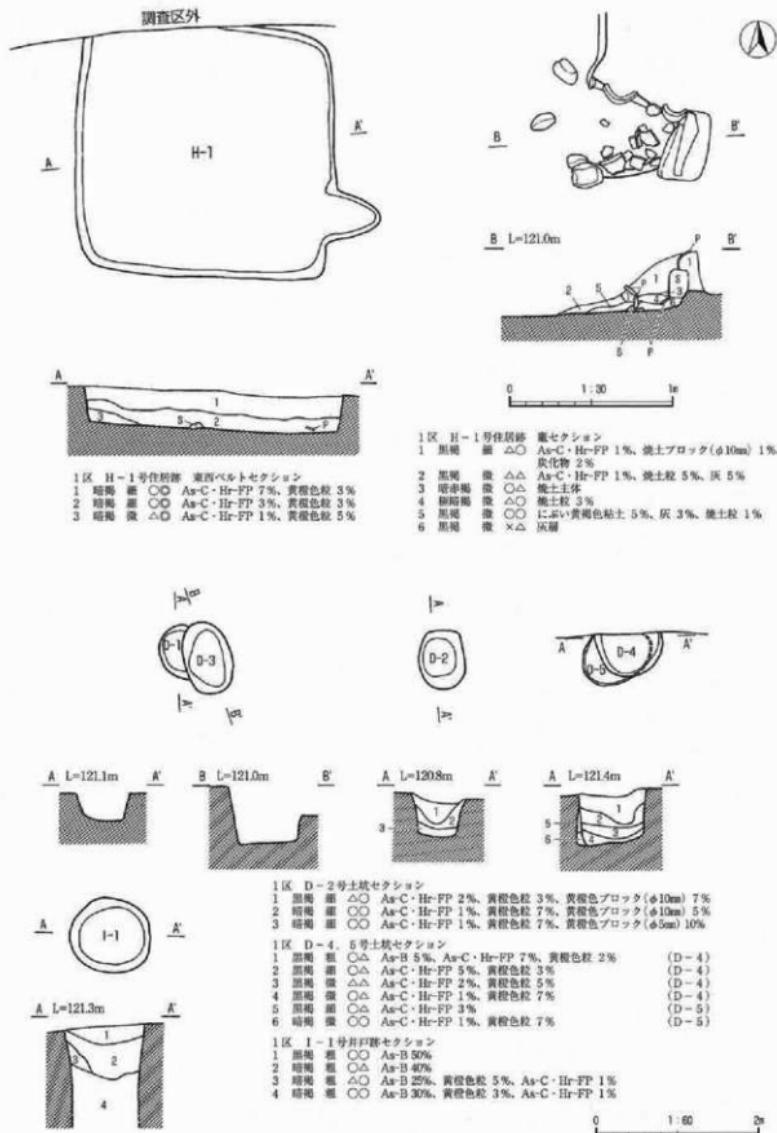


Fig.13 1区 H-1号住居跡、D-1～5号土坑、I-1号井戸跡

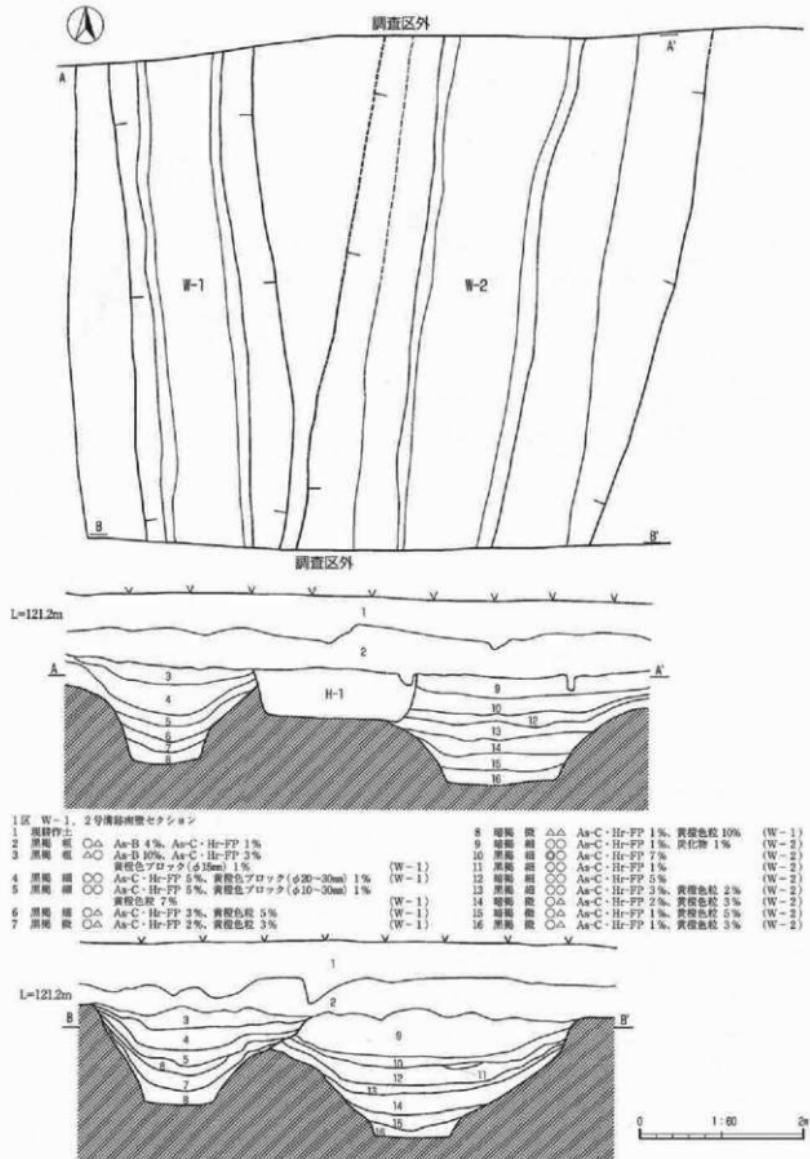


Fig.14 1区 W-1・2号溝断面

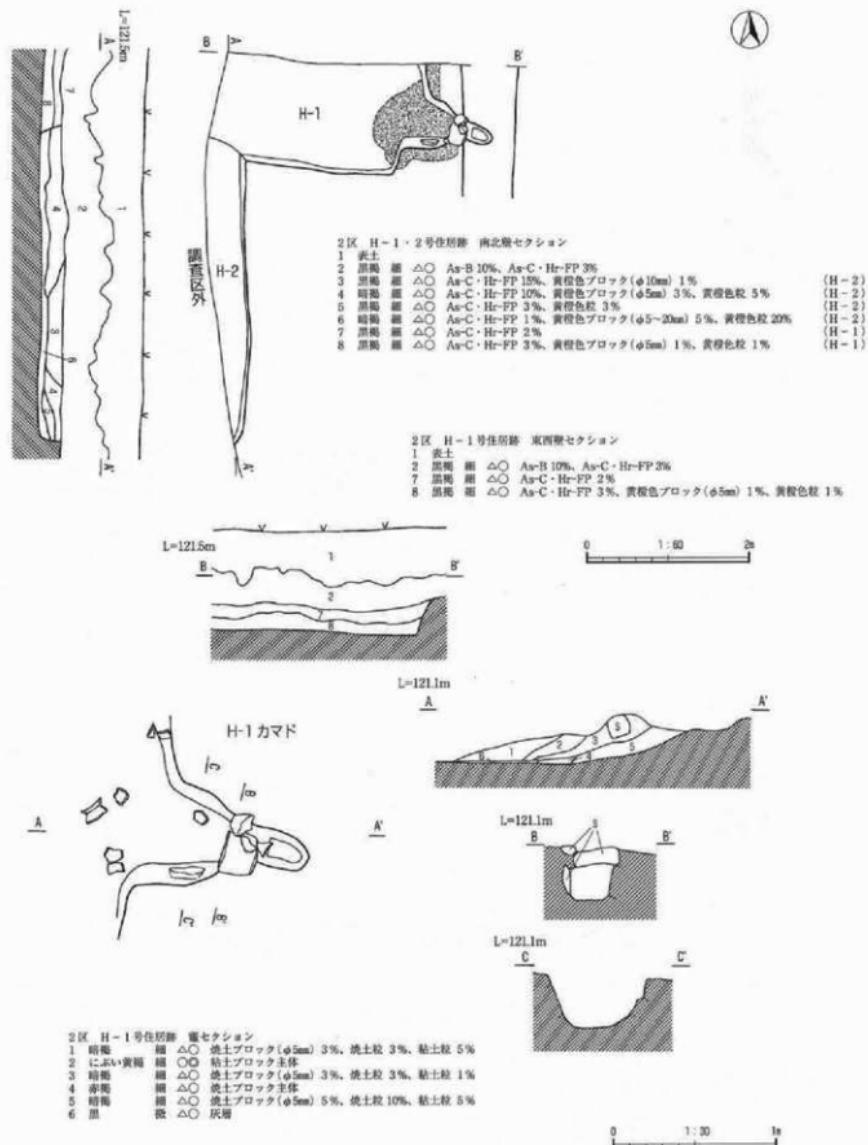


Fig.15 2区 H-1・2号住居跡

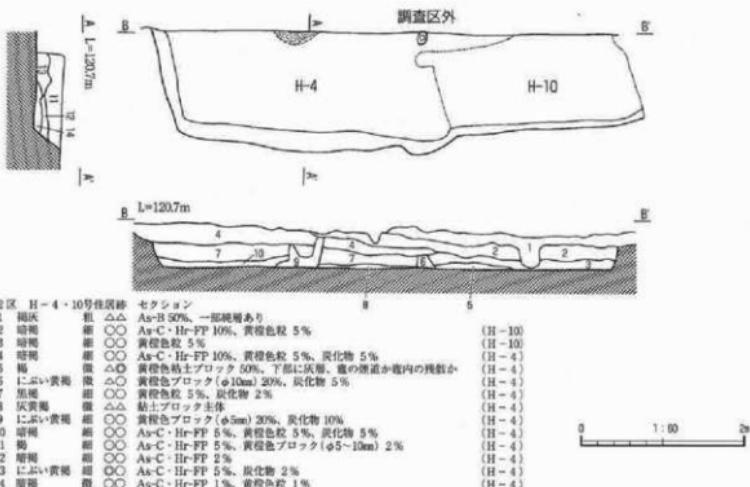
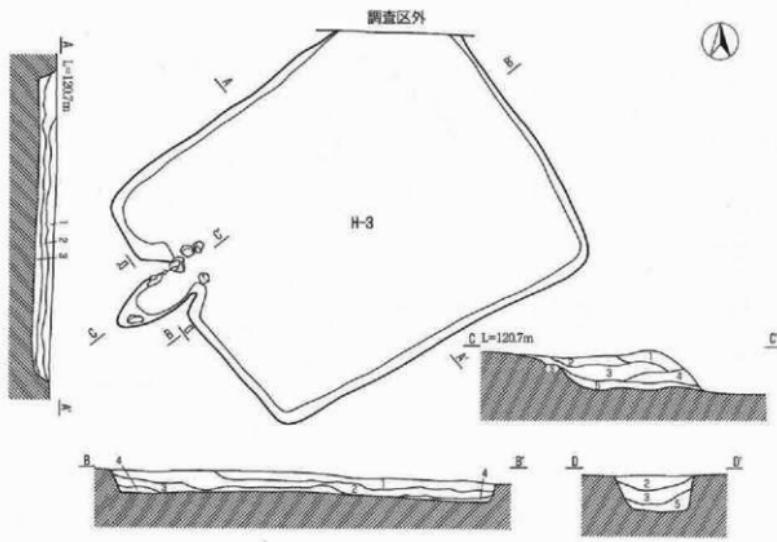


Fig.16 2区 H-3・4・10号住居跡

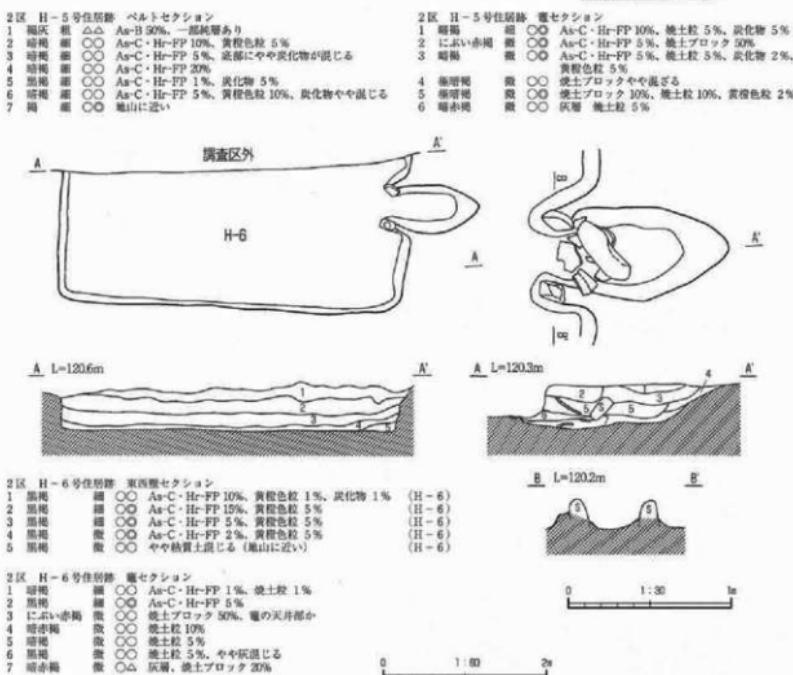
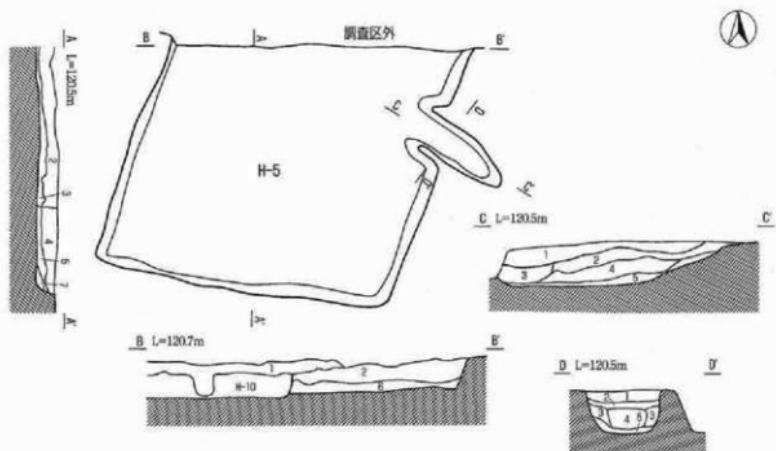


Fig.17 2区 H-5・6号住居跡

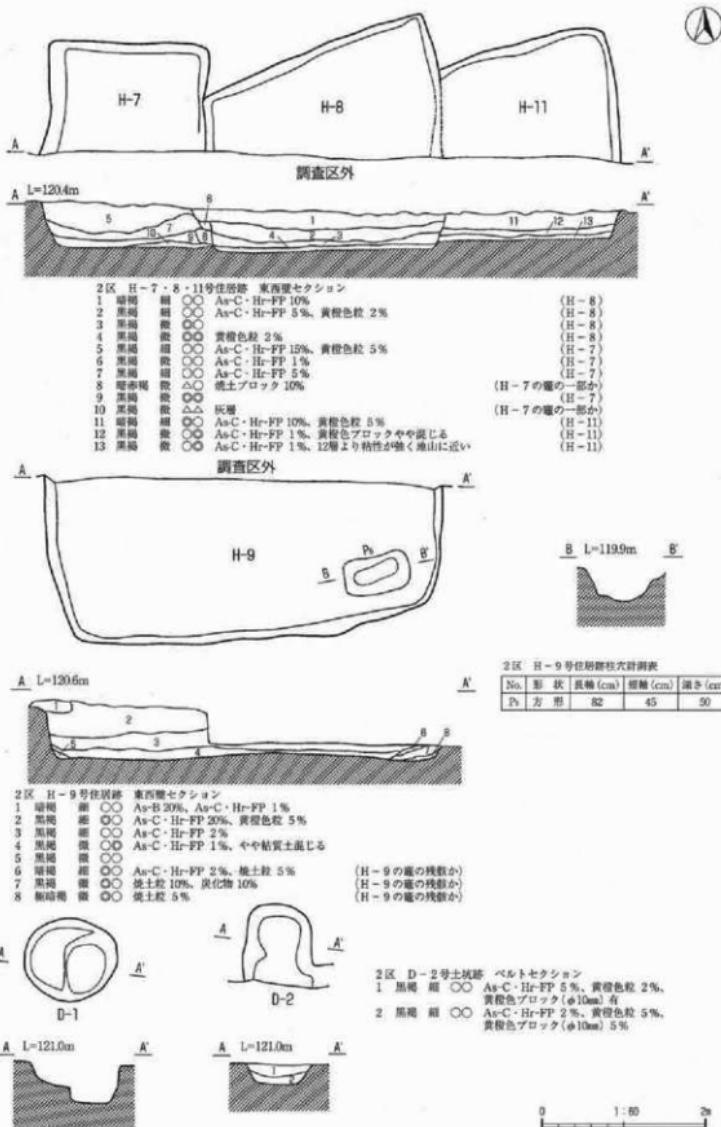


Fig.18 2区 H-7～9・11号住居跡、D-1・2号土坑

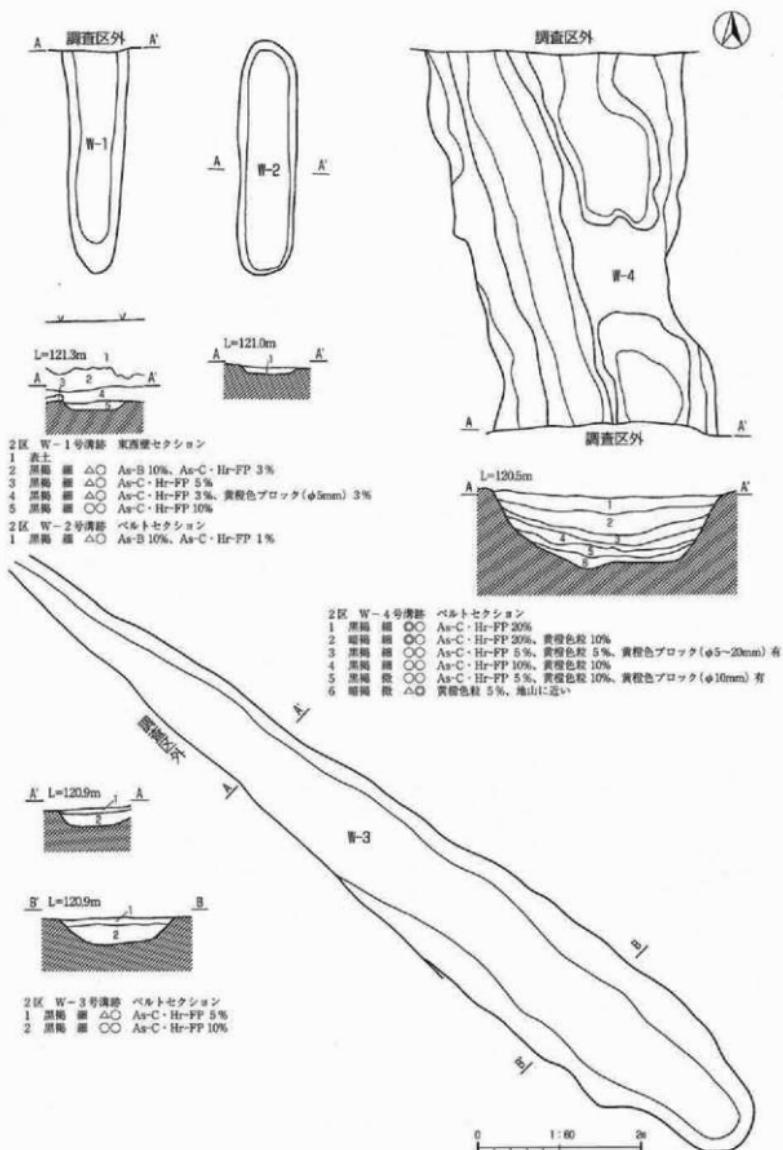
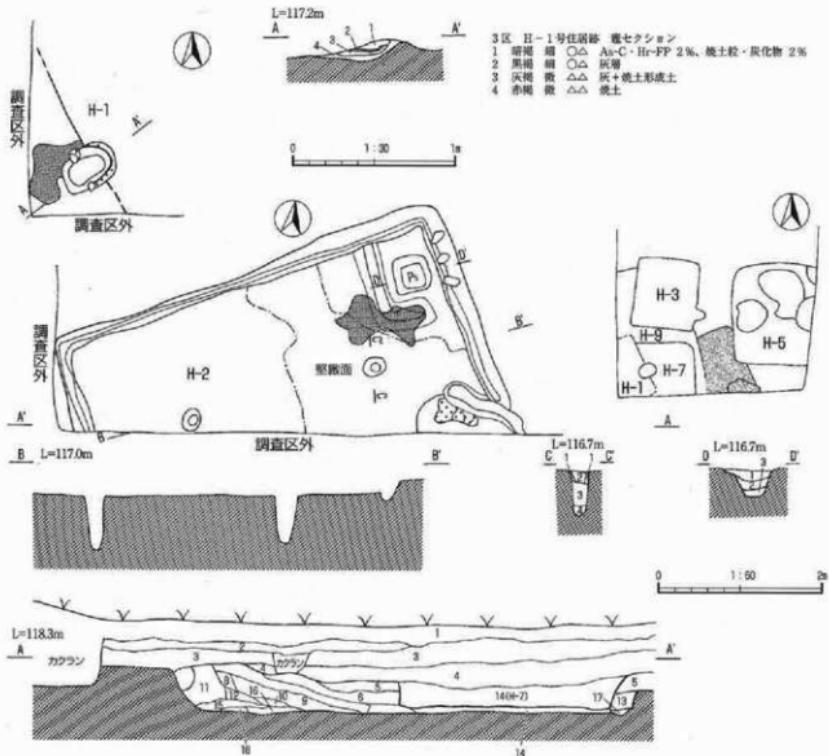


Fig19 2区 W-1～4号溝跡



3区 目-2骨性筋膜セクション

- | | | | | |
|----|-----|----|----|--|
| 1 | 褐色 | 腐土 | △△ | 酸性質土。As-C + Hr-Fe 20% 黄褐色 7% 棕色斑 5% |
| 2 | 黒褐色 | 腐土 | △△ | As-C + Hr-Fe 30%、炭化物 10%、粗粘粒 20%、ざらざらした土質 |
| 3 | 黒褐色 | 腐土 | △△ | As-C + Hr-Fe 25%、炭化物 20%、炭化物 7%、3 より褐色視認 |
| 4 | 黒褐色 | 腐土 | △△ | 酸性質土。ブリッカ φ 10mm 20%、灰白色シルトブロック φ 10mm 5%、褐色粘土ブロック φ 10mm 5%、灰白色粘土ブロック φ 10mm 3% |
| 5 | 黒褐色 | 腐土 | △△ | 酸性質土。ブリッカ φ 10mm 20%、灰白色シルトブロック φ 10mm 5%、褐色粘土ブロック φ 10mm 5%、灰白色粘土ブロック φ 10mm 3% |
| 6 | 褐褐色 | 腐土 | △△ | 酸性質土。ブリッカ φ 10mm 20%、灰白色シルトブロック φ 10mm 5%、褐色粘土ブロック φ 10mm 5%、灰白色粘土ブロック φ 10mm 3% |
| 7 | 灰褐色 | 腐土 | △△ | 土塊→焼けた灰褐色 5%、一部細粒、黃褐色粘土ブロック φ 10~20mm 15%、粗粘粒 2%、灰白粘土地層若干 |
| 8 | 褐褐色 | 腐土 | △△ | 灰白粘土ブロック φ 10~20mm 7%、粗粘粒 2%、9 より茶色味 |
| 9 | 褐褐色 | 腐土 | △△ | 土塊→灰褐色 5%、黃褐色粘土ブロック φ 10mm 15%、As-C 3%、6 より茶色味 |
| 10 | 褐褐色 | 腐土 | △△ | As-C 2%、粗粘粒 2%、炭化物 2%、土塊→ざらざらした土質 |
| 11 | 褐褐色 | 腐土 | △△ | 電線槽下、黄褐色シルトブロック φ 10mm 2%、炭化物 3% |
| 12 | 赤褐色 | 腐土 | △△ | 細颗粒漂浮土、灰白粘土ブロック 5%、被熱粘土ブロック 2% |
| 13 | 赤褐色 | 腐土 | △△ | As-C 2%、黄褐色粘土ブロック φ 10~20mm 2%、炭化物 2%、粗粘粒 1% |
| 14 | 褐褐色 | 腐土 | △△ | 土塊→焼けた灰化土層形成、黄褐色ブロック φ 10mm 2% |
| 15 | 暗褐色 | 腐土 | △△ | 灰土、燒土 |
| 16 | 褐褐色 | 腐土 | △△ | 11に同 |
| 17 | 褐褐色 | 腐土 | △△ | 酸性質土、黄褐色 2%、炭化物若干 |
| 18 | 褐褐色 | 腐土 | △△ | 粘土状土、黄褐色シルトブロック φ 10mm 2%、灰白シルトブロック φ 10mm 2%、土塊→炭化物若干、僅僅土 |

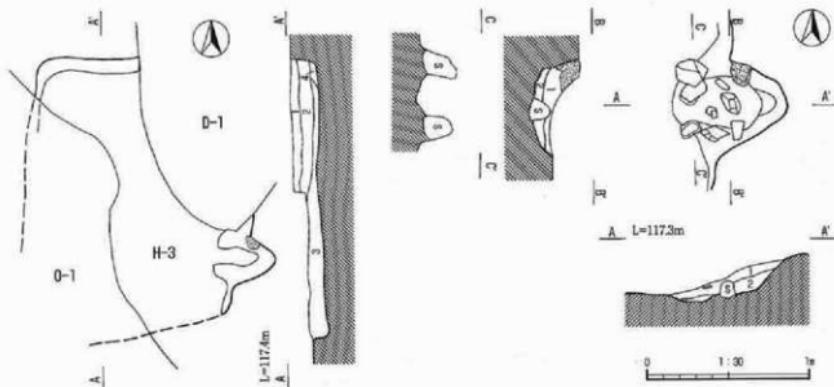
3区 H-2号住居跡P4セクション

- | | | | |
|----------|----|----|-----------------------------|
| 1 燃土・変化物 | 無 | ○○ | 黄褐色ブロックφ5~10mm 3% |
| 2 黒雲母 | 微量 | △○ | 黄褐色粒・ブロックφ10~20mm 7%、白粒 3% |
| 3 白雲母 | 微量 | △△ | 黄褐色ブロックφ10~20mm 2%、さらさらした土質 |
| 4 にぶい黄褐色 | 微量 | | |

3区 H-3号住居跡P1セクション

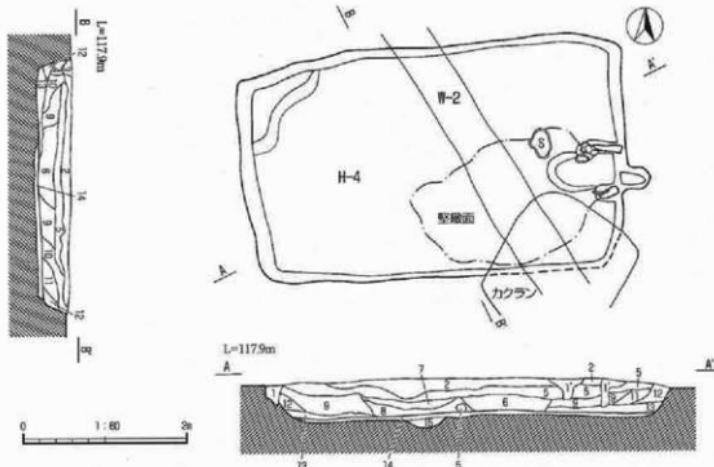
- | | | | |
|------|---|----|------------------------------|
| 1 黒蘭 | 微 | ○○ | 炭化物 3%、黄褐色・ブロック 3%、灰褐色粒状に堆積 |
| 2 暗褐 | 微 | ○○ | 炭化物 2%、黄褐色ブロック 3%、焼土鉢鐵、1より砂質 |
| 3 明褐 | 微 | ○○ | 黄褐色ブロック 3%、炭化物 2%、粘質土 |

Fig.20 3区 H-1・2号住居跡



- 3区 H-3号住居跡セクション
 1 砂質土 As-C・Hr-FP 20%、黄褐色・炭化物 3%、ざらざらした土質
 2 塗膜 As-C・Hr-FP 20%、黄褐色・炭化物 3%、ざらざらした土質
 3 黒褐色 As-C・Hr-FP 7%、炭化物 3%、黄褐色 5%、灰白シルトブロック ($\phi 10\sim15mm$) 2%
 4 黑褐色 As-C・Hr-FP 2%、黄褐色・ブロック ($\phi 10\sim15mm$) 3%、堅岩層

 3区 H-3号住居跡セクション
 1 砂質土 As-C・Hr-FP 3%、赤味、底面灰白色土灰褐色地盤
 2 黑褐色 地上部・炭化物含、黄褐色ブロック $\phi 10mm$ 若干
 3 黑褐色 地下・炭化物
 4 黑褐色 地上



- 3区 H-4号住居跡セクション
 1 砂質土 砂質土、As-C・Hr-FP 5%
 1' にぶい黄褐色 As-C・Hr-FP 3%、砂利混
 2 黑褐色 As-C・Hr-FP 10%、黄褐色ブロック ($\phi 5\sim10mm$) 2%
 部分的に砂利混
 3 灰褐色 灰褐色、As-C・Hr-FP 2%
 4 黑褐色 砂質土、As-C・Hr-FP 5%、砂利混
 5 黑褐色 砂質土、As-C・Hr-FP 5%
 6 塗膜 シルト層、As-C・Hr-FP 2%
 7 底質層 シルト多、As-C・Hr-FP 3%

 8 黑褐色 シルト層、As-C・Hr-FP 5%
 黄褐色ブロック ($\phi 5\sim10mm$) 3%
 9 にぶい黄褐色 As-C・Hr-FP 3% 黄褐色ブロック ($\phi 5mm$) 2%
 砂土・炭化物 1%
 10 黑褐色 やや砂質土、As-C・Hr-FP 5%
 11 黑褐色 やや砂質土、As-C・Hr-FP 10%
 黄褐色ブロック ($\phi 5mm$) 2%、軽石多
 12 明褐色 As-C・Hr-FP 2%、黄褐色・ブロック 5%
 13 にぶい黄褐色 As-C・Hr-FP 1%、黄褐色・ブロック 15%
 14 黑褐色 黄褐色・ブロック 20% (底床)
 15 底質層 シルト多、黄褐色・ブロック 2% (W-2 地上)

Fig.21 3区 H-3・4号住居跡

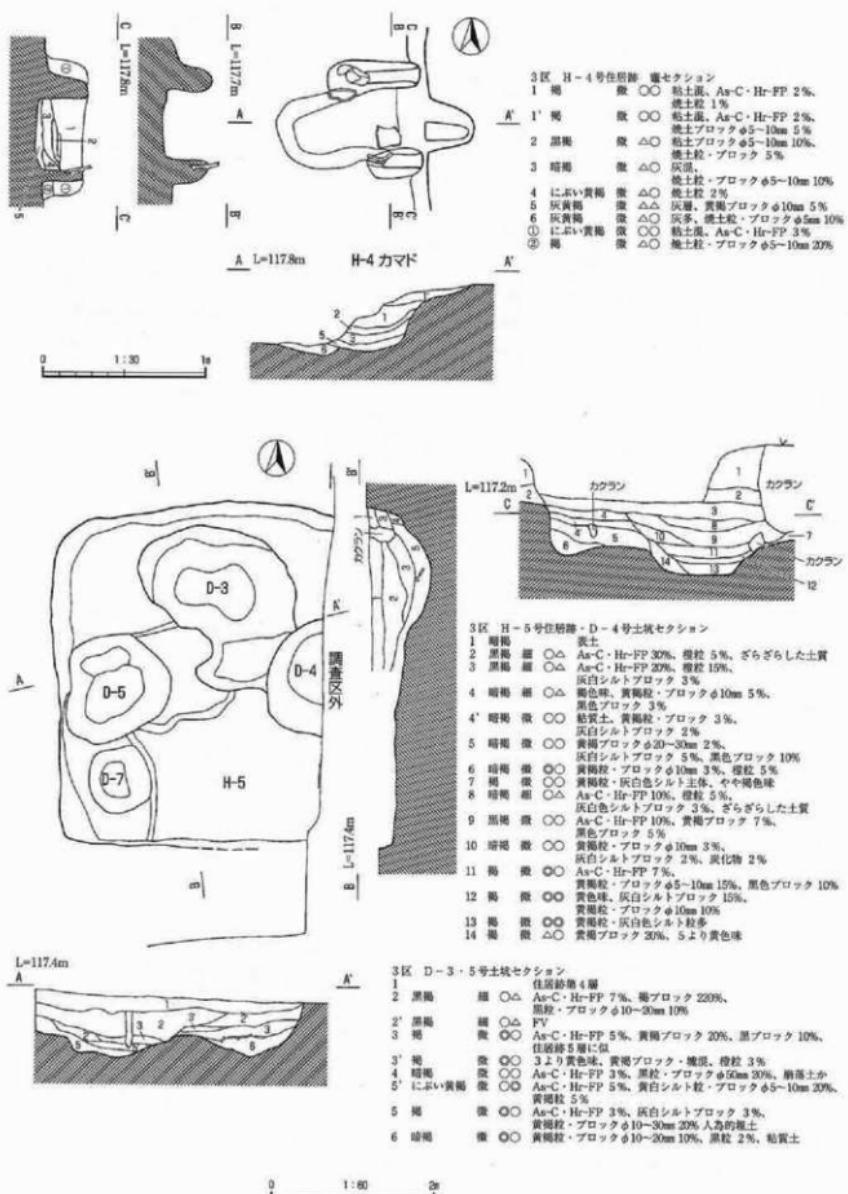


Fig.22 3区 4・5号住居跡、D-3・4・5号土坑跡

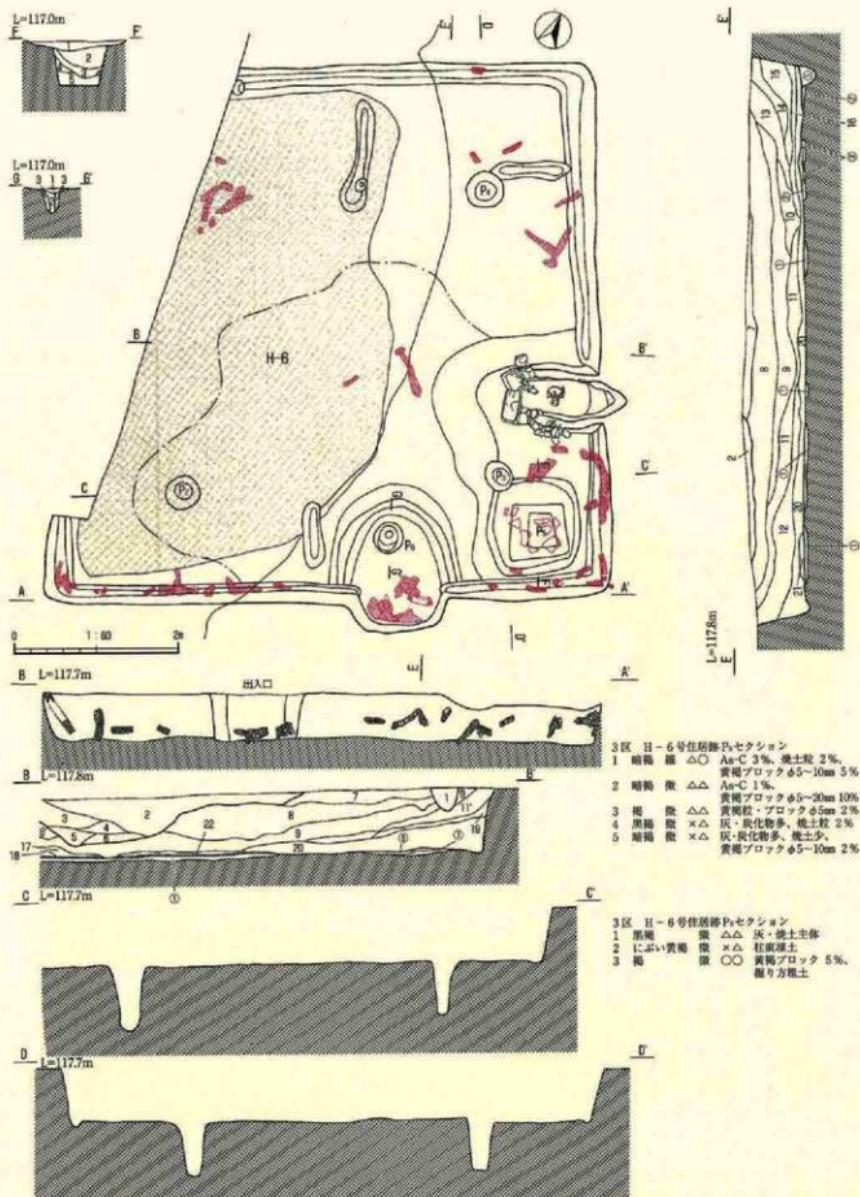


Fig.23 3区 H-6号住居跡

3区、H-6号住透セクション	
1 窓	○△ As-C-Hr-FP 2%
2 にない貴賀	○△ シート質、As-C-Hr-FP 3%、黄銅ブロックφ5cm 2% (0-1土壌)
3 貴賀	○△ As-C-Hr-FP 2% (0-1土壌)
4 黒磚	○△ As-C 含有土圭主体 (0-1土壌)
5 にない貴賀	○△ サイド質、As-C-Hr-FP 5%、黄銅ブロックφ5cm 2% (0-1土壌)
6 黒磚	○△ As-C-Hr-FP 10%、貴賀ブロックφ5cm 2% (0-1土壌)
7 にない貴賀	○△ As-C 5%、黒銅ブロックφ5-10cm 5%
8 観	○△ As-C 5%、黒銅ブロックφ5-20cm 40%、遺物、武化材ほとんど無
9 にない貴賀	○△ 黄銅板、ブロッケ 10%
10 窓	○△ As-C 3%、黄銅ブロックφ5-20cm 10%、遺物、武化材若干含
11 黒磚	○△ As-C 2%、貴賀板、ブロッケφ5-30cm 20%
12 にない窓	○△ As-C 2%、貴賀ブロックφ5-25cm 10%、土器、灰化材含
13 黒磚	○△ As-C 2%、貴賀板、ブロッケ30%、土器、灰化材若干含
14 にない貴賀	○△ 黄銅板、ブロッケ土器、As-C 2%
15 黒磚	○△ As-C 2%、貴賀板、ブロッケ 10%、黄銅ブロック 2%
16 黒磚	○△ As-C 1%、貴賀ブロック 20%、土器、武化材含
17 黒磚	○△ 黄銅板、ブロッケ土器
18 にない貴賀	○△ 黄銅板 10%，地盤含
19 黒磚	○△ 黄銅板、ブロッケ 5%，燒土粒 2%
20 黒磚	○△ 貴賀板、ブロッケ主体、遺物、武化材、焼土多 (底面付近灰化材・縦板材の暴落)
21 黒磚	○△ 反、灰土主体
22 黒磚	○△ 反、黒土 (黑色)
① にない 貴賀	○△ 黄銅土 + 黑土 (粘原)
② 明貴賀	○△ 黄銅板、黒土、黑色土 (3%)
③ 窓	○△ 黃銅板、黒土 (3%)
④ 窓	○△ 黃銅板 3%
⑤ にない 貴賀	○△ 黄銅板、ブロッケ+黒色ブロック混土
⑥ 休憩	○△ 因羽粘土 + 黑土混土
⑦ 黒磚	○△ 因羽瓦片の敷きならし土

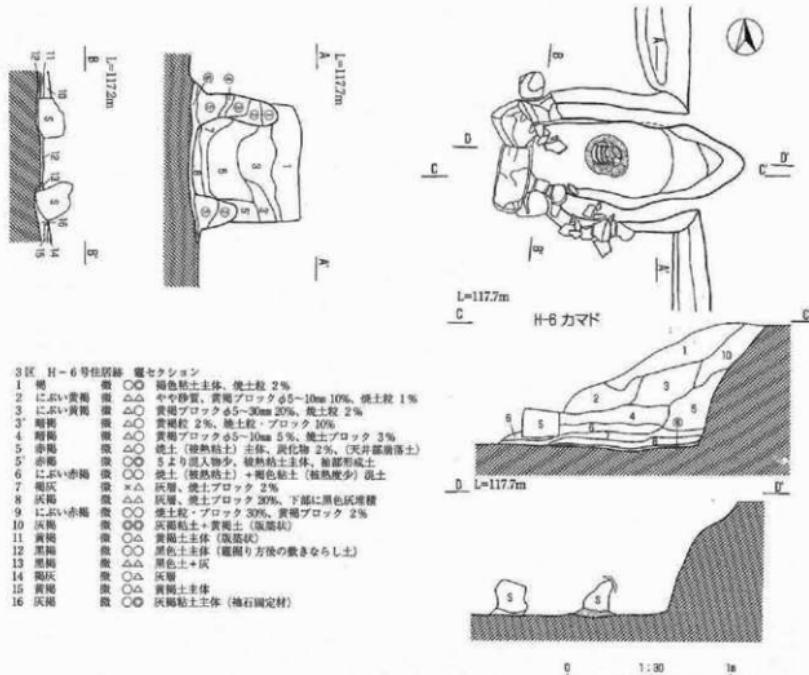


Fig.24 3区 H=6号住居跡

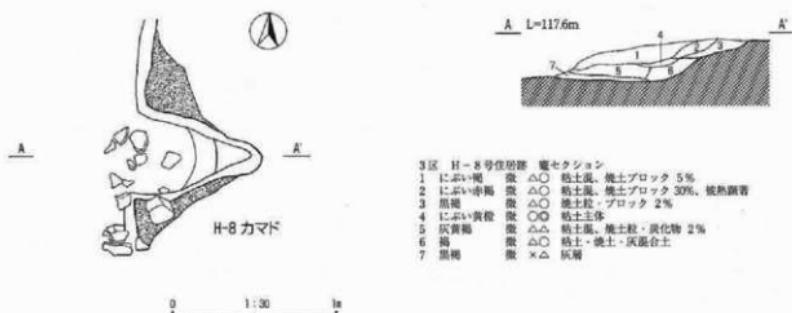
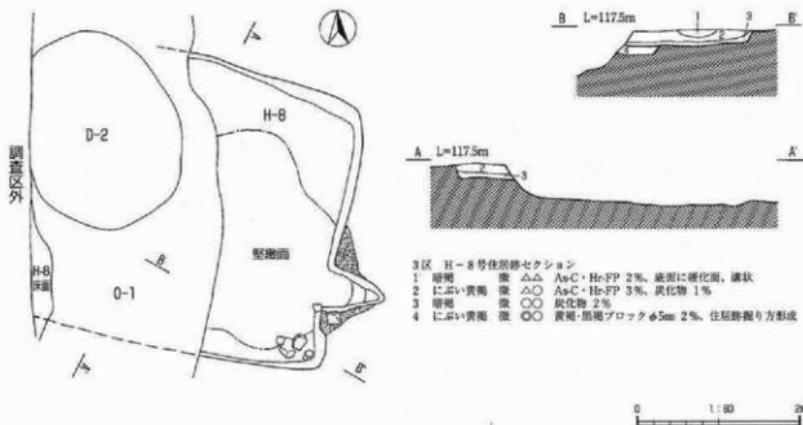
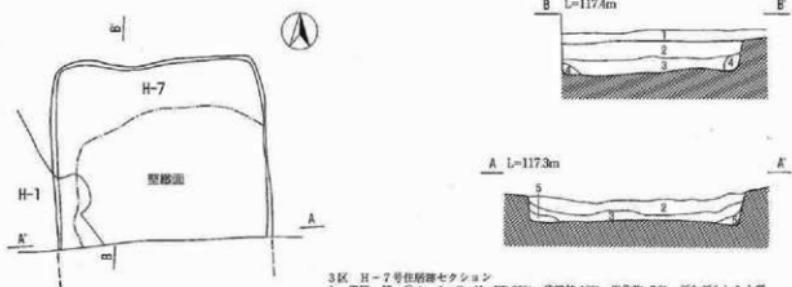


Fig.25 3区 H-7・8号住宅跡

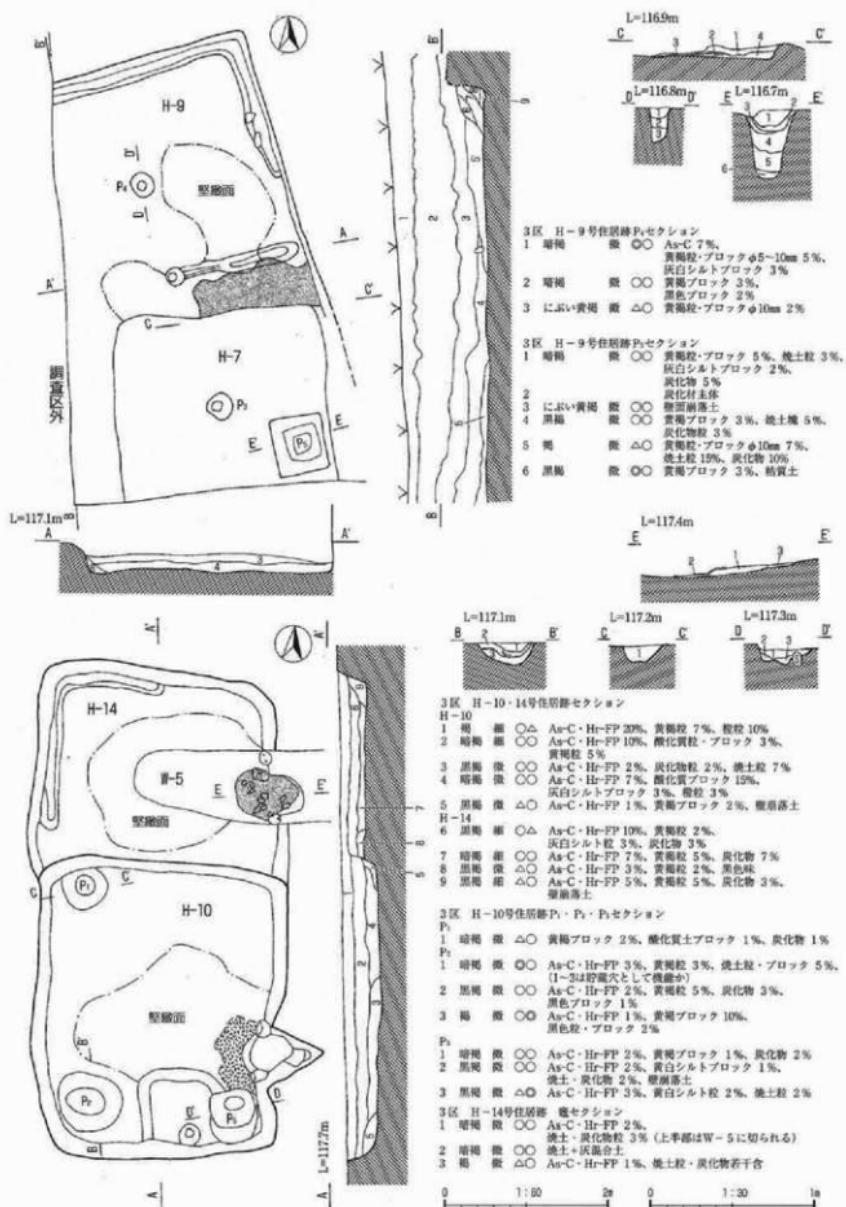
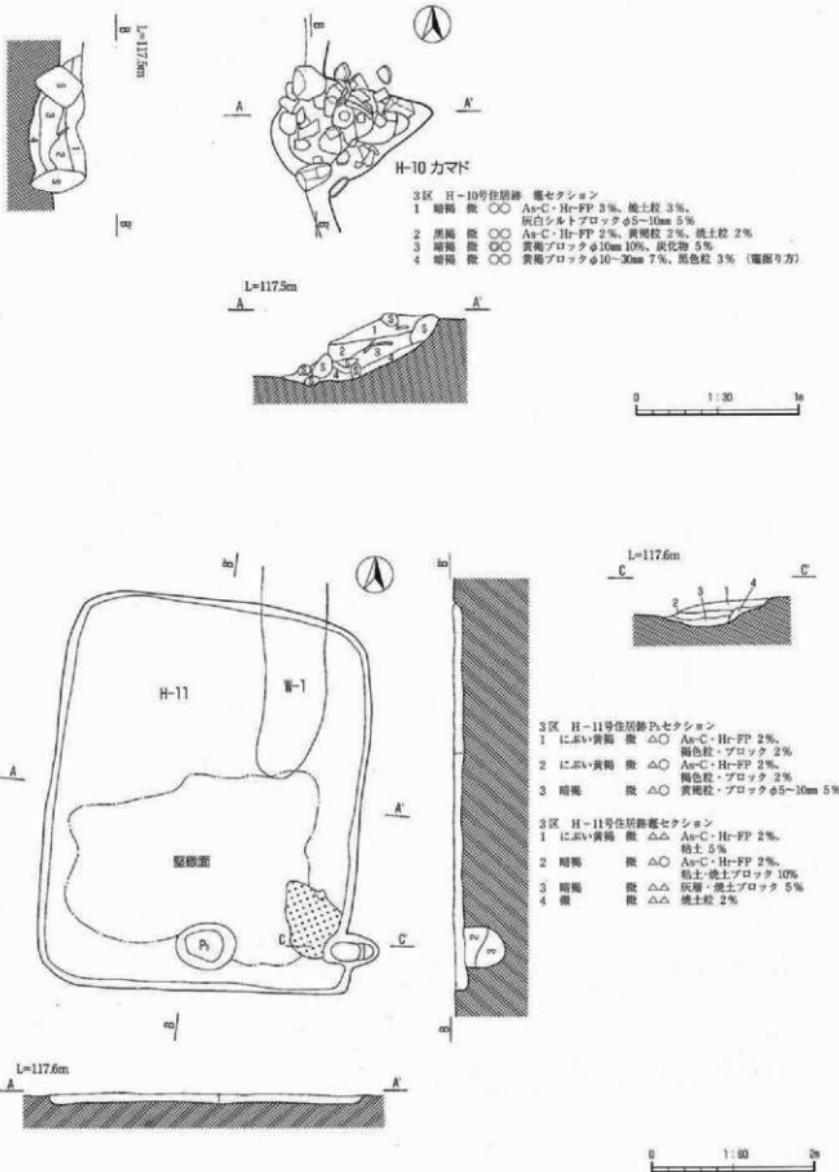
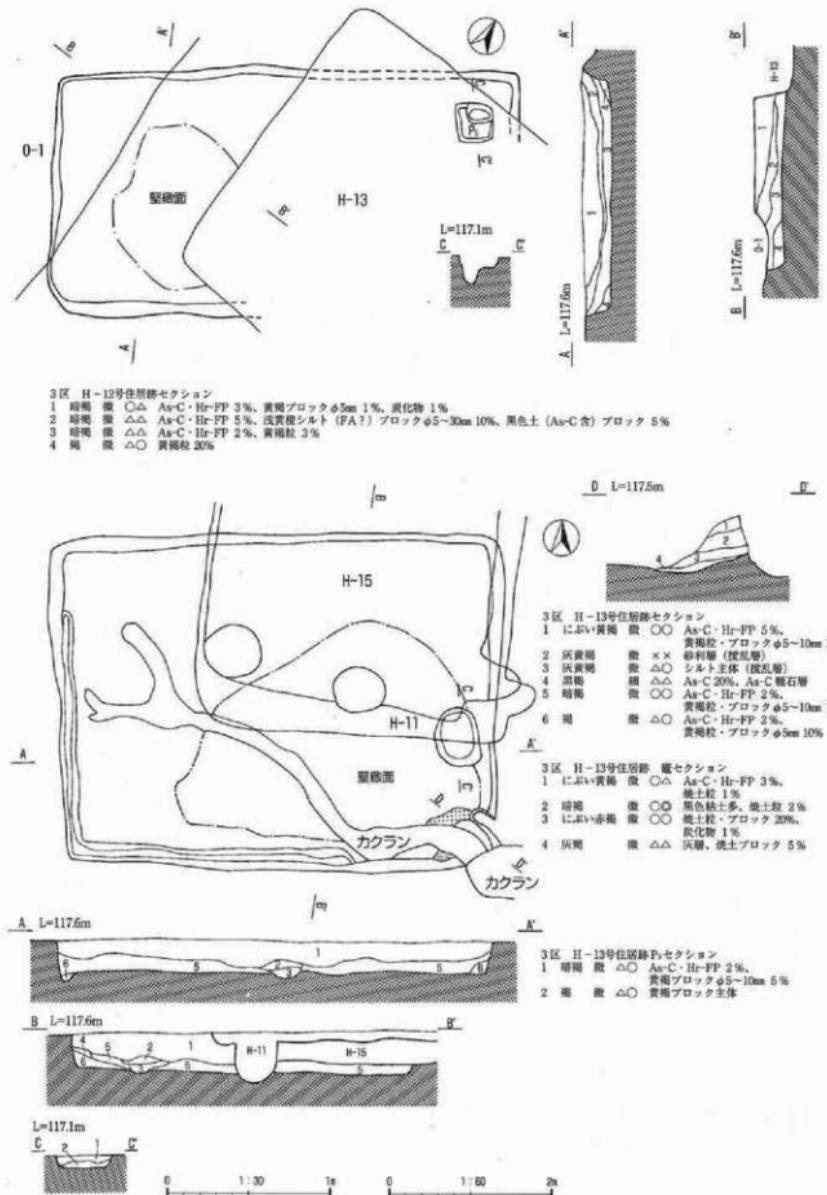


Fig.26 3区 H-9・10・14号住居跡





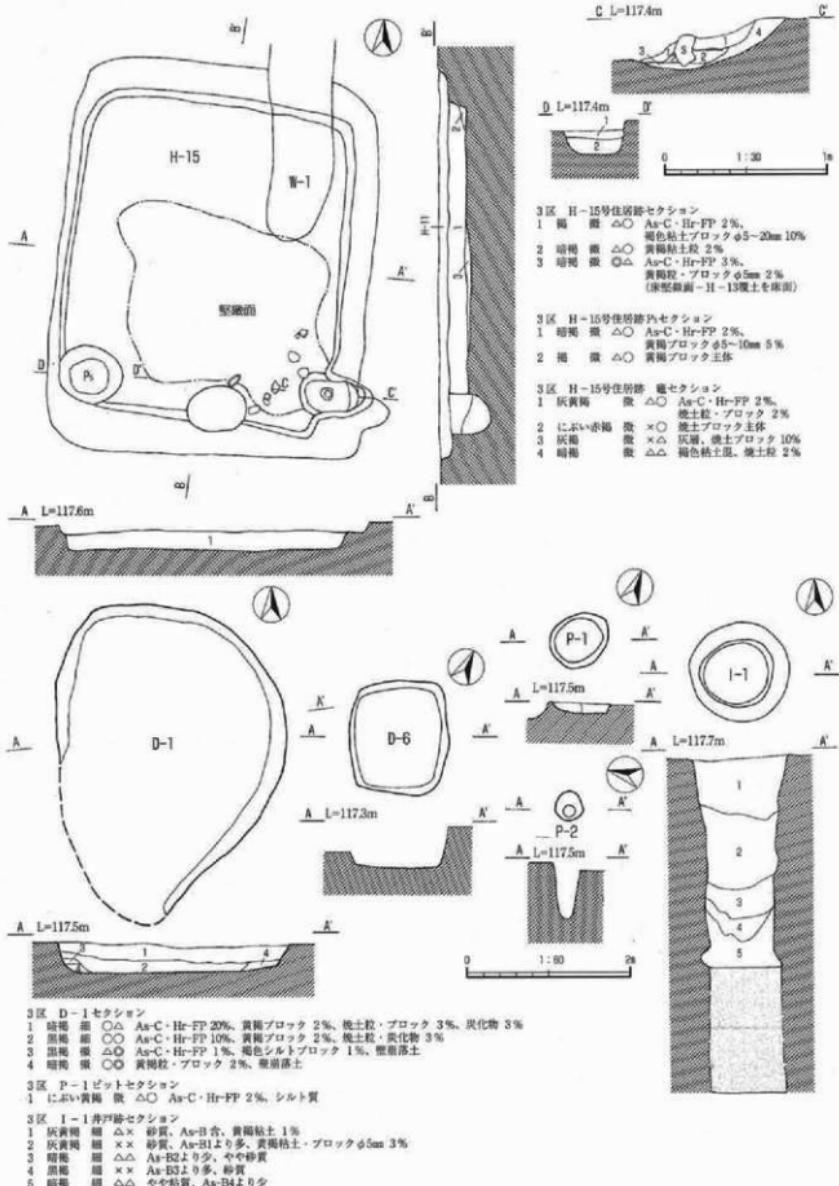


Fig.29 3区 H-15号居住跡、D-1・6号土坑跡、P-1・2号ビット跡、I-1号井戸跡

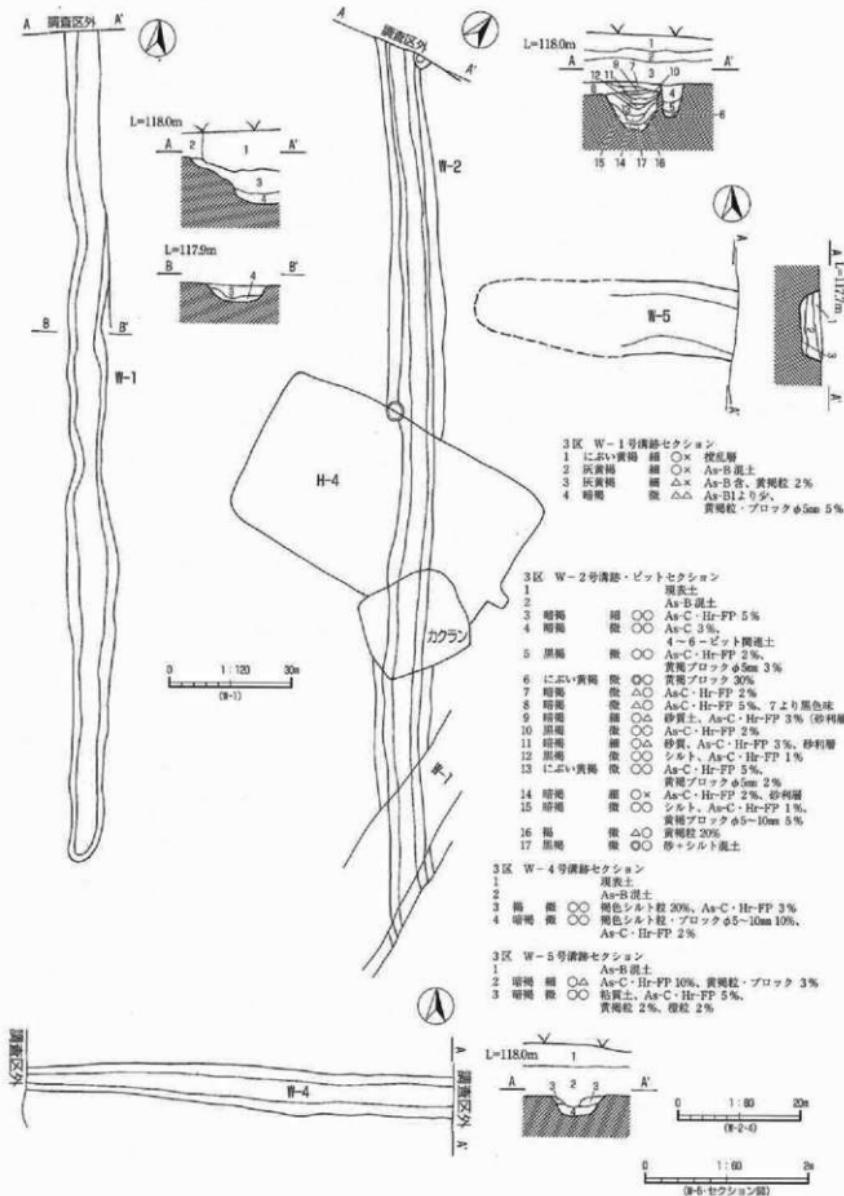


Fig.30 3区 W-1・2・4・5号横断

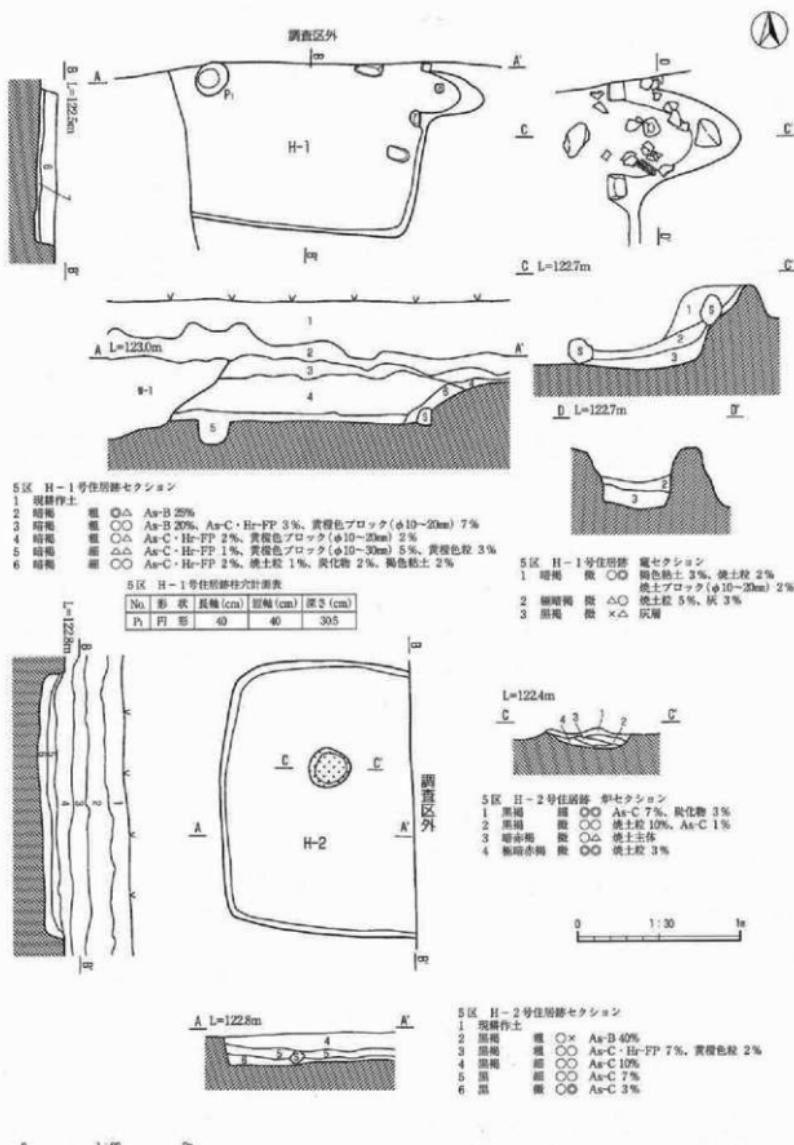


Fig.31 5区 H-1・2号住居跡

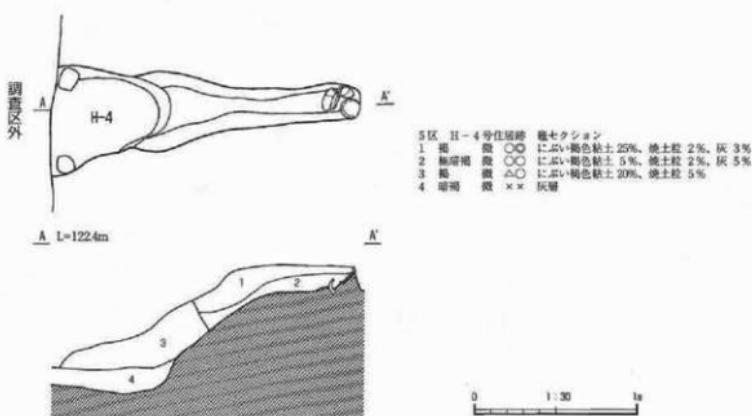
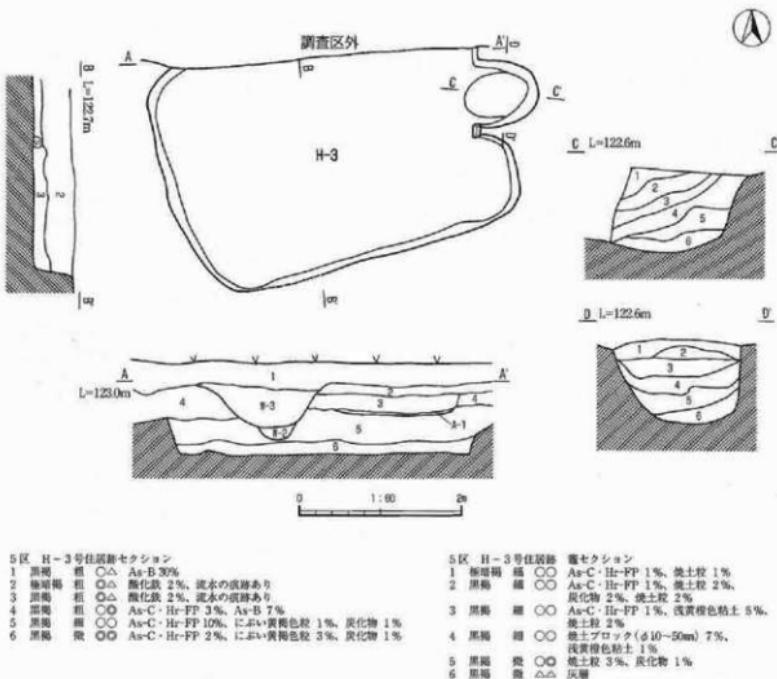


Fig.32 5区 H-3・4号住居跡

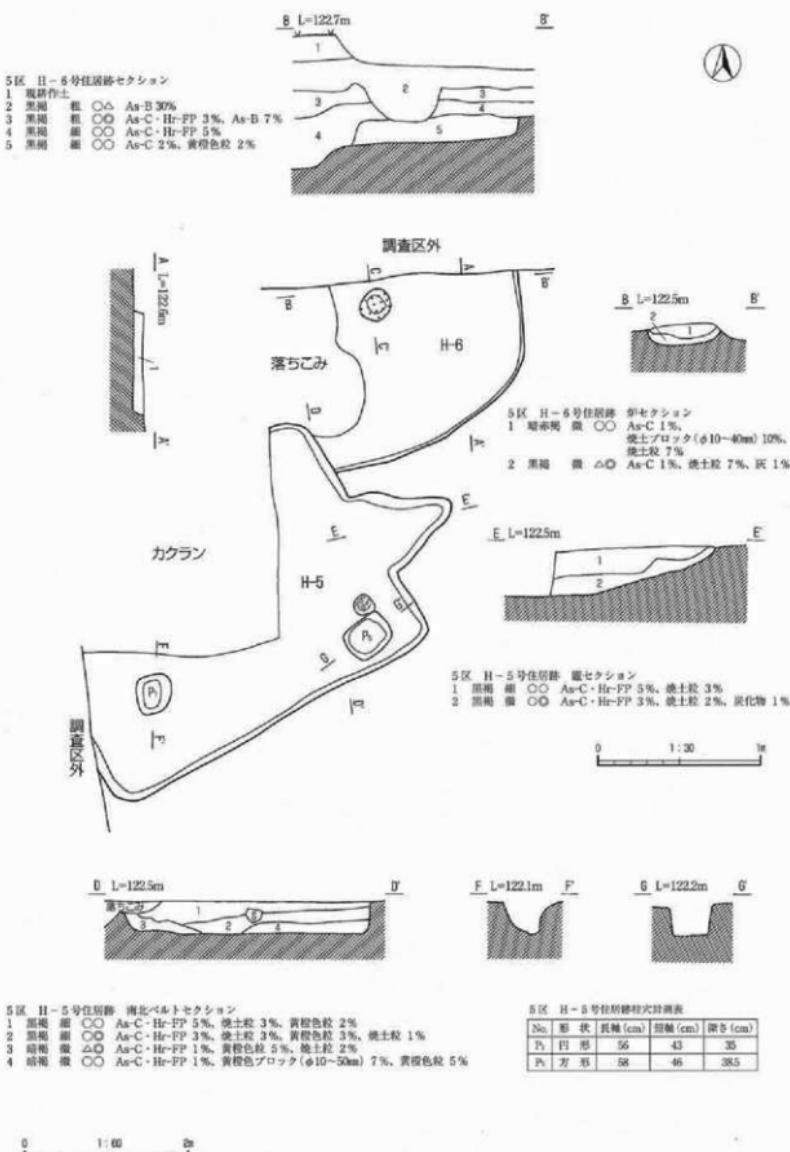


Fig.33 5区 H-5・6号住居跡

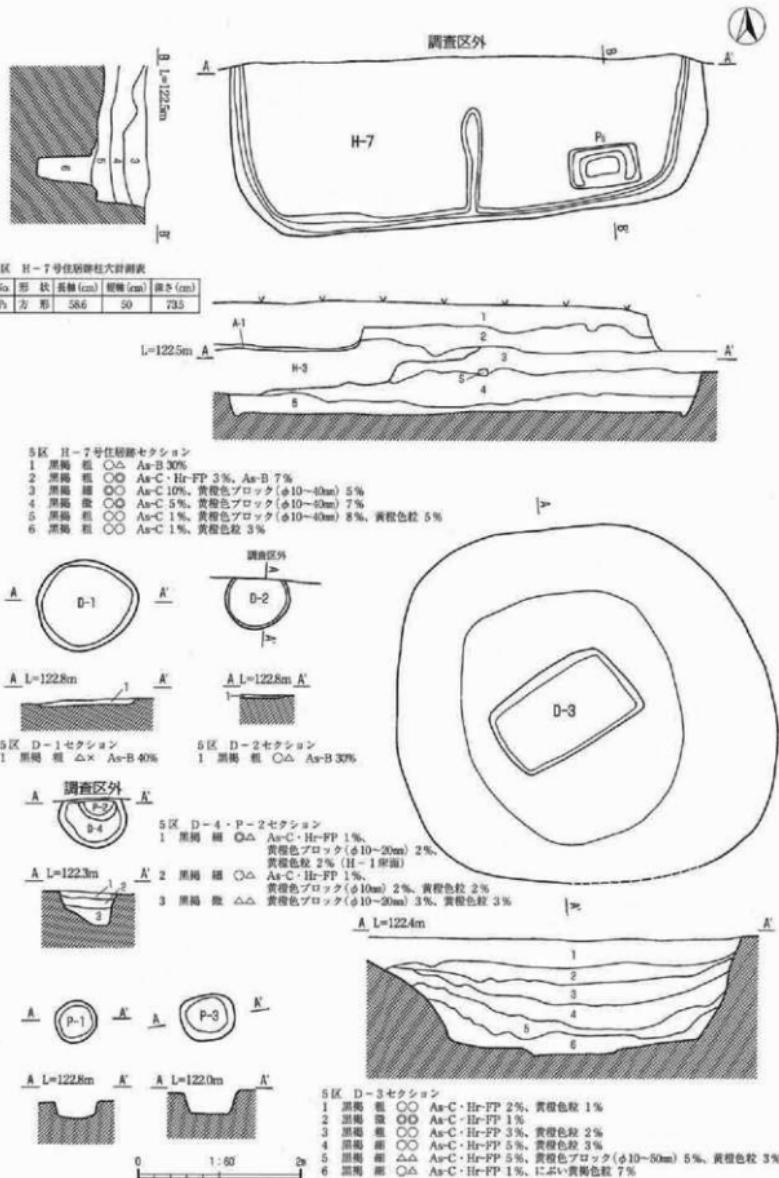


Fig.34 5区 H-7号住居跡、D-1～4号土坑、P-1～3号ビット

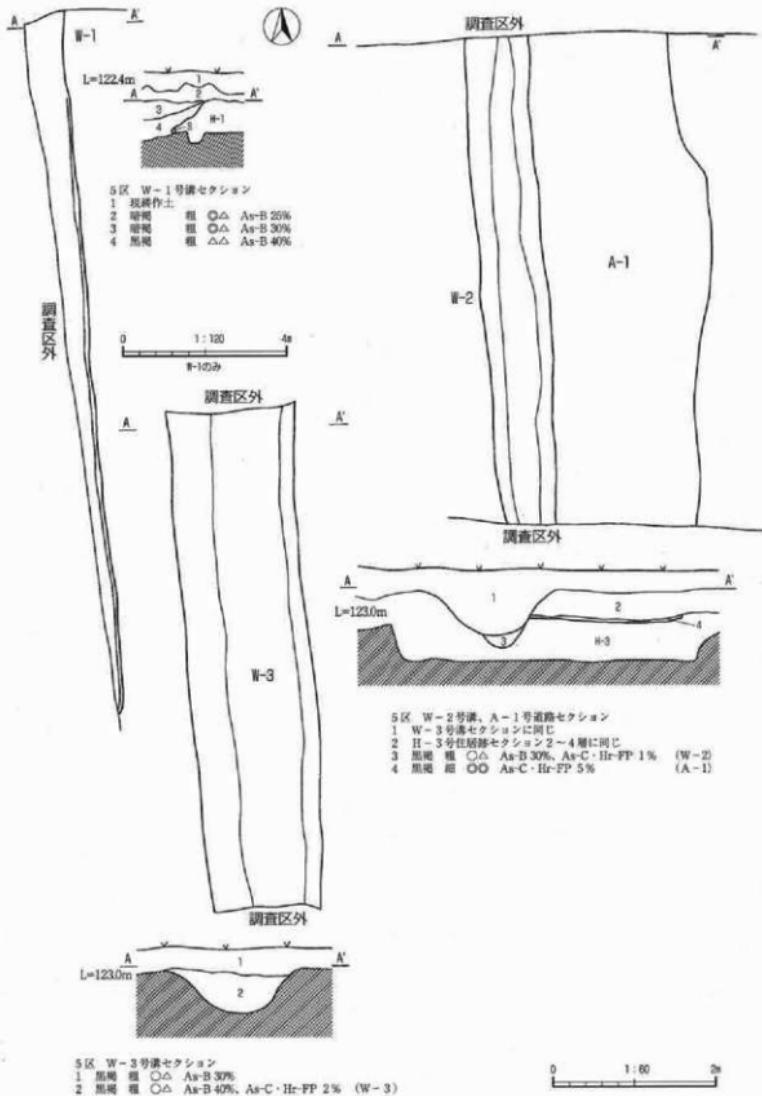


Fig.35 5区 W-1～3号溝跡、A-1号道路跡

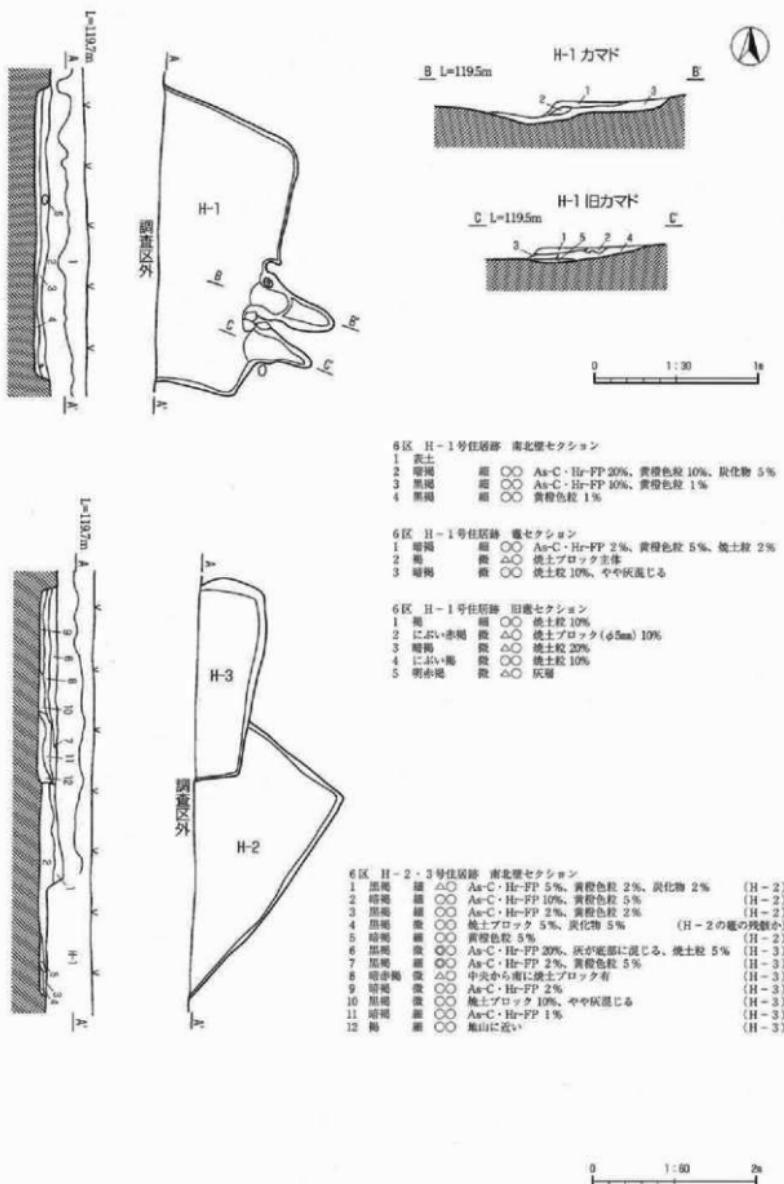


Fig.36 6区 H-1～3号住居跡

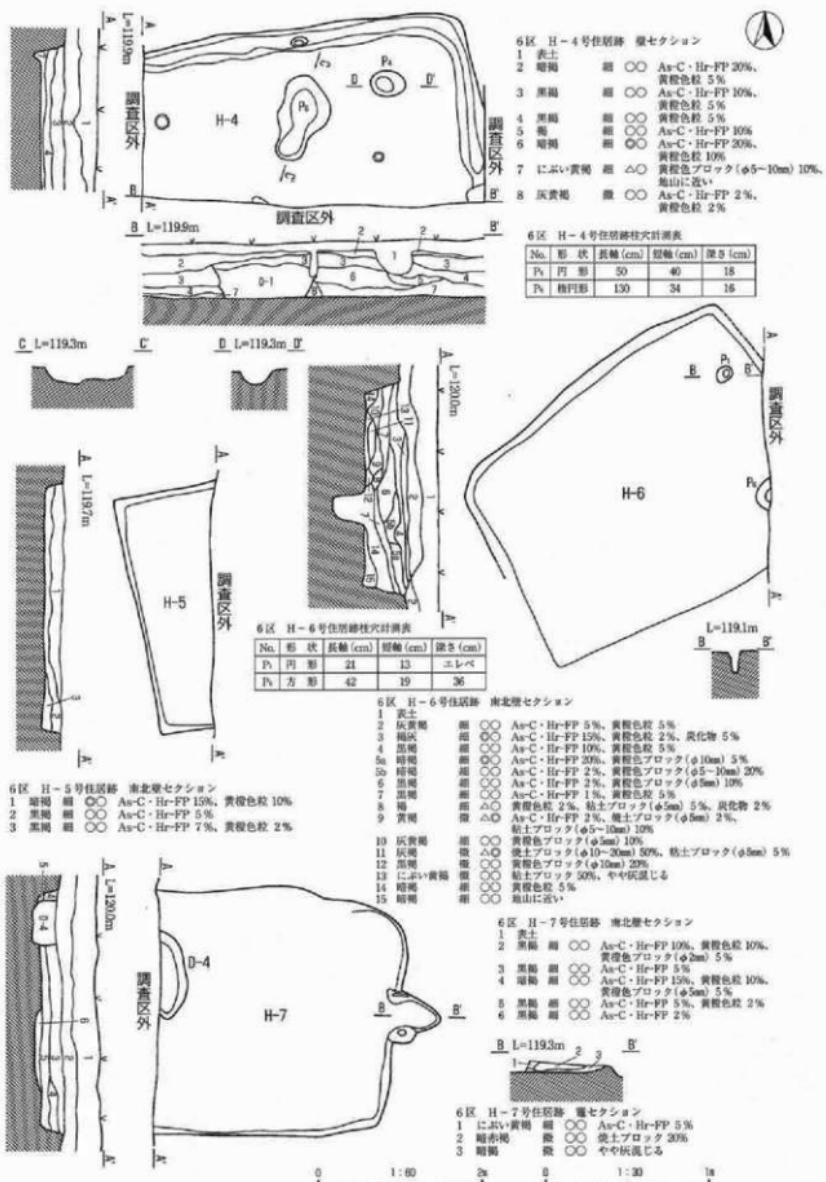


Fig.37 6区 H-4～7号住居跡

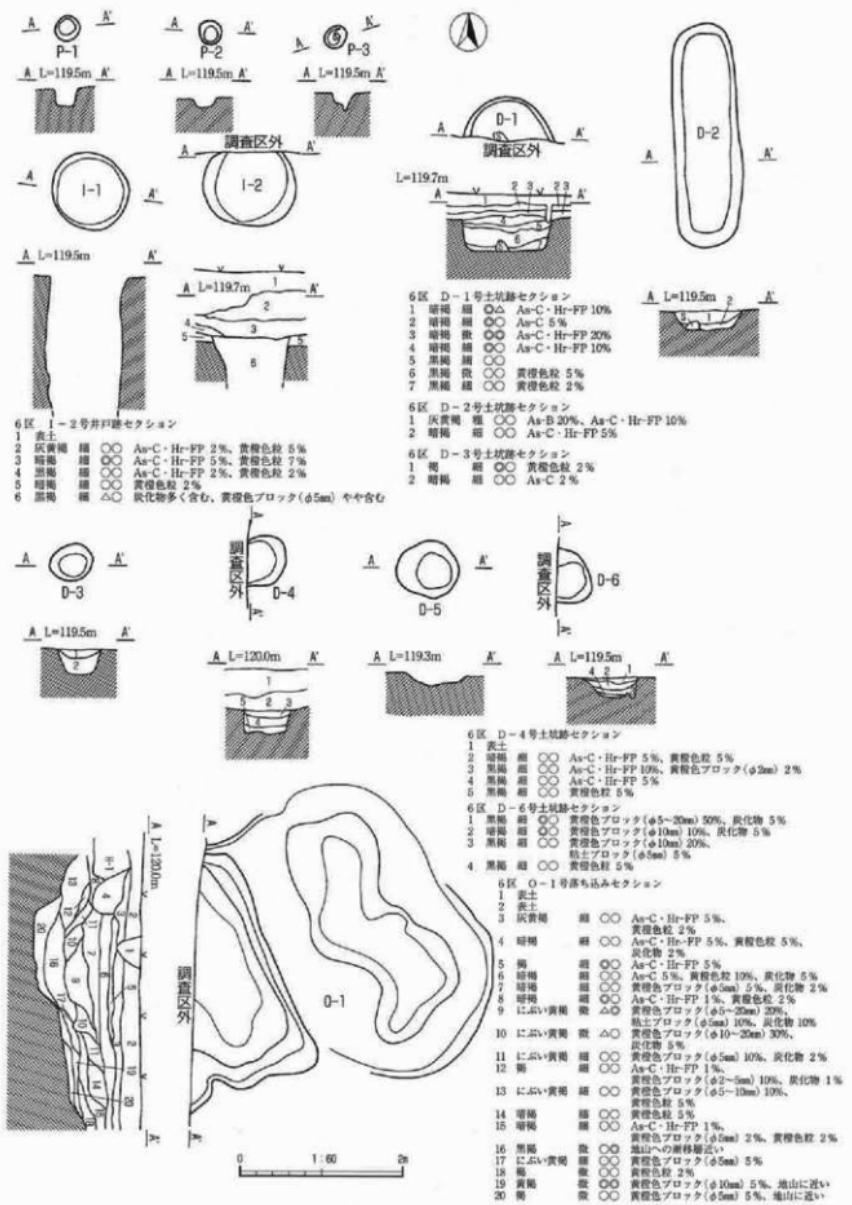


Fig.28 6区 D-1～6号土坑、P-1～3ビット、I-1～2井戸跡、O-1落ちこみ

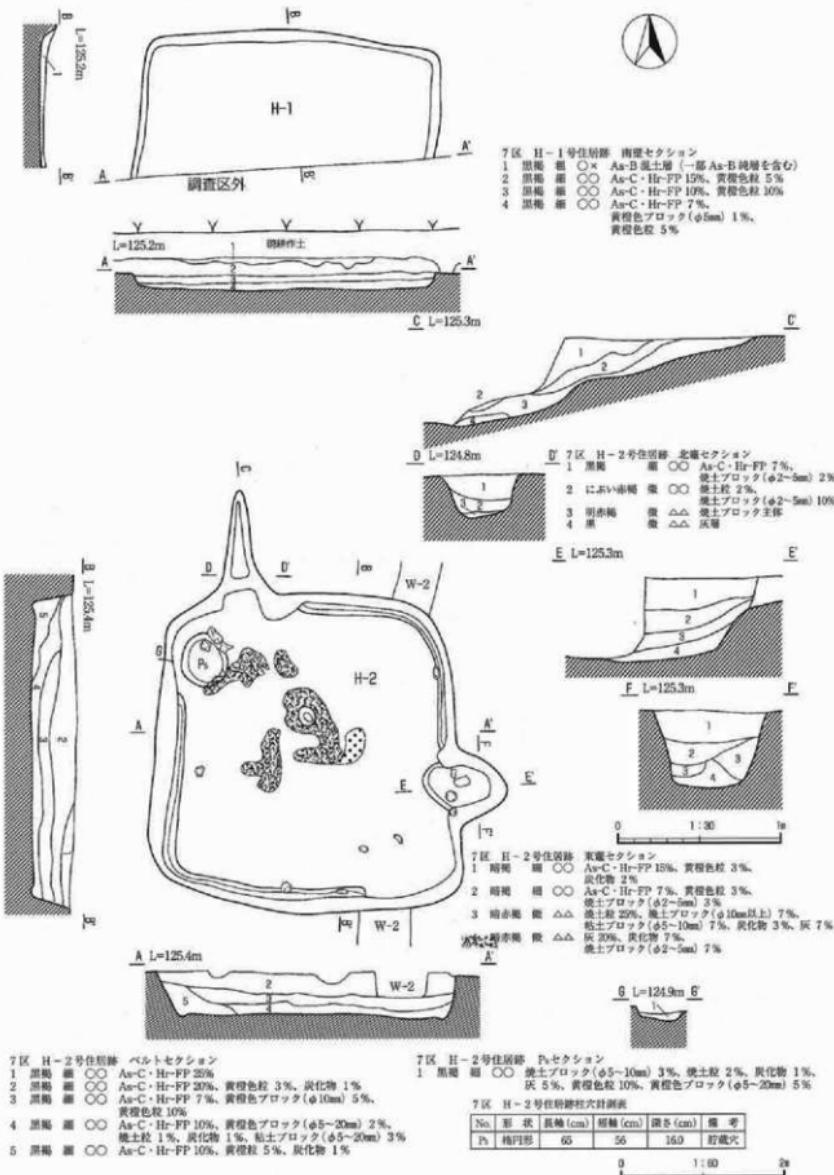


Fig.39 7区 H-1・2号住居跡

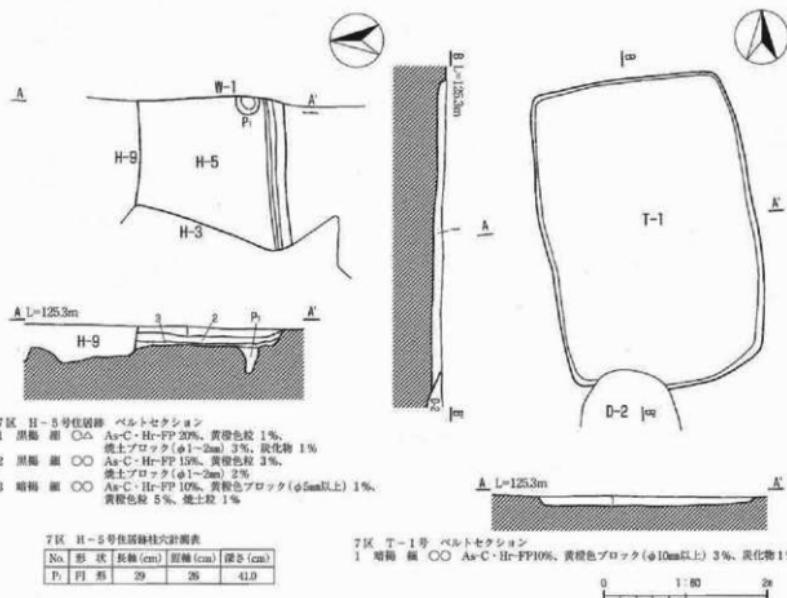
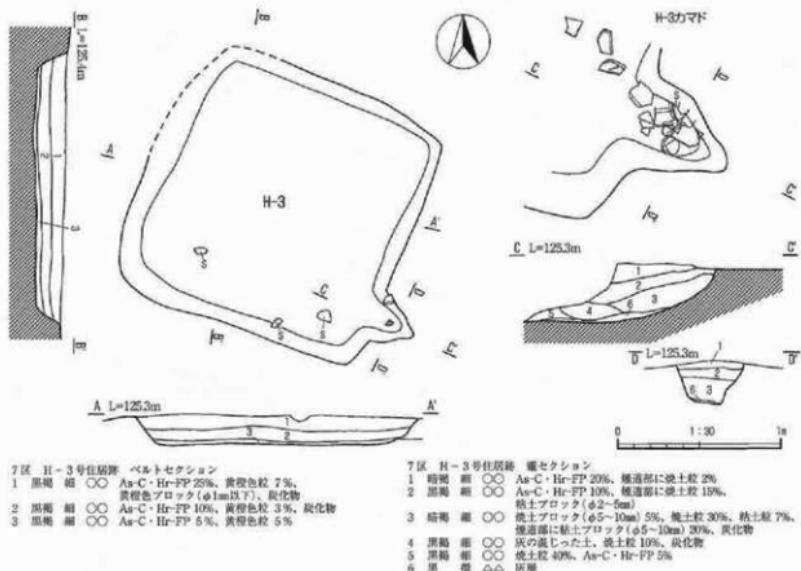


Fig.40 7区 H-3・5号住居跡, T-1号堅穴状遺構

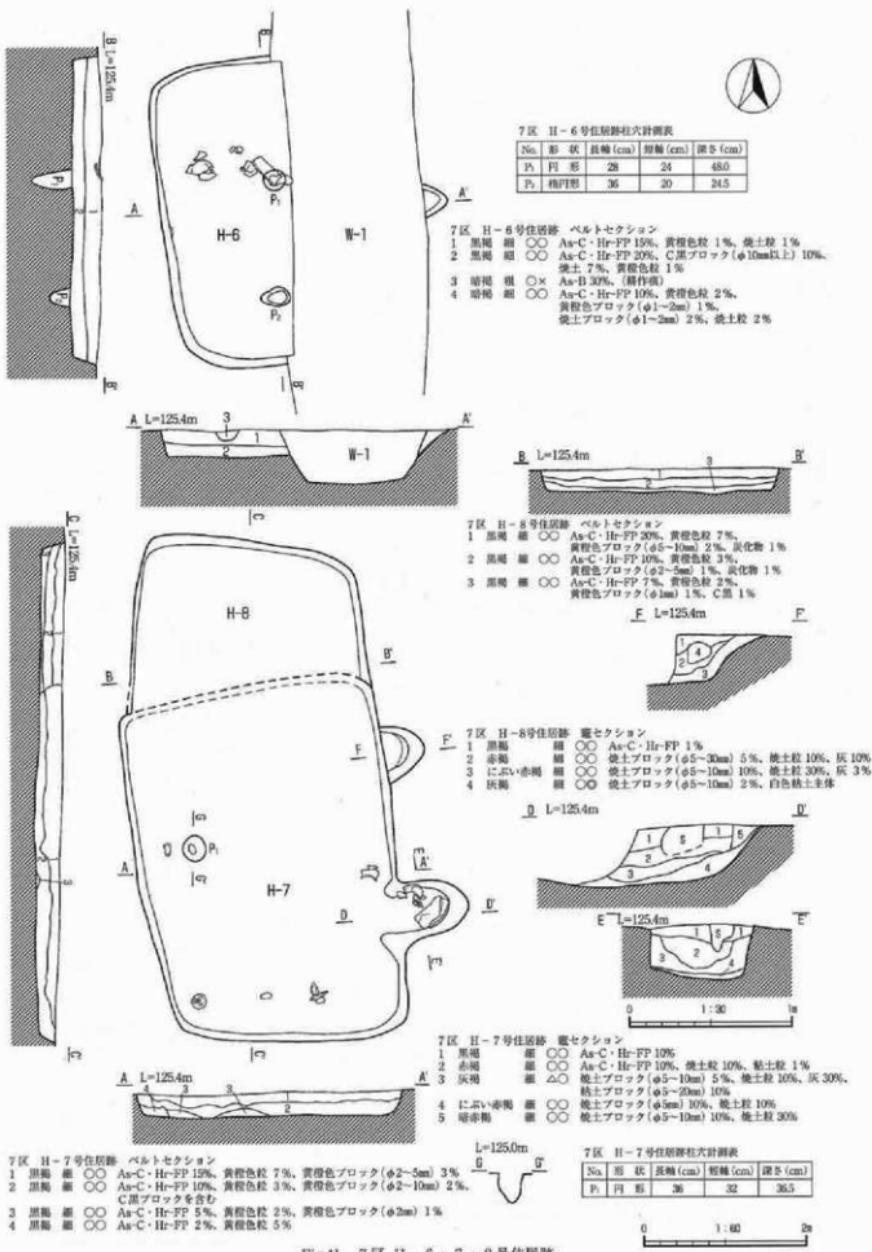


Fig.41 7区 H-6·7·8号住居跡

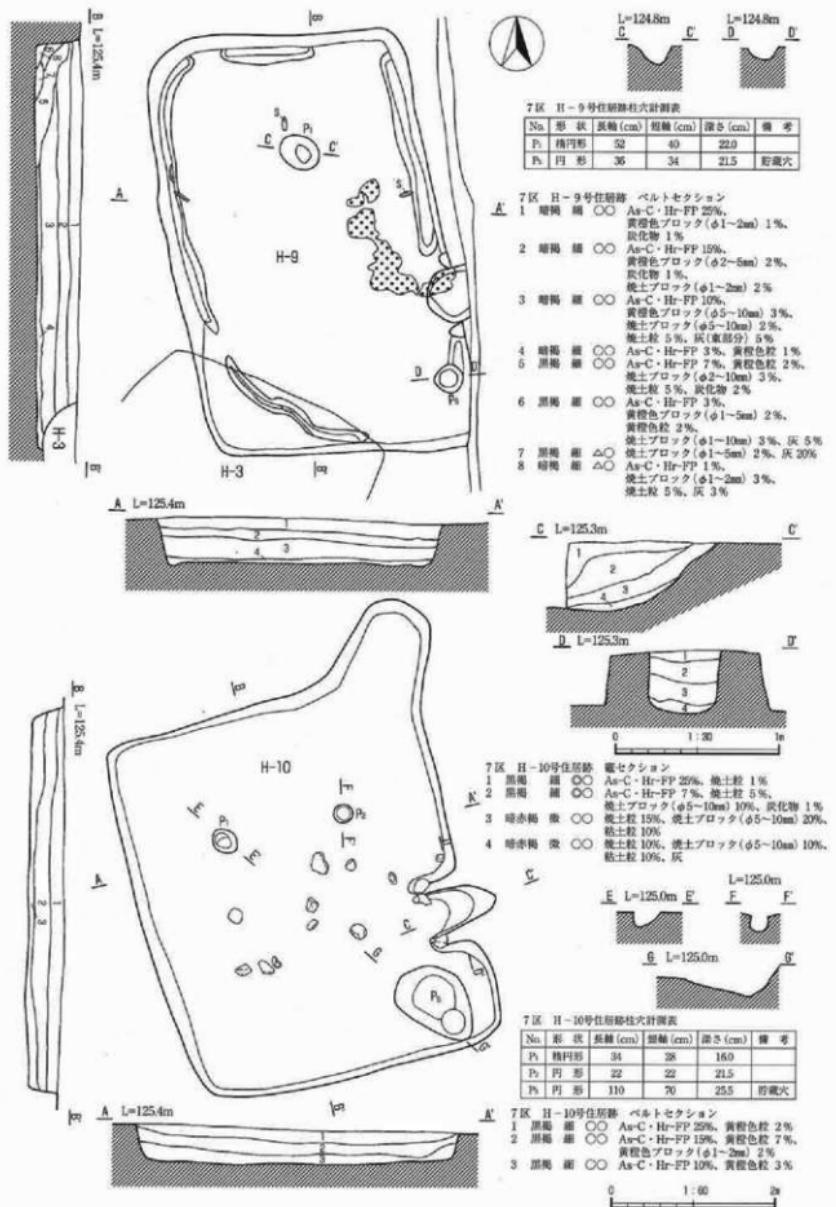


Fig.42 7区 H-9・10号住居跡

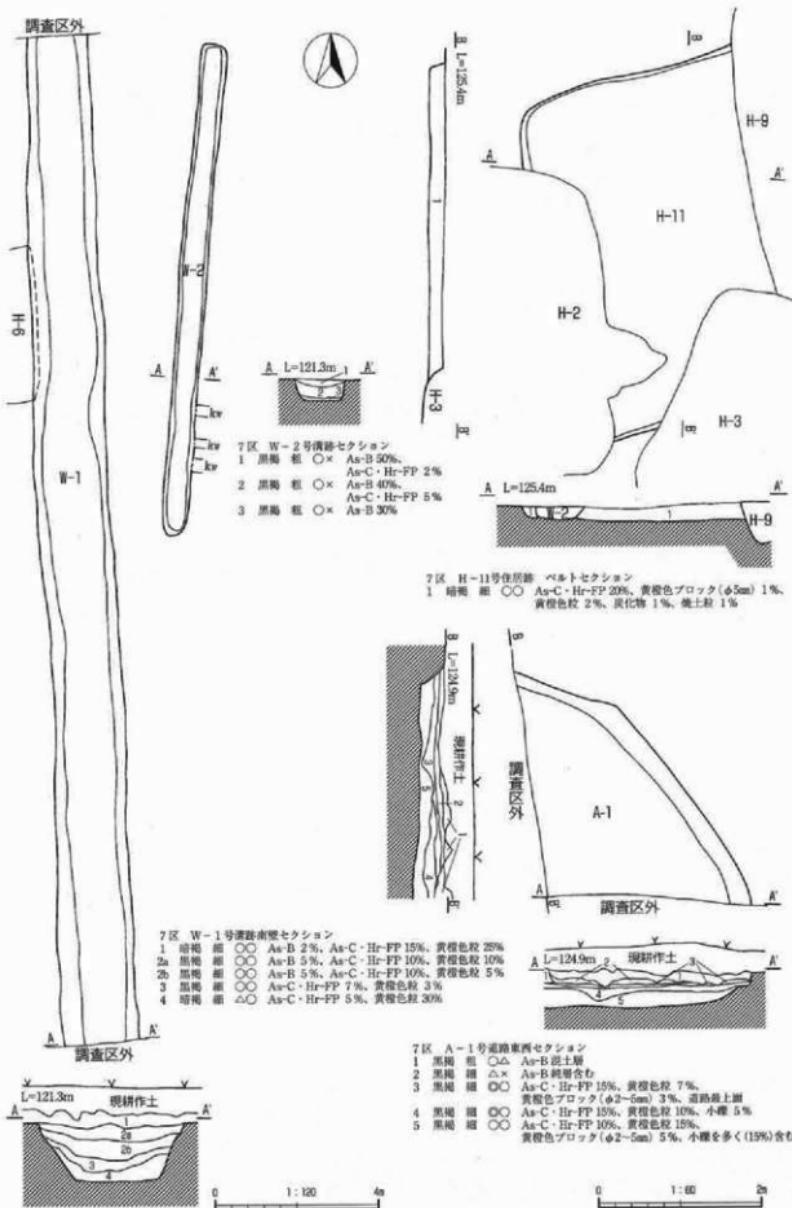


Fig.43 7区 H-11号住居跡、W-1・2号溝跡、A-1号道路跡

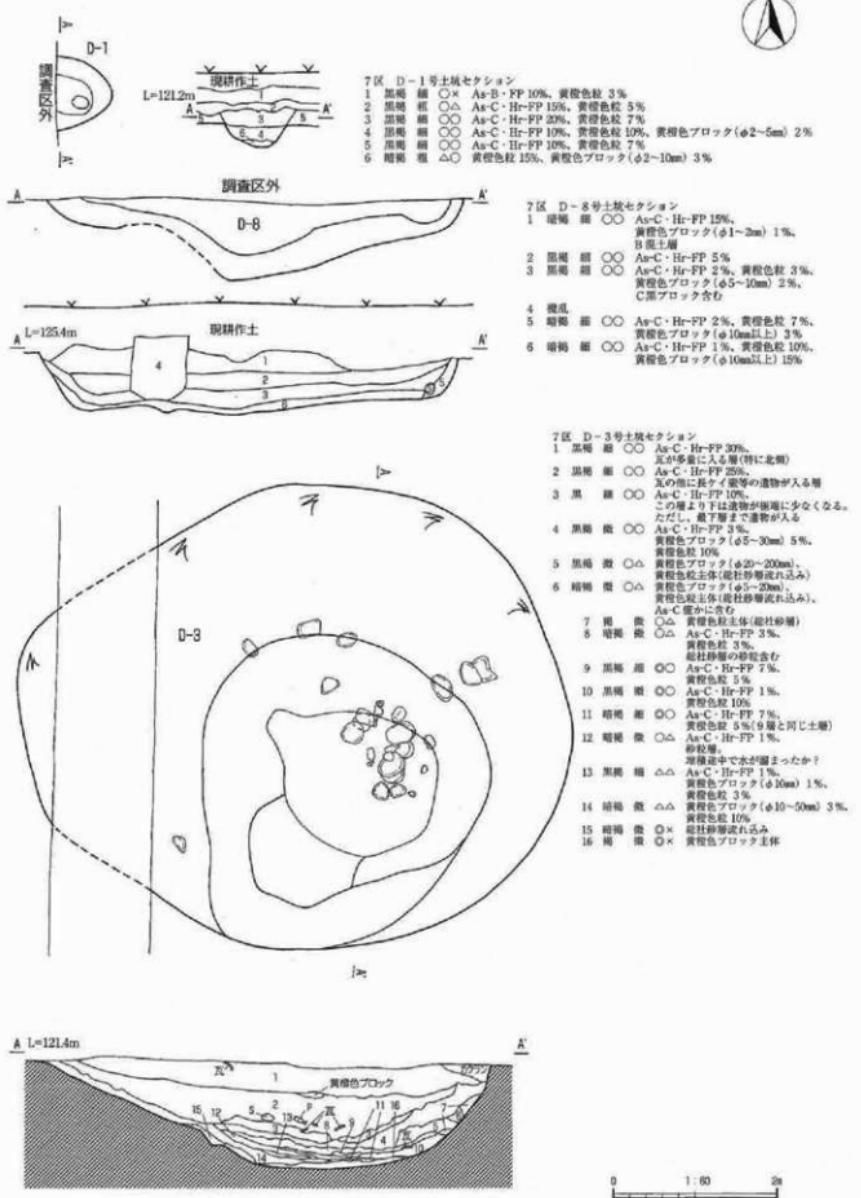
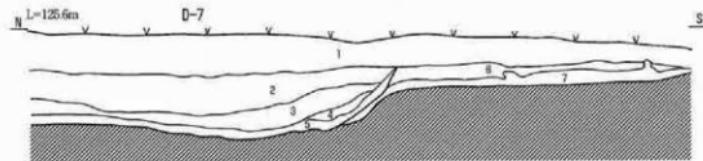
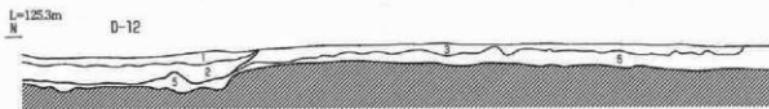


Fig.44 7区 D-1・3・8号土坑



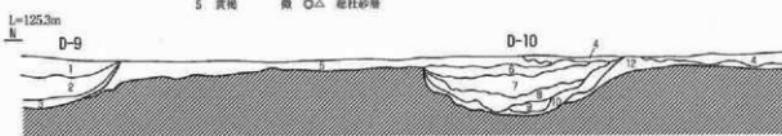
7区 H20-1 トレンチ実験セクション (D-7を含む)

- 1 規耕作土
2 帽泥 微 ○○ As-C・Hr-FP 5%, 黄褐色粒 1% (D-7)
3 黒泥 ○○ 黄褐色粒 5% (D-7)
4 帽泥 微 ○○ As-C 5%, 黄褐色粒 1% (D-7)
5 黒泥 微 ○○ As-C・Hr-FP 2%, 黄褐色ブロック(φ5mm) 2% (D-7)
6 黒泥 微 ○○ As-C・Hr-FP 2%
7 黄 微 ○○ 地山に近い



7区 H20-2 トレンチ実験セクション (D-12を含む)

- 1 帽泥 微 ○○ As-C・Hr-FP 5% 黄褐色粒 2% (D-12)
2 帽泥 微 ○○ 黄褐色粒 5%, 黄褐色ブロック(φ5mm) 2% (D-12)
3 黄 微 ○○ 黄褐色ブロック(φ5mm) 5%
4 にぶい黄泥 粘 ○△ As-C・Hr-FP 5%, 底部に鉄分凝集層。
たゞ1.5mから16m以上は不明

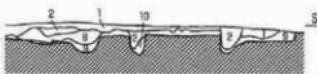
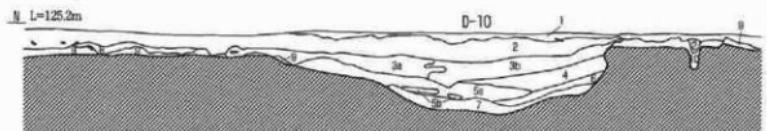


7区 H20-3 トレンチ実験セクション (D-9・10を含む)

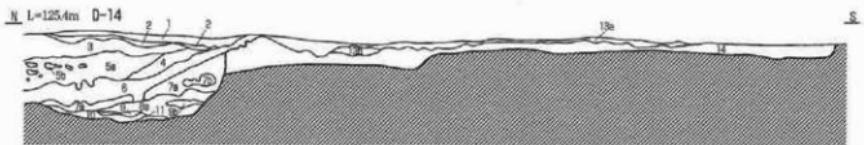
- 1 帽泥 微 ○○ As-C・Hr-FP 1% (D-9)
2 帽泥 微 ○○ 黄褐色粒 2% (D-9)
3 にぶい黄泥 微 ○○ 黄褐色ブロック(φ5mm) 5% (D-9)
4 黒泥 微 ○○ 底部に鉄分凝集層あり
5 黒泥 微 ○○ As-C 5%
6 黑泥 微 ○○ As-C・Hr-FP 5% 黄褐色粒 2% (D-10)
7 帽泥 微 ○○ As-C・Hr-FP 2% 黄褐色粒 2% (D-10)
8 黑泥 微 ○○ 黄褐色粒 2% (D-10)
9 黑泥 微 ○○ As-C・Hr-FP 2% 黄褐色粒 2% (D-10)
10 にぶい黄泥 微 ○○ 黄褐色ブロック(φ5mm) 2% (D-10)
11 黑泥 微 ○○ 底部に鉄分凝集層あり
12 黄 微 ○○ 鹿糞砂層

0 1:80 20

Fig.45 H20-7区 1・2・3トレンチ断面図



7区 H12-2 トレンチ東壁セクション (D-10を含む)	
1 咽頭	巻 ○○ As-C・Hr-FP 20%、底部に鉄分凝聚層あり、北から55~65m付近で瓦を含む
2 黒褐	巻 ○○ As-C・Hr-FP 5%
3a 灰黄褐	巻 ○○ 黄褐色ブロック(φ5~10mm) 10%
3b 黑褐	巻 ○○ As-C・Hr-FP 5%
4 黑褐	巻 ○○ As-C・Hr-FP 2%
5a にぶい黄褐	巻 ○○ As-C・Hr-FP 27%、黄褐色ブロック(φ2mm) 5%
5b 黑褐	巻 ○○ As-C・Hr-FP 1%
6 黑褐	巻 ○○ 黄褐色ブロック(φ5mm) 2%
7 咽頭	巻 ○○ 地山に近い
8 にぶい黄褐	巻 ○○ 黄褐色ブロック(φ2~8mm) 5%
9 咽頭	巻 ○○
10 咽頭	巻 ○○ 記社跡有



7区 H12-4 トレンチ東壁セクション (D-14を含む)	
1 咽頭	巻 ○○ As-C・Hr-FP 20%、底部に鉄分凝聚層あり
2 黒褐	巻 ○○ As-C・Hr-FP 15%、黄褐色粒 5%
3 切削面	巻 ○○ As-C・Hr-FP 10%
4 咽頭	巻 ○○ As-C・Hr-FP 7%
5a 咽頭	巻 ○○ As-C・Hr-FP 2%
5b 咽頭	巻 ○○ 川砂が砂や泥じり
6	巻 ○○ 地山の流れ込みか
7a にぶい黄褐	巻 ○○ 地山の流れ込みか
7b 黑褐	巻 ○○ 黄褐色粒 1%
8a 咽頭	巻 ○○ 黄褐色粒 1%
8b 咽頭	巻 ○○ 地山でやや地山が混じる
9 咽頭	巻 ○○
10 黒褐	巻 ○○
11 黒褐	巻 ○○ 黄褐色ブロック(φ5~10mm) 5%
12 鶴	巻 ○○ 地山に近い
13a 咽頭	巻 ○○ 層底付近に鉄分凝聚層あり
13b 咽頭	巻 ○○ 黄褐色粒 5%
14 咽頭	巻 ○○ 記社跡有



7区 H12-3 トレンチ東壁セクション	
1 咽頭	巻 ○○ As-C・Hr-FP 1%、黄褐色ブロック(φ2mm) 1%
2 黒褐	巻 ○○ As-C・Hr-FP 10%、底部に瓦あり
3 咽頭	巻 ○○ As-C・Hr-FP 2%、底部に鉄分凝聚層あり
4 咽頭	巻 ○○ As-C・Hr-FP 1%、黄褐色ブロック(φ2mm) 2%
5 鶴	巻 ○○ 記社跡有

0 1:50 2m

Fig46 7区 H12-2・3、H20-4 トレンチ断面図

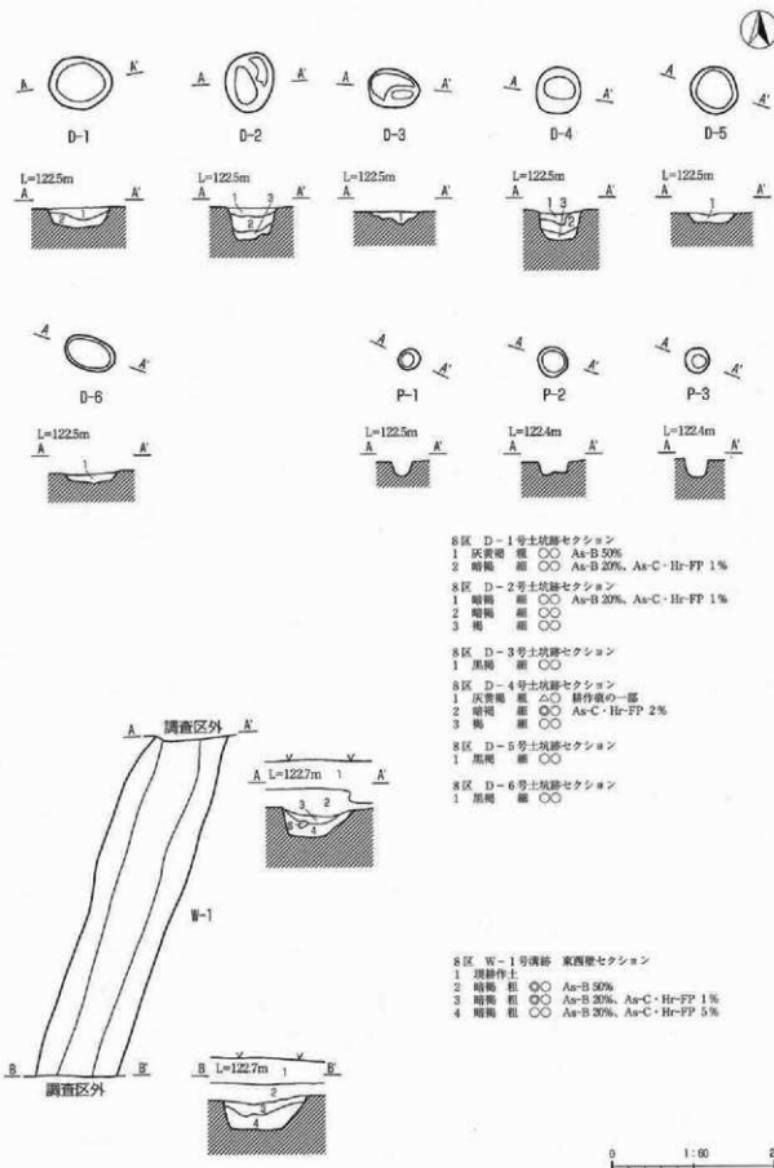
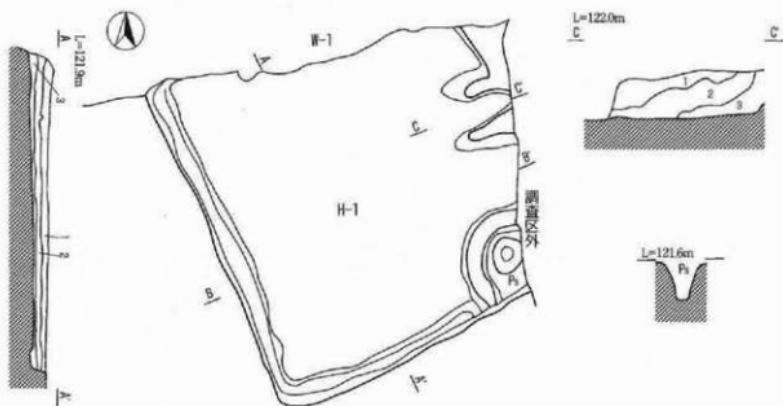
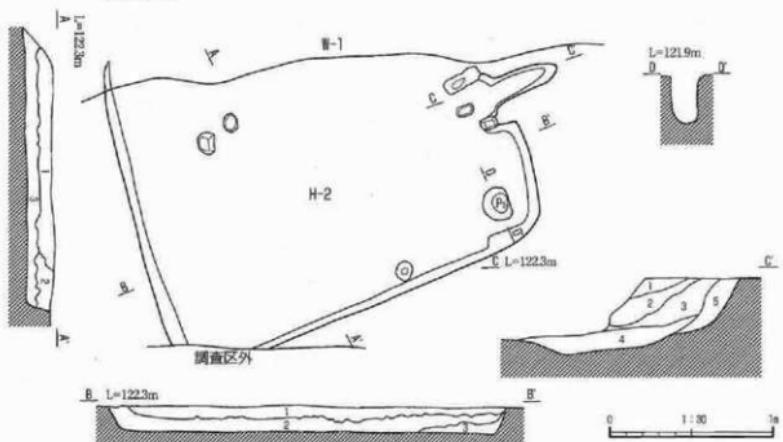


Fig47 8区 D-1~6号土坑、P-1~3ビット、W-1号溝跡



9区 H-1号住居跡 ベルトセクション
 1 黒褐色 ○○ As-C-Hr-FP 5%, 黄褐色ブロック(φ2~10cm) 5%, 黄褐色粒 5%
 2 黑褐色 ○○ As-C-Hr-FP 3%, 黄褐色ブロック(φ2~10cm) 3%, 黄褐色粒 3%
 3 黑褐色 ○○ As-C-Hr-FP 2%, 黄褐色ブロック(φ10cm) 3%, 黄褐色粒 7%
 黄褐色粒 7%

9区 H-1号住居跡 蔽セクション
 1 線開 線 ○○ 粘土ブロック(φ1~2cm) 5%, 粘土粒 5%, 硫化物 3%, 氧化物 1%
 2 線開 線 ○○ 粘土ブロック(φ10mm) 7%, 粘土粒 5%, 粘土ブロック(φ1~2cm) 2%, 硫化物 3%, 粘土粒 7%
 黄褐色粒 5%



9区 H-2号住居跡 ベルトセクション
 1 黑褐色 ○○ As-C-Hr-FP 15%, 黄褐色ブロック(φ2~5cm) 3%, 黄褐色粒 5%
 2 黑褐色 ○○ As-C-Hr-FP 7%, 黄褐色ブロック(φ5~10cm) 7%, Hr-FA 15%, 氧化物 1%
 3 黑褐色 ○○ As-C-Hr-FP 10%, 黄褐色ブロック(φ5~10cm) 5%, Hr-FA 3%, 黄褐色粒 7%
 9区 H-2号住居跡 蔽セクション
 1 黑褐色 線 ○○ 粘土粒 3%, 粘土粒 1%
 2 線開 線 ○○ 粘土ブロック(φ5mm) 5%, 粘土粒 10%, 粘土粒 1%
 3 線開 線 △○ 粘土ブロック(φ20~30cm) 10%, 粘土粒 10%
 4 灰灰 線 △○ 灰灰
 5 灰開 線 △○ 灰わざかに混じる。粘土粒 1%

Fig.48 9区 H-1・2号住居跡

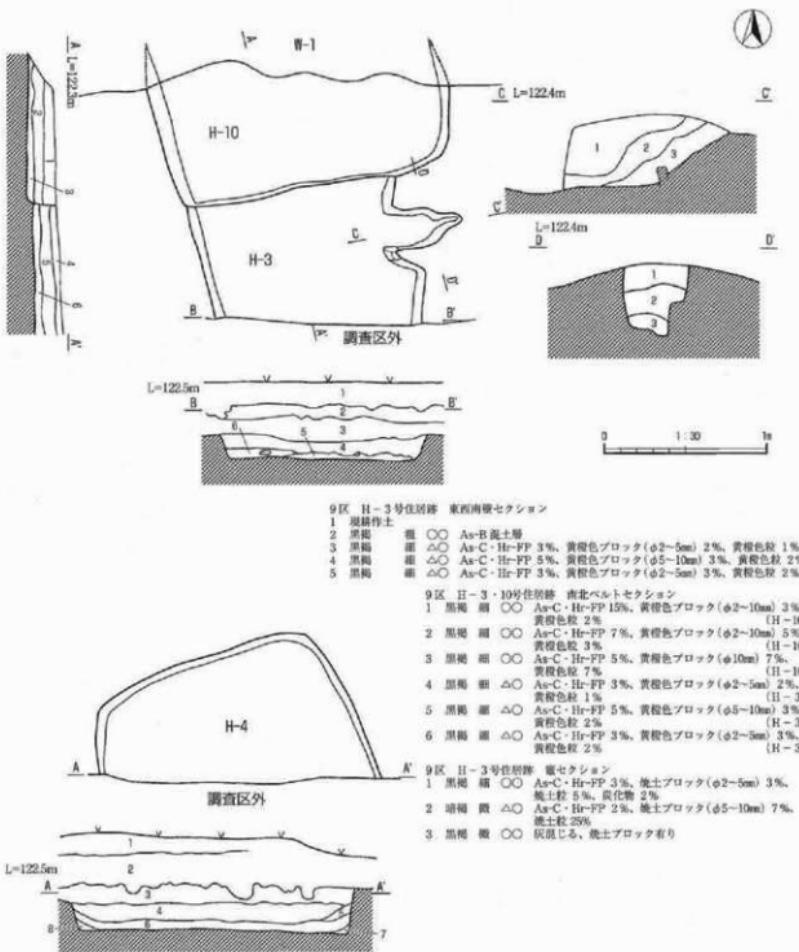


Fig49 9区 H-3・4・10号住居跡

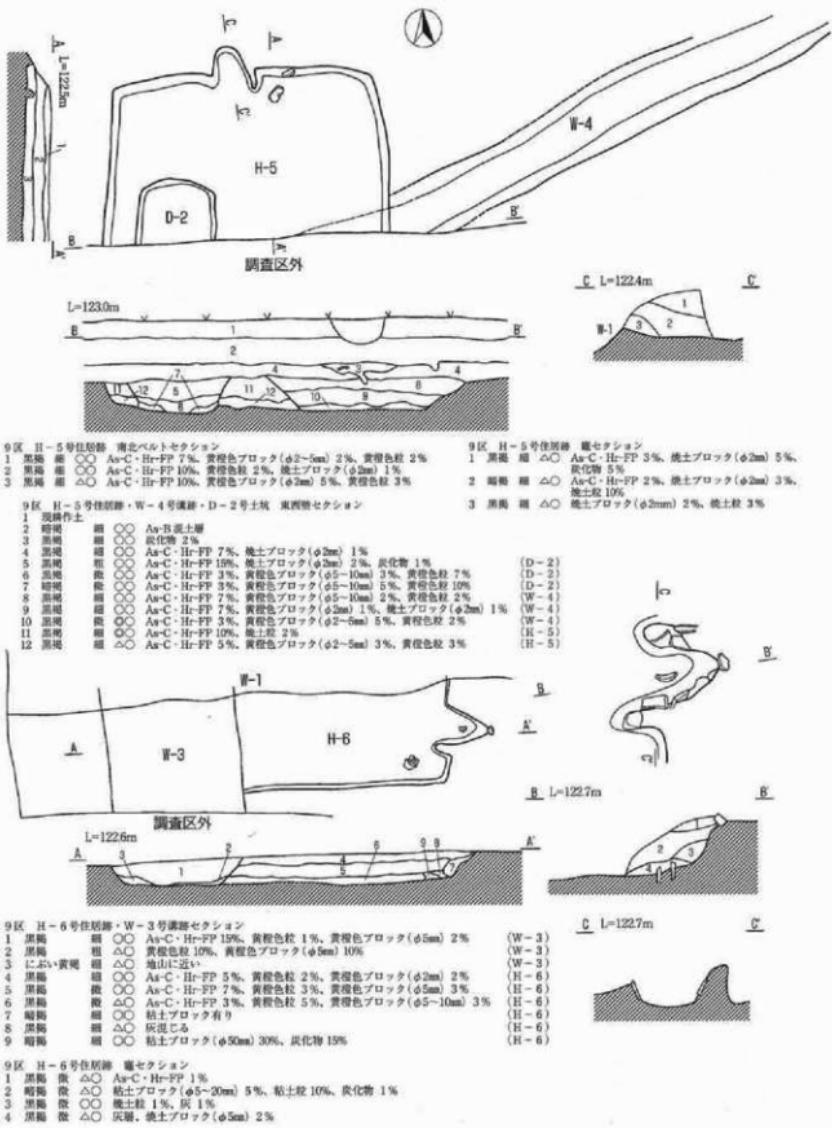
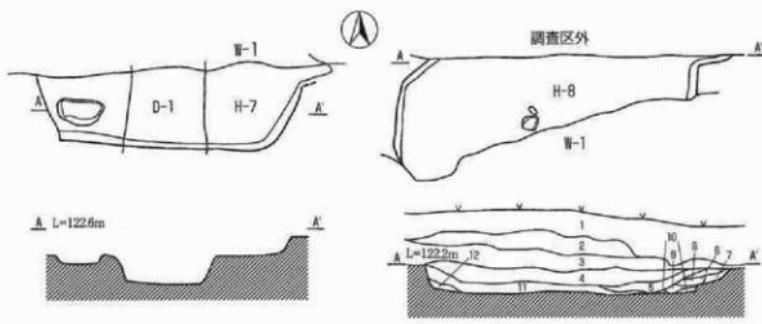
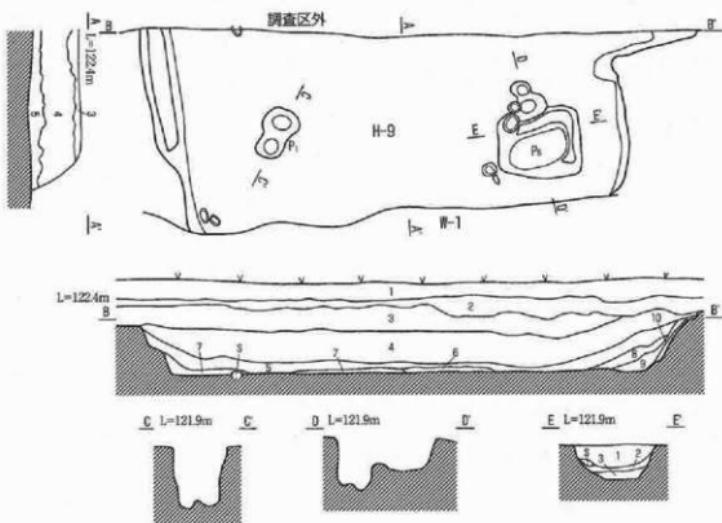


Fig.50 9区 H-5・6号住居跡、W-4号溝跡



9区 H-8号住居跡 北壁セクション

- 1 現耕作土
 - 2 広葉樹
 - 3 明渠
 - 4 明渠
 - 5 明渠
 - 6 明渠
 - 7 にい赤楊
 - 8 植物
 - 9 植物
 - 10 植物
 - 11 植物
 - 12 葉
- 細△ As-B 50%以上
細○ As-C-Hr-FP 15%, 黄褐色粒 2%
細○ As-C-Hr-FP 10%, 黄褐色粒 5%
細○ As-C-Hr-FP 10%, 黄褐色粒 2%, 深土粒 5%
細○ As-C-Hr-FP 5%, 深土粒 15%
洗土ブロック 50%
洗土ブロック 10%, 深土ブロック 20%, 洗土ブロック 20%
洗土ブロック 10%, 深土粒 2%
洗土粒 2%
As-C-Hr-FP 10%, 黄褐色粒 2%, 黄褐色ブロック (φ5~10mm) 10%
As-C-Hr-FP 2%, 黄褐色粒 2%



9区 H-9号住居跡 北壁セクション

- 1 現耕作土
 - 2 広葉樹
 - 3 明渠
 - 4 明渠
 - 5 植物
 - 6 黒根
 - 7 黒根
 - 8 植物
 - 9 にい赤楊
 - 10 広葉
- 細△ As-B 20%
細○ As-C-Hr-FP 5%, 深土粒 1%
細○ As-C-Hr-FP 20%, 黄褐色粒 5%, 深土粒 2%
洗土粒 1%, 黄褐色粒 5%
黄褐色ブロック (φ5mm) 5%
細○ As-C-Hr-FP 10%, 黄褐色粒 5%,
黄褐色ブロック (φ5~20mm) 5%
細○ 黄褐色粒 2%, 氯化物 15%
細○ 黄褐色ブロック (φ5~10mm) 10%
細○ 深土粒 5%
洗土粒 50%, 深土粒 10%
細○ 5%

- 1 時見
 - 2 埋渠
 - 3 にい赤楊
- 細○ As-C-Hr-FP 10%, 深土粒 5%,
黄褐色ブロック (φ5~10mm) 10%
黄褐色ブロック (φ5mm) 5%
地山 (地山を切っている)

0 1:50 20

Fig.51 9区 H-7・8・9号住居跡

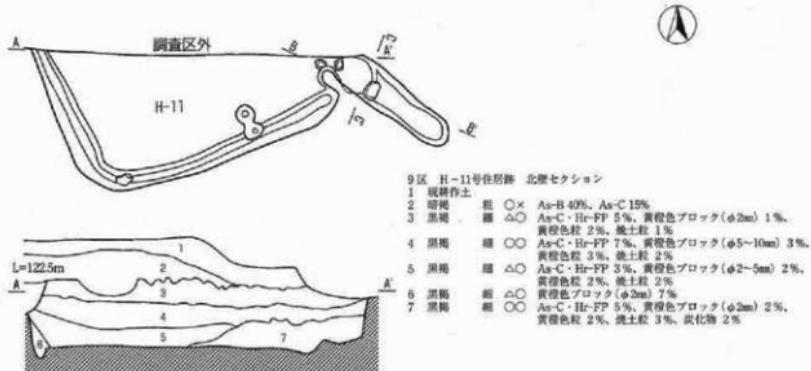


Fig.52 9区 H-11号住居跡、DB-1号土坑墓

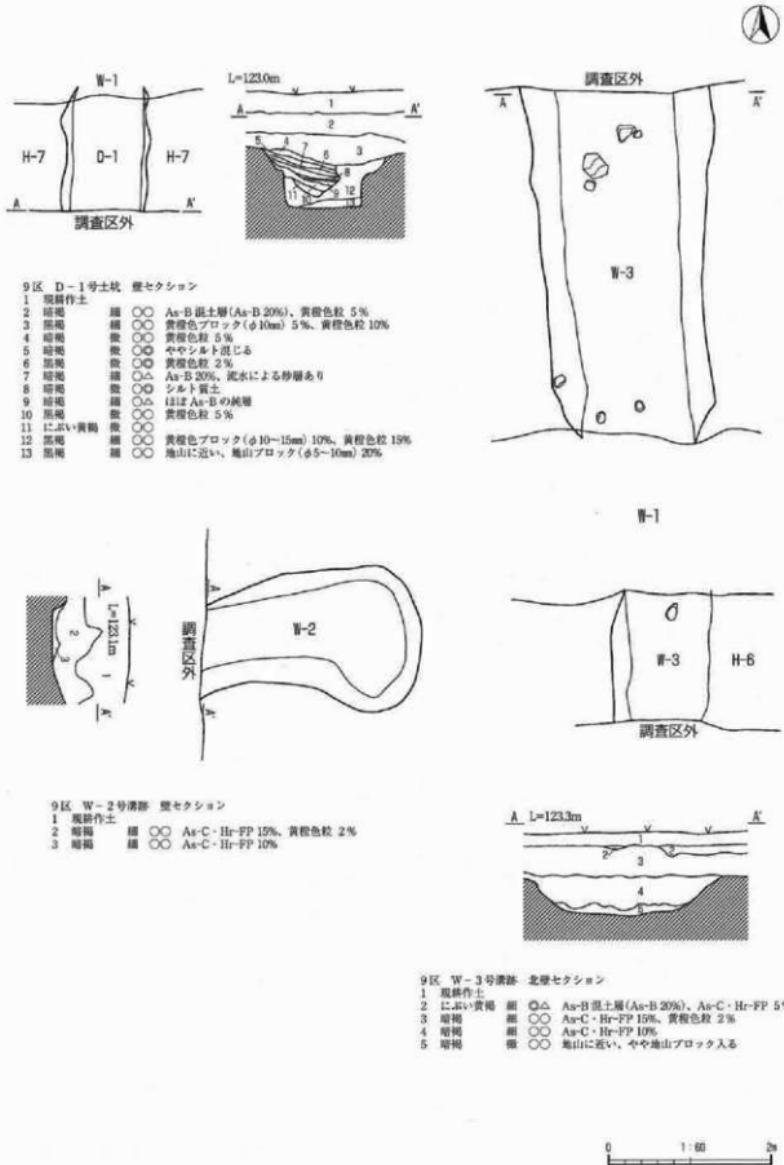


Fig.53: 9区 D-1号土坑、W-2・3号溝跡

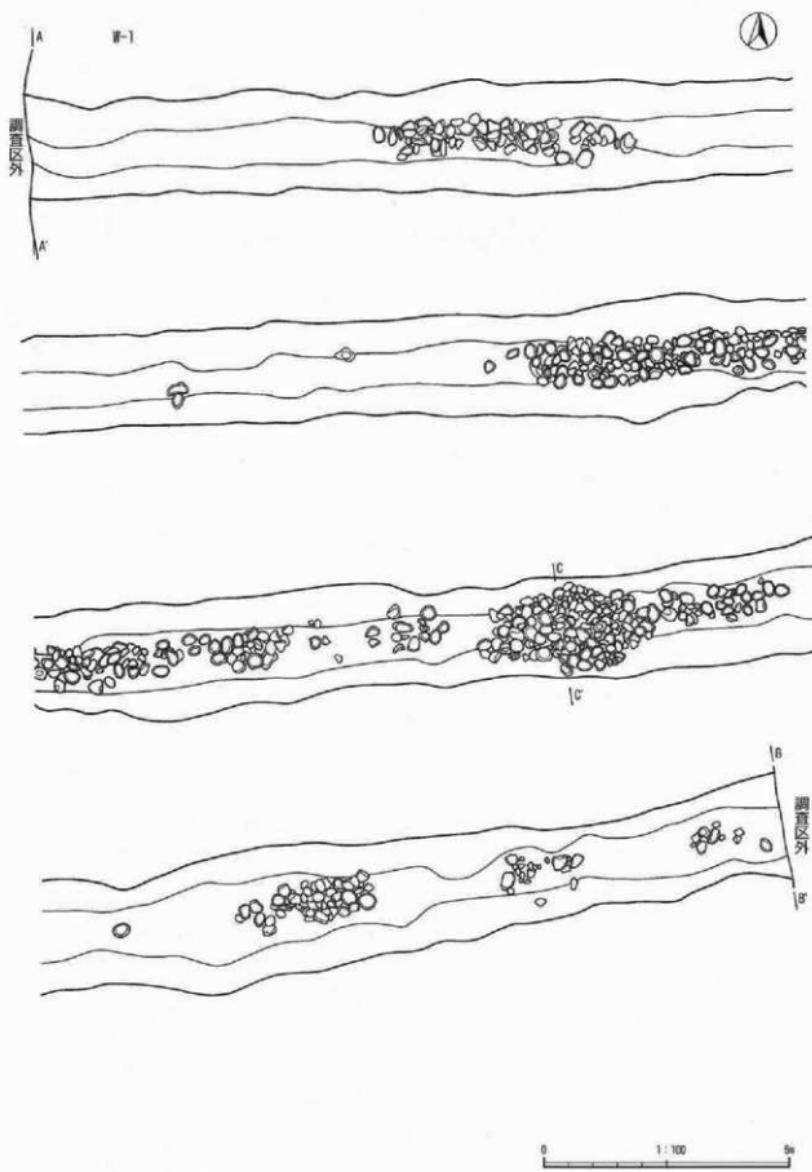
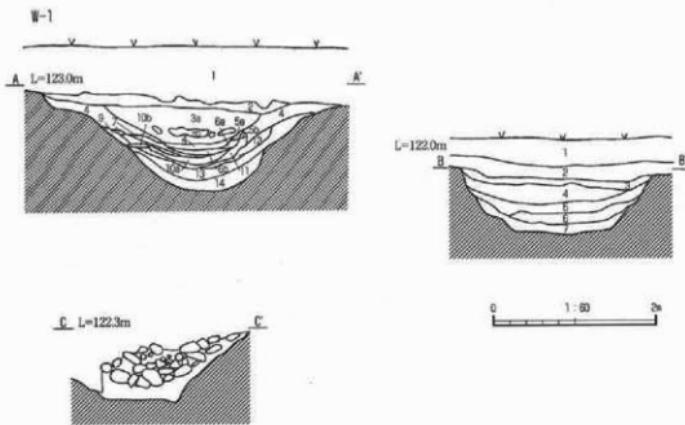


Fig.54 9区 W-1号溝平面図



9区 W-1号溝跡 東壁セクション

- | | |
|---------|--|
| 1 現耕作土 | ○○ As-C・Hr-FP 10%, 黄褐色粒 2% |
| 2 にぶい黄鶲 | ○△ As-C・Hr-FP 20%, 黄褐色ブロック(Φ2mm) 2%, シルトや泥じる |
| 3 布堤 | ○○ As-C・Hr-FP 5% |
| 4 布堤 | ○○ 黄褐色ブロック(Φ5mm) 5%, 黄褐色粒 10%, シルトや泥じる |
| 5 布堤 | ○○ As-C・Hr-FP 2%, 黄褐色粒 2% |
| 6 黒褐 | ○○ 黄褐色ブロック(Φ5mm) 5%, 黄褐色粒 5% |
| 7 布堤 | |

9区 W-1号溝跡 西壁セクション

- | | |
|---------|---|
| 1 現耕作土 | ○△ As-B 混土層(As-B 20%) |
| 2 にぶい黄鶲 | ○△ As-B 混土層(As-B 50%), As-C・Hr-FP 5%, 黄褐色粒 2% |
| 3a 灰黃褐 | ○○ 底水による砂礫か、ややシルト混じる |
| 3b 灰黃褐 | ○○ As-B 混土層(As-B 20%), 黄褐色粒 2% |
| 4 布堤 | ○○ 黄褐色粒 2% |
| 5a 布堤 | ○○ 黄褐色粒 2% |
| 5b 布堤 | ○○ 黄褐色粒 10% |
| 6a 布堤 | ○○ 黄褐色ブロック(Φ5mm) 2%, 黄褐色粒 10% |
| 6b 布堤 | ○○ 黄褐色粒 1% |
| 7 布堤 | ○○ As-C・Hr-FP 2% |
| 8 黑褐 | ○○ 黄褐色粒 5% |
| 9 黑褐 | ○○ 黄褐色粒 5%, 腐化物 1% |
| 10a 黑褐 | ○○ △× 水没による砂礫か、ややシルト混じる |
| 10b 黑褐 | ○○ 黄褐色粒 10%, 腐化物 10% |
| 11 黑褐 | ○○ As-C・Hr-FP 2% |
| 12 布堤 | ○○ 黄褐色ブロック(Φ10mm) 5%, 黄褐色粒 2% |
| 13 布堤 | ○○ 黄褐色ブロック(Φ5-10mm) 10% |
| 14 布堤 | |

Fig.55 9区 W-1号溝跡断面図

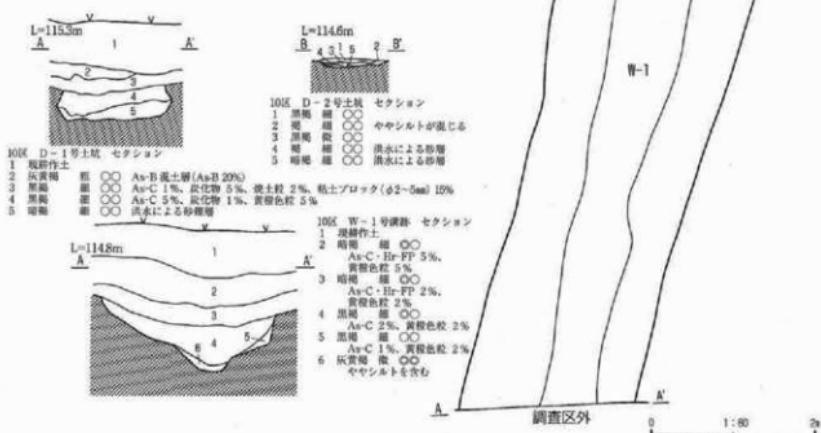
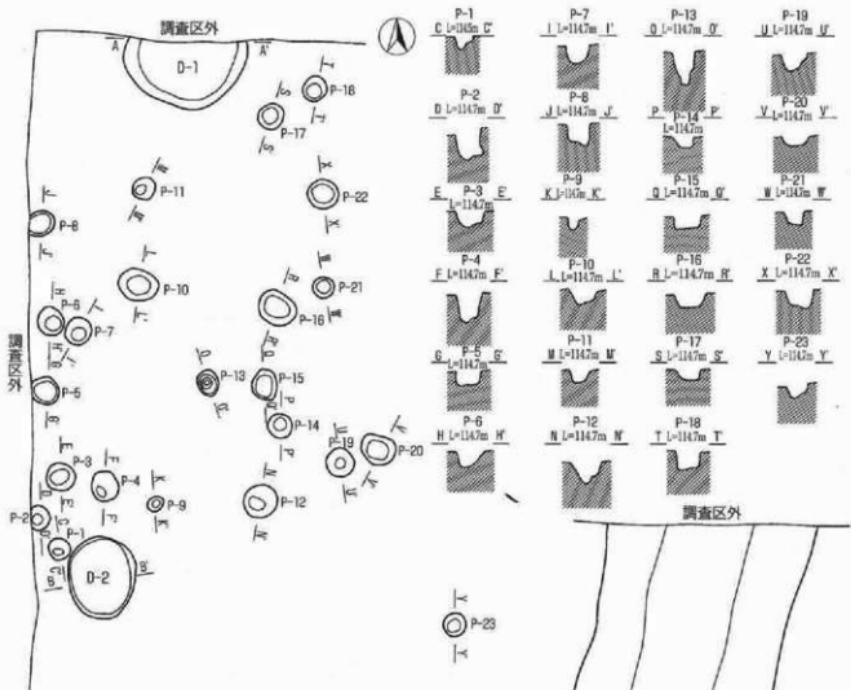
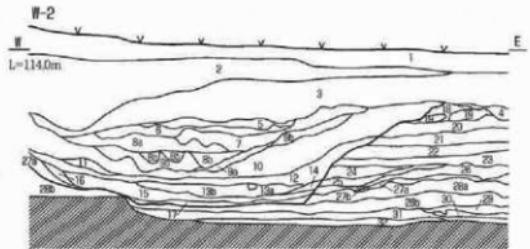


Fig.56 10区 W-1号 sondage, D-1・2号土坑, P-1~23号ピット

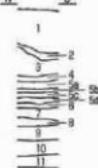


10区 W-2号溝路及び南堅西面 セクション

- | | | | |
|----------|----|-----|--------------------------------|
| 相生作土 | 相生 | ○○○ | 洪水による静止層 |
| 相生 | 相生 | ○○○ | 洪水による静止層 |
| 3 褐 | 褐 | ○○○ | 洪水による静止層 |
| 4 にぶい黄青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、小石が多く混ざる |
| 5 灰黄青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 6 黄灰青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る。ややシルトを含む |
| 7 開窓 | 開窓 | ○○○ | 洪水による静止層 |
| 8 Ba | Ba | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 9 布 | 布 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 9a 黄灰青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 10 開窓 | 開窓 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 11 黄灰青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る。ややシルトを含む |
| 12 開窓 | 開窓 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 13 黄灰青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 14 黄灰青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 15 黄灰青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、ややシルトを含む |
| 16 黄灰青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 17 開窓 | 開窓 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄-PP 層がやや混じる |
| 18 にぶい黄青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層 |
| 19 にぶい黄青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 20 黄青 | 黄青 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 21 細 | 細 | ○○○ | 洪水による静止層、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 22 布 | 布 | ○○○ | 洪水による静止層 |
| 23 布 | 布 | ○○○ | 洪水による静止層 |
| 24 布 | 布 | ○○○ | 洪水による静止層 |
| 25 にぶい黄青 | 黄青 | ○○○ | 洪-PP 2%、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 26 布 | 布 | ○○○ | 洪-PP 5%、鉄分沈殿層がまだらに入る |
| 27a 黄灰青 | 黄青 | ○○○ | 洪-PPF1 の層 |
| 27b 開窓 | 開窓 | ○○○ | シルトをやや含む |
| 28 黑泥 | 黑泥 | ○○○ | Hr-Fa の崩層 |
| 29 黑泥 | 黑泥 | ○○○ | シルト層 |
| 30 黑泥 | 黑泥 | ○○○ | 泥炭層、FA 下の水田面と考えられる |
| 31 黑泥 | 黑泥 | ○○○ | 泥炭層、FA 下の水田面と考えられる |
| 32 黑泥 | 黑泥 | ○○○ | As-C 5%以上 |
| 33 黑泥 | 黑泥 | ○○○ | As-C 5%、ややシルトを含む |
| 34 にぶい黄青 | 黄青 | ○○○ | As-C 5%以上 |

東師中央

L=114.0m



北魏中央

L=114.0m



10区 東豊中央 セクション

- 1 現耕作土へ
 2 に、い、黄黒 地 直△ 淀水による砂礫層
 3 に、い、黄黒 地 ○ 淀水による砂礫層、分粒凝聚層がまだらに入る
 4 地 直△ 淀水による砂礫層、分粒凝聚層がまだらに入る
 5 地 直△ 淀水による砂礫層
 6 地 直△ 淀水による砂礫層、やシルトが混ざる
 7 地 直△ 淀水による砂礫層、分粒凝聚層がまだらに入る
 8 地 直△ 淀水による砂礫層
 9 地 敷△ シルト層
 10 に、い、黄黒 地 直△ H-Fの剥離層
 11 黑風化 地 ○ HF-A の剥離層
 12 黑風化 地 ○ 足見層、HF-A の水田面と考えられる
 13 黑風化 地 ○ As-C 5%以上
 14 黑風化 地 ○ As-B 5%

104 北摺中央 セクション

10区 本田耕計測査表		規模(m)	面積	備考
区画No	位置	東西	南北	
1	X227, 248 Y151, 153	[210]	[230]	6.48 一部検出
2	X227, 248 Y151, 153	[270]	[200]	4.46 一部検出
3	X227, 248 Y151, 152	[240]	[220]	3.94 一部検出
4	X227, 248 Y151, 152	[150]	[100]	0.95 一部検出
5	X226, 247 Y151~153	[5~60]	[390]	16.14 一部検出
6	X226, 247 Y151~153	[4~60]	[60]	14.40 範囲未確定



Fig.57 10区 W-2号溝跡、南・東・北壁断面図

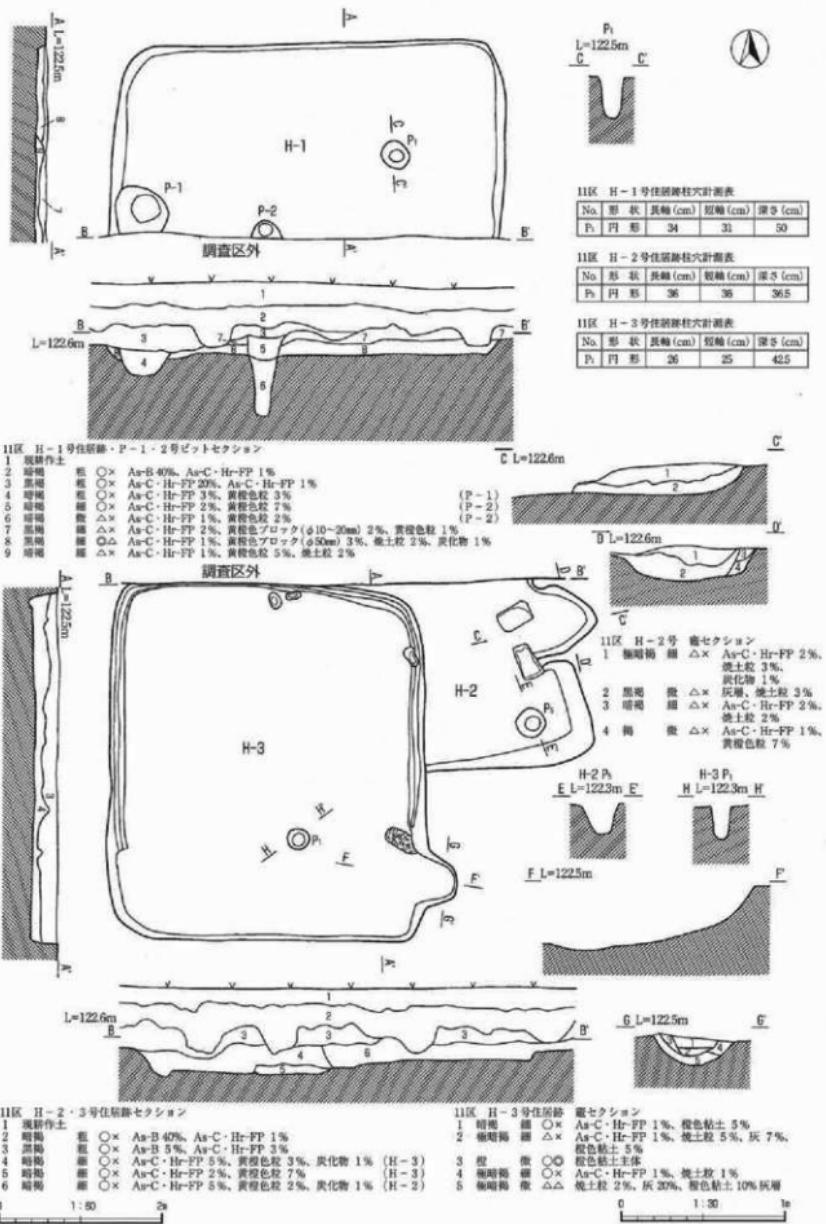
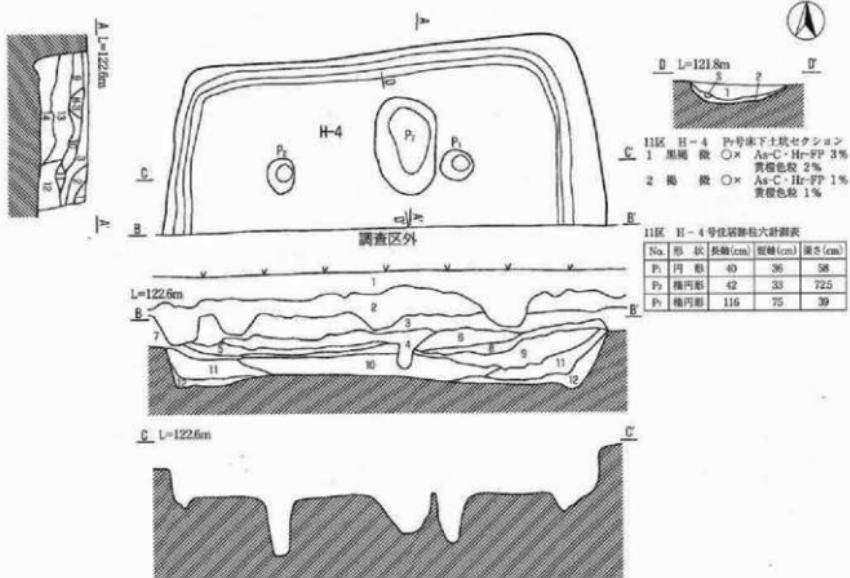
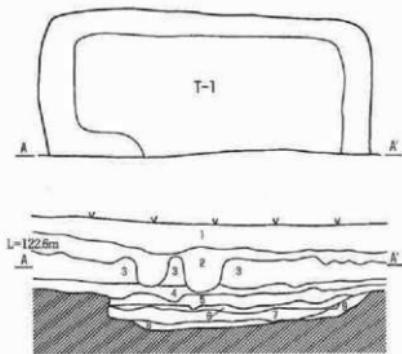


Fig.58 11区 H-1・2・3号住居跡、P-1・2号ピット



11区 H-4号住居跡 南北ベルトセクション
 1 黒褐泥 直△× As-B 30% As-C·Hr-FP 2% 広黄褐色粘土 5%
 2 黄褐色 泥 ○△ 広黄褐色粘土主体
 3 黑褐泥 ○△ As-B 25%, As-C·Hr-FP 3% 炭化物 1%
 4 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 7%
 5 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 5%
 6 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 7%
 7 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 10% 黄褐色粒 5%
 8 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 7% 炭化物 1%
 9 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 5%
 10 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 5%
 11 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 5%

11区 H-4号住居跡 南壁セクション
 1 疣状作土 直○× As-B 40%, As-C·Hr-FP 1%
 2 疣状作土 直△× As-B 20%, As-C·Hr-FP 2% 広黄褐色粘土 5%
 3 黑褐泥 ○△ As-B 25%, As-C·Hr-FP 3% 広黄褐色粘土 15%
 4 黑褐泥 ○△ As-B 25%, As-C·Hr-FP 3% 広黄褐色粘土 5%
 5 黑褐泥 ○△ As-B 25%, As-C·Hr-FP 3% 広黄褐色粘土 5%
 6 黄褐色 泥○× 広黄褐色粘土主体
 7 黑褐泥 ○× As-C·Hr-FP 5% 黄褐色粒 2% 炭化物 1%
 8 黑褐泥 ○× As-C·Hr-FP 7% 黄褐色粒 2% 炭化物 1%
 9 黑 泥○△ As-C·Hr-FP 2% 燃土粒 2% 灰 40%
 10 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 10% 黄褐色粒 5%
 11 黑褐泥 ○× As-C·Hr-FP 7% 黄褐色粒 3% 炭化物 2%
 12 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 2% 黄褐色粒 3% 燃土粒 1% 炭化物 1%



11区 T-1号竪穴状遺構 南壁セクション
 1 疣状作土 直○× As-B 40%, As-C·Hr-FP 1%
 2 黑褐泥 直△× As-B 30%, As-C·Hr-FP 2%
 3 黑褐泥 ○△ As-C·Hr-FP 1%
 4 黑褐泥 ○△ As-B 30%, As-C·Hr-FP 2%
 5 黑褐泥 ○△ As-B 25%, As-C·Hr-FP 2%
 6 黑褐泥 ○△ As-B 20%, As-C·Hr-FP 2%
 7 黑褐泥 ○△ As-B 20%, As-C·Hr-FP 1%
 8 黑褐泥 ○△ As-B 20%, As-C·Hr-FP 1%
 9 黑褐泥 直○△ As-C·Hr-FP 7%

0 1:60 2m

Fig.59 11区 H-4号住居跡、T-1号竪穴状遺構

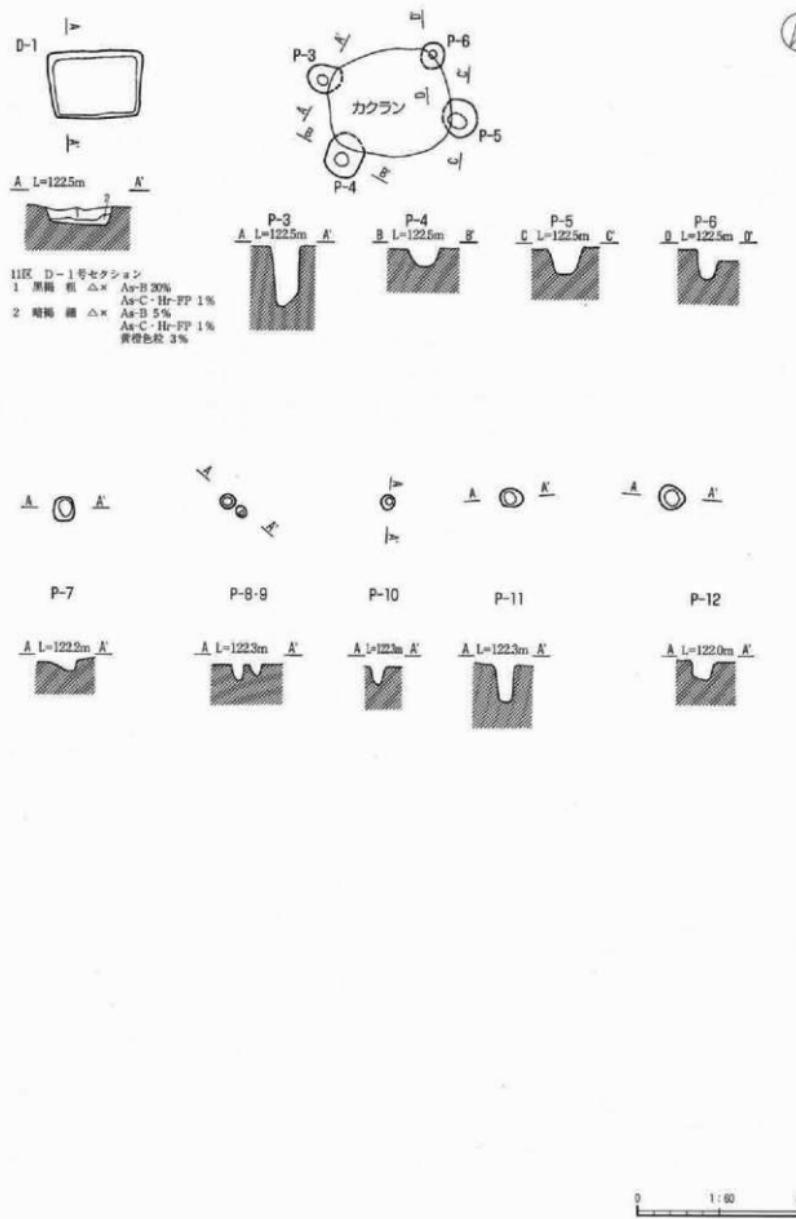


Fig.60 II区 D-1号土坑、P-3~12号ピット

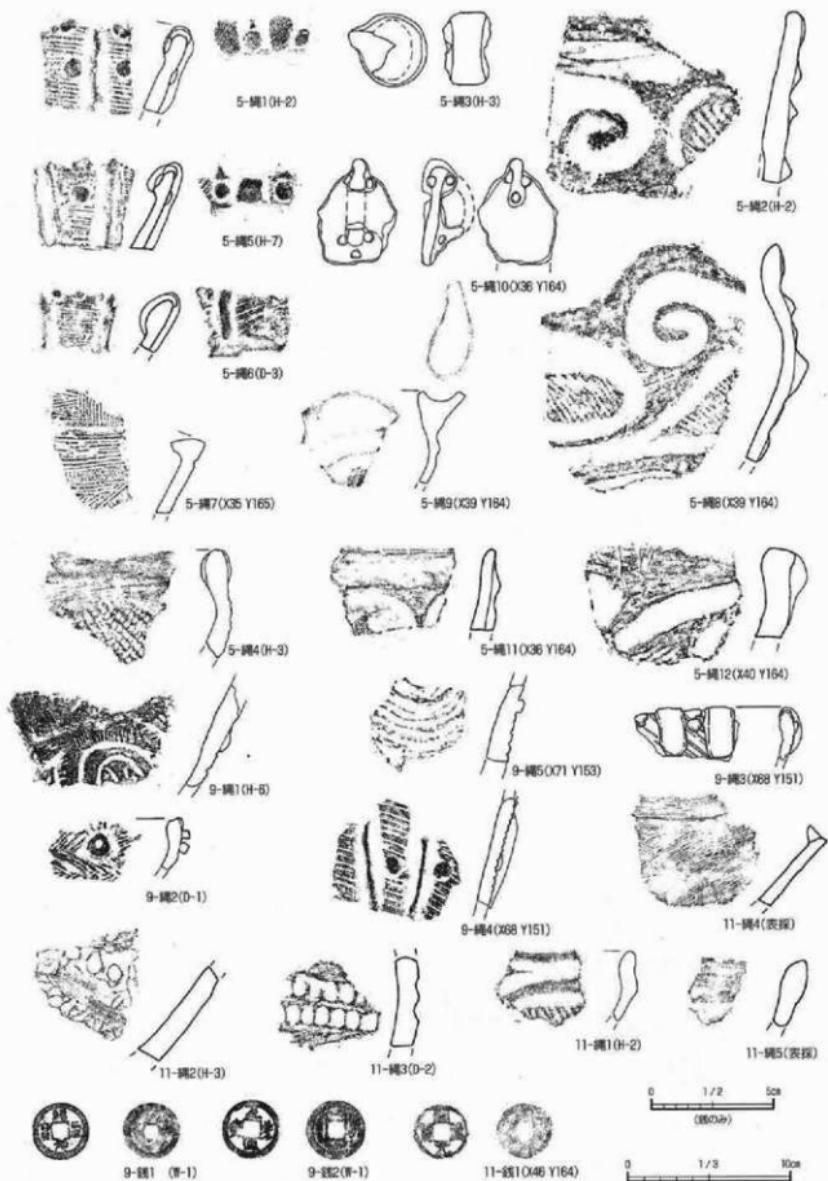


Fig.61 繩文土器、銅鏡

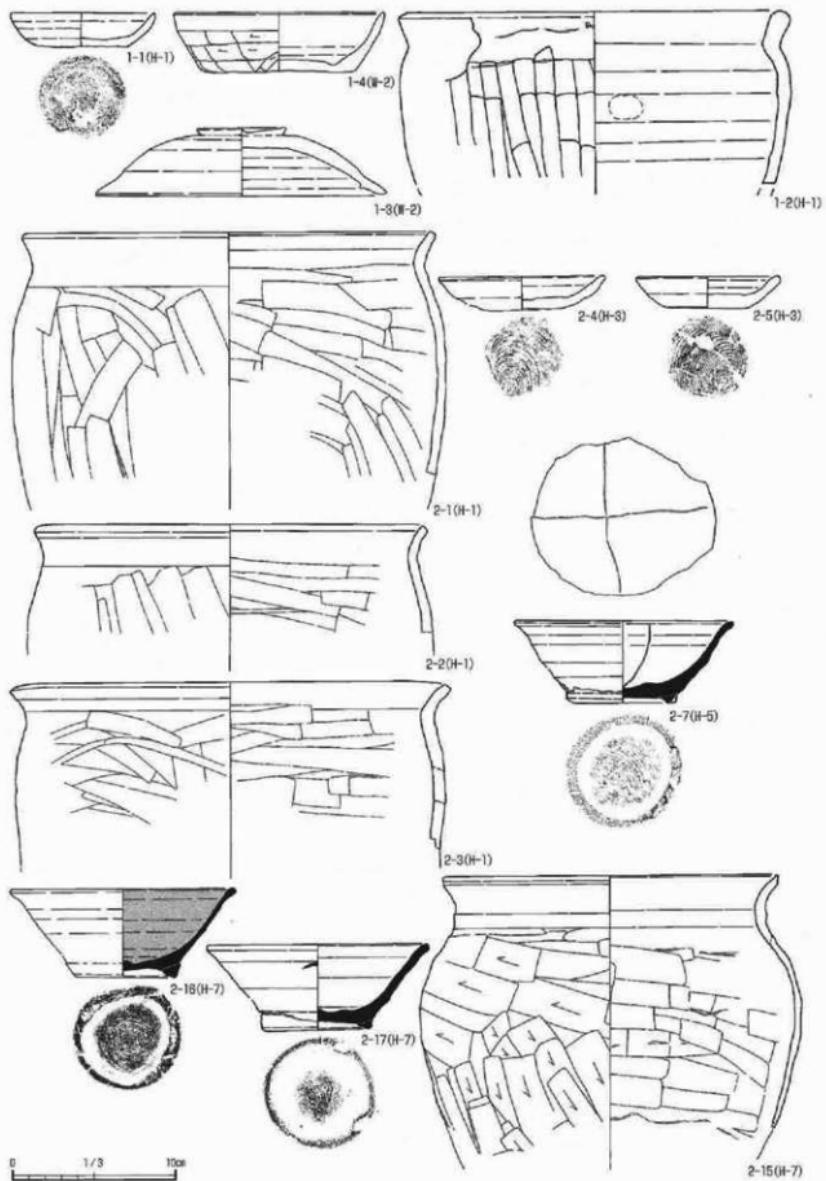


Fig.62 1区 H-1号住居跡、W-2号溝跡、2区 H-1・3・5・7号住居跡出土遺物

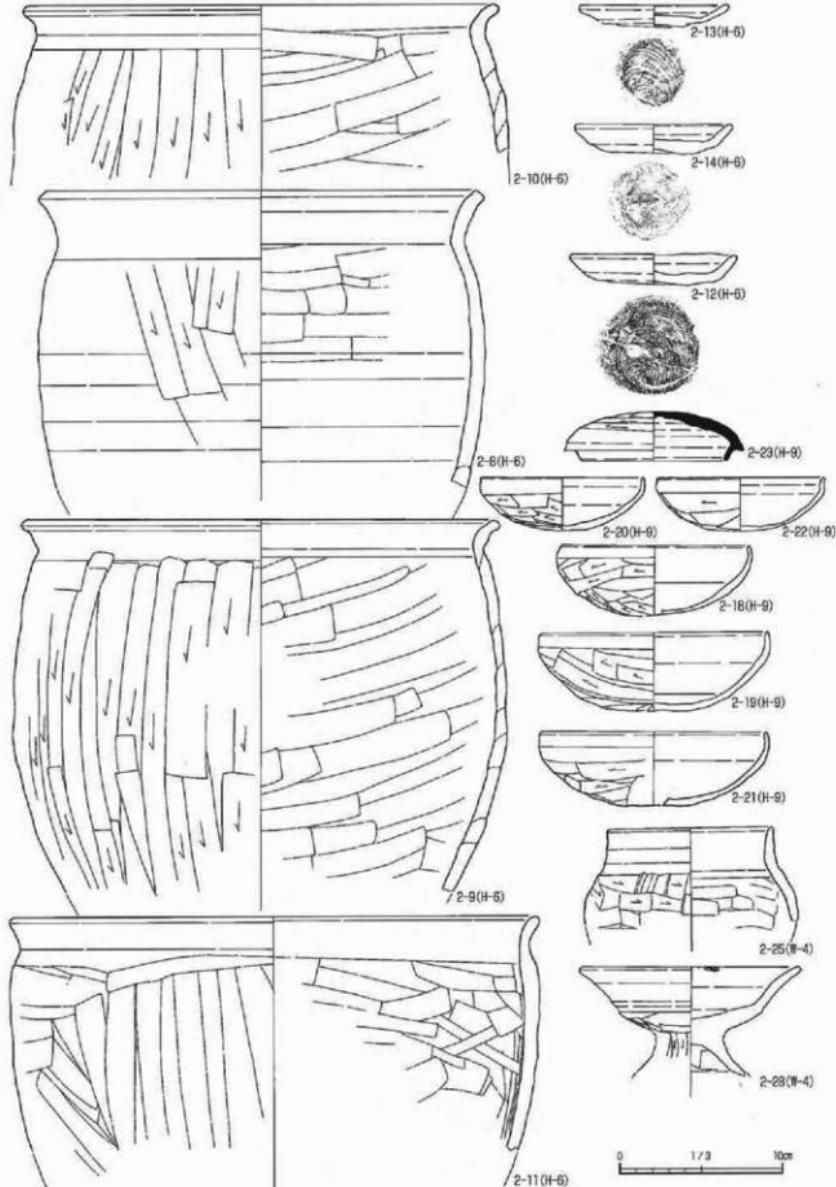


Fig.63 2区 H-6·9号住居跡、W-4号溝跡出土遺物

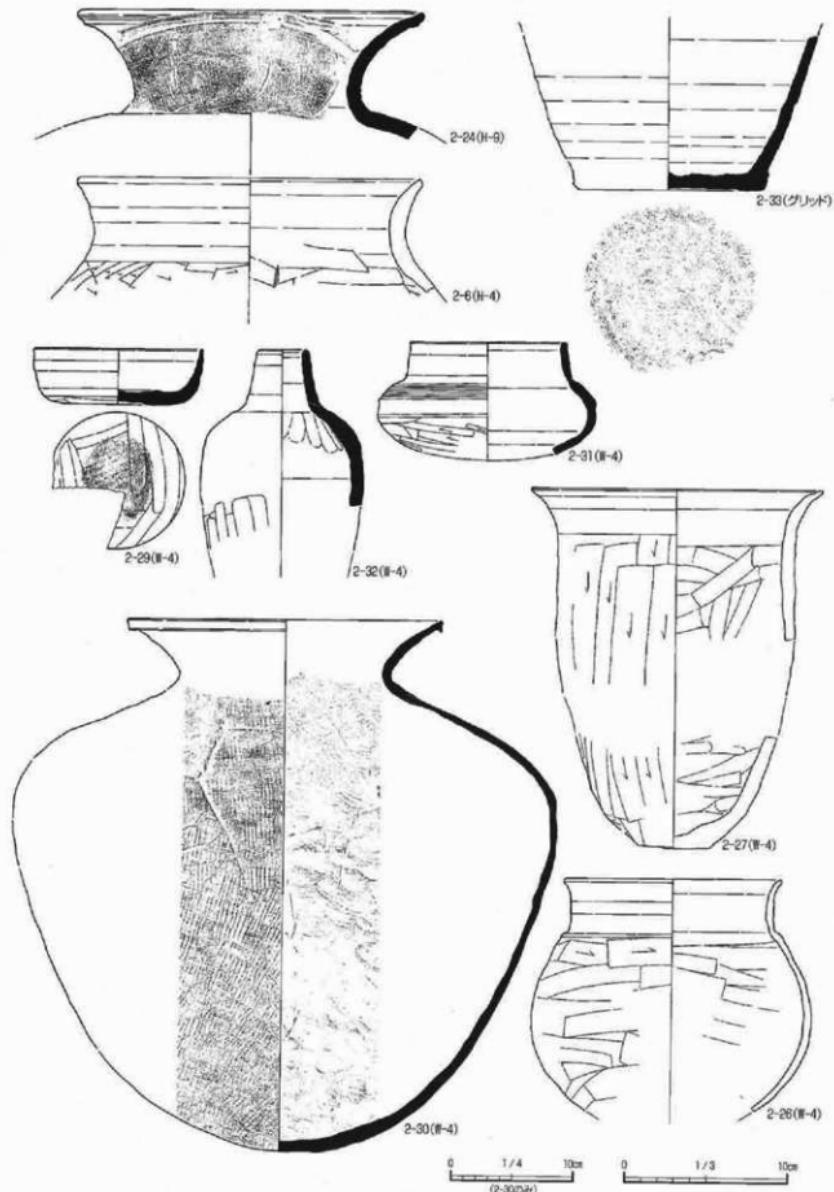


Fig.64 2区 H-4・9号住居跡、W-4号溝跡、グリッド出土遺物

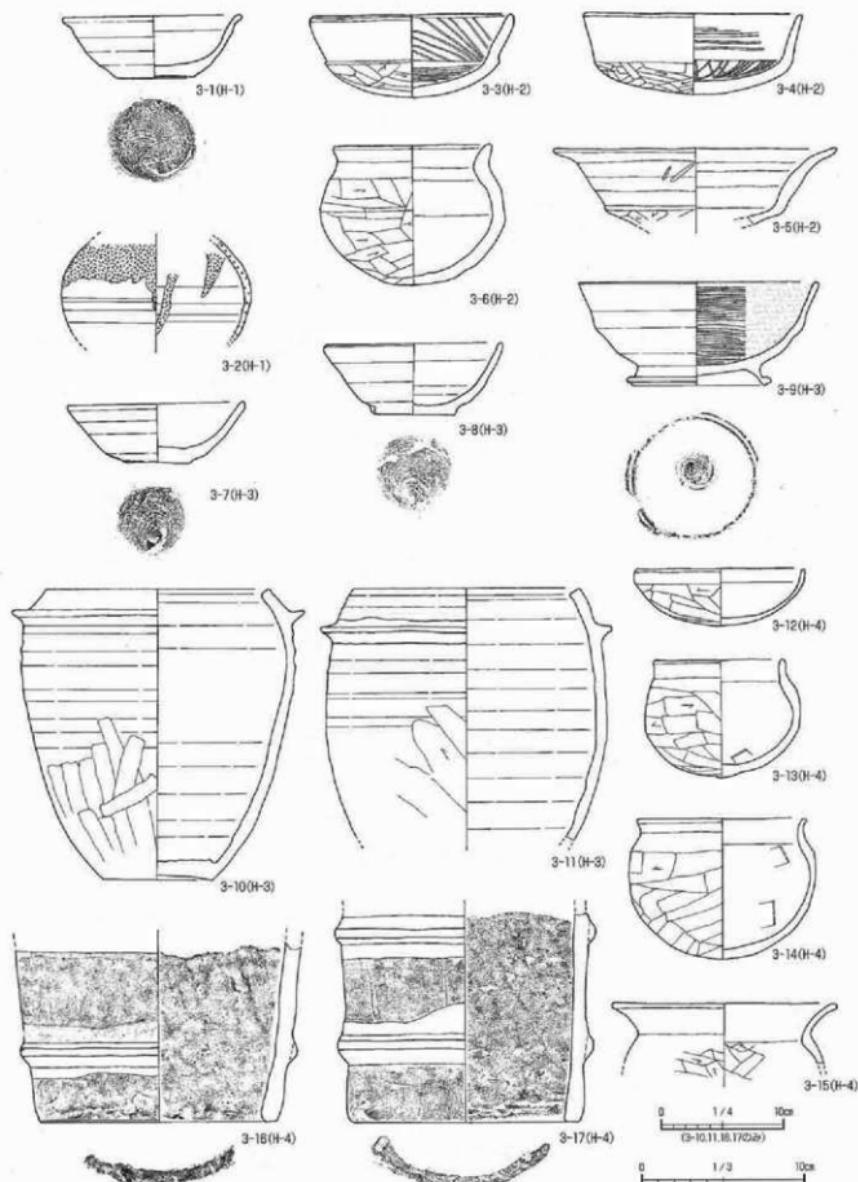
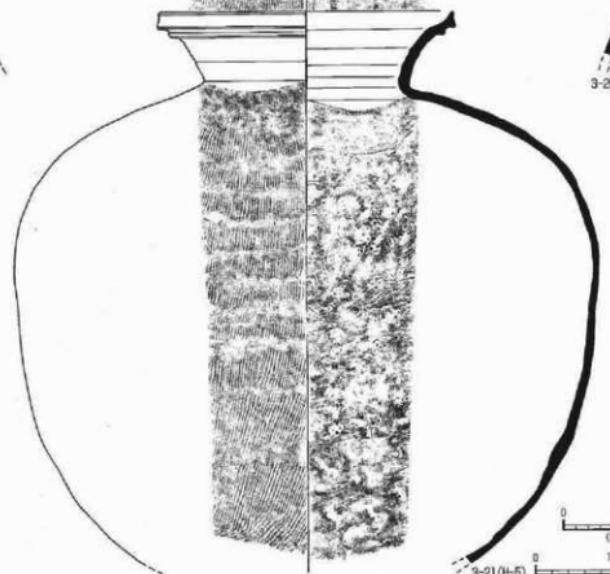
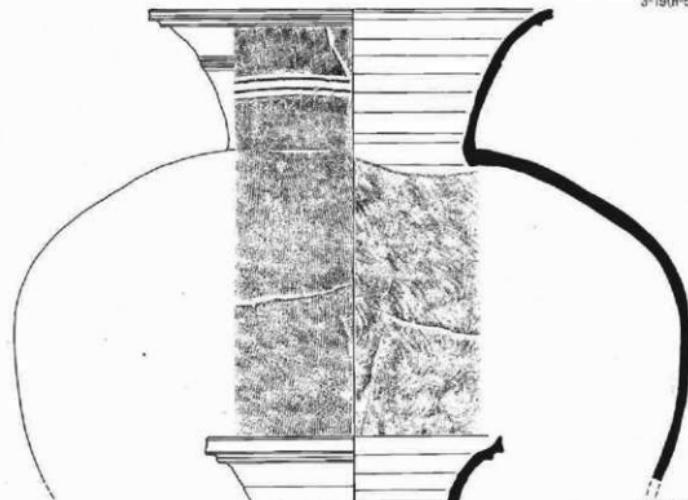
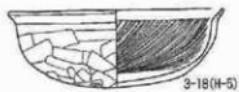


Fig.65 3区 H-1~4号住居跡出土遺物



0 1/4 10cm

(3-90.21)

0 1/8 10cm

Fig.66 3区 H - 5号住居跡出土遺物(1)

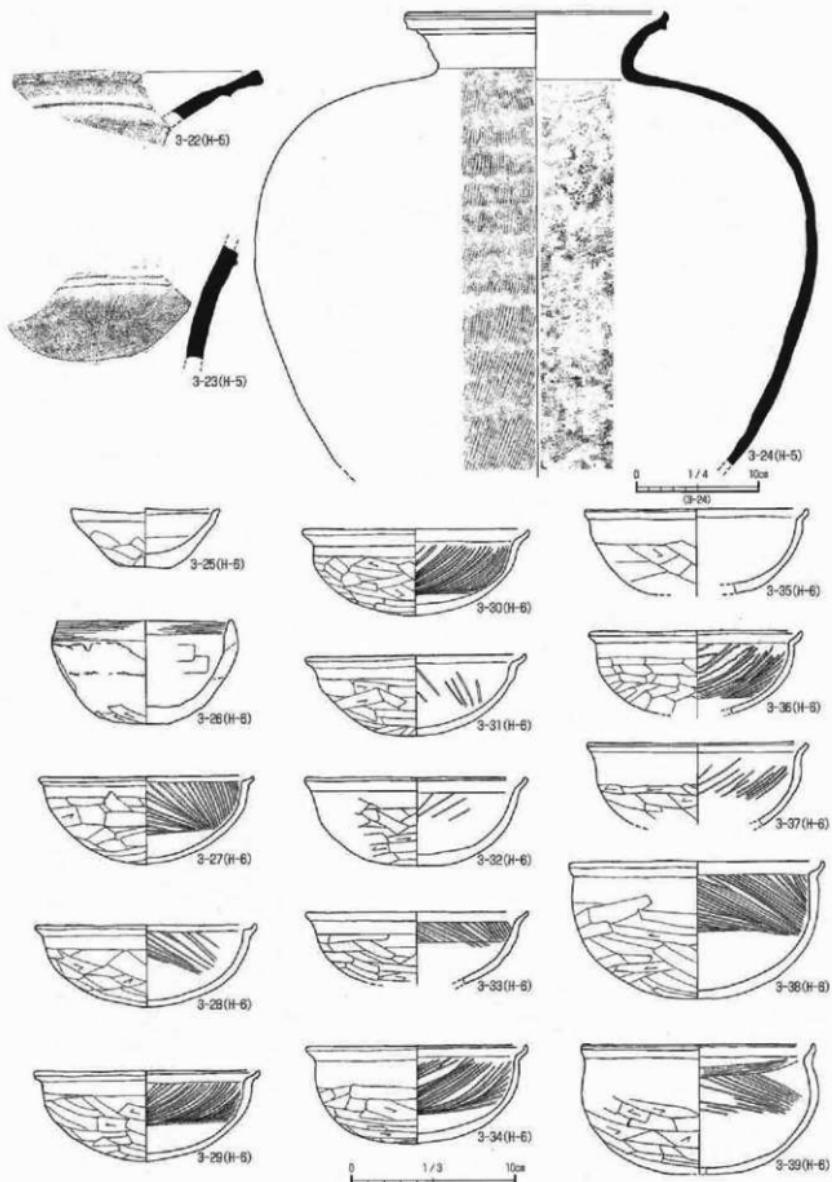


Fig.67 3区 H-5号住居跡出土遺物(2)

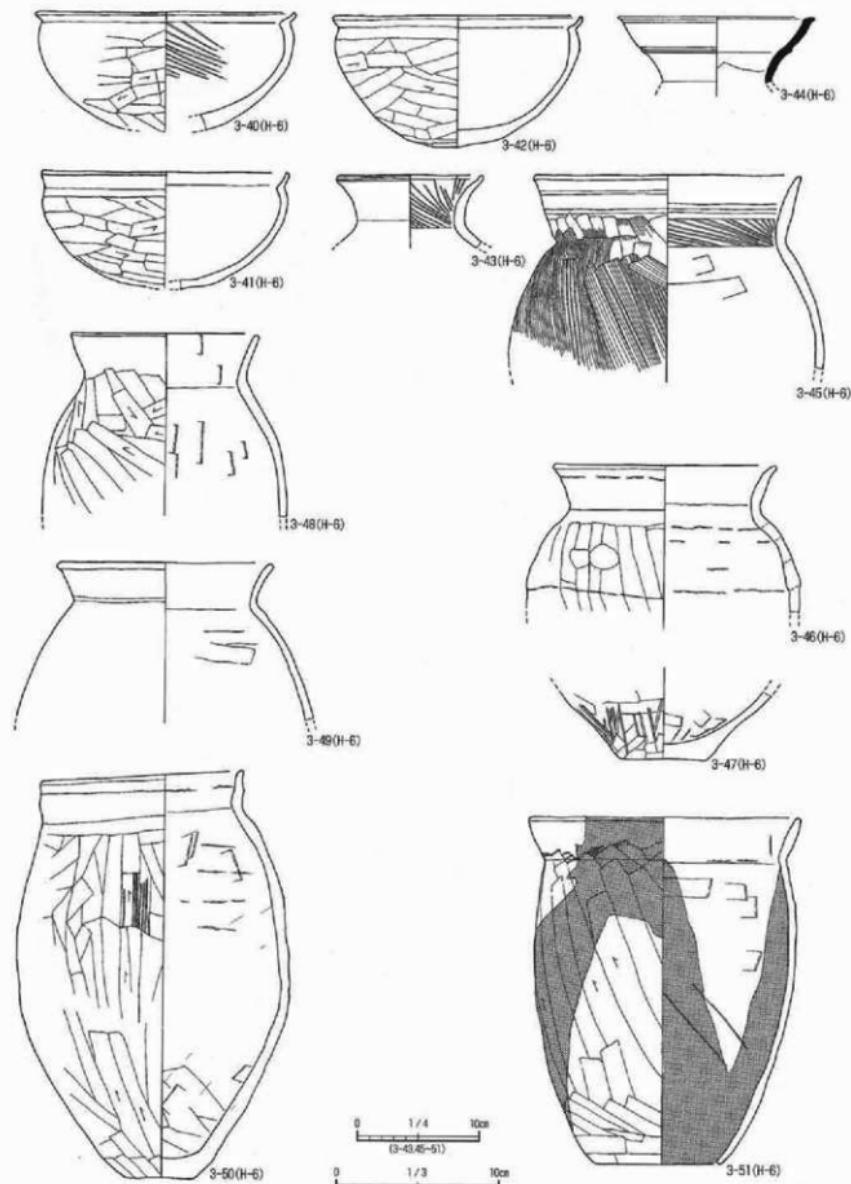


Fig.68 3区 H-6号住居跡出土遺物

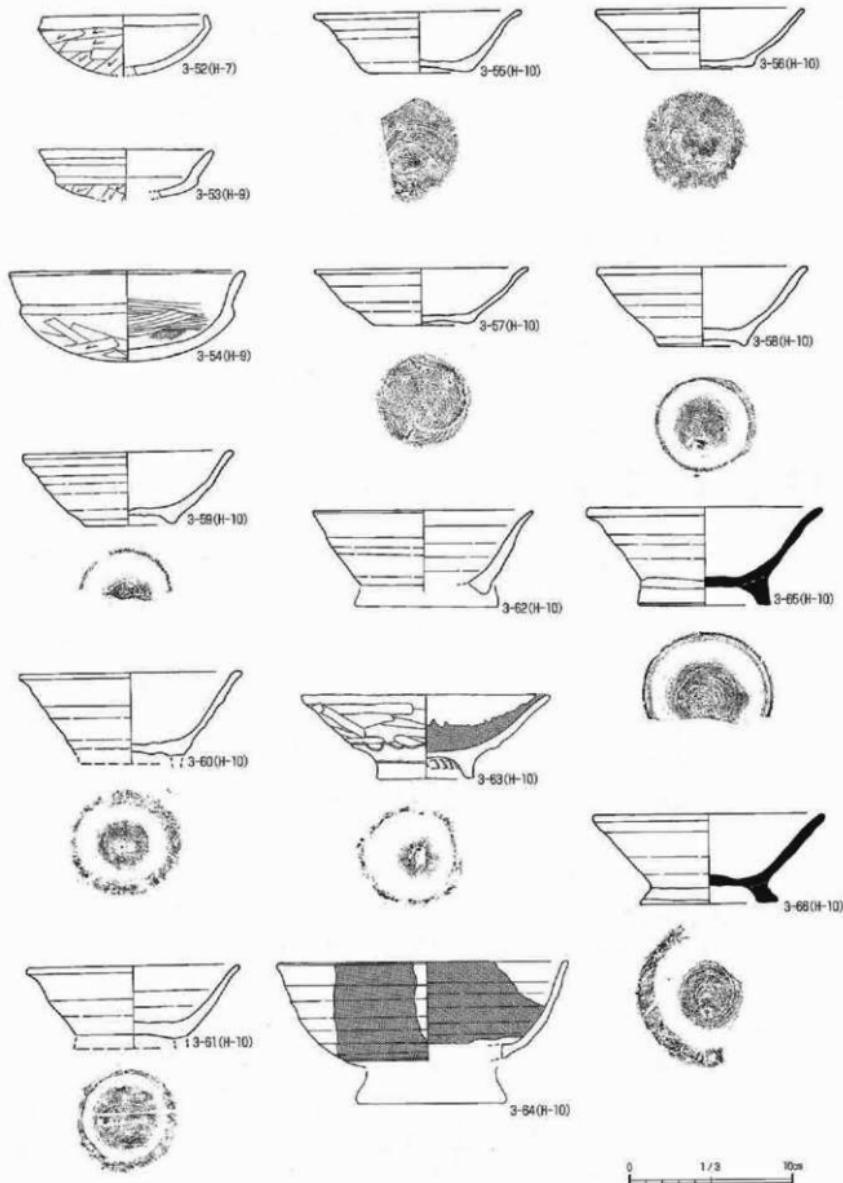


Fig69 3区 H-7・9・10号住居跡出土遺物

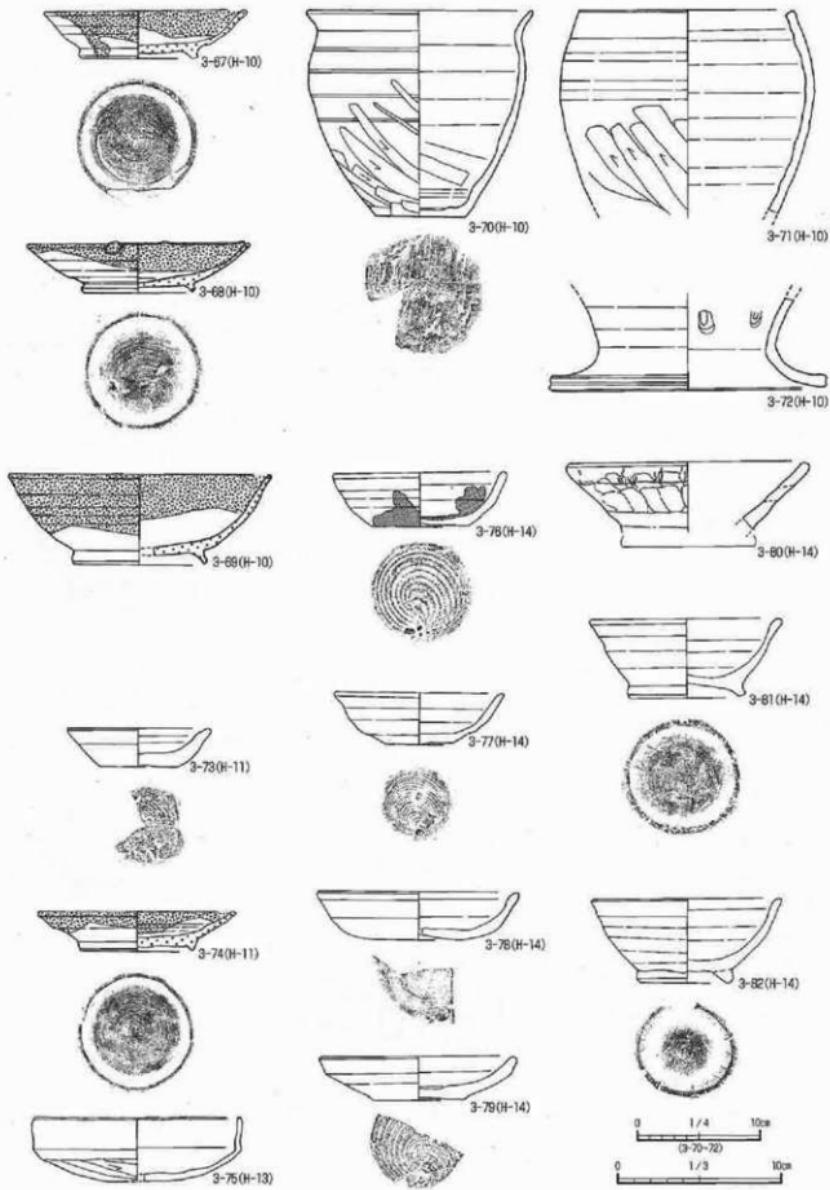


Fig.70 3区 H-10・11・13・14号住居跡出土遺物

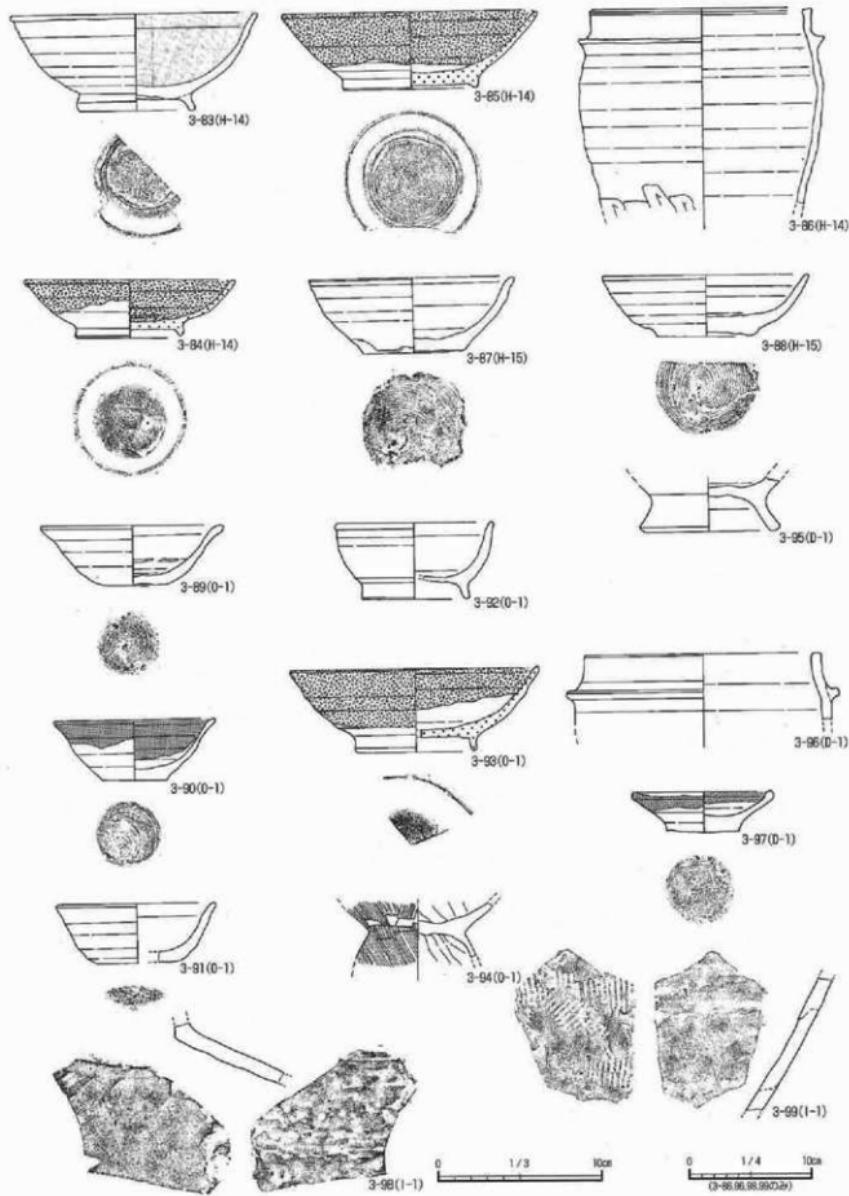


Fig.71 3区 H-14・15号住居跡、O-1号遺構、D-1号土坑、I-1号井戸跡出土遺物

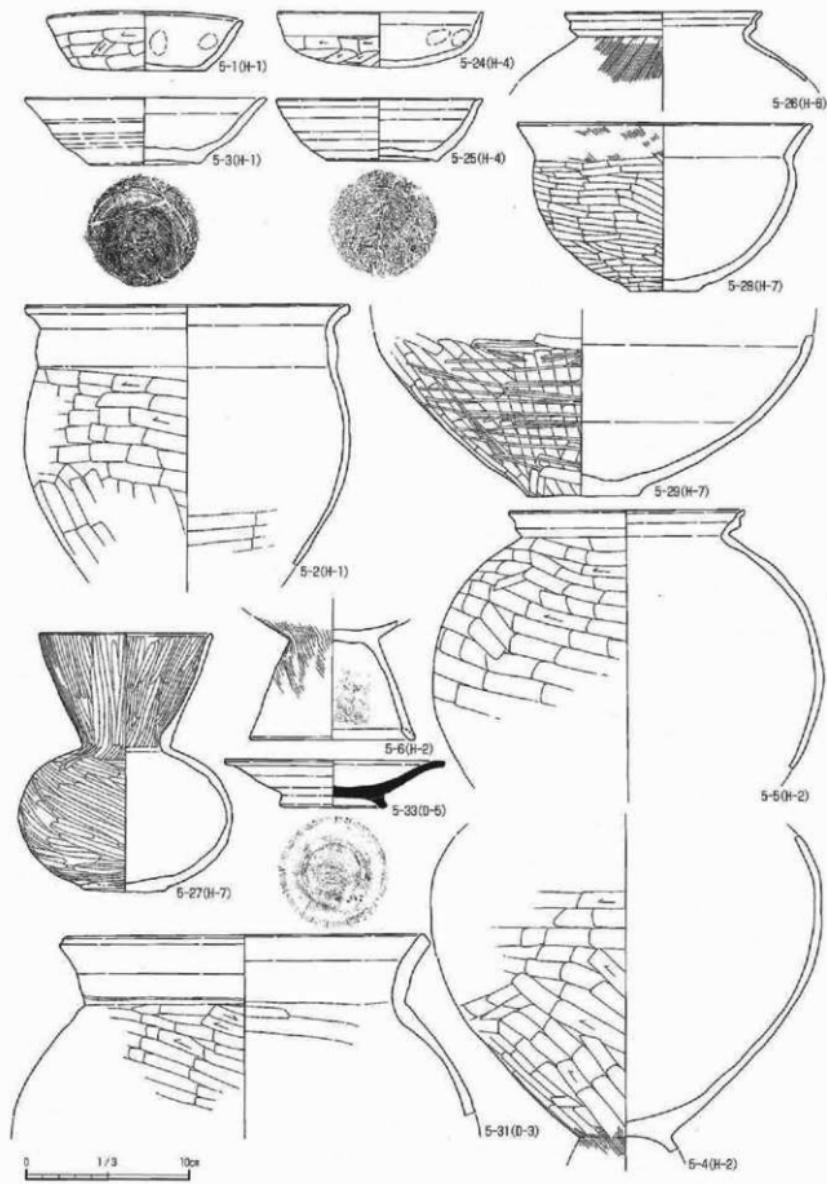


Fig.72 5区 H-1・2・4・6・7号住居跡、D-3・5号土坑出土遺物

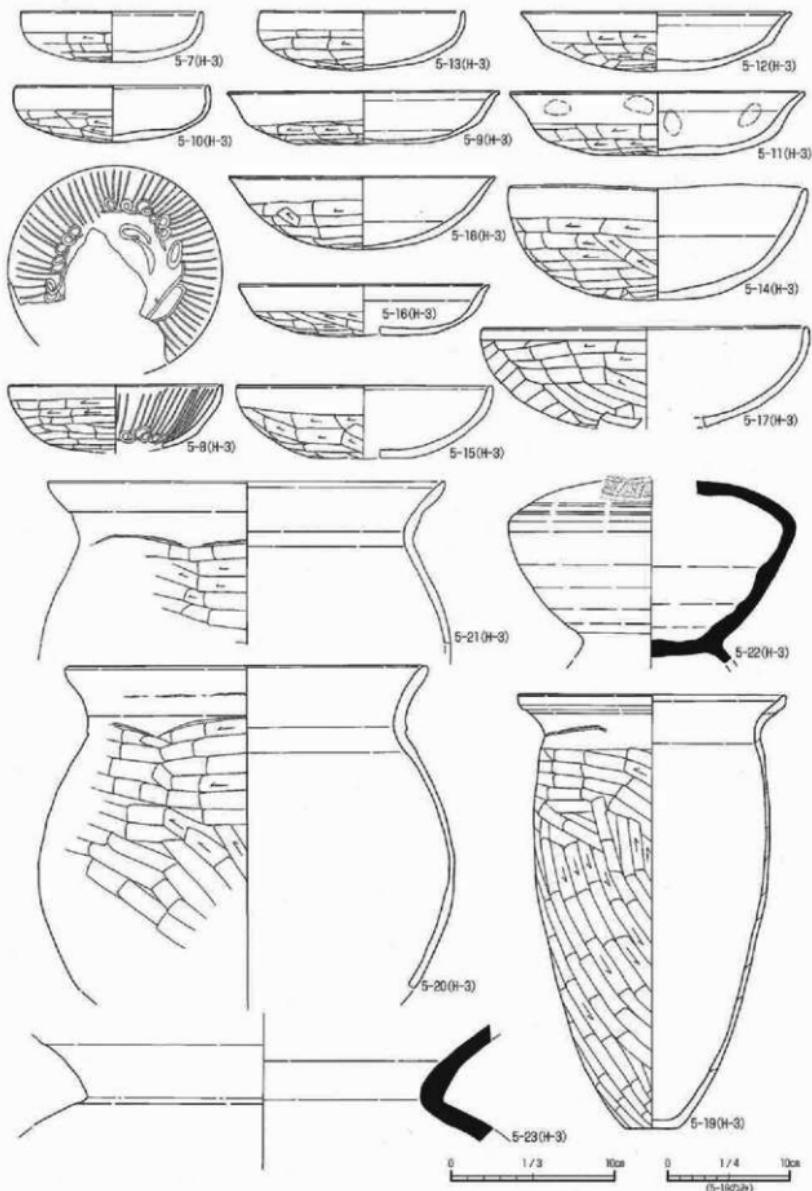


Fig.73 5区 H-3号住居跡出土遺物

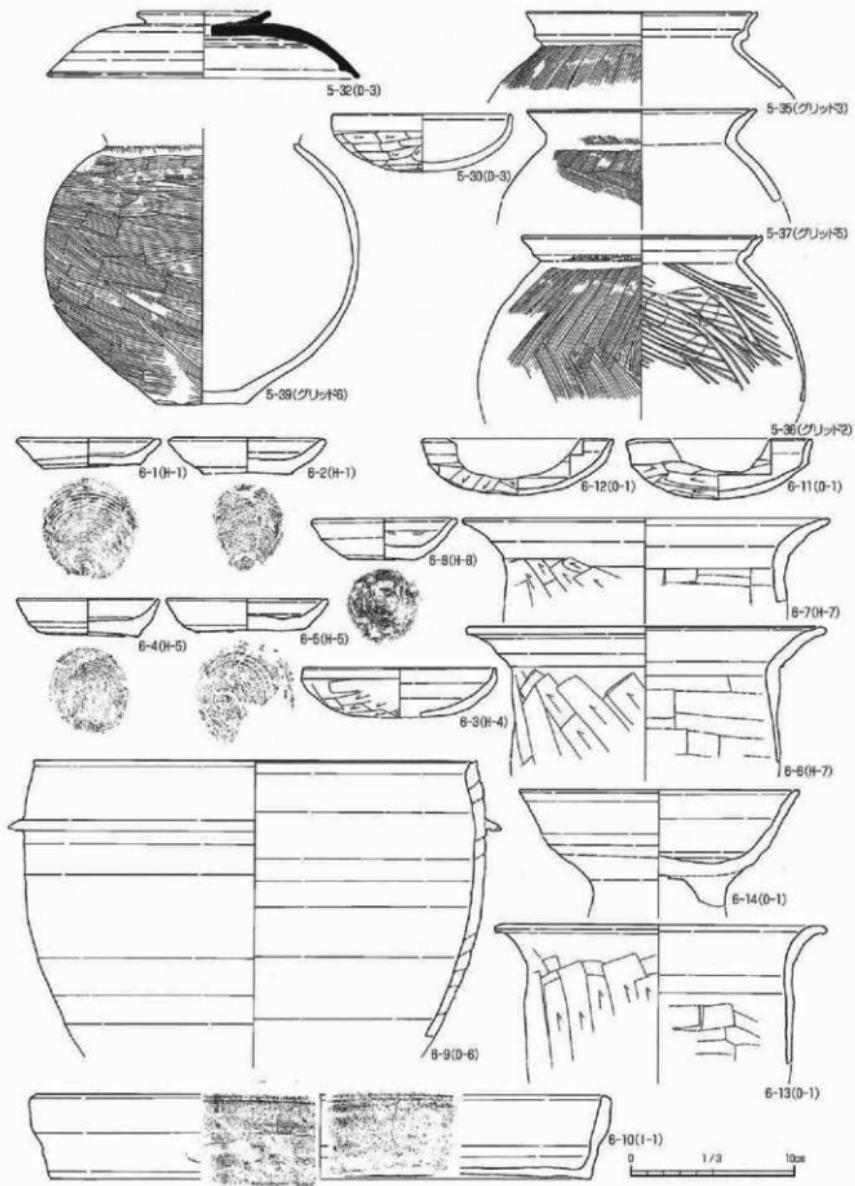


Fig.74 5区 D-3号土坑・グリッド、6区 H-1・4・5・7・8号住居跡、I-1号井戸跡、O-1号落ちこみ出土遺

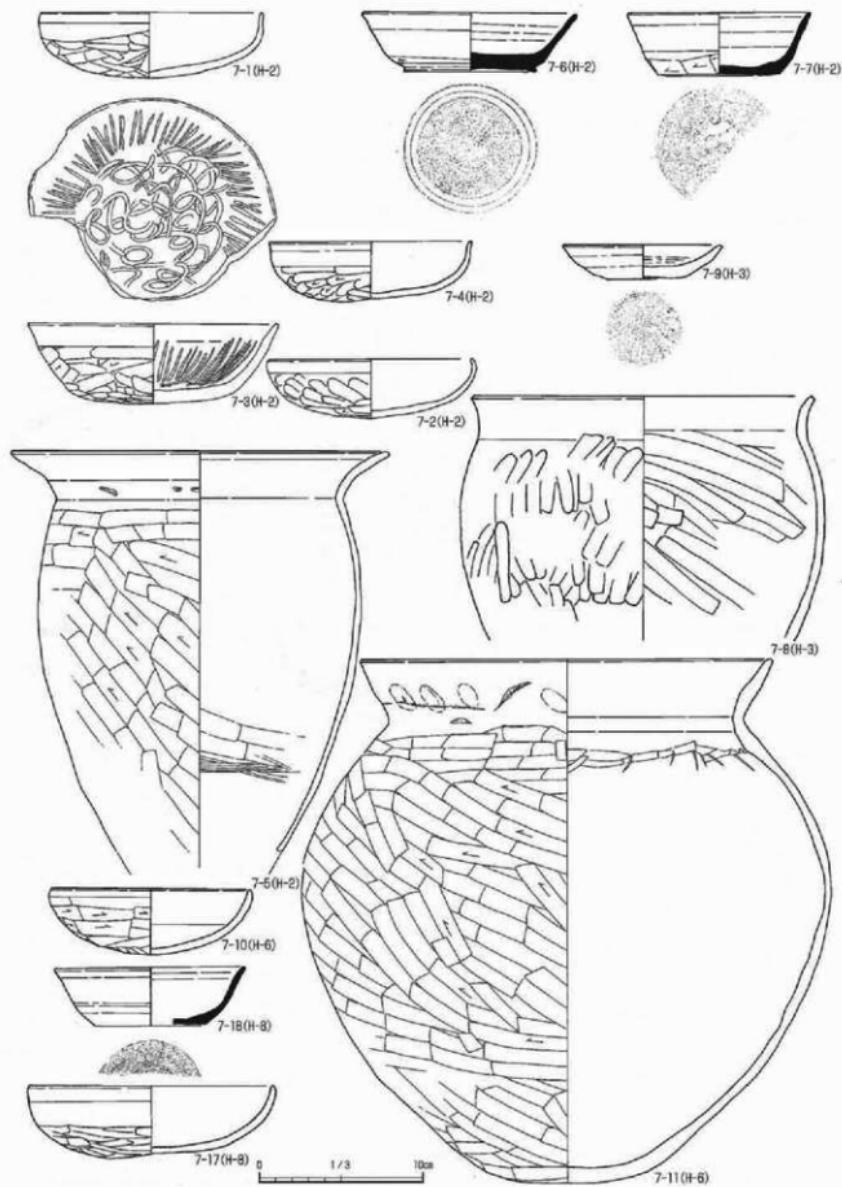


Fig.75 7区 H-2·3·6·8号住居跡出土遺物

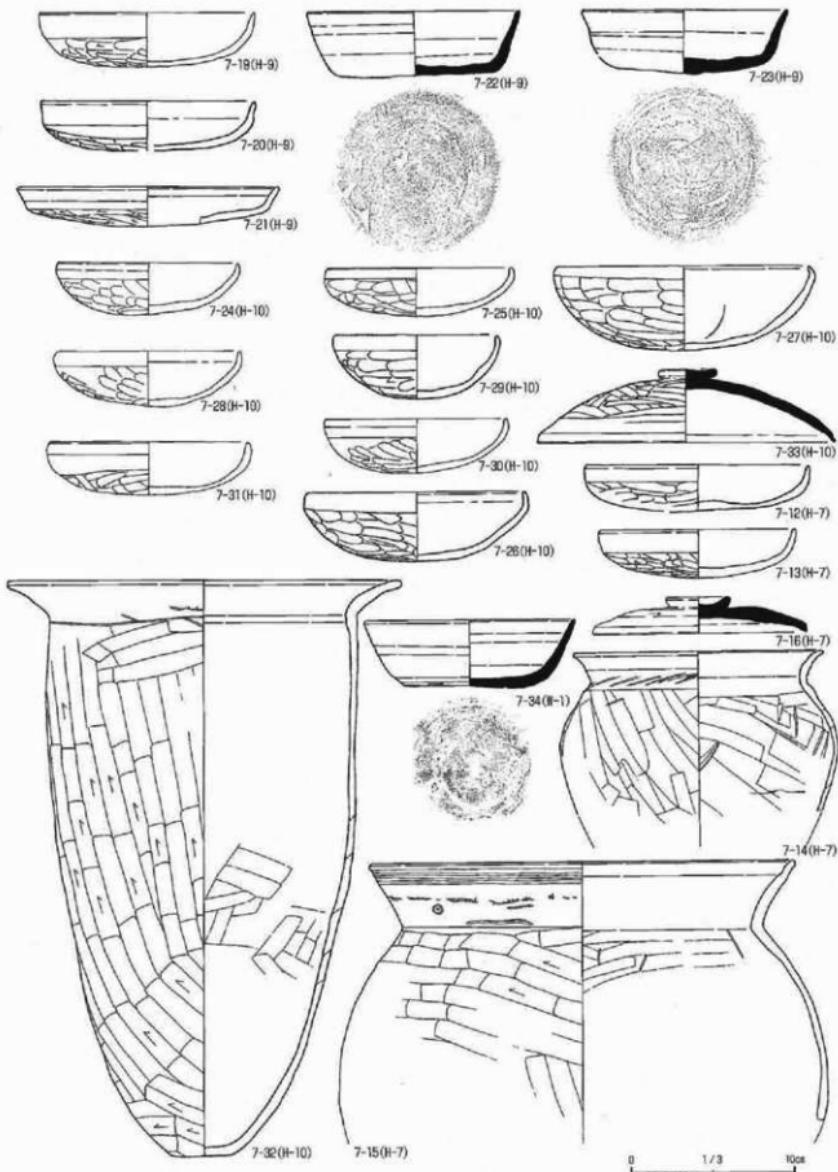


Fig.76 7区 H-7·9·10号住居跡、W-1号溝跡出土遺物

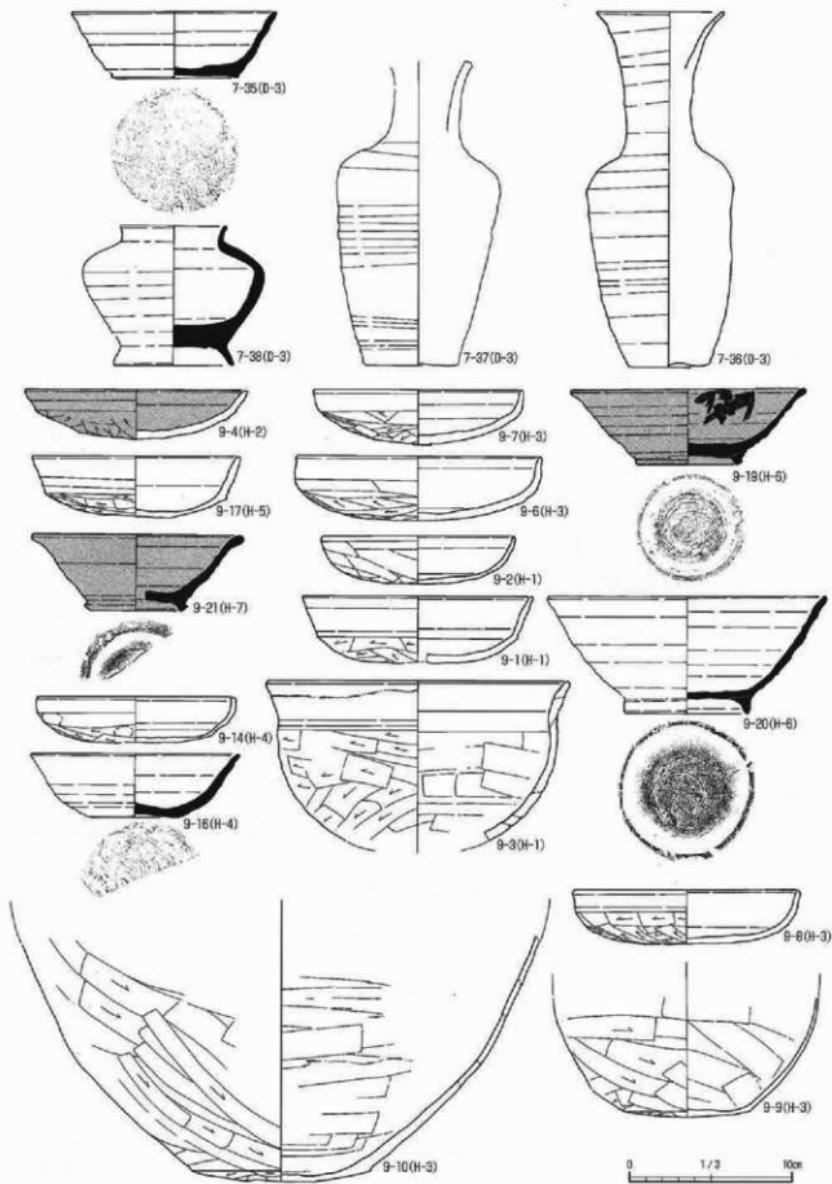


Fig.77 7区 D-3号土坑、9区 H-1~7号住居跡出土遺物

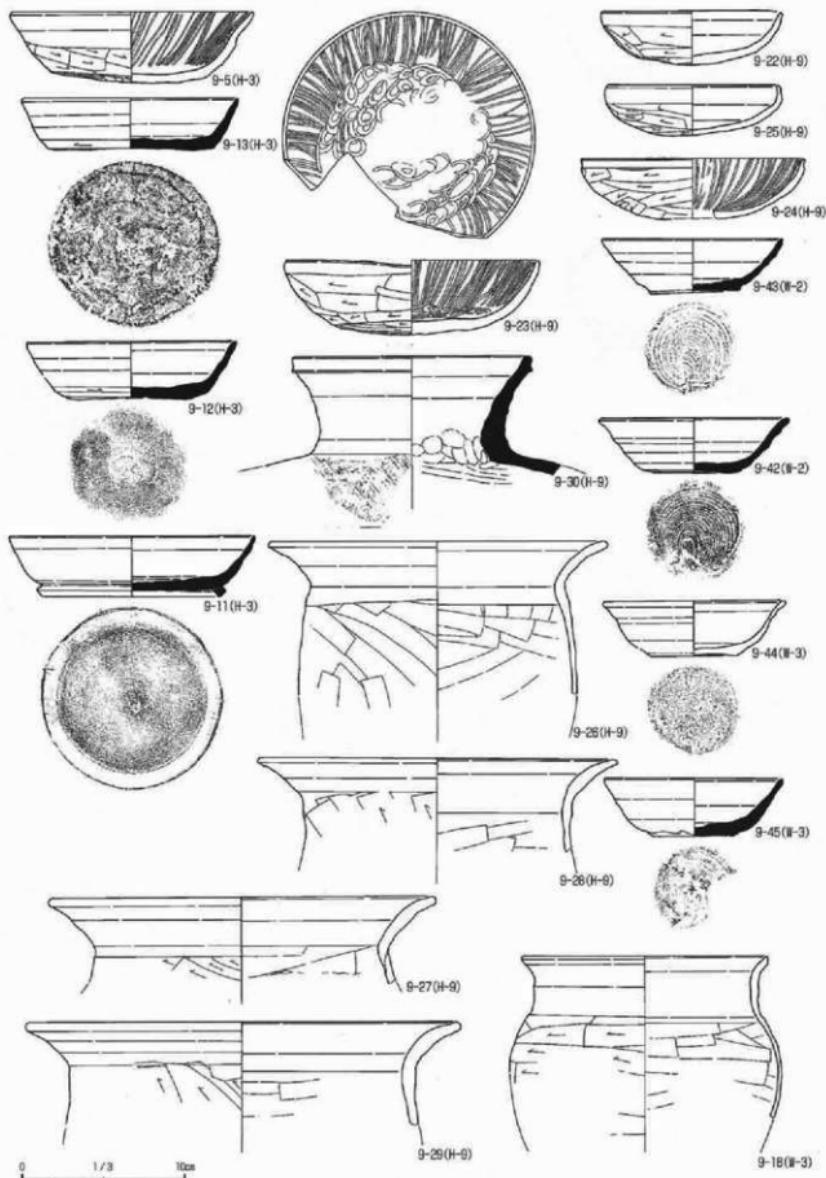


Fig.78 9区 H-3・9号住居跡、W-2・3号溝跡出土遺物

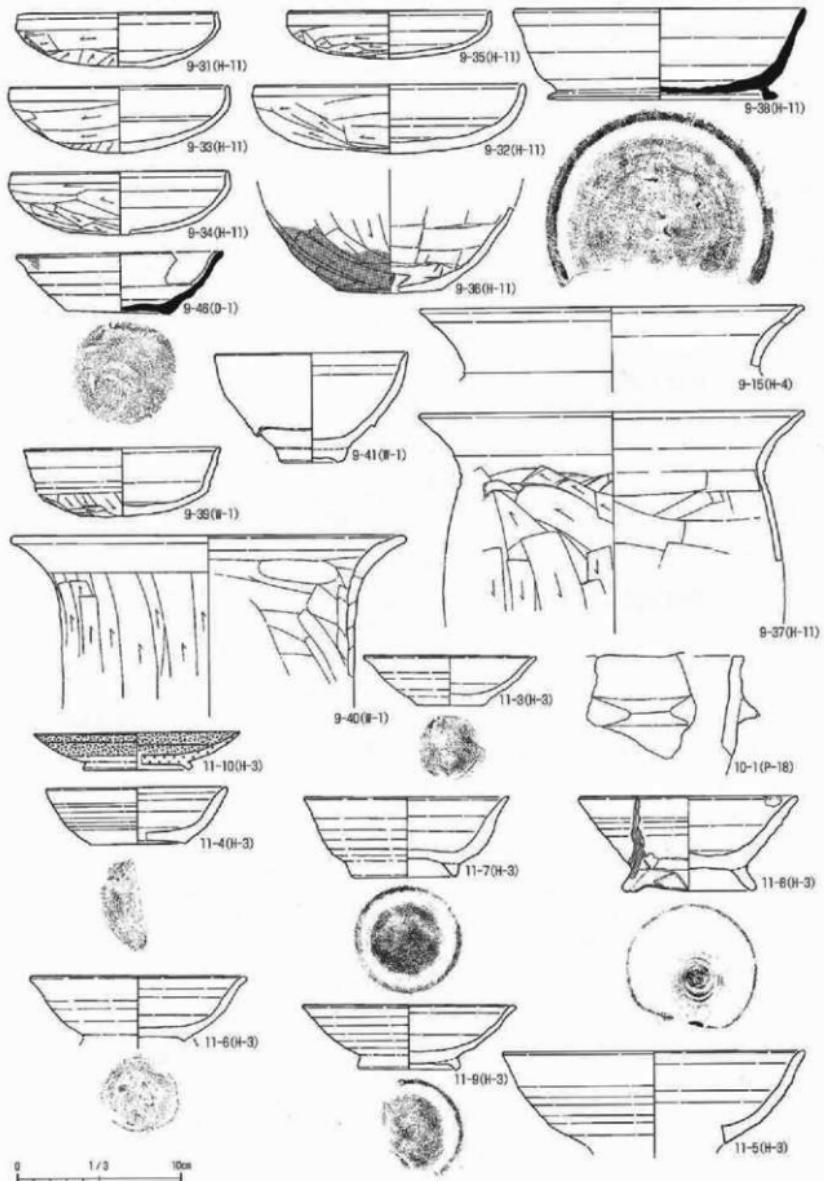


Fig.79 9区 H-4・11号住居跡、D-1号土坑、W-1号溝跡、10区 P-18ピット、11区 H-3号住居跡出土遺物

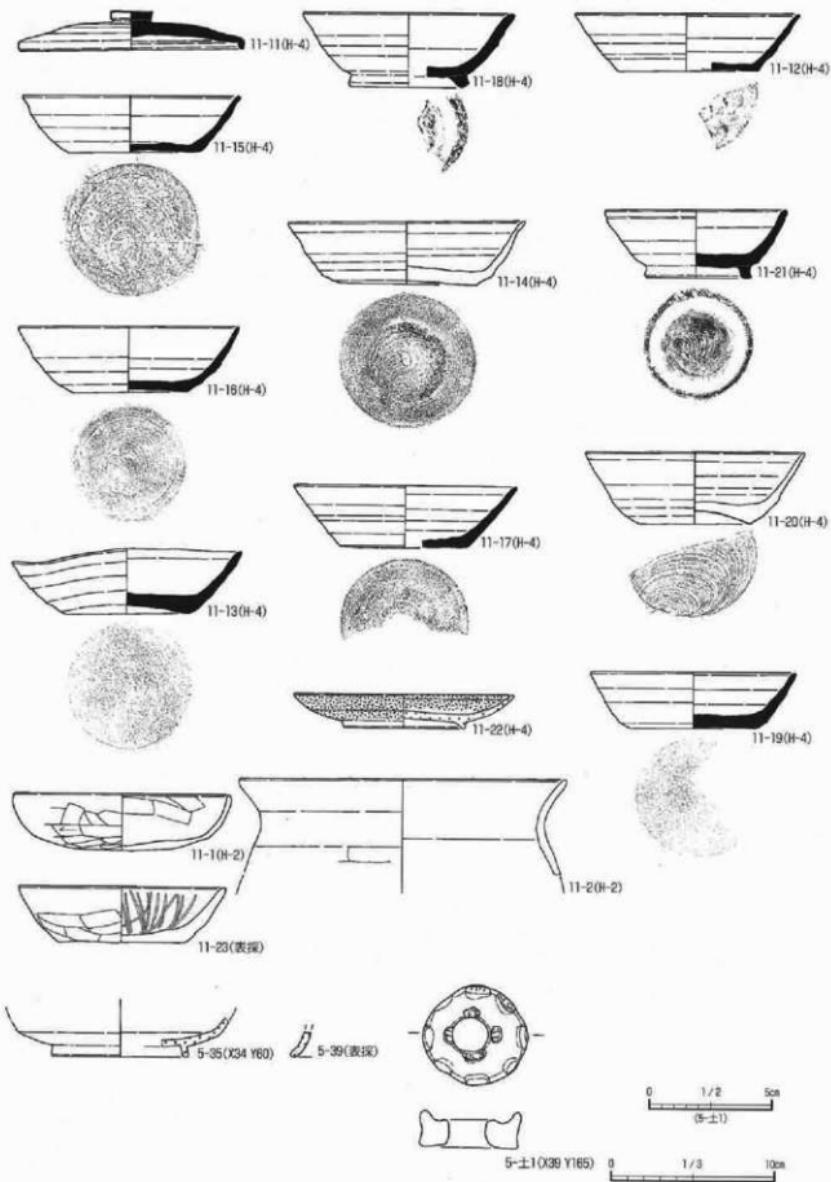


Fig.80 11区 H-2, 4号住居跡、表探出土遺物・綠釉陶器・土製品

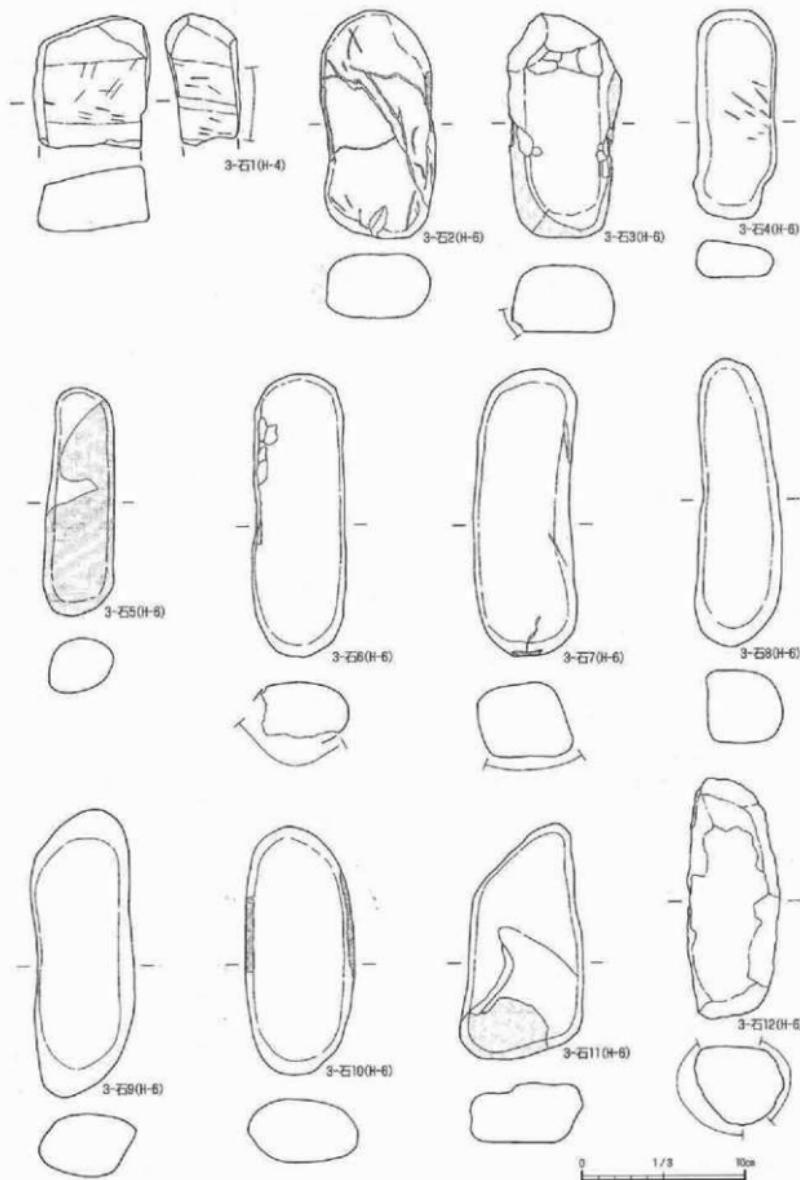


Fig.81 石製品(1)

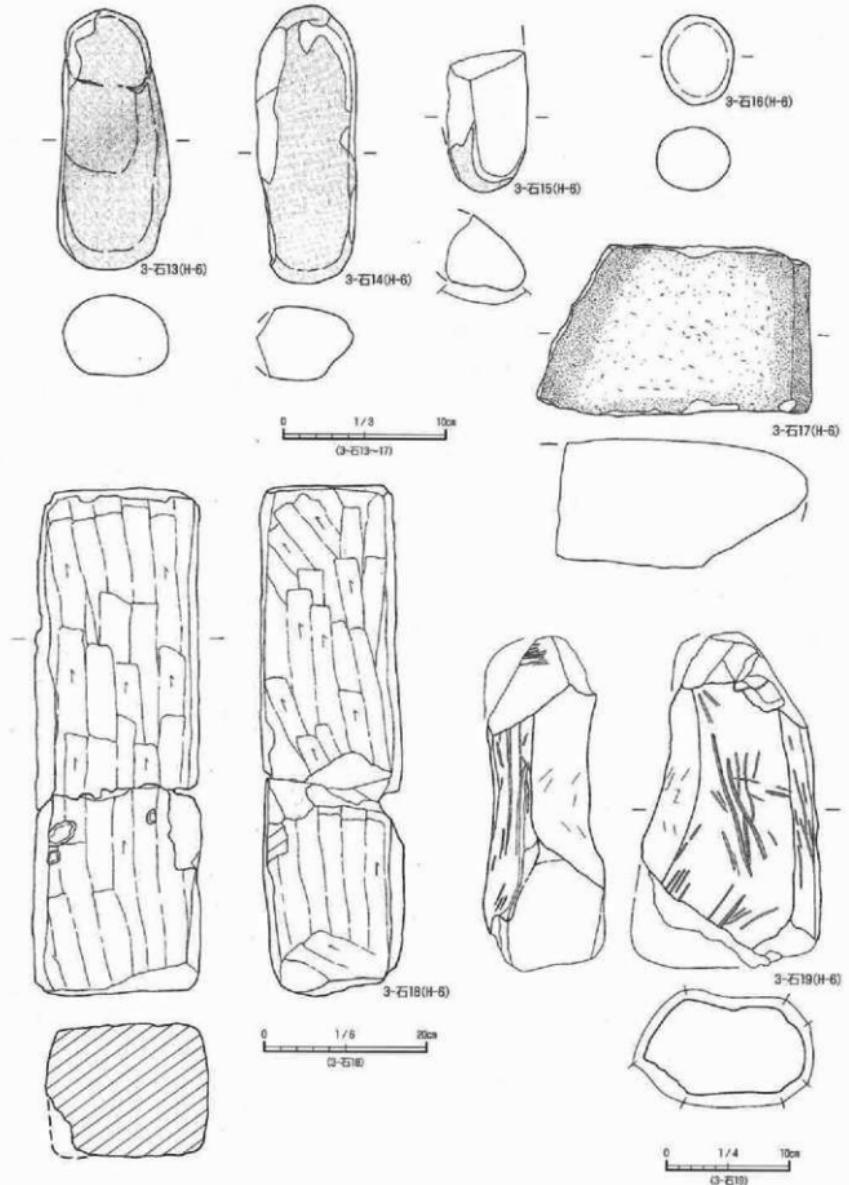


Fig.82 石製品(2)

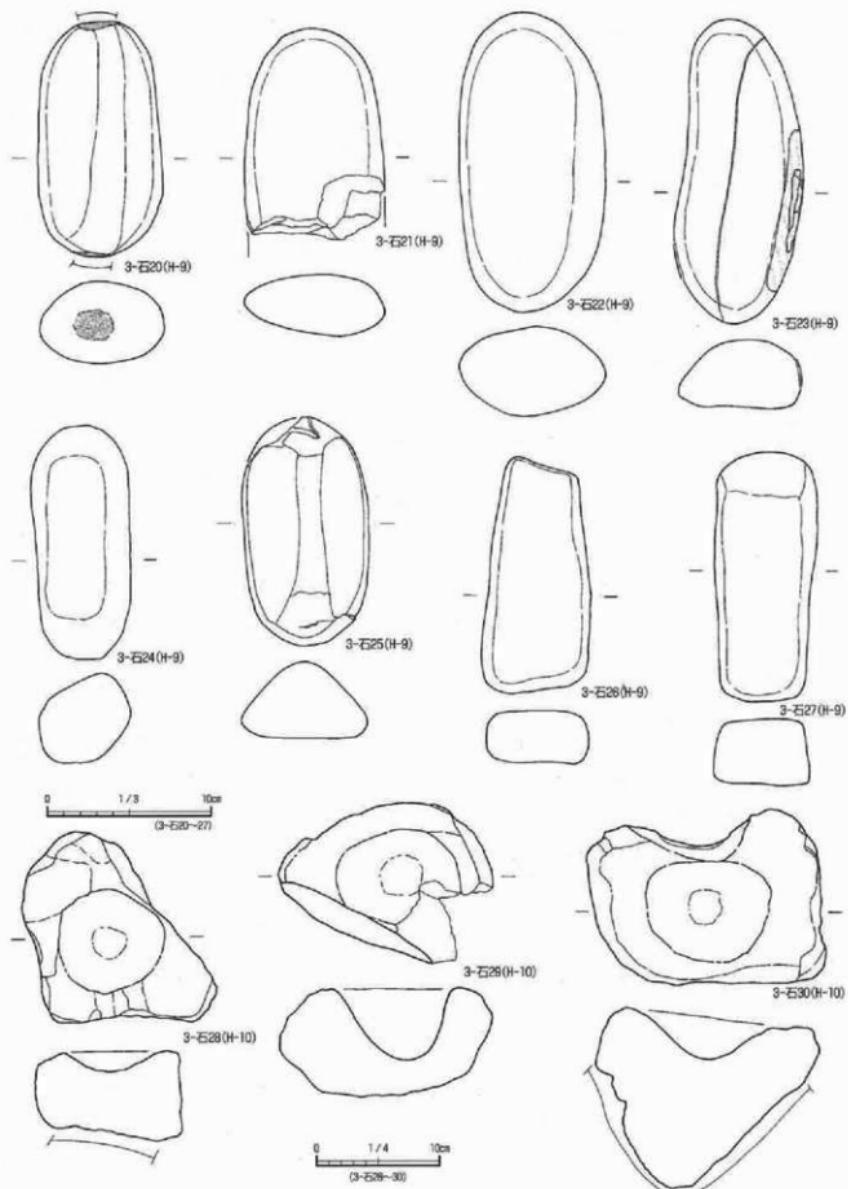


Fig.83 石製品(3)

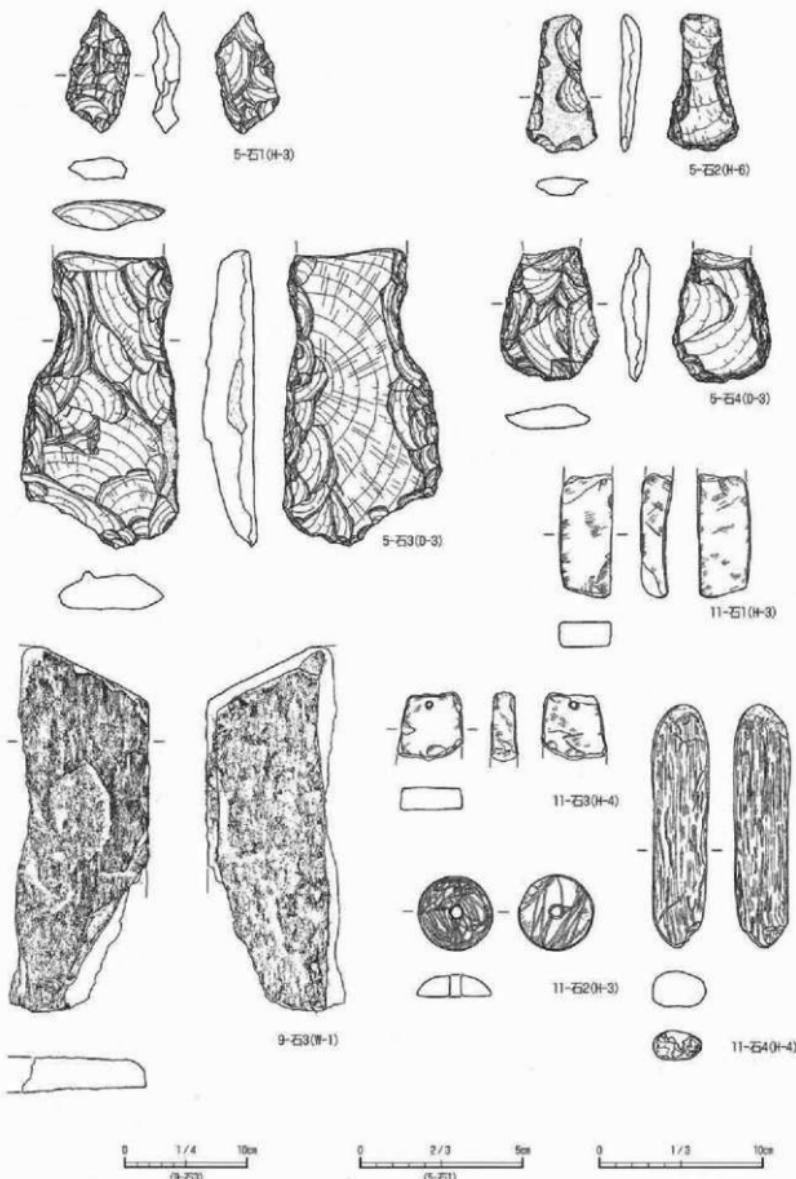


Fig.84 石製品(4)

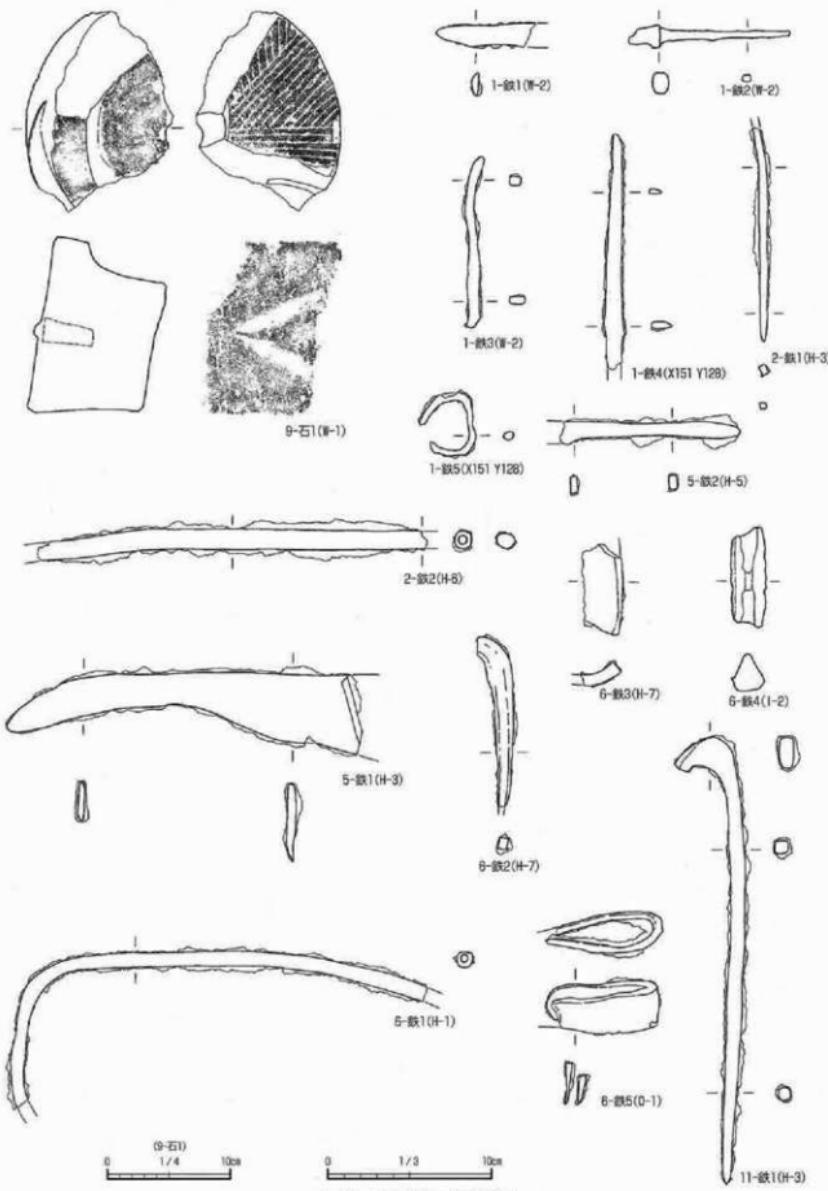


Fig.85 石製品(5)・鉄製品(1)

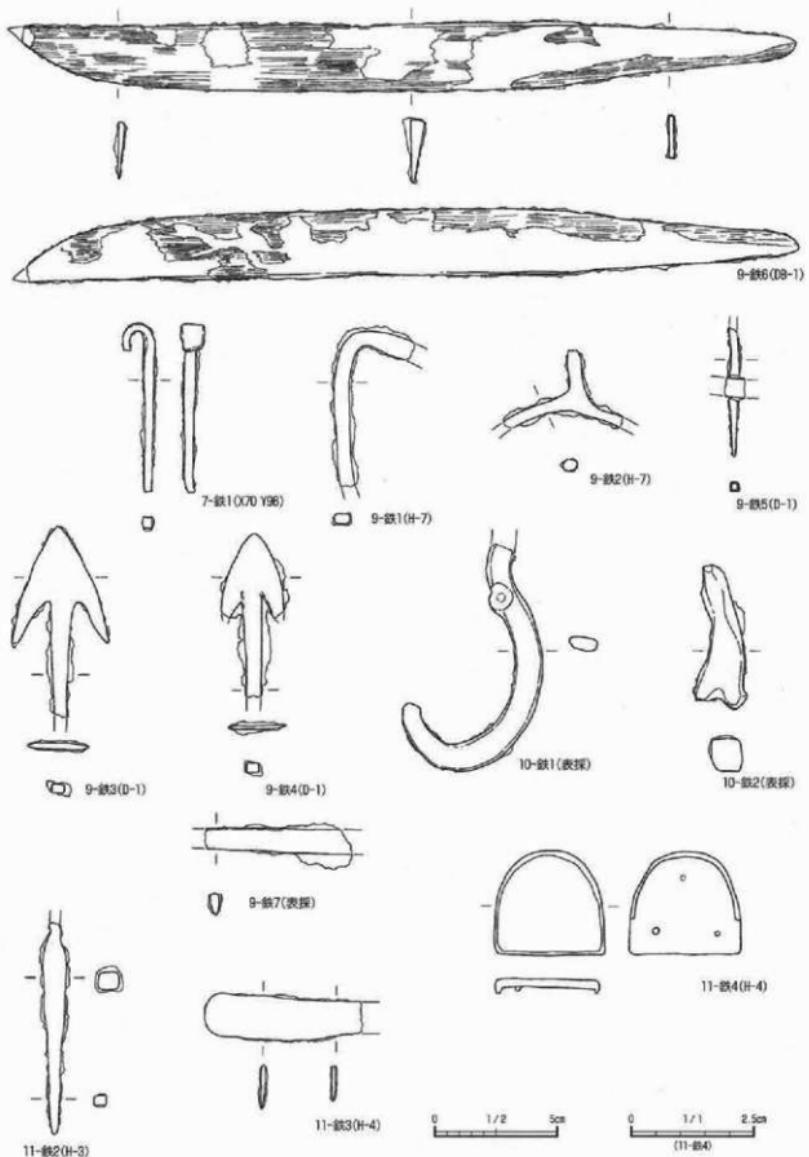


Fig. 86 鉄製品(2)

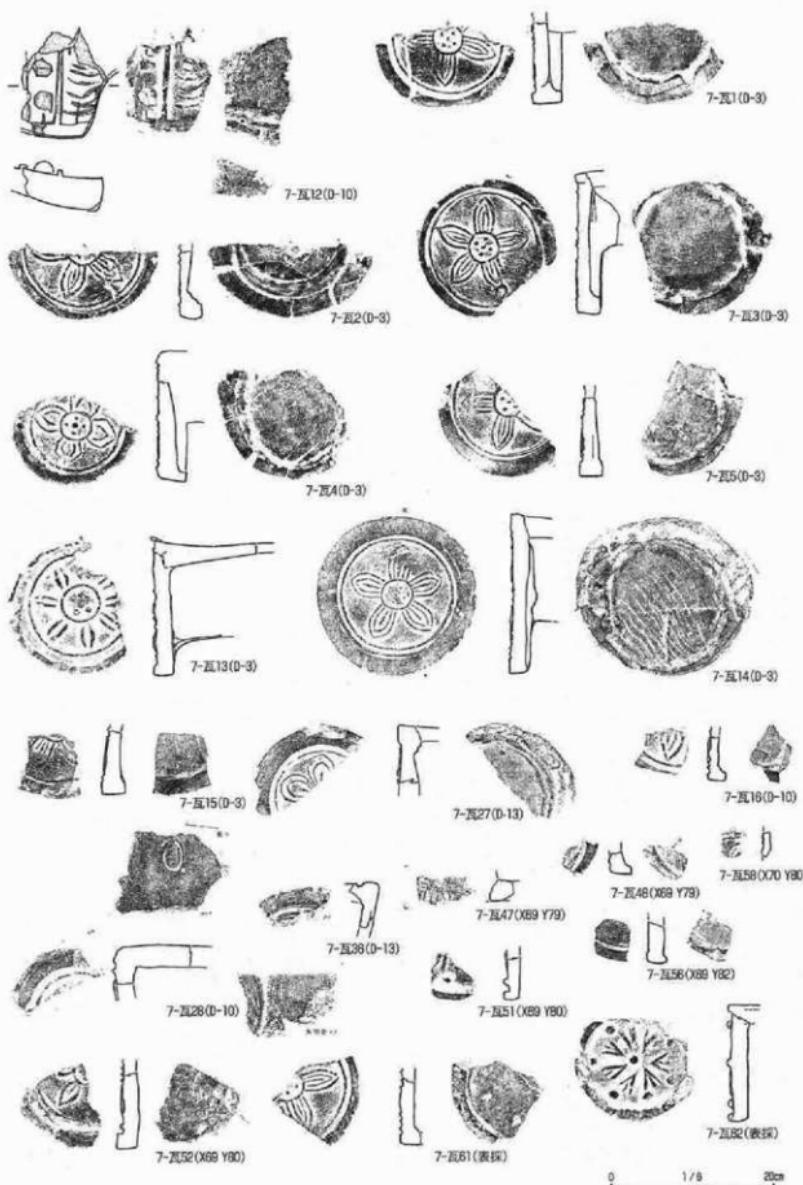


Fig.87 R(1)

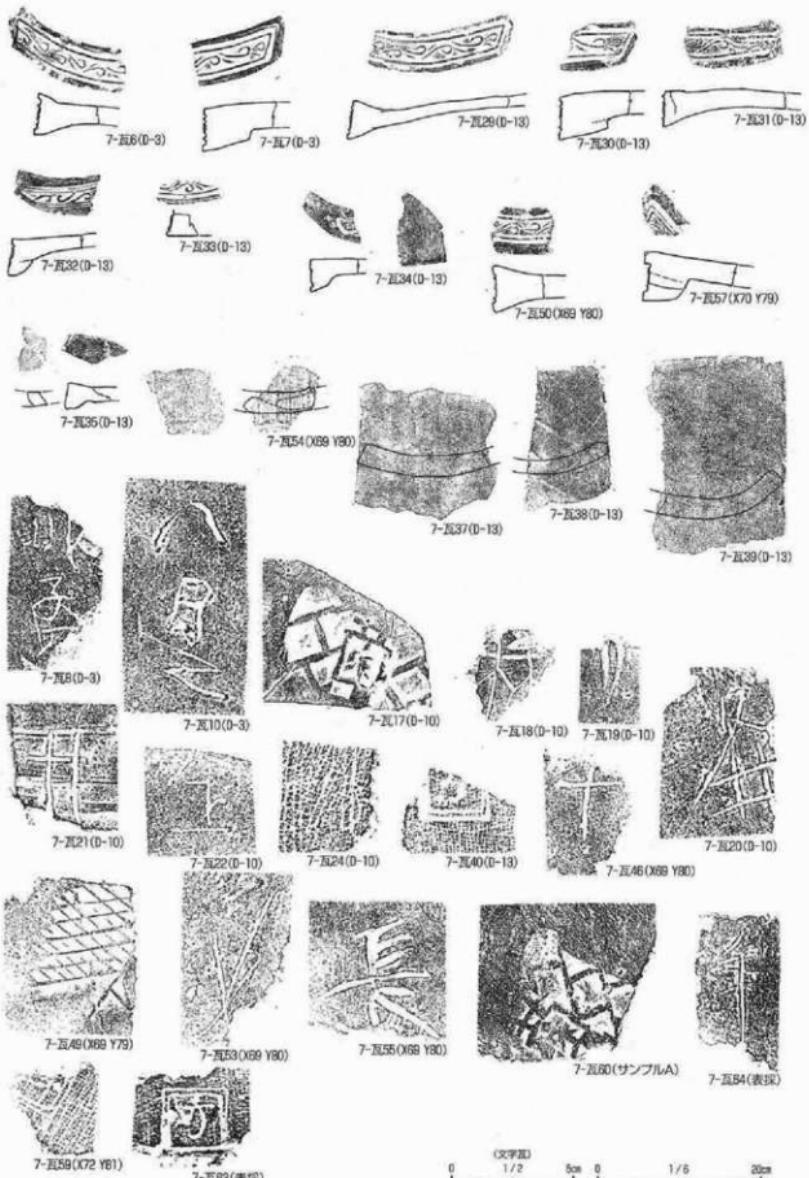
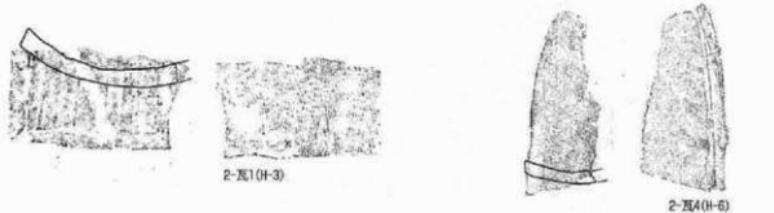
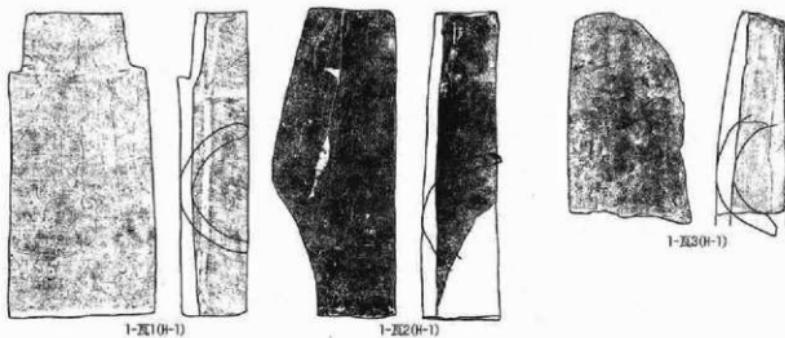
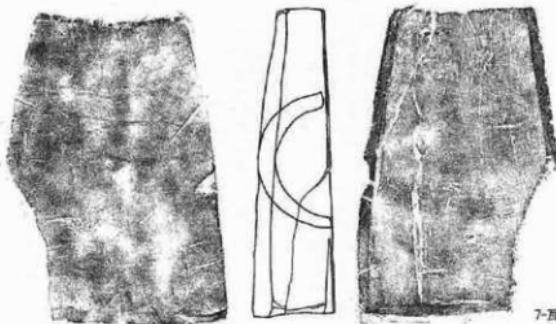


Fig.88 瓦(2)

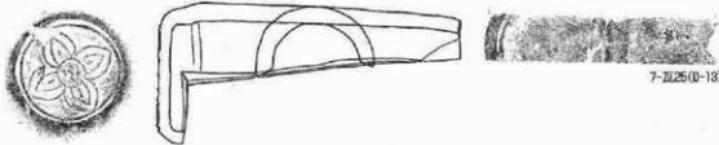
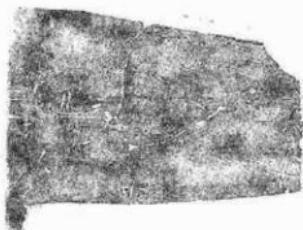


0 1/8 20m

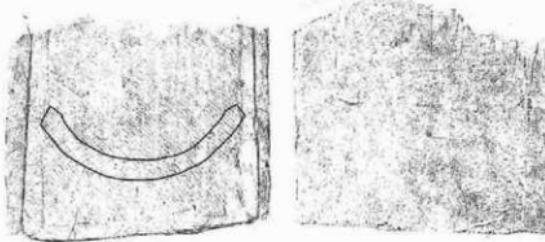
Fig.89 H(3)



7-瓦9(D-3)



7-瓦25(D-13)



7-瓦11(D-3)

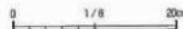
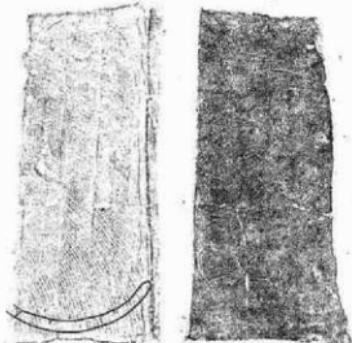
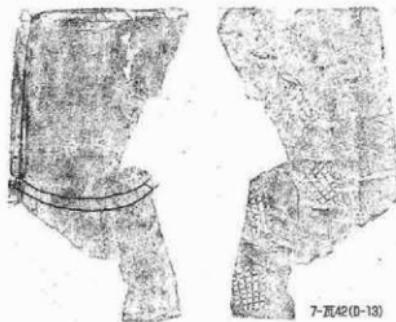
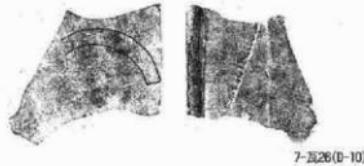


Fig.90 K(4)



0 1/8 20cm

Fig.91 瓦(5)

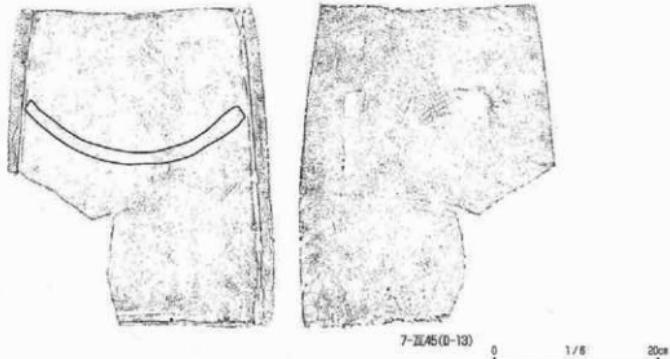
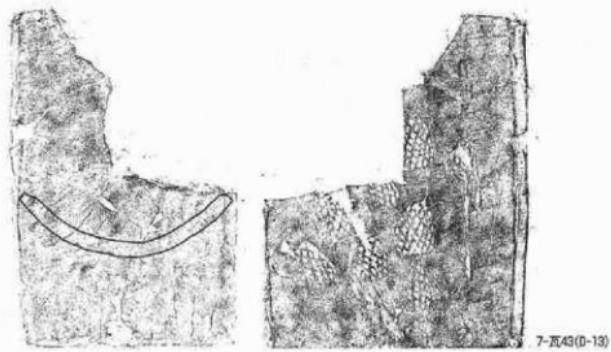
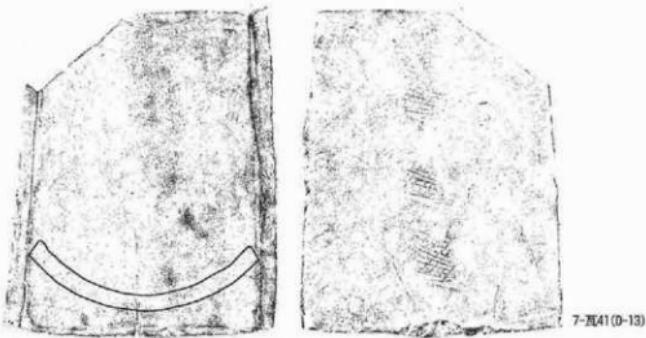


Fig.92 II(6)



1区全景（西から）



1区 H-1号住居跡遺物出土状況（西から）



1区 H-1号住居跡全景（西から）



1区 H-1号住居跡全景（西から）



1区 W-1, 2号溝跡全景（南から）



2区 H-1号住居跡全景（南から）



2区 H-1号住居跡竪全景（西から）



2区 H-2号住居跡全景（東から）



2区 H-4, 10号住居跡全景（西から）



2区 H-3号住居跡全景（東から）



2区 H-3号住居跡竪全景（東から）



2区 H-5号住居跡全景（西から）



2区 H-5号住居跡竪全景（西から）



2区 H-6号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-6号住居跡全景（西から）



2区 H-6, 9号住居跡全景（西から）



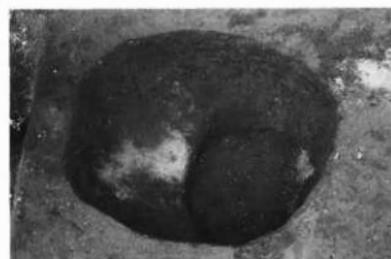
2区 H-9号住居跡遺物出土状況（西から）



2区 H-6, 9号住居跡全景（西から）



2区 W-4号溝跡全景（南から）



2区 D-1号土坑全景（西から）



2区 D-2号土坑全景（南から）



3区 H-2号住居跡全景（南から）



3区 H-2号住居跡全景（北から）



3区 H-3号住居跡全景（西から）



3区 H-3号住居跡全景（西から）



3区 H-4号住居跡全景（西から）



3区 H-4号住居跡全景（西から）



3区 H-5号住居跡、D-3号土坑遺物出土状況（北から）



3区 H-5号住居跡、D-3号土坑全景（南から）



3区 H-6号住居跡南北ベルトセクション北側（南東から）



3区 H-6号住居跡全景（西から）



3区 H-6号住居跡遺物出土状況（西から）



3区 H-6号住居跡竪全景（西から）



3区 H-6号住居跡P₆遺物出土状況（西から）



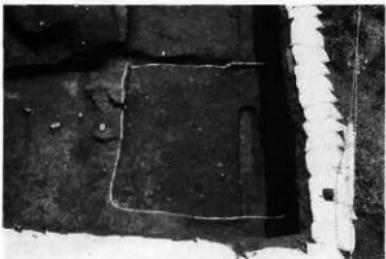
3区 H-6号住居跡南壁炭化物出土状況（北から）



3区 H-8号住居跡全景（南から）



3区 H-8号住居跡竪全景（西から）



3区 H-7号住居跡全景（西から）



3区 H-9号住居跡全景（南から）



3区 H-10号住居跡遺物出土状況（西から）



3区 H-10号住居跡全景（西から）



3区 H-10, 14号住居跡全景（西から）



3区 H-11, 12, 13号住居跡全景（南から）



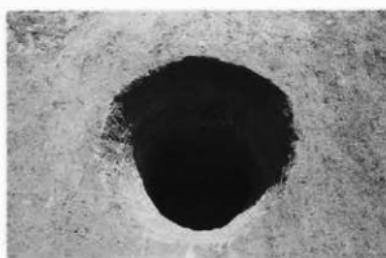
3区 H-13号住居跡全景（西から）



3区 W-2号溝跡全景（北から）



3区 W-4号溝跡全景（西から）



3区 I-1号井戸跡全景（西から）



5区 H-1号住居跡全景（西から）



5区 H-1号住居跡全景（西から）



5区 H-2号住居跡遺物出土状況（北から）



5区 H-2号住居跡全景（北から）



5区 H-3号住居跡遺物出土状況（西から）



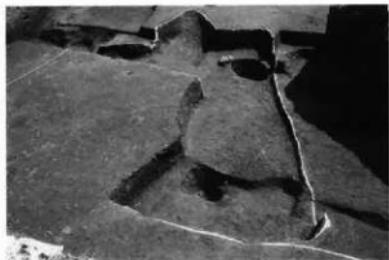
5区 H-3号住居跡全景（西から）



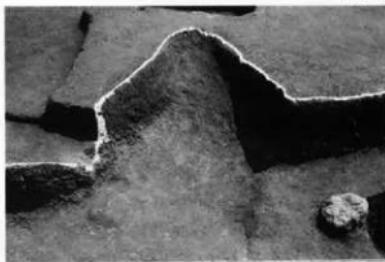
5区 H-4号住居跡全景（西から）



5区 H-4号住居跡東端部（西から）



5区 H-5号住居跡（西から）



5区 H-5号住居跡竪全景（西から）



5区 H-6号住居跡全景（西から）



5区 H-7号住居跡全景（西から）



5区 W-2号流跡、A-1硬化面全景（南から）



5区 D-3号土坑全景（東から）



6区 H-1号住居跡全景（南から）



6区 H-1号住居跡新旧竪全景（西から）



6区 H-2、3号住居跡全景（東から）



6区 H-4号住居跡全景（西から）



6区 H-5号住居跡全景（西から）



6区 D-2号土坑全景（南から）



6区 調査区全景（北から）



7区 H-1号住居跡全景（北から）



7区 H-2号住居跡全景（南から）



7区 H-2号住居跡東遺全景（西から）



7区 H-2号住居跡北遺全景（南から）



7区 H-3号住居跡全景（西から）



7区 H-6号住居跡全景（西から）



7区 H-7, 8号住居跡全景（西から）



7区 H-9号住居跡全景（南から）



7区 H-10号住居跡全景（西から）



7区 H-10号住居跡全景（西から）



7区 W-1号溝跡全景（南から）



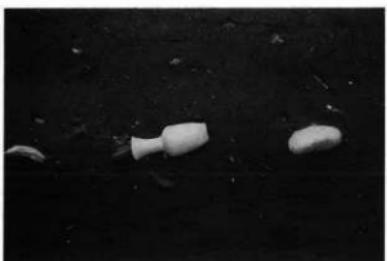
7区 T-1号竪穴状遺構、D-2号土坑全景（西から）



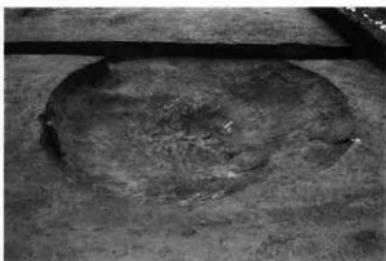
7区 D-3号土坑遺物出土状況（西から）



7区 D-3号土坑出土遺物①（東から）



7区 D-3号土坑出土遺物②（東から）



7区 D-3号土坑全景（東から）



7区 瓦敷き面集中部（南から）



7区 瓦敷き面中央部全景（東から）



7区 D-10, 13号土坑全景（東から）



7区 D-10, 13号土坑全景（西から）



7区 D-13号土坑西側断面（東から）



7区 D-13号土坑南側断面（北から）



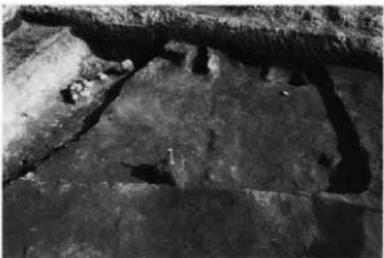
7区 D-6, 7号土坑全景（西から）



7区 瓦敷き面埋め戻し前状況（北から）



8区 調査区全景（東から）



9区 H-1号住居跡全景（西から）



9区 H-1号住居跡竪全景（西から）



9区 H-2号住居跡全景（西から）



9区 H-2号住居跡竪全景（西から）



9区 H-3号住居跡遺物出土状況（西から）



9区 H-3、10号住居跡全景（西から）



9区 H-3号住居跡全景（西から）



9区 H-4号住居跡全景（西から）



9区 H-5号住居跡全景（北から）



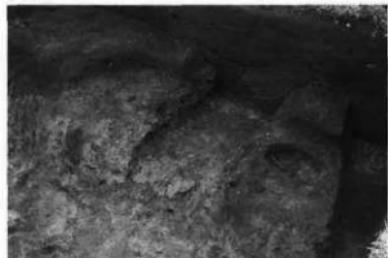
9区 H-5号住居跡全景（南から）



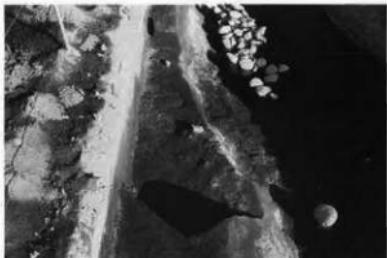
9区 H-6号住居跡全景（西から）



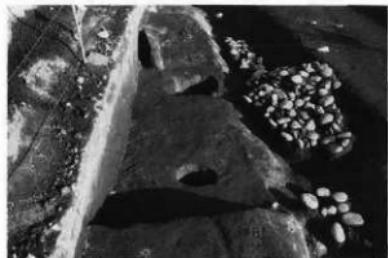
9区 H-6号住居跡全景（西から）



9区 H-7号住居跡全景（西から）



9区 H-8号住居跡全景（西から）



9区 H-9号住居跡全景（西から）



9区 H-9号住居跡全景（西から）



9区 H-11号住居跡全景（西から）



9区 H-11号住居跡全景（西から）



9区 W-1号溝跡石検出状況（東から）



9区 DB-1号土坑墓全景（南から）



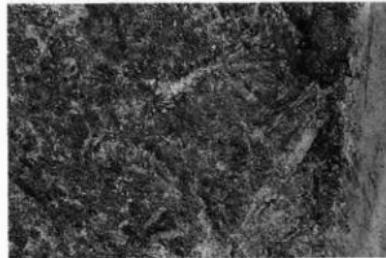
10区 西側ピット群全景（北から）



10区 東側 FA 下水田確認面全景（西から）



10区 FA 下水田確認面東側全景（北から）



10区 FA 中イネ科叢墓出土状況（北から）



10区 W-1号溝跡全景（北から）



10区 W-2号溝跡全景（北から）



10区 D-1号土坑全景（南から）



10区 D-2号土坑全景（東から）



11区 調査区全景（西から）



11区 H-1号住居跡全景（西から）



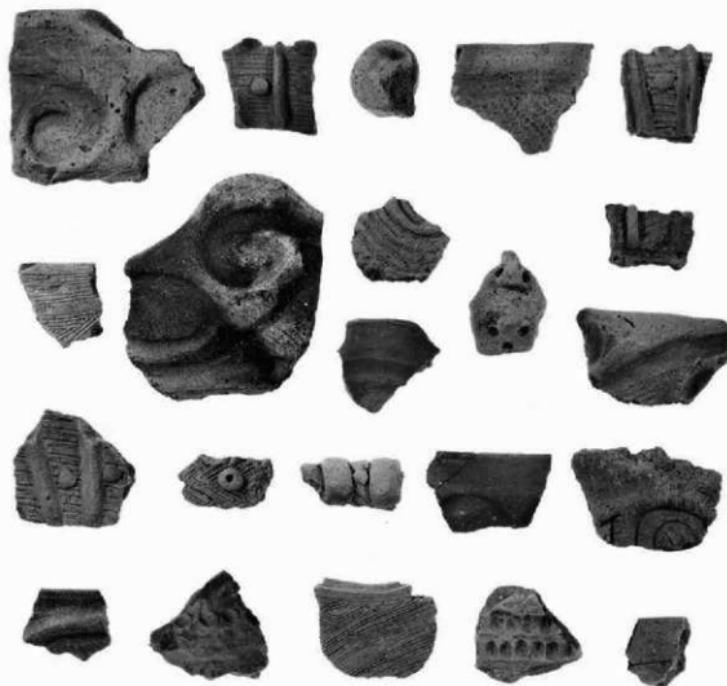
11区 H-2, 3号住居跡全景（西から）



11区 H-2号住居跡全景（西から）



11区 H-4号住居跡全景（西から）



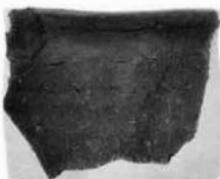
商文土器



1-1



1-3



1-2



1-4



2-1



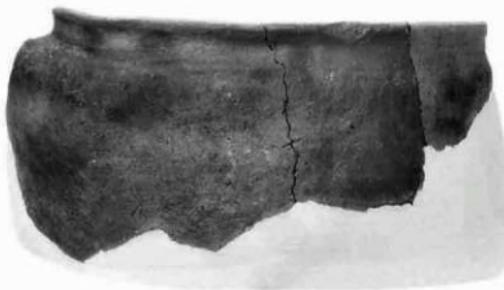
2-2



2-3



2-6



2-11



2-4



2-5



2-7



2-12



2-13



2-14



2-16



2-9



2-8



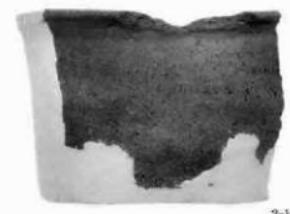
2-17



2-18



2-19



2-10



2-23



2-21



2-20



2-22



2-24

PL.22



2-25



2-31



2-26



2-28



2-29



2-33



2-32



2-30



2-27





3-21



3-24



3-25



3-26



3-31



3-34



3-27



3-38



3-39



3-28



3-41



3-42



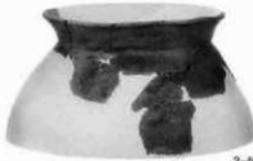
3-29



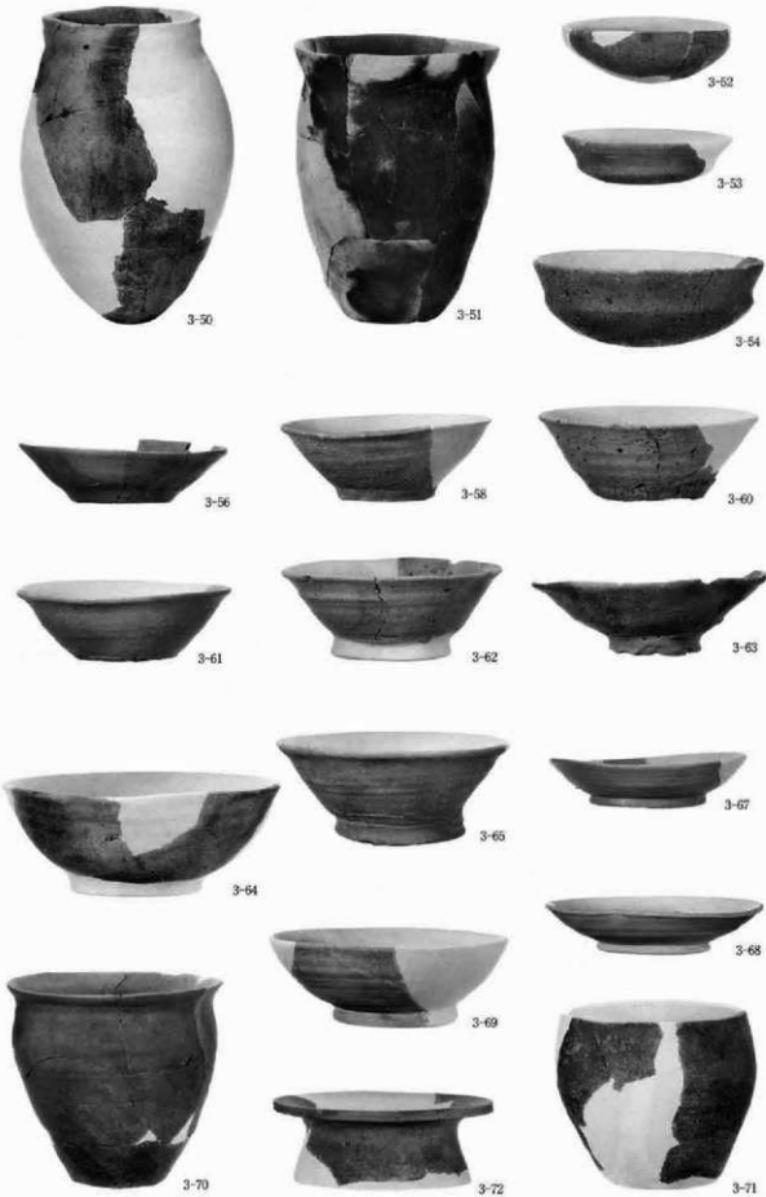
3-45

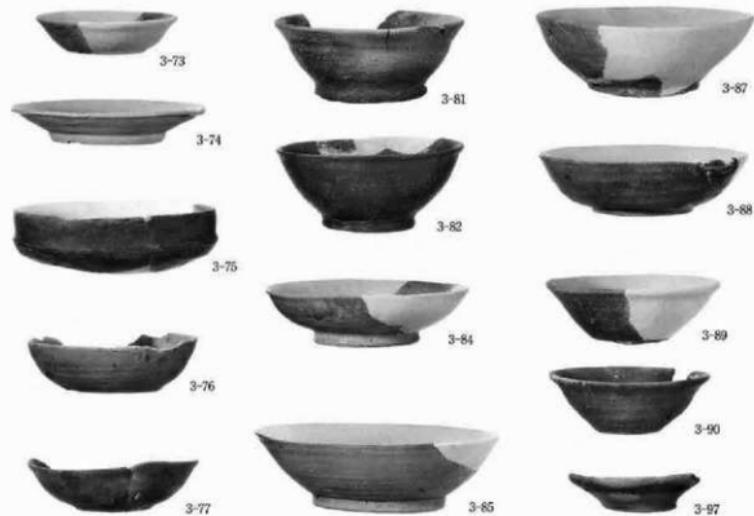


3-30

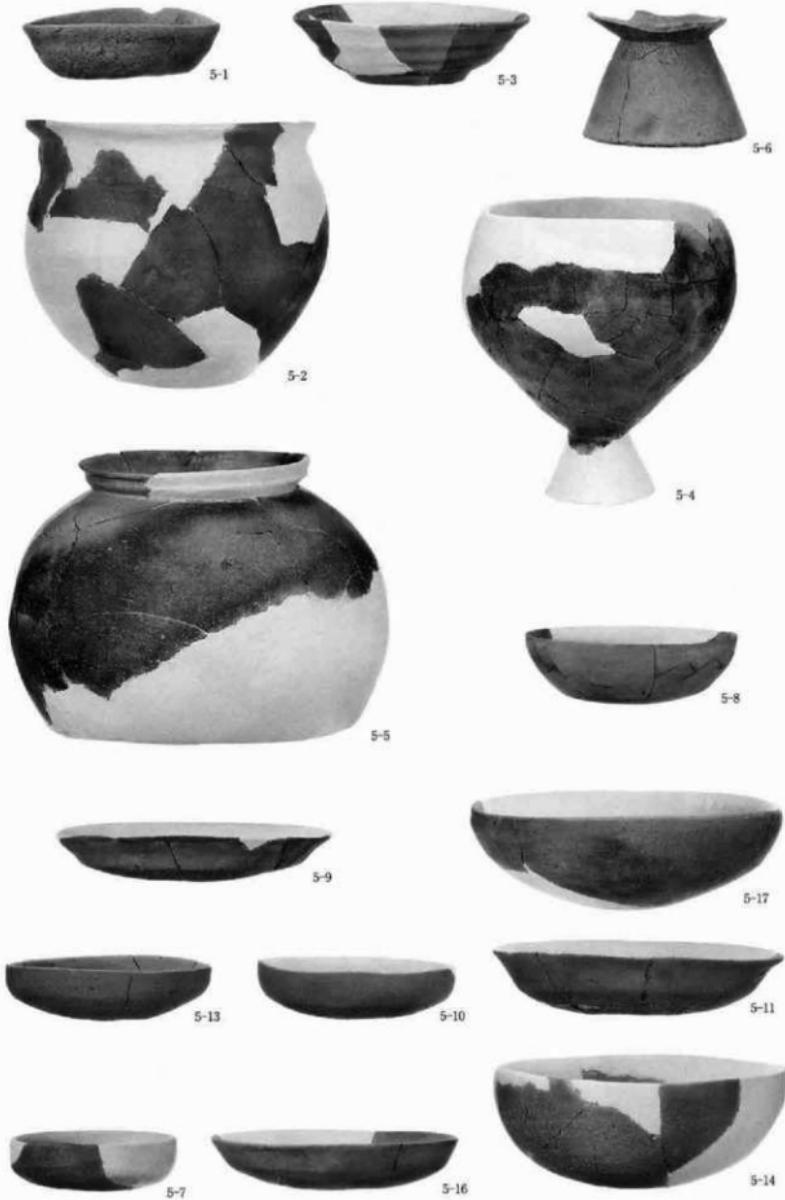


3-49





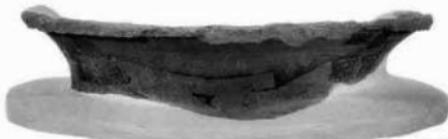
3区石制品



PL.28



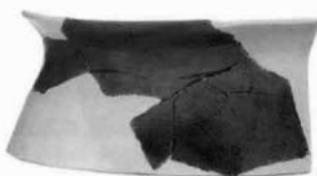
5-18



5-23



5-12



5-21



5-15



5-22



5-20



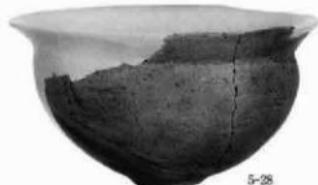
5-19



5-24



5-25



5-28



5-27



5-29



5-30



5-32



5-33



5-31



5-35



6-1



6-2



6-3



6-8



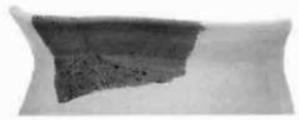
5-37



6-12



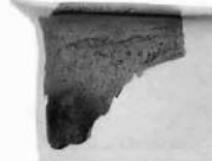
6-11



6-7



6-6



6-13



6-9



7-5



7-8



7-6



7-1



7-2



7-3



7-4



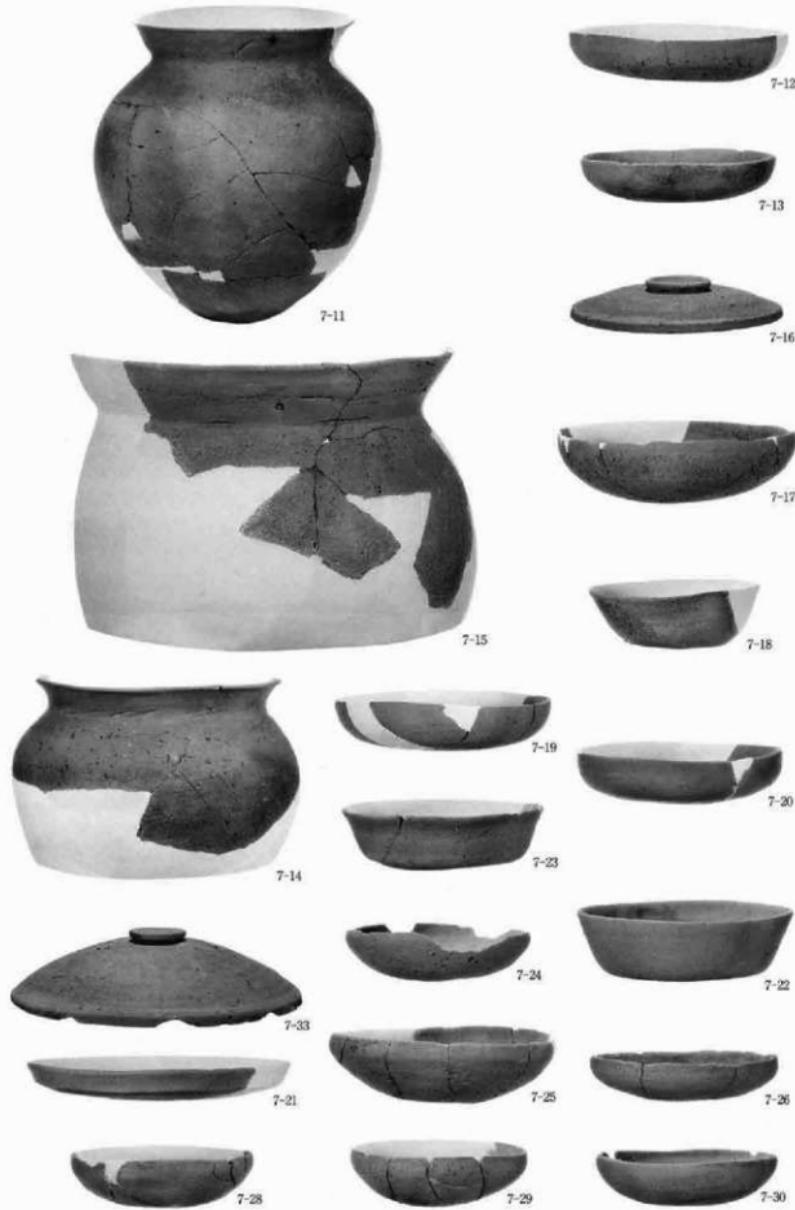
7-7



7-9



7-10



PL.32



7-27



7-31



7-34



7-35



7-32



7-36



7-38



7-37



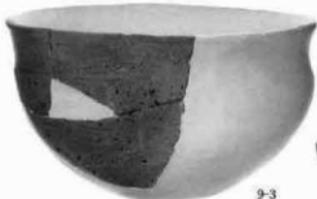
9-1



9-7



9-4



9-3



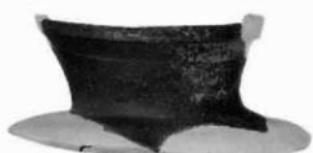
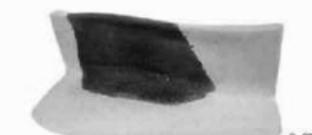
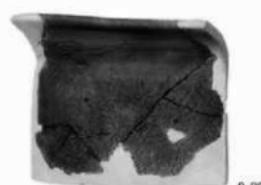
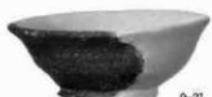
9-2



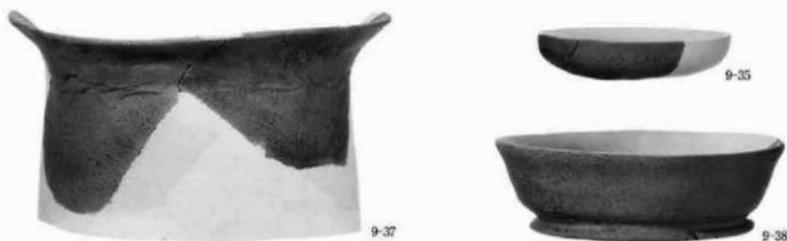
9-5



9-6



PL.34





11-8



11-10



11-12



11-11



11-14



11-15



11-13



11-17



11-18



11-16



11-20



11-21



11-23



11-19



11-22



5-11



9-83



石製品



骨製品



7-KL1



7-KL2



7-KL3



7-KL4



7-KL13



7-KL14



7-KL25



7-KL12



7-KL5



7-KL27



7-KL63



7-JL52



7-JL62



7-JL15



7-JL28



7-JL6



7-JL7



7-JL30



7-JL29



7-JL31



7-JL32



7-JL8



7-JL64



7-JL65



7-JL10



1-K1



7-K9

PL.40



7-K41



7-K41



7-K45

抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン(20)
書名	元総社蒼海遺跡群(20)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	阿久澤真一・清水亮介・神宮聰・小田哲生・池田史人・綿貫綾子
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2009年3月19日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン(20) 元総社蒼海遺跡群	前橋市元総社 町1805-4ほか	10201	20A130 -20	36°23'21"	139°02'07"	20080507 ~ 20081225	約4.351m ²	前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (20)	集落跡	古墳時代 奈良・平安時代 中世	堅穴住居跡6軒 堅穴住居跡61軒、 堅穴状遺構2軒、 溝跡10条、土坑51基 溝跡13条、土壤墓1基	土師器、須恵器 他 土師器、須恵器、 鉄製品、石製品、瓦 鉄製品、石製品	

元総社蒼海遺跡群(20)

2009年3月12日 印刷

2009年3月19日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市三俣町二丁目10-2

TEL 027-231-9531

印刷 日本特急印刷株式会社

前橋市下小出町二丁目9-25

TEL 027-233-2002

